

（目 次）観光振興学科

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1 < 専門学校との進路の違いが不明確 >

本学の卒業後の具体的な進路について、単に航空会社、鉄道会社、旅行会社等とされており、本学の特色や優位性を踏まえた専門学校との進路の違いが不明確なため、卒業後の主な進路先において、どのような役割を担う人材を養成するのかを専門学校の進路との違いも含めて明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

【大学等の設置の趣旨・必要性】

2 < 入学者選抜に関する内容が不明確 >

入学者選抜に関する以下の点について、適切に対応すること。

（1）アドミッション・ポリシーにおいて、一般的な学生は基礎学力として英語に加えて「国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得している」とある一方、専門高校卒業生においては、これらに替えて「観光や美術、音楽、工芸技術等に関する知識と技術を身につけている」とあるが、本学の人材養成像や教育内容に照らすと、専門高校卒業生に対しても一般的な学生と同様の基礎学力を求める必要があるため、適切に改めること。その際、専門高校以外の学生に対しても、人材養成像に照らして観光や美術、音楽、工芸技術等の基礎知識を併せて求めることが望ましい。

（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

【大学等の設置の趣旨・必要性】

2 < 入学者選抜に関する内容が不明確 >

入学者選抜に関する以下の点について、適切に対応すること。

（2）本学の各選抜方法の定員設定の考え方や、具体的な選抜基準が示されておらず、選抜方法の妥当性が不明確なため、選抜方法ごとに学科試験や調査書の詳細や配点等も示して明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

【大学等の設置の趣旨・必要性】

3 < 学生確保の見通しや人材需要の動向が不明確 >

学生確保の見通しについて、高校生へのアンケート調査の分析では定員を充足するとのことだが、既設の専門学校が充足していないため、改めて学生確保の見通しを明確に説明すること。また、人材需要の動向に関する企業へのアンケート調査の分析について、対象数が200社・団体であるが、本学の収容定員に照らすと十分ではなく、本学の卒業生の進路が長期的かつ安定的に確保されているか不明確なため、改めて明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

【大学等の設置の趣旨・必要性】

4 <留学生の受入れ方針の考え方や選抜方法が不明確>

本学は留学生の受入れを積極的には行わないとあるが、本方針の考え方が不明なため、人材養成像を踏まえた本学における留学生の受入れ方針の考え方を明確に説明すること。

また、本学は留学生の受入れを拒むものではなく、「日本語による授業に対応することが十分に可能な日本語能力を有する留学生等」の選抜に当たっては高等学校卒業者と同一の選抜方法で実施するとあるが、選抜時における日本語能力の資格要件やその測定方法、経費支弁能力の確認、及び受入れ後の履修指導や生活指導等の配慮も踏まえた留学生の受入れ方策等の具体的な計画が不明確なため、これらについて妥当性も含めて明確に説明すること。(是正事項)・・・・・・・・・・ 54

【教育課程等】

5 <カリキュラム・ポリシーが不適切>

カリキュラム・ポリシーの記載が科目群を配置するといった抽象的な記載にとどまっており、ディプロマ・ポリシーと整合しているか判断できず、必要な能力が適切に修得できるか不明確なため、カリキュラム・ポリシーを適切に修正するとともに、ディプロマ・ポリシーや教育課程と対応していることを明確にすること。(是正事項)・・・・・・・・・・ 59

【教育課程等】

6 <地域振興に関する教育内容が不十分>

「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出する」という人材養成像に照らすと、地域経済、地域行政に関する内容を学習する必要があるが、十分とは認められないため、教育課程において適切に盛り込むこと。(是正事項)・・・・・・・・・・ 72

【教育課程等】

7 <キャリア形成教育の一層の充実>

キャリア形成必読書のリストについて、学生がより効果的に活用できるよう、専門分野や推奨年次ごとに体系化する等の充実を図ること。(改善事項)・・・・・・・・・・ 78

【教育課程等】

8 <実習科目の内容等が不明確>

臨地実務実習に関する以下の点について、適切に対応すること。

(1) 「臨地実務実習Ⅲ」の実習先に四国キヨスク株式会社が設定されているが、本実習先での実習による効果が不明確なため、実習内容が単なる接客業務の体験にとどまらず、実習を通じて具体的にどのように必要な能力を修得するのかを明確に説明すること。

(是正事項)・・・・・・・・・・ 81

【教育課程等】

8 <実習科目の内容等が不明確>

臨地実務実習に関する以下の点について、適切に対応すること。

- (2) 実習先の実習指導者については、適切な指導能力を有する必要があるが、実務経験年数が少ない（特に少ないものでは2年）実習指導者のみの実習先も散見されるため、本学における実習指導者の考え方や妥当性を明確に説明し、必要に応じて実習指導者や実習先を適切に修正すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・84

【教育課程等】

8 <実習科目の内容等が不明確>

臨地実務実習に関する以下の点について、適切に対応すること。

- (3) 本学の臨地実務実習を担当する実務家教員は高齢の者が多く、担当科目・単位数も多いことから、巡回指導以外の実習に係る日常的な学生への指導も含めた実習指導体制が適切か疑義があるため、本学の実習指導体制について、組織的なサポート体制も含めて妥当性を明確に説明し、必要に応じて適切に修正すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・88

【教育課程等】

8 <実習科目の内容等が不明確>

臨地実務実習に関する以下の点について、適切に対応すること。

- (4) 臨地実務実習先を継続的、安定的に確保し、更なる充実を図る観点から、実習先に対する実習成果等の還元を図ることが重要であるが、本学における組織的なフォローアップ体制が不明確なため、明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・114

【教育課程等】

9 <実践教育現場の一層の充実>

本学の臨地実務実習先について、今後更に実践教育の場を充実させ、観光振興が盛んな香川県以外も含めた瀬戸内地域をフィールドとして実践教育を行っていくことが望ましいが、実践教育現場の更なる充実に向けた対応方針について説明すること。（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・119

【教員組織等】

10 <適切な教員組織体制となっているか不明確>

本学の教員体制について、実務家教員においては半数以上が完成年度時に定年規程の年齢を超える者となっている。また、これらの教員は臨地実務実習の担当教員であるとともに、担当科目・単位数も多い。このため、本学の臨地実務実習を含め、教育研究が支障なく行える教員体制となっているか疑義があるため、これらについて、妥当性を明確に説明し、必要に応じて教員体制を適切に修正すること。なお、教員負担の説明に当たっては、各教員の時間割を示すこと。

- （是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・123

【名称、その他】

11 <教員研究室等が適切に配置されているか不明確>

教員研究室等について、レイアウトや機能等の詳細が示されておらず、教員や学生が教育研究活動を行うために必要な十分なスペースや機能が備えられているかが不明確なため、明確に説明し、必要に応じて適切に修正すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・142

【名称、その他】

12 <大学名称の更なる適正化>

「せとうち」以外も含めた広く地域の観光振興に資する人材を養成することが明確となるよう、より適切な大学名称とすることが望ましい。（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・148



(是正事項) 観光振興学科

**【大学等の設置の趣旨・必要性】**

1 <専門学校との進路の違いが不明確>

本学の卒業後の具体的な進路について、単に航空会社、鉄道会社、旅行会社等とされており、本学の特色や優位性を踏まえた専門学校との進路の違いが不明確なため、卒業後の主な進路先において、どのような役割を担う人材を養成するのかを専門学校の進路との違いも含めて明確に説明すること。

(対応)

1. <対応の概要>

本学が養成を目指している人材像は、既設の専門学校のそれとは大きく異なる。そのことについて、「建学の精神」や「産業界等のニーズ」の違いを説明したうえで、本学が養成する人材の進路について追記し、設置の趣旨等を記載した書類を補正する。なお、進路先において担う役割と授業科目との対応及び既設専門学校の進路先についても説明する。

2. <「建学の精神」における相違及び補正の方針>

本学が養成を目指している人材像は、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光地域創生事業を牽引することができる高度専門職業人材」であり、既設の専門学校が養成しているような観光産業の現場において、接客や顧客対応を中心とした業務を責任者の指示のもとに遂行することを前提とした人材とは異なるが、根本的には、以下のように建学の精神において養成する人材像が異なっている。

(既設専門学校の建学の精神)

地域の学生を地域で育て、高い専門性と豊かな人間性を育み、地域社会から信頼され貢献できる人材を育成する。

**(本学の建学の精神)**

**観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する。**

既設専門学校の建学の精神で用いている「地域」は、領域的な意味が強く、香川県を中心とする四国地域を指す。また、「地域社会」は、その領域内の人々や組織等を指し、香川県を中心とする四国地域の人々や組織を意味するものである。

一方で、本学の建学の精神における「地域社会」は瀬戸内地域や四国地域だけを指すものではなく、各地の地域社会を指す。本学の言う「地域社会」あるいは「地域」とは、その外延が人間社会全体の一部のある範囲に特定される場所である。また、「地域社会」あるいは「地域」の概念の内包は、経済的・社会的・文化的環境などの社会学的意味によって特徴づけられる社会状況とみなされる。このような「地域社会」あるいは「地域」の現実の一端は、人間社会全体、その場に暮らす人々を取り巻く自然ないしは人間生態系を含む人為的環境などと相互に影響を及ぼしつつ、地域に活動する人々によって生み出されると考えられる。

本学は、そうした「地域社会」あるいは「地域」において実践される観光振興と地域振興の現実を理論的・実証的に研究し、その研究成果を教育や地域貢献に反映させる。

このように、本学と既設の専門学校においては、地域や地域社会というものの理解において根本的な相違があり、それらに基づき養成する人材像についてもおのずから相違がある。これまでも「地域社会」あるいは「地域」の概念が、申請書全体でぶれることのないよう十分に留意してきたつもりであるが、補正申請書の提出に当たり再確認する。

以上の趣旨をより明確にするため、設置の趣旨等を記載した書類の 14 ページに以下のとおり追記して補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類 14 ページ)

**せとうち観光専門職短期大学の建学の精神**

観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する。

本学の建学の精神における「地域社会」は瀬戸内地域や四国地域だけを指すものではなく、各地の地域社会を指す。本学の言う「地域社会」あるいは「地域」とは、その外延が人間社会全体の一部のある範囲に特定される場所である。また、「地域社会」あるいは「地域」の概念の内包は、経済的・社会的・文化的環境などの社会学的意味によって特徴づけられる社会状況とみなされる。このような「地域社会」あるいは「地域」の現実の一端は、人間社会全体、その場に暮らす人々を取り巻く自然ないしは人間生態系を含む人為的環境などと相互に影響を及ぼしつつ、地域に活動する人々によって生み出されると考えられる。

本学は、そうした「地域社会」あるいは「地域」において実践される観光振興と地域振興の現実を理論的・実証的に研究し、その研究成果を教育や地域貢献に反映させる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(新 14 ページ) (旧 14 ページ)

新	旧
<p><b>せとうち観光専門職短期大学の建学の精神</b> 観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する。</p> <p><u>本学の建学の精神における「地域社会」は瀬戸内地域や四国地域だけを指すものではなく、各地の地域社会を指す。本学の言う「地域社会」あるいは「地域」とは、その外延が人間社会全体の一部のある範囲に特定される場所である。また、「地域社会」あるいは「地域」の概念の内包は、経済的・社会的・文化的環境などの社会学的意味によって特徴づけられる社会状況とみなされる。このような「地域社会」あるいは「地域」の現実の一端は、人間社会全体、その場に暮らす人々を取り巻く自然ないしは人間生態系を含む人為的環境な</u></p>	<p><b>せとうち観光専門職短期大学の建学の精神</b> 観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する。</p> <p>(新規)</p>

<p><u>どと相互に影響を及ぼしつつ、地域に活動する人々によって生み出されると考えられる。</u></p> <p><u>本学は、そうした「地域社会」あるいは「地域」において実践される観光振興と地域振興の現実を理論的・実証的に研究し、その研究成果を教育や地域貢献に反映させる。</u></p>	
--	--

### 3. <産業界等のニーズにおける相違>

平成 28 (2016) 年 3 月 30 日に報告された「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたい日本へ―」によると、3つの視点のうちの「視点2 観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」の中で、標記の「産業界ニーズを踏まえた観光経営人材の育成強化」が盛り込まれ、観光産業人材の抜本的育成・強化に向け、以下の3つの取り組みを実施し、観光産業の担い手を3層構造により育成するとしている。

#### 一 観光経営を担う人材育成

- ・2020年までにトップレベルの経営人材の恒常的な育成拠点を大学院段階（MBAを含む）に形成（まずは、新たな実践的・専門的プログラムの開発に着手）

#### 二 観光の中核を担う人材育成の強化

- ・大学の観光学部のカリキュラム変革による、地域観光の中核を担う人材育成の強化（標準カリキュラムの開発に着手）
- ・2019年度の開学を目指している実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化の際には、観光分野の人材についても産業界のニーズに対応して育成

#### 三 即戦力となる地域の実践的な観光人材の育成強化

- ・地域の観光分野の専修学校の活用等による人材育成の強化

本学が養成する人材は上記二に該当し、既設専門学校で養成する人材は上記三に該当するものであり、明らかに相違する。**（資料1 産業界ニーズを踏まえた観光人材に関する観光庁作成資料）**

### 4. <本学が養成する人材の進路先>

本学を卒業した学生が各進路先において、観光振興のエキスパートとして、また、観光産業や観光地域創生事業におけるリーダーの役割を果たしつつ、それらを牽引していくためには、その基礎として本学における通算15週間の臨地実務実習に加えて、採用後各企業・団体等において短期的な現場・職務経験が必要となる。

このため、卒業直後の主な進路を「交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）、旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO」とし、臨地実務実習施設もこれらにおける業務に対応可能な能力を修得できるように選定・配置している。

もとより、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光地域創生事業を牽引することができる高度専門職業人材」が観光産業や観光地域創生事業において果たす役割等は、専門学校卒業生とは異なり、以下のように考えていたが、説明が不足していたため、追記して修正する。

交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）、旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO等において、以下の役割を担う総合職

- ◎ チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。
- ◎ 現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。
- ◎ 業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。
- ◎ 地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。
- ◎ インバウンド対応やオーバーツーリズム対策など課題解決に取り組む。

#### 5. <進路先における役割と授業科目の対応>

また、上記4に掲げる進路先における役割を果たすために必要な能力を修得するため、以下のよう

進路先における役割	対応する主な授業科目
◎ <u>チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。</u>	「観光実務応用論」「臨地実務実習Ⅲ」「観光実務マネジメント論」
◎ <u>現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。</u>	「ファシリテーション実習」「ホスピタリティマネジメント論」
◎ <u>業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。</u>	「観光実務基礎論」「臨地実務実習Ⅱ」「観光実務発展論」「観光実務応用論」「臨地実務実習Ⅲ」「観光実務マネジメント論」
◎ <u>地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。</u>	「観光振興・地域創生論」「観光事業論」「地域創生事業論」「観光支援ビジネス実務基礎論」「臨地実務実習Ⅰ」「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務基礎論」「臨地実務実習Ⅱ」「観光実務発展論」「観光実務応用論」「臨地実務実習Ⅲ」「観光実務マネジメント論」
◎ <u>インバウンド対応やオーバーツーリズム対策など課題解決に取り組む。</u>	「観光行動論」「観光政策論」「国際観光論」「交通産業論」「宿泊産業論」「観光リスクマネジメント」

#### 6. <既設専門学校の進路>

既設の専門学校（ホテル学科、ブライダル学科）における過去5年間の主な進路は以下のとおりである。

業 種	職 種
ホテル	フロント/接客サービス/サービススタッフ/宴会サービス部門/宿泊・料飲サービス部門
結婚式場	ブライダルコーディネーター/ウェディングプロデューサー/衣装コーディネーター/カメラマン・アシスタント
販売業	接客/ジュエリー販売/衣装販売/生花販売
その他	葬祭業務/製造/一般事務

## 7. <本学が養成する人材の進路先に関する補正の方針>

審査意見を踏まえ、当方の不足していた説明を補い、設置の趣旨等を記載した書類の 17 ページ及び 18 ページ、学生確保の見通し等を記載した書類の 16 ページを以下のとおり補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類 17 ページ)

### 本学が養成する人材像

観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人

(主な進路)

交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）、旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO等において、以下の役割を担う総合職

- ◎ チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。
- ◎ 現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。
- ◎ 業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。
- ◎ 地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。
- ◎ インバウンド対応やオーバーツーリズム対策などの課題解決に取り組む。

(以下、省略)

(設置の趣旨等を記載した書類 18 ページ)

## (2) 本学が養成する人材の主な進路と将来像

先に述べたとおり、現行の日本標準産業分類（総務省 平成 26 年 4 月施行）に観光業という分類は存在しない。鉄道業、航空運輸業、宿泊業、旅行業、娯楽業などがそれに当たるものと考えられる。その中において、航空運輸、鉄道、ホテル、レジャー施設においては今後も人材需要が堅調に推移すると考えられている。

一方、本学において、第三者機関に委託して行った調査等によれば、これら多種多様な業種の中で、とりわけ、瀬戸内内外を結ぶ交通業と宿泊業。また、それ以外の業種（分野）では、地域の観光を担う伝統産業や観光施設などからの人材ニーズに関する要請があったことから、観光振興専門職として、学生の卒業直後の進路を概ね以下のとおり設定し、3つのポリシーや教育課程や臨地実務実習のクラス分けや実習内容等に反映する。

交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO等において、以下の役割を担う総合職

- ◎ チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。
- ◎ 現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。
- ◎ 業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。
- ◎ 地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。
- ◎ インバウンド対応やオーバーツーリズム対策など課題解決に取り組む。

また、将来的には職務経験や社会経験を積み、就業した企業・団体等の規模により、観光業界のトッ

プマネジメント、あるいはミドルマネジメントを担う人材、または自ら起業して経営者・代表者となる人材を想定しており、それらの養成に必要な要素を3つのポリシーや教育課程等に反映する。

(学生確保の見通し等を記載した書類 15 ページ)

#### 養成する人材像

本学が養成する人材「観光振興専門職」は、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人」であり、観光振興専門職としての主な進路は、交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）、旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO等において、以下の役割を担う総合職を想定しているが、将来的には、職務経験や社会経験を積み、就業した企業・団体等の規模により、観光業界のトップマネジメント、あるいはミドルマネジメントを担う人材、または自ら起業して経営者・代表者となることを期待している。

- ◎ チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。
- ◎ 現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。
- ◎ 業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。
- ◎ 地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。
- ◎ インバウンド対応やオーバーツーリズム対策など課題解決に取り組む。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 18 ページ) (旧 17 ページ)

新	旧
<p>(主な進路)</p> <p>交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO等において、<u>以下の役割を担う総合職</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ <u>チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。</u></li> <li>◎ <u>現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。</u></li> <li>◎ <u>業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。</u></li> <li>◎ <u>地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。</u></li> <li>◎ <u>インバウンド対応やオーバーツーリズム対策など課題解決に取り組む。</u></li> </ul>	<p>(主な進路)</p> <p>交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）、旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 18 ページ) (旧 18 ページ)

新	旧
<p>(主な進路)</p> <p>交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO等において、<u>以下の役割を担う総合職</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ <u>チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。</u></li> <li>◎ <u>現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。</u></li> <li>◎ <u>業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。</u></li> <li>◎ <u>地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。</u></li> <li>◎ <u>インバウンド対応やオーバーツーリズム対策など課題解決に取り組む。</u></li> </ul>	<p>(主な進路)</p> <p>交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）、旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO</p>

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (新 16 ページ) (旧 15 ページ)

新	旧
<p>養成する人材像 (省略)</p> <p>交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）、旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO等において、<u>以下の役割を担う総合職を想定しているが、将来的には、職務経験や社会経験を積み、就業した企業・団体等の規模により、観光業界のトップマネジメント、あるいはミドルマネジメントを担う人材、または自ら起業して経営者・代表者となることを期待している。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ <u>チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。</u></li> <li>◎ <u>現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。</u></li> <li>◎ <u>業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。</u></li> <li>◎ <u>地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。</u></li> <li>◎ <u>インバウンド対応やオーバーツーリズム対策など課題解決に取り組む。</u></li> </ul>	<p>交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）、旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPOを想定しているが、将来的には、職務経験や社会経験を積み、就業した企業・団体等の規模により、観光業界のトップマネジメント、あるいはミドルマネジメントを担う人材、または自ら起業して経営者・代表者となることを期待している。</p>

(是正事項) 観光振興学科

【大学等の設置の趣旨・必要性】

2 <入学者選抜に関する内容が不明確>

入学者選抜に関する以下の点について、適切に対応すること。

(1) アドミッション・ポリシーにおいて、一般的な学生は基礎学力として英語に加えて「国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得している」とある一方、専門高校卒業生においては、これらに替えて「観光や美術、音楽、工芸技術等に関する知識と技術を身につけている」とあるが、本学の人材養成像や教育内容に照らすと、専門高校卒業生に対しても一般的な学生と同様の基礎学力を求める必要があるため、適切に改めること。その際、専門高校以外の学生に対しても、人材養成像に照らして観光や美術、音楽、工芸技術等の基礎知識を併せて求めることが望ましい。

(対応)

1. <対応の概要及びアドミッション・ポリシーの補正の方針>

審査意見を踏まえ、アドミッション・ポリシーを以下のとおり修正し、設置の趣旨等を記載した書類の76ページを補正する。

せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 アドミッション・ポリシー

本学は、観光による交流が世界規模に拡大し、観光が21世紀の基幹産業となった時代に、観光振興専門職を目指して学修することを通じて、世界の動向を見渡しながら地域社会の発展に貢献する人材の育成を目的とする。そこで、本学は次のようなアドミッション・ポリシーを掲げ、本学で学ぶにふさわしい意欲・意志及び知識・能力を有する学生を受け入れる。

I 入学者に求める意欲・意志

- 1 観光振興のエキスパートとしての技能を身に付け、世界の動向を見渡しながら、地域社会の持続可能な発展に貢献しようという意欲を持つ者
- 2 思考力、実践力、協働力の鍛錬という教育目標を理解し、自らのキャリアを形成しようという固い意志を持つ者
- 3 生涯に渡ってより充実した日常生活を送るための自己啓発の基礎を身に付けることに強い意欲を持ち、あらゆる状況で創造的に対応しようとする態度を有する者

II 入学者に求める知識・能力

1 知識・技能

- ① これからの観光学の分野では、インバウンドへの対応が重要になってくる。このため、高等学校で習得すべき英語の基本的な知識と能力を身につけている学生を受け入れる。
- ② また、英語のみならず、日本文化を学び、世界とのかかわりの中で日本文化を広く紹介するための基礎となる国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得していること。
- ③ さらに、観光や美術、音楽、工芸技術等のいずれかの知識や技術を身につけていることが望ましい。



④ 専門高校卒業生においては、専門分野である観光や美術、音楽、工芸技術等に関するいずれかの知識や技術を身につけていることを重視し、評価するが、基礎学力として、国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得していることが必要である。

⑤ 職業経験を有し、企業等に勤務していた社会人においては、当該職業経験から得られる知識及び技能も評価して受け入れる。

2 思考力・判断力・表現力等の能力

① みずから課題を発見し、みずから解決策を見出すことのできる基本的な思考力、判断力と問題解決能力

② 本学での学修や臨地実務実習等において、円滑に対応できる基本的な文章能力とコミュニケーション能力

3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

① 他者と協調しつつ、課題解決に向け効果的な議論ができる基本的な論理構成力

② みずからの意見を正確に、かつ有効に伝えることのできるプレゼンテーションの基本的能力

III 入学者に求める知識・能力等の評価方法（以下の表のとおり）

入学試験区分	知識・能力 評価方法	1 知識・技能					2 思考力・判断力・表現力等		3 主体性を持って学ぶ態度		意欲・意志
		①	②	③	④	⑤	①	②	①	②	
一般選抜 入学試験	調査書		◎	◎	◎						
	学科試験（英語）	◎									
	面接						◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型 入学試験	調査書	◎	◎	◎	◎						
	小論文						◎	◎			◎
	面接						◎	◎	◎	◎	◎
総合型選抜 入学試験	志望理由書						◎	◎			◎
	自己推薦書							◎		◎	
	活動実績書							◎		◎	
	調査書	◎	◎	◎	◎						
	小論文						◎	◎			◎
	面接						◎	◎	◎	◎	◎
社会人 入学試験	志望理由書						◎	◎			◎
	職業経歴書					◎					
	成績証明書	◎	◎	◎	◎						
	小論文						◎	◎			◎
	面接						◎	◎	◎	◎	◎

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（新 83 ページ）（旧 76 ページ）

新	旧
<p>II 入学者に求める知識・能力</p> <p>1 知識・技能</p> <p>① これからの観光学の分野では、インバウンドへの対応が重要になってくる。このため、高等学校で習得すべき英語の基本的な知識と能力を身</p>	<p>II 入学者に求める知識・能力</p> <p>1 知識・技能</p> <p>① これからの観光学の分野では、インバウンドへの対応が重要になってくる。このため、高等学校で習得すべき英語の基本的な知識と能力</p>

につけている学生を受け入れる。

- ② また、英語のみならず、日本文化を学び、世界とのかかわりの中で日本文化を広く紹介するための基礎となる国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得していること。
- ③ さらに、観光や美術、音楽、工芸技術等のいずれかの知識や技術を身につけていることが望ましい。
- ④ 専門高校卒業生においては、専門分野である観光や美術、音楽、工芸技術等に関するいずれかの知識や技術を身につけていることを重視し、評価するが、基礎学力として、国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得していることが必要である。
- ⑤ 職業経験を有し、企業等に勤務していた社会人においては、当該職業経験から得られる知識及び技能も評価して受け入れる。

III (表)

評価方法	知識・能力				
	1 知識・技能				
	①	②	③	④	⑤
調査書		◎	◎	◎	
学科試験 (英語)	◎				
面接					
調査書	◎	◎	◎	◎	
小論文					
面接					
志望理由書					
自己推薦書					
活動実績書					
調査書	◎	◎	◎	◎	
小論文					
面接					
志望理由書					
職業経歴書					◎
成績証明書	◎	◎	◎	◎	
小論文					
面接					

を身につけている学生を受け入れる。

- ② また、英語のみならず、日本文化を学び、世界とのかかわりの中で日本文化を広く紹介するための基礎となる国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得していること。
- (新規)
- ③ 専門高校卒業生においては、上記②に替えて、観光や美術、音楽、工芸技術等に関する知識と技術を身につけている学生を受け入れる。
  - ④ 職業経験を有し、企業等に勤務していた社会人においては、当該職業経験から得られる知識及び技能も評価して受け入れる。

III (表)

評価方法	知識・能力			
	1 知識・技能			
	①	②	③	④
調査書		◎	◎	
学科試験 (英語)	◎			
面接				
調査書	◎	◎	◎	
小論文				
面接				
志望理由書				
自己推薦書				
活動実績書				
調査書	◎	◎	◎	
小論文				
面接				
志望理由書				
職業経歴書				◎
成績証明書	◎	◎	◎	
小論文				
面接				

(是正事項) 観光振興学科

**【大学等の設置の趣旨・必要性】**

2 <入学者選抜に関する内容が不明確>

入学者選抜に関する以下の点について、適切に対応すること。

(2) 本学の各選抜方法の定員設定の考え方や、具体的な選抜基準が示されておらず、選抜方法の妥当性が不明確なため、選抜方法ごとに学科試験や調査書の詳細や配点等も示して明確に説明すること。

(対応)

1. <対応の概要>

本学における各選抜方法の定員設定の考え方及び具体的な選抜基準について説明し、選抜方法の妥当性を明確にしたうえで、設置の趣旨等を記載した書類を補正する。

2. <各選抜方法の定員設定の考え方>

本学では、アドミッション・ポリシーに基づき、学力だけでなく、思考力・判断力・表現力等の能力や主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度及び観光振興専門職をめざす意欲や意志を多面的かつ総合的に評価して入学者選抜を行うこととしている。そのため、入学定員80名の50%を多様な入学試験において入学させたいと考え、総合型選抜入学試験の定員を40名に設定した。残りの40名のうち、半分の20名を一般選抜入試とし、もう半分の20名を学校推薦型選抜入試に設定した。社会人入学試験については若干名とし、合計80名の定員の範囲内で調整する。

3. <各選抜方法の選抜基準>

また、選抜方法ごとの学科試験や調査書の取り扱いや配点については以下のとおりである。

**【一般選抜入学試験】**

◎試験内容 学科試験「英語（択一式）」及び面接（日程はA日程,B日程,C日程を予定。）

◎出願書類 「願書」「調査書」（高卒認定資格取得者は合格証と成績証明書）

◎配 点 学科試験「英語（択一式）」100点、面接50点、調査書50点の200点満点としその合計点により、合否を判定する。調査書については、アドミッション・ポリシーの「Ⅱ入学者に求める知識・能力の1知識・技能の①～④に該当する授業科目」に該当する教科の評定平均値を10倍して、採点する。（高卒認定資格取得者の場合は、成績証明書により評定平均値を換算して採点する。）

◎選考方法 一般選抜入学試験の日程ごとに、得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

**【総合選抜型入学試験】**

◎試験方式 本入学試験は、以下の方式により行う。

方式1：本学教員の講義を受講のうえ、それに関する小論文を作成させ評価する方式

## 方式2：高等学校での活動や保有する成績、資格、特技等を評価する方式

### ◎出願資格

(1) 方式1については、通常の出願資格とする。

(2) 方式2については、通常の出願資格に加えて、以下の条件を満たすものとする。

下記の①～⑥のいずれかに該当し、その活動・成果などを自己推薦文、活動等を証明する書類及び面接で伝えることができる者

① 評定平均値が高く、学業成績が優秀な者

② 高等学校などの公認部活動団体に2年以上在籍して意欲的に取り組んだ者、または部活動以外で、文化、芸術、スポーツの分野で優れた成績を収めた者

③ 生徒会役員や各種学校行事の実行委員長等を努め、主体的かつ協働的に活動した特筆すべき実績を有する者

④ 観光、地域振興、文化振興、文化財の保存活用等の分野に興味があり、自主的な研究活動や継続的なボランティア活動に取り組んだ者

⑤ 実用英語検定試験準2級以上、「TOEIC L&R」400点以上、および他の英語外部検定試験においてこれらと同等以上の成績と認められるスコアまたは資格を有している者。ただし2019年以後に取得したスコアまたは資格に限る。

⑥ 英語以外の検定試験、コンクール等において、特筆すべき成績や評価を収めた者

◎試験内容 小論文(方式1は講義の内容に関連する課題、方式2は自己の活動に関連する課題による)及び面接(方式1の日程はA日程、B日程、C日程を予定。)

◎出願書類 「願書」「自己推薦文」「活動等を証明する書類(方式2のみ)」「調査書」(高卒認定資格取得者は合格証と成績証明書)

◎配点 出願資格(1)に該当する場合  
自己推薦文50点、「調査書」(評定平均値を10倍する。)50点、小論文150点、面接50点の300点満点とする。

出願資格(2)の①に該当する場合

自己推薦文50点、「調査書」(評定平均値を20倍する。)100点、小論文100点、面接50点の300点満点とする。

出願資格(2)の①以外に該当する場合

自己推薦文50点、「活動を証明する書類」100点、小論文100点、面接50点、(調査書は、採点の対象とはせず、総合判定の際に用いる。)の300点満点とする。

◎選考方法 総合型選抜入学試験の日程及び方式ごとに、得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

### 【学校推薦型入学試験】

◎試験内容 小論文、面接

- ◎出願書類 「願書」「学校長の推薦書」「調査書」
- ◎配 点 小論文 100 点、面接 100 点、調査書 50 点（評定平均値×10）の合計 250 点満点とする。
- ◎選考方法 学校推薦型入学試験の日程及び指定校・公募ごとに、得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

## 【社会人入試】

### ◎出願資格

本学の建学の精神とアドミッション・ポリシーを理解し、学び直して観光振興専門職をめざし、積極的に学修に取り組む意欲を有する者で、以下の(1)～(3)を満たす者

- (1)2021年4月1日現在で、満22歳以上である者
- (2)1年以上の職業経験のある者
- (3)次の①～③のいずれかに該当する者
  - ①高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者。または2021年3月卒業見込みの者
  - ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者。または2021年3月修了見込みの者
  - ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、または2021年3月31日までにこれに該当する見込みの者

◎試験内容 小論文、面接

◎出願書類 「願書」「自己推薦書」「職業経歴書」「勤務先の在職証明書または勤務期間証明書」以下、該当する場合のみ。  
「資格・検定試験等の成績を証明する書類」「高等学校等在学時の成績証明書（卒業後5年以内の場合のみ）」

◎配 点 小論文 100 点、面接 100 点の 200 点満点とし、その他「資格・検定試験等の成績」等を考慮し総合的に合否を判定する。

◎選考方法 社会人入学試験の得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

## 4. <補正の方針>

審査意見を踏まえ、上記2及び3を明確に説明するため、設置の趣旨等を記載した書類の77ページ及び78ページを以下のとおり補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類 77 ページ)

### 9-2 入学試験の概要

本学は、アドミッション・ポリシー及び入学者選抜規程に従い、以下のとおり入学者選抜試験を実施する。学力の3要素を多様な入試で評価し、観光振興の専門家を養成するために必要な意欲・意志及び知識・能力を持つ学生を受け入れる。

観光振興学科		一般選抜 入学試験	総合型選抜 入学試験	学校推薦型選抜入試		社会人 入学試験
				指定校 推薦	公募 推薦	
入学定員	80名	20	40	15	5	若干名

(各選抜方法の入学定員の考え方)

アドミッション・ポリシーに基づき、学力だけでなく、思考力・判断力・表現力等の能力や主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度及び観光振興専門職をめざす意欲や意志を多面的かつ総合的に評価して入学者選抜を行うこととしている。そのため、入学定員 80 名の 50%を多様な入学試験において入学させたいと考え、総合型選抜入学試験の定員を 40 名に設定した。残りの 40 名のうち、半分の 20 名を一般選抜入試とし、もう半分の 20 名を学校推薦型選抜入試に設定した。社会人入学試験については若干名とし、合計 80 名の定員の範囲内で調整する。

### (1) 一般選抜入試

アドミッション・ポリシーに基づき、英語の学科試験を実施し、英語の能力を評価する。英語以外に必要な学科については、調査書により評価する。併せて面接では、「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価し、総合的に合否を判定する。具体的な選抜方法は以下のとおりとする。

#### 【一般選抜入学試験】

- ◎試験内容 学科試験「英語（択一式）」及び面接（日程はA日程,B日程,C日程を予定。）
- ◎出願書類 「願書」「調査書」（高卒認定資格取得者は合格証と成績証明書）
- ◎配点 学科試験「英語（択一式）」100点、面接50点、調査書50点の200点満点としその合計点により、合否を判定する。調査書については、アドミッション・ポリシーの「Ⅱ入学者に求める知識・能力の1知識・技能の①～④に該当する授業科目」に該当する教科の評定平均値を10倍して、採点する。（高卒認定資格取得者の場合は、成績証明書により評定平均値を換算して採点する。）
- ◎選考方法 一般選抜入学試験の日程ごとに、得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

### (2) 総合型選抜入試

アドミッション・ポリシーに基づき、英語をはじめとする学力については学科試験を免除し、調査書により評価するが、それ以外の重要な要素として、志望理由書による2—①、及び②の能力の評価、自己推薦書及び活動実績書による2—②、3—②の能力の評価、小論文による2—①、及び②の能力の評価、面接による「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。具体的な選抜方法は以下のとおりとする。

#### 【総合選抜型入学試験】

- ◎試験方式 本入学試験は、以下の方式により行う。  
方式1：本学教員の講義を受講のうえ、それに関する小論文を作成させ評価する方式  
方式2：高等学校での活動や保有する成績、資格、特技等を評価する方式

## ◎出願資格

(1) 方式1については、通常の出願資格とする。

(2) 方式2については、通常の出願資格に加えて、以下の条件を満たすものとする。

下記の①～⑥のいずれかに該当し、その活動・成果などを自己推薦文、活動等を証明する書類及び面接で伝えることができる者

① 評定平均値が高く、学業成績が優秀な者

② 高等学校などの公認部活動団体に2年以上在籍して意欲的に取り組んだ者、または部活動以外で、文化、芸術、スポーツの分野で優れた成績を収めた者

③ 生徒会役員や各種学校行事の実行委員長等を努め、主体的かつ協働的に活動した特筆すべき実績を有する者

④ 観光、地域振興、文化振興、文化財の保存活用等の分野に興味があり、自主的な研究活動や継続的なボランティア活動に取り組んだ者

⑤ 実用英語検定試験準2級以上、「TOEIC L&R」400点以上、および他の英語外部検定試験においてこれらと同等以上の成績と認められるスコアまたは資格を有している者。ただし2019年以後に取得したスコアまたは資格に限る。

⑥ 英語以外の検定試験、コンクール等において、特筆すべき成績や評価を収めた者

◎試験内容 小論文(方式1は講義の内容に関連する課題、方式2は自己の活動に関連する課題による)及び面接(方式1の日程はA日程,B日程,C日程を予定。)

◎出願書類 「願書」「自己推薦文」「活動等を証明する書類(方式2のみ)」  
「調査書」(高卒認定資格取得者は合格証と成績証明書)

◎配点 出願資格(1)に該当する場合

自己推薦文50点、「調査書」(評定平均値を10倍する。)50点、小論文150点、面接50点の300点満点とする。

出願資格(2)の①に該当する場合

自己推薦文50点、「調査書」(評定平均値を20倍する。)100点、小論文100点、面接50点の300点満点とする。

出願資格(2)の①以外に該当する場合

自己推薦文50点、「活動を証明する書類」100点、小論文100点、面接50点、(調査書は、採点の対象とはせず、総合判定の際に用いる。)の300点満点とする。

◎選考方法 総合型選抜入学試験の日程及び方式ごとに、得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

(設置の趣旨等を記載した書類78ページ)

### (3) 学校推薦型選抜入試

#### ① 指定校推薦

本学が指定する高等学校の現役生について、高等学校における調査書の評定平均値が3.5以上であり、

本学を専願して、合格後には必ず入学することを確約できる者で、高等学校長等が推薦する者を対象とする。

学科試験を免除するが、アドミッション・ポリシーに基づき、小論文による2-①、及び②の能力の評価、面接による「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。具体の選抜方法は以下のとおりとする。

## ② 公募推薦

高等学校の現役生、及び高等学校卒業後1年以内の者で、高等学校の評定平均値が3.7以上であり、高等学校長が推薦する者を対象とする。

学科試験を免除するが、アドミッション・ポリシーに基づき、小論文による2-①、及び②の能力の評価、面接による「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。具体の選抜方法は以下のとおりとする。

### 【学校推薦型入学試験】

◎試験内容 小論文、面接

◎出願書類 「願書」「学校長の推薦書」「調査書」

◎配点 小論文100点、面接100点、調査書50点（評定平均値×10）の合計250点満点とする。

◎選考方法 学校推薦型入学試験の日程及び指定校・公募ごとに、得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

## 9-4 社会人、留学生及び帰国生徒の受け入れ

### (1) 社会人の受け入れと社会人の定義

#### ① 社会人入学試験

本学が受け入れる社会人を「1年以上の職業経験のある者で、学び直して観光振興専門職を目指す者であり、一般選抜と同様の大学入学資格を有して、入学年度の4月1日に満22歳以上である者」と定義し、社会人入学試験を実施する。職業経験については、出願書類として職業経歴書及び勤務先の在職証明書または勤務期間証明書を提出させて確認する。在職証明書または勤務期間証明書の提出が不可能な場合は、本人の申立書（本人の印及び家族、親類等の証明印を押印）を提出させる。

高等学校等在学時の成績証明書（卒業後5年以内の場合）でアドミッション・ポリシーに定める能力のうち1-①及び②、③を評価し、志望理由書で2-①及び②を評価し、職業経験やこれまでの職業経験で得た知識・技術（1-⑤）については職業経歴書で評価する。また、小論文により2-①及び②を評価する。さらに、面接により、「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価し、総合的に合否を判定する。具体の選抜方法は以下のとおりとする。

### 【社会人入試】

#### ◎出願資格

本学の建学の精神とアドミッション・ポリシーを理解し、学び直して観光振興専門職をめざし、積極的に学修に取り組む意欲を有する者で、以下の(1)～(3)を満たす者



(1)2021年4月1日現在で、満22歳以上である者

(2)1年以上の職業経験のある者

(3)次の①～③のいずれかに該当する者

①高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者。または2021年3月卒業見込みの者

②通常の課程による12年の学校教育を修了した者。または2021年3月修了見込みの者

③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、または2021年3月31日までにこれに該当する見込みの者

◎試験内容 小論文、面接

◎出願書類 「願書」「自己推薦書」「職業経歴書」「勤務先の在職証明書または勤務期間証明書」  
以下、該当する場合のみ。

「資格・検定試験等の成績を証明する書類」「高等学校等在学時の成績証明書（卒業後5年以内の場合のみ）」

◎配点 小論文100点、面接100点の200点満点とし、その他「資格・検定試験等の成績」等を考慮し総合的に合否を判定する。

◎選考方法 社会人入学試験の得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新85ページ) (旧77ページ)

新	旧
<b>9-2 入学試験の概要</b> (省略) <u>(各選抜方法の入学定員の考え方)</u> <u>アドミッション・ポリシーに基づき、学力だけでなく、思考力・判断力・表現力等の能力や主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度及び観光振興専門職をめざす意欲や意志を多面的かつ総合的に評価して入学者選抜を行うこととしている。そのため、入学定員80名の50%を多様な入学試験において入学させたいと考え、総合型選抜入学試験の定員を40名に設定した。残りの40名のうち、半分の20名を一般選抜入試とし、もう半分の20名を学校推薦型選抜入試に設定した。社会人入学試験については若干名とし、合計80名の定員の範囲内で調整する。</u>	(省略)  (新規)
<b>(1) 一般選抜入試</b> アドミッション・ポリシーに基づき、英語の学科	<b>(1) 一般選抜入試</b> アドミッション・ポリシーに基づき、英語の学

試験を実施し、英語の能力を評価する。英語以外に必要な学科については、調査書により評価する。併せて面接では、「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価し、総合的に合否を判定する。具体の選抜方法は以下のとおりとする。

**【一般選抜入学試験】**

◎試験内容 学科試験「英語（択一式）」及び面接（日程はA日程,B日程,C日程を予定。）

◎出願書類 「願書」「調査書」（高卒認定資格取得者は合格証と成績証明書）

◎配点 学科試験「英語（択一式）」100点、面接50点、調査書50点の200点満点としその合計点により、合否を判定する。調査書については、アドミッション・ポリシーの「Ⅱ入学者に求める知識・能力の1知識・技能の①～④に該当する授業科目」に該当する教科の評定平均値を10倍して、採点する。（高卒認定資格取得者の場合は、成績証明書により評定平均値を換算して採点する。）

◎選考方法 一般選抜入学試験の日程ごとに、得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

**(2) 総合型選抜入試**

アドミッション・ポリシーに基づき、英語をはじめとする学力については学科試験を免除し、調査書により評価するが、それ以外の重要な要素として、志望理由書による2—①、及び②の能力の評価、自己推薦書及び活動実績書による2—②、3—②の能力の評価、小論文による2—①、及び②の能力の評

科試験を実施し、英語の能力を評価する。英語以外に必要な学科については、調査書により評価する。併せて面接では、「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価し、総合的に合否を判定する。

(新規)

**(2) 総合型選抜入試**

アドミッション・ポリシーに基づき、英語をはじめとする学力については学科試験を免除し、調査書により評価するが、それ以外の重要な要素として、志望理由書による2—①、及び②の能力の評価、自己推薦書及び活動実績書による2—②、3—②の能力の評価、小論文による2—①、及び

<p>価、面接による「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。<u>具体の選抜方法は以下のとおりとする。</u></p> <p><b>【総合選抜型入学試験】</b></p> <p>◎<u>試験方式</u>    <u>本入学試験は、以下の方式により行う。</u></p> <p>        <u>方式1: 本学教員の講義を受講のうえ、それに関する小論文を作成させ評価する方式</u></p> <p>        <u>方式2: 高等学校での活動や保有する成績、資格、特技等</u> <u>を評価する方式</u></p> <p>◎<u>出願資格</u></p> <p>        <u>(1) 方式1については、通常の出願資格とする。</u></p> <p>        <u>(2) 方式2については、通常の出願資格に加えて、以下の条件を満たすものとする。</u></p> <p>        <u>下記の①～⑥のいずれかに該当し、その活動・成果などを自己推薦文、活動等を証明する書類及び面接で伝えることができる者</u></p> <p>        ① <u>評定平均値が高く、学業成績が優秀な者</u></p> <p>        ② <u>高等学校などの公認部活動団体に2年以上在籍して意欲的に取り組んだ者、または部活動以外で、文化、芸術、スポーツの分野で優れた成績を収めた者</u></p> <p>        ③ <u>生徒会役員や各種学校行事の実行委員長等を努め、主体的かつ協働的に活動した特筆すべき実績を有する者</u></p> <p>        ④ <u>観光、地域振興、文化振興、文化財の保存活用等の分野に興味があり、自主的な研究活動や継続的なボランティア活動に取り組んだ者</u></p> <p>        ⑤ <u>実用英語検定試験準2級以上、「TOEIC L&amp;R」400点以上、および他の英語外部検定試験においてこれらと同等以上の成績と認められるスコアまたは資格を</u></p>	<p>②の能力の評価、面接による「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。</p> <p>(新規)</p>
--	---

有している者。ただし 2019 年以後に取得したスコアまたは資格に限る。

⑥ 英語以外の検定試験、コンクール等において、特筆すべき成績や評価を収めた者

◎試験内容 小論文（方式 1 は講義の内容に関連する課題、方式 2 は自己の活動に関連する課題による）及び面接（方式 1 の日程は A 日程, B 日程, C 日程を予定。）

◎出願書類 「願書」「自己推薦文」「活動等を証明する書類（方式 2 のみ）」  
「調査書」（高卒認定資格取得者は合格証と成績証明書）

◎配点 出願資格(1)に該当する場合  
自己推薦文 50 点、「調査書」（評定平均値を 10 倍する。） 50 点、小論文 150 点、面接 50 点の 300 点満点とする。

出願資格(2)の①に該当する場合  
自己推薦文 50 点、「調査書」（評定平均値を 20 倍する。） 100 点、小論文 100 点、面接 50 点の 300 点満点とする。

出願資格(2)の①以外に該当する場合  
自己推薦文 50 点、「活動を証明する書類」 100 点、小論文 100 点、面接 50 点、（調査書は、採点の対象とはせず、総合判定の際に用いる。）の 300 点満点とする。

◎選考方法 総合型選抜入学試験の日程及び方式ごとに、得点上位者から順

<u>に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。</u>	
--	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 87 ページ) (旧 78 ページ)

新	旧
<p><b>(3) 学校推薦型選抜入試</b></p> <p>① 指定校推薦</p> <p>本学が指定する高等学校の現役生について、高等学校における調査書の評定平均値が 3.5 以上であり、本学を専願して、合格後には必ず入学することを確約できる者で、高等学校長等が推薦する者を対象とする。</p> <p>学科試験を免除するが、アドミッション・ポリシーに基づき、小論文による 2—①、及び②の能力の評価、面接による「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。<u>具体の選抜方法は以下のとおりとする。</u></p> <p>② 公募推薦</p> <p>高等学校の現役生、及び高等学校卒業後 1 年以内の者で、高等学校の評定平均値が 3.7 以上であり、高等学校長が推薦する者を対象とする。</p> <p>学科試験を免除するが、アドミッション・ポリシーに基づき、小論文による 2—①、及び②の能力の評価、面接による「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。<u>具体の選抜方法は以下のとおりとする。</u></p> <p><b>【学校推薦型入学試験】</b></p> <p>◎試験内容 <u>小論文、面接</u></p> <p>◎出願書類 <u>「願書」「学校長の推薦書」「調査書」</u></p> <p>◎配点 <u>小論文 100 点、面接 100 点、調</u></p>	<p><b>(3) 学校推薦型選抜入試</b></p> <p>① 指定校推薦</p> <p>本学が指定する高等学校の現役生について、高等学校における調査書の評定平均値が 3.5 以上であり、本学を専願して、合格後には必ず入学することを確約できる者で、高等学校長等が推薦する者を対象とする。</p> <p>学科試験を免除するが、アドミッション・ポリシーに基づき、小論文による 2—①、及び②の能力の評価、面接による「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。</p> <p>② 公募推薦</p> <p>高等学校の現役生、及び高等学校卒業後 1 年以内の者で、高等学校の評定平均値が 3.7 以上であり、高等学校長が推薦する者を対象とする。</p> <p>学科試験を免除するが、アドミッション・ポリシーに基づき、小論文による 2—①、及び②の能力の評価、面接による「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。</p> <p style="text-align: right;">(新規)</p>

査書 50 点（評定平均値×10）の  
合計 250 点満点とする。

◎選考方法 学校推薦型入学試験の日程及  
び指定校・公募ごとに、得点上  
位者から順に配列した一覧表を  
作成し、教授会において総合的  
に判定し、合格ラインの案を策  
定する。最終的には、教授会の  
意見を聞いて学長が合格者を決  
定する。

(省略)

#### 9-4 社会人、留学生及び帰国生徒の受け入れ

##### (1) 社会人の受入れと社会人の定義

###### ① 社会人入学試験

本学が受け入れる社会人を「1年以上の職業経験のある者で、学び直して観光振興専門職を目指す者であり、一般選抜と同様の大学入学資格を有して、入学年度の4月1日に満22歳以上である者」と定義し、社会人入学試験を実施する。職業経験については、出願書類として職業経歴書及び勤務先の在職証明書または勤務期間証明書を提出させて確認する。在職証明書または勤務期間証明書の提出が不可能な場合は、本人の申立書（本人の印及び家族、親類等の証明印を押印）を提出させる。

高等学校等在学時の成績証明書（卒業後5年以内の場合）でアドミッション・ポリシーに定める能力のうち1-①及び②、③を評価し、志望理由書で2-①及び②を評価し、職業経験やこれまでの職業経験で得た知識・技術（1-⑤）については職業経歴書で評価する。また、小論文により2-①及び②を評価する。さらに、面接により、「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価し、総合的に合否を判定する。具体の選抜方法は以下のとおりとする。

###### 【社会人入試】

###### ◎出願資格

(省略)

#### 9-4 社会人、留学生及び帰国生徒の受け入れ

##### (1) 社会人の受入れと社会人の定義

###### ① 社会人入学試験

本学が受け入れる社会人を「1年以上の職業経験のある者で、学び直して観光振興専門職を目指す者であり、一般選抜と同様の大学入学資格を有して、入学年度の4月1日に満22歳以上である者」と定義し、社会人入学試験を実施する。職業経験については、出願書類として職業経歴書及び勤務先の在職証明書または勤務期間証明書を提出させて確認する。在職証明書または勤務期間証明書の提出が不可能な場合は、本人の申立書（本人の印及び家族、親類等の証明印を押印）を提出させる。

高等学校等在学時の成績証明書（卒業後5年以内の場合）でアドミッション・ポリシーに定める能力のうち1-①及び②、③を評価し、志望理由書で2-①及び②を評価し、職業経験やこれまでの職業経験で得た知識・技術（1-④）については職業経歴書で評価する。また、小論文により2-①及び②を評価する。さらに、面接により、「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価し、総合的に合否を判定する。

(新規)

本学の建学の精神とアドミッション・ポリシー  
を理解し、学び直して観光振興専門職をめざし、  
積極的に学修に取り組む意欲を有する者で、以下  
の(1)～(3)を満たす者

(1)2021年4月1日現在で、満22歳以上であ  
る者

(2)1年以上の職業経験のある者

(3)次の①～③のいずれかに該当する者

①高等学校もしくは中等教育学校を卒業し  
た者。または2021年3月卒業見込みの者

②通常の課程による12年の学校教育を修了  
した者。または2021年3月修了見込みの者

③学校教育法施行規則第150条の規定によ  
り、高等学校を卒業した者と同等以上の学  
力があると認められる者、または2021年3  
月31日までにこれに該当する見込みの者

◎試験内容 小論文、面接

◎出願書類 「願書」「自己推薦書」「職業経歴

書」「勤務先の在職証明書または

勤務期間証明書」  
以下、該当する場合のみ。  
「資格・検定試験等の成績を証  
明する書類」「高等学校等在学  
時の成績証明書（卒業後5年  
以内の場合のみ）」

◎配点 小論文100点、面接100点の200

点満点とし、その他「資格・検  
定試験等の成績」等を考慮し総  
合的に合否を判定する。  
◎選考方法 社会人入学試験の得点上位者

から順に配列した一覧表を作成  
し、教授会において総合的に判  
定し、合格ラインの案を策定す  
る。最終的には、教授会の意見  
を聞いて学長が合格者を決定す  
る。

【大学等の設置の趣旨・必要性】

3 <学生確保の見通しや人材需要の動向が不明確>

学生確保の見通しについて、高校生へのアンケート調査の分析では定員を充足するとのことだが、既設の専門学校が充足していないため、改めて学生確保の見通しを明確に説明すること。

また、人材需要の動向に関する企業へのアンケート調査の分析について、対象数が200社・団体であるが、本学の収容定員に照らすと十分ではなく、本学の卒業生の進路が長期的かつ安定的に確保されているか不明確なため、改めて明確に説明すること。

(対応)

1. <対応の概要>

既設の専門学校の定員未充足の要因や本学の教育の特色と既設専門学校の教育との相違については、学生確保の見通しを記載した書類に記載していたが、説明が不足していたこともあり、補足してあらためて明確に説明する。また、中長期的な学生確保の見通しについてもあらためて説明する。人材需要のアンケートについては、追加調査を実施し、その結果を含めて本学の卒業生の進路が長期的かつ安定的に確保されていることを説明する。

これらの説明を学生確保の見通しを記載した書類に追記して補正する。

2. <既設の専門学校の定員未充足について>

① 穴吹学園の既設専門学校9校37学科は、定員未充足であるが、それらの定員未充足には、専修学校設置基準47条に規定する校舎面積を基に、当該校舎の収容可能な総定員を計算し、その範囲内で入学定員を1クラス40名以内で開設時に設定してきた経緯が影響している。そのような状況において、18歳人口の減少に伴い入学者が減少する中で、定員設定の見直しをしないまま、現在に至っていることが定員未充足の主な原因である。

このため、現在定員の見直しを進めており、専門学校全体で平成29年度は57.2%、平成30年度は57.5%、令和元年度は64.1%と徐々に改善している。また、既設専門学校の学科の定員充足率は全体的に低いですが、経営状況は安定しており、日本私立学校振興・共済事業団が作成した「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）」のA3に分類され、健全な財務状況を維持している。

2017年2月から3月にかけて、観光庁観光産業課が株式会社日経リサーチ社に委託して実施した「観光教育の現状ニーズ調査～専門学校編～」によると、観光に関連する学科・専攻・コースの出願倍率はどれくらいかとの質問に対して、回答した51校中、0.9倍未満の専門学校は35校あり、その平均は0.4倍であった。また、1倍以上の専門学校でも約9割が1倍～1.9倍に留まっていた。

また、専門学校に入学する理由として、希望の職種につけるからという理由が約6割を占め、カリキュラム等についての関心は高くない。専門学校における学生募集の主なターゲットは、対象となる高等学校等や入学希望者の思考において、進学校や大学進学希望者のそれとは異なるものと考えている。**(資料2 観光教育の現状ニーズ調査～専門学校編～ (抄))**



② 一方で、本学が提供する教育は、専門学校との教育と全く異なるコンセプトを有している。本学の教育課程は専門職短期大学設置基準に従い、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目から構成している。まず、基礎科目において、観光学の理論を学ぶための基礎となる「地理学」と「文化論」を必修科目として開設するとともに、選択科目には、「企業の社会的責任」「法と社会」「災害と防災の科学」「信仰の歴史」「異文化理解」「ビジネスコミュニケーション」を配置し、大学教育において重要な「思考力」を涵養するとともに、職業専門科目における観光学の理論を学修する基礎を築いている。また、観光振興においては、高齢者や障がい者への適切な対応が重要となってくるため、その基礎的な知識と技能を学修するため「介助実務実習」を必修科目として配置している。

次に、職業専門科目においては「観光の理論と知識」を学修する学術科目と「観光実務の知識と技能」を学修する実務科目のバランスを考慮し、学術科目では「観光学概論」を起点として、「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」の観光基礎理論を学修する科目を配置し、それらが「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」「観光データ整理実習」「エコツーリズム実習」の観光応用理論を学修する科目に繋がっていくように配置している。一方で地域の観光についても学修するため、「地域資源論」「地域観光基礎実習」の地域観光論基礎科目を配置し、それらが「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」のせとうち観光研究科目群に繋がっていくように配置している。この2つの系統は相互に関連しており、これにより系統的かつ複合的な学びを担保している。

このように観光の理論を体系的に学びつつ、瀬戸内や四国の観光事業の成果や成功事例を教材にした学修と研究が可能であり、これにより、理論に裏付けられた実務を学修するために必要な観光学の理論の幅を広げ、かつ深化させるものとなっている。

一方の実務科目では、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」「観光事業論」という観光実務理論や観光事業理論を必修科目として学修した後、「ホスピタリティ実務実習A・B」を学内実習として学修し、「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」及び「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」により、それぞれ目的が異なり、多彩な実習施設における臨地実務実習が展開される。それぞれの臨地実務実習には事前学修として関連する実務の内容や留意点を講義にて学修する「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」と、事後学修として実習後の振り返りや知識・技能の定着と展開やマネジメント能力の強化を図るための「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を必修科目として配置するとともに、実務科目の締めくくりとして、「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置しており、「観光実務の知識と技能」が系統的に学修できるという特色がある。本学はクォーター制を採用しており、臨地実務実習科目の前後のクォーターにおいては、先に述べた「観光の理論と知識」を学修し、相乗効果が発揮されるよう授業科目を配列している。

展開科目においては、①企業やNPO法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）、②事業イノベーションを生み出すための情報力や創造力（情報力・創造力）の育成を目的として、経営関係科目と情報関係科目を中心に配置する。講義科目では、「経営学」「マーケティング論」「コミュニティデザイン論」「中小企業論」「起業論」「ICTとIoT」「人工

知能概論」の7科目を配置している。また、実習科目では、「ICT実習」「人工知能プログラミング実習」「メディアコンテンツ実習」「マップデザイン実習」「ファシリテーション実習」の5科目を配置して、「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」を育成する。これにより、学生が卒業直後の進路のみを意識するのではなく、職業経験や社会経験を経た後の将来像を見据えた総合的な教育を展開することができる。

最後に、総合科目に「専門演習」を設置するが、本演習は、これまでに学んだ全科目及び、本演習と同時に学んでいる全科目との学修成果を、学生自身で総括する目的を持ち、学生は、「観光地研究」という統一テーマについて、担当教員による指導の下で、他の学生と協力しながら調査研究を行う。この演習のフィールドワークやワークショップを通して、観光振興専門職にとって不可欠となる新たな課題を自ら発見する力、その課題を主体的に学ぶ力、課題に協働で取り組む力、課題を解決する力を身に付けるものである。

- ③ よって、学生募集の主なターゲットとするのは専門学校進学希望者ではなく、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者である。高校生に対するアンケート調査によれば、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者 4,881 人 (56.4%) に対し、「専門学校」進学希望者は 2,323 人 (26.9%) となっており、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者が「専門学校」進学希望者の2倍以上であることが分かる。また、令和元年度の学校基本調査によれば、高等学校卒業後の進路状況では、大学・短期大学進学者が 578,769 人 (54.8%)、専門学校進学者が 172,376 人 (16.3%) となっている。これらのことから、学生募集の主なターゲットの分母となる人数が明らかに異なることが分かる。
- ④ 専門学校がこれまで「専門学校」進学希望者をターゲットとして学生募集を行ってきたため、定員の6割程度の充足率であったが、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者をターゲットとするため、その分母が2倍以上になることから、それに比例して本学への進学希望者が増えるものと思慮され、定員充足を見通すことができると考えている。

### 3. <中長期的な学生確保の見通し>

18歳人口の減少や全国の短期大学への進学率が低下するなど、専門職短期大学にとって厳しい状況にあることは認識しているが、それらを払拭するために以下のような観点から分析を行い、本学の中長期的な学生確保の見通しを立てている。

#### ①世界的な観光の隆盛とその持続性

世界の観光客数は、第二次大戦の戦禍から経済復興を遂げた先進諸国において昭和40(1965)年代に激増し始め、さらに平成7(1995)年頃以降には中進諸国からも急増して、現在に至るまで世界全体ではほぼ右肩上がりに増大した。国連世界観光機関の統計によれば、先進国に大衆観光が出現した昭和35(1960)年に年間7000万人であった国際観光客到着数は、平成29(2017)年には13億2,600万人(前年比7%増)となり、2030年には18億人に達すると予測されている。さらに、国際観光収入総額は1兆3,400億米ドル(前年比5%増)となった。観光は、今や地球規模の巨大な社会現象であり、観光の経済的規模は、2017年に世界全体のGDP総額(79兆8000億米ドル)の10.4%(8兆3,000億米ドル)を占め、3億1,300万件の雇用(全雇用の9.9%)を生み出している。

こうして、観光は、「21世紀の基幹産業」であると評価されるが、同時に、世界中で観光地の社会、文化、環境等に多大な負の影響を及ぼすと批判もされた。そのような観光の負の影響にも拘わらず、観光客の「爆発的な増大」という事実から明白なように、観光は世界中の誰もが望む余暇活動であり、すべての人々が享受すべき「人権」である、と国際的に認識されている。

そこで、観光地に弊害をもたらす従来の観光に代わる新たな観光形態が、昭和50（1975）年代以降に国連世界観光機関等の観光関係機関によって模索され、実践され始めた。持続可能な観光とは、観光地に負の効果を与えず、むしろ観光を通して、観光地の自然・生態系を保護したり、文化を継承・創造したりする観光形態であり、それによって、観光地の持続可能性を実現すると同時に、観光それ自体の持続可能性をも具現する観光形態である。このような、現代観光の隆盛という地球規模の社会背景において、観光による地域創生や観光まちづくりの観点から観光振興と地域社会の発展を実現することができる人材を速やかに育成することが、我が国の観光にとっても喫緊の課題となっていると同時に、そのような人材の需要は中長期的に安定したものとなると分析している。

## ②我が国における観光振興の現状と政府の施策

我が国のインバウンドが平成15（2003）年の観光立国宣言を契機に増大し始め、宣言時に521万人であった訪日観光客到着数が、特に平成24（2012）年以降に急増して、平成30（2018）年には過去最高の3,119万人となった。

また、平成28（2016）年3月30日に明日の日本を支える観光ビジョン構想会議が報告した「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたい日本へ―」によれば、訪日外国人旅行者数の目標を、2020年には4,000万人、2030年には6,000万人としている。さらに、訪日外国人旅行消費額の目標を、2020年には8兆円、2030年には15兆円。地方部での外国人延べ宿泊者数の目標を2020年には7,000万人泊、2030年には1億3,000万人泊としている。さらに、国を挙げて、観光を我が国の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」という新たな挑戦に踏み切る覚悟を示して、観光先進国への「3つの視点」と「10の改革」を掲げた。その後、政府は着実に改革を推進している。

このように「観光」は我が国の経済を支える主要な産業であり、「観光」を抜きにしては、我が国の発展は考えられないといってもおかしくない状況にあり、「観光」を支える中核的人材の需要は中長期的に安定したものとなると分析している。

## ③大学における社会系学部の定員充足率

日本私立学校振興・共済事業団「平成31（2019）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」によると、本学に関連する「観光ビジネス」、「観光」、「地域創造」、「地域創生」といった大学における学部系統区分は、「社会科学系」に包含されている。「社会科学系」は、「経済学部、経営学部、法学部、商学部、社会学部、社会福祉学部、総合政策学部、人間社会学部、現代社会学部、経営情報学部、情報学部、経済経営学部、現代ビジネス学部、観光学部、政治経済学部、総合経営学部、国際経営学部、総合福祉学部、国際観光学部、経営経済学部、環境情報学部、人間福祉学部、その他」の23の学部系統に細分化されている。

「社会科学系」では、「過去5カ年における学部系統別の入学定員充足率」が掲載されているが、

その各年の定員充足率は、平成27年度104.92%、平成28年度105.61%、平成29年度106.93%、平成30年度104.51%、平成31年度103.51%であり、いずれも定員を充足している。また、志願倍率は、平成27年度7.16倍、平成28年度7.66倍、平成29年度8.46倍、平成30年度9.21倍、平成31年度9.85倍と右肩上がりの上昇を示している。

細分化された学部系統の中で、明確に「観光」を学部名に冠している学部は、「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部である。「観光学部」6学部の定員充足率は、平成30年度96.41%、平成31年度105.24%と、8.83ポイントの増加となっている。国際観光学部3学部の定員充足率は、平成30年度106.55%、平成31年度107.69%と1.14ポイントの増加となっている。観光学部と国際観光学部の平成31年度の定員充足率は、「社会科学系」の103.51%を2~4ポイント上回っている。また、志願倍率は、「観光学部」6学部で平成30年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,501名の9.2倍、平成31年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,197名の8.9倍で若干減少したものの高い志願倍率を維持している。「国際観光学部」3学部で平成30年度入学定員611名に対して、志願者が6,793名の11.1倍、平成31年度入学定員611名に対して、志願者が7,769名の12.7倍と上昇しつつ、高い志願倍率となっている。このように「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部は、「社会科学系」の人気を支える一つの要因になっていると思われる。**(資料3 観光系学部の志願者・入学者動向)**

本学は3年制の専門職短期大学であり、大学におけるこれらのデータを直接に材料として説明することはできないが、本学の教育内容は「観光理論」においては、四年制大学の観光学部とそん色ない内容（学術系専任教員は現職の四年制大学の教員4名（うち3名が博士号取得者）と3月に北海道大学大学院を修了し博士の学位を取得することが内定している1名から構成されている。）とするよう努めていることから、卒業単位数や学位においては四年制大学との違いがあるものの、この点を重点的に高校生や保護者に説明するとともに、就職においては企業の採用担当者に四年制大学と同等なものと考えてもらうよう説明することによって、四年制大学の「社会科学系」のデータを援用することができるのではないかと分析している。

#### ④高校生に対するアンケート調査

学生の確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類のとおり、本学が株式会社日本ドリコムに委託して実施した受容性調査【高校生】においては、中国・四国地域の高校2年生の「大学・短大等進学希望者」で回答のあった6,162人のうち、本学に「入学したい」と回答した者が260人（4.2%）いた。その回答者数は、本学の入学定員80人の3倍以上であった。

これにより、開学当初の学生確保の見通しを立てることができると考えているが、これを持続させ、中長期的な見通しを立てるためには、「学生確保→教育・研究の充実→産学連携・地域連携による支援体制の構築→安定した就職状況→学生確保」という好循環を生み出し、持続させることが必要であると分析している。

#### ⑤現状の大学教育において、斬新で異彩を放つ存在となるための創意工夫

本学が大学とも異なり、短期大学や専門学校とは次元を異にする教育を提供すること及びそれらを丁寧に説明して、現状の大学教育において、斬新で異彩を放つ存在として確立することにより、中長期的な学生確保の見通しが立てられるものと分析している。

#### ⑥産学連携・地域連携を通じた本学へ支援体制の構築

我が国と瀬戸内地域における観光と観光産業の振興はすでに進展しているが、今後はこのような産学官が組織的・体系的に連携して実践する観光振興の実態を把握し、それらを整理・分析して人材の養成に活用・反映させるとともに、これらを基に産業界や香川県、高松市、地域社会と連携し、それらに貢献していく必要がある。具体的には、優秀な人材の供給はもちろんのこと、産業界や香川県、高松市、地域社会に対して必要な提案や提言等の支援を行っていく必要がある。このため、本学は「せとうち観光学研究所」を学内に設置し、産学連携・地域連携の拠点とする。同研究所は、瀬戸内を中心として、国際的視野から観光と観光産業の研究を推進し、その研究成果から観光振興や地域創生の様々な課題について、産業界や香川県、高松市、地域社会と一体となって、その解決に取り組む。

これらの産学連携・地域連携を通じて、本学の支援体制を構築していくことは、おのずと本学の認知度や信頼度の向上を図ることとなり、中長期的な学生確保の見通しを立てるうえで重要な要素であると分析している。

#### ⑦学生確保に向けた具体的取組への重点化

本学設置準備室においては、学生の確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類に記載したとおり、学生確保に向けた具体的取組を行っているが、2019年12月より、広報・学生募集担当者を1名増員し、合計3名体制で様々な取り組みを推進している。オープンキャンパスはもちろんのこと、高校訪問や会場型・高校内進学ガイダンス、広報媒体の活用を重点的に強化し、本学及び本学の教育課程の特色等に対する認知度及び信頼度の向上に努力している。

香川県の人口は、令和元年度の香川県人口移動調査結果によると、6,031人減少して、平成12年度から20年連続の減少となった。その内訳は自然増減が△5,492人、社会増減が△539人である。社会増減には、県内における転入転出を含むため、これを県外移動のみに限定すると△774人となっている。これらの転出先としては、東京都を中心とする首都圏及び大阪府を中心とする関西圏に集中していることが分かる。

また、香川県の年齢別人口構成は、男女とも第1次ベビーブーム世代が（70～72歳あたり）が最も多く、次いで第2次ベビーブーム世代（45～48歳あたり）が多くなっており、二つの階級を中心としたふくらみを持つ「ひょうたん型」の形態となっているが、特に県外への就学・就職が多い20歳代は少なくなっている。（資料4 香川県人口移動（令和元年度分）の概要（抄））

このことから、県外への就学・就職が多い20歳代が首都圏や関西圏に多く流出していることが分かるが、これには香川県内に大学及び短期大学が少ないことも影響しており、本学の設置によりこれらの人口流出減少に歯止めをかける一助となるものと思われる。

本学は、これまでに述べた学生確保に向けた具体的取組の重点化により、若年層を県内に留めるよう尽力し、同時に学生確保の見通しを立てていきたいと考えている。

#### 4. <人材需要の動向に関する企業へのアンケート調査の分析について>

##### ①審査意見を踏まえた、追加調査の実施

調査対象が200件では、収容定員240名に比して、少ないのではないかとの審査意見を踏まえ、追加の人材需要の動向に関する企業へのアンケート調査を、下記の文書を送付し、回答を求めることにより、500件の追加調査を実施した。

##### 【送付文書】

学校法人穴吹学園 せとうち観光専門職短期大学（仮称）  
人材ニーズ調査ご協力をお願い

拝啓時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より本学園の学校運営にあたりまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、学校教育法の一部が改定され、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関として、「専門職大学」「専門職短期大学」が2019年4月より制度化されました。

それを受け本学園では、2021年4月、香川県高松市に「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科（仮称）」の設置を構想しております。

つきましては、その設置に向けた資料とさせていただくために、皆様のご意見や採用意向等をお伺いさせていただきたく、アンケート調査のご協力をお願いいたたく存じます。

このアンケート調査は無記名であり、皆様から頂いたご回答は、せとうち観光専門職短期大学（仮称）の設置認可申請に係る統計資料としてのみ使用いたします。

ご多用の折誠に恐縮ではございますが、下記のアンケート概要をご覧頂き、アンケート用紙にご記入の上、2月18日（火）までにFAXでご返信いただきたく存じます。

なお、本調査は株式会社日本ドリコムに委託して実施させていただくことをご了承の程、お願い申し上げます。

敬具

#### < アンケート概要 >

1. 同封書類 ・せとうち観光専門職短期大学（仮称）学校紹介リーフレット  
・アンケート用紙
2. 返送期日 令和2年2月18日（火）までに、アンケート用紙のみをFAXで  
ご返送ください。〔ご返送先FAX番号：(06)6399-0666〕
3. 実施要領 せとうち観光専門職短期大学（仮称）学校紹介リーフレットをご参照のう  
え、ご回答いただいたアンケート用紙をFAXでご返送ください。

##### 【本アンケート調査に関するお問い合わせ】

◇ 株式会社日本ドリコム 関西支社（担当：金）  
TEL：(06)6399-0888 FAX：(06)6399-0666

##### 【せとうち観光専門職短期大学（仮称）の構想に関するお問い合わせ】

◇ せとうち観光専門職短期大学（仮称）設置準備室（担当：木村）  
TEL：(087)899-7011

せとうち観光専門職短期大学（仮称）Webサイト：<http://www.seto.ac.jp/>

【調査対象】 鉄道会社、バス会社、ホテル・旅館、旅行代理店、観光協会等 500社

【調査票】

**せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科（3年制/仮称・設置認可申請中）  
設置構想についての企業・団体様向けアンケート調査**

お手数ですが、ご回答後、下記までFAXでお送りください。

**FAX送信先：06-6399-0666**（株式会社日本ドリコム 関西支社 担当：金）

**選択肢がある場合は、該当する番号に○をつけてください。**

はじめに貴社・貴機関・貴団体についてお訊ねします。

Q1.業種をお答えください。(複数回答可)

- |               |               |                 |            |
|---------------|---------------|-----------------|------------|
| 1. 宿泊業        | 2. 旅行代理店      | 3. 旅客輸送サービス業    | 4. 鉄道業     |
| 5. バス・観光バス関連業 | 6. イベント企画・運営業 | 7. 観光関連団体・NPO法人 | 8. 卸売業・小売業 |
| 9. 放送業        | 10. 印刷・広告業    | 11. 不動産業        | 12. その他( ) |

Q2.現在の人材の過不足状況をお答えください。

- |          |       |       |       |          |
|----------|-------|-------|-------|----------|
| 1. 非常に不足 | 2. 不足 | 3. 適正 | 4. 過剰 | 5. 非常に過剰 |
|----------|-------|-------|-------|----------|

以降の質問は、同封のせとうち観光専門職短期大学(仮称、以下本学という)のリーフレットをご覧ください。

Q3. 本学の観光振興学科(仮称)が養成する人材の社会的ニーズは高いと思いますか。

- |          |           |         |              |
|----------|-----------|---------|--------------|
| 1. 極めて高い | 2. ある程度高い | 3. 高くない | 4. どちらともいえない |
|----------|-----------|---------|--------------|

Q4. 本学の観光振興学科(仮称)が養成する人材の、貴事業所での採用意向についてお答えください。

- |          |             |              |          |
|----------|-------------|--------------|----------|
| 1. 採用したい | 2. 採用を検討したい | 3. どちらとも言えない | 4. 採用しない |
|----------|-------------|--------------|----------|

Q5. Q4で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選んだ方は、現時点で想定いただける採用人数をご記入ください。

\_\_\_\_\_名

Q6. 本学にご意見やご要望等ございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートのご協力、誠にありがとうございました。

②追加調査を踏まえた分析

今回、追加で調査票を送付または持参した団体・企業のうち、83社からの回答があり、当初の調査と合計で、700社へのアンケート調査に対し261社（回答率37.3%）から回答が得られた。追加調査の回答率が下がったことについては、調査期間が短かったことや関西地方等調査範囲を広げてアンケート調査を実施したことによるものと分析している。

この結果、本学が養成する人材の社会的ニーズは、極めて高いが61件（24.0%）、ある程度高いが150件（59.1%）となり、合計211件（83.1%）が本学の養成する人材の社会的ニーズは高いと判断していることが分かる。

本学の観光振興学科（仮称）が養成する人材の社会的ニーズは高いと思いますか。（〇は1つ）	件数	%
全 体	254	100.0
極めて高い	61	24.0
ある程度高い	150	59.1
どちらともいえない	36	14.2
高くない	7	2.8

また、本学が養成する人材の採用意向については、48件（18.6%）が採用したい、88件（34.1%）が採用を検討したいとなり、136件（52.7%）が本学の養成する人材に採用意向を示している。

本学の観光振興学科（仮称）」が養成する人材の、貴事業所での採用意向についてお答えください。（〇は1つ）	件数	%
全 体	258	100.0
採用したい	48	18.6
採用を検討したい	88	34.1
どちらともいえない	101	39.1
採用しない	21	8.1

このように、有効回答 261 件のうち、本学の卒業生を「採用したい」「採用を検討したい」と回答したのは136件であり、各社・団体の採用想定人数から学科全体の最低採用想定人数（見込み）を算出すると309名以上となり、本学の卒業生に対する企業の人材ニーズは高いと分析している。

採用意向あり（社・団体数）	136 件
---------------	-------



観光振興学科（仮称）	
採用想定人数 1名以上（社・団体数）	無回答
125 件	11 件



想定人数	回答件数（社・団体数）
1 名	50 件
2 名	39 件
3 名	15 件
4 名	4 件
5 名	10 件
10 名	7 件



※回答のない想定人数は掲載していない。

最低採用想定人数	309 名
----------	-------



#### 5. <学生確保の見通し等を記載した書類の補正について>

上記2～4の分析を踏まえ、学生確保の見通しを記載した書類2ページ、4ページ及び17ページを以下のとおり補正する。

(学生確保の見通し等を記載した書類2ページ)

細分化された学部系統の中で、明確に「観光」を学部名に冠している学部は、「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部である。「観光学部」6学部の定員充足率は、平成30年度96.41%、平成31年度105.24%と、8.83ポイントの増加となっている。国際観光学部3学部の定員充足率は、平成30年度106.55%、平成31年度107.69%と1.14ポイントの増加となっている。観光学部と国際観光学部の平成31年度の定員充足率は、「社会科学系」の103.51%を2～4ポイント上回っている。また、志願倍率は、「観光学部」6学部で平成30年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,501名の9.2倍、平成31年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,197名の8.9倍で若干減少したものの高い志願倍率を維持している。「国際観光学部」3学部で平成30年度入学定員611名に対して、志願者が6,793名の11.1倍、平成31年度入学定員611名に対して、志願者が7,769名の12.7倍と上昇しつつ、高い志願倍率となっている。このように「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部は、「社会科学系」の人気を支える一つの要因になっていると思われる。

(学生確保の見通し等を記載した書類4ページ)

### 3) 既設の専門学校の動向

本学園の既設専門学校9校37学科は、定員未充足であるが、それらの定員未充足には、専修学校設置基準47条に規定する校舎面積を基に、当該校舎の収容可能な総定員を計算し、その範囲内で入学定員を1クラス40名以内で開設時に設定してきた経緯が影響している。そのような状況において、18歳人口の減少に伴い入学者が減少する中で、定員設定の見直しをしないまま、現在に至っていることが定員未充足の主な原因である。

このため、現在定員の見直しを進めており、専門学校全体で平成29年度は57.2%、平成30年度は57.5%、令和元年度は64.1%と徐々に改善している。また、既設専門学校の学科の定員充足率は全体的に低いが、経営状況は安定しており、日本私立学校振興・共済事業団が作成した「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体)」のA3に分類され、健全な財務状況を維持している。

2017年2月から3月にかけて、観光庁観光産業課が株式会社日経リサーチ社に委託して実施した「観光教育の現状ニーズ調査～専門学校編～」によると、観光に関連する学科・専攻・コースの出願倍率はどれくらいかとの質問に対して、回答した51校中、0.9倍未満の専門学校は35校あり、その平均は0.4倍であった。また、1倍以上の専門学校でも約9割が1倍～1.9倍に留まっていた。

また、専門学校に入学する理由として、希望の職種につけるからという理由が約6割を占め、カリキュラム等についての関心は高くない。専門学校における学生募集の主なターゲットは、対象となる高等学校等や入学希望者の思考において、進学校や大学進学希望者のそれとは異なるものと考えている。

さらに、既設専門学校の中で、穴吹ビジネスカレッジのホテル学科は、本学本学科の卒業生の主な進路としてホテルや旅館を想定し、「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ(宿泊クラス)」等の授業科目を配置することから、名称上相似しているが、両者が全く異なる教育機関であることは、「10 設置の趣旨等を記載した書類」の「1-13 既設の専門学校とのカリキュラム上の相違(28ページ)」で見たように、養成する人材像

や教育課程、授業科目の内容等において明白である。

既設専門学校のホテル学科の定員 20 人の充足率は、平成 29 (2017) 年度に 55%、平成 30 (2018) 年度に 42.5%、令和元 (2019) 年度に 31.4%と低かった。志願者の多いホテル系の専門学校が、主としてホテル系単科である事例が多いのに対して、既設専門学校のホテル学科は、穴吹ビジネスカレッジ 7 学科中の 1 学科であり、現在、他の 6 学科の構成は、ブライダル学科、企業ビジネス学科、公務員ビジネス学科、公務員学科、国際ビジネス学科、海外ビジネス学科となっている。つまり『ビジネス』という広い概念の中に、相互の関連性の薄い学科が併存する中で、『ホテル学科』という名称が隠れて存在感が薄れてしまったこと、また、それにより、生徒及び保護者に、教育内容や教育環境が十分に評価されず、訴求力のある募集活動に繋がらなかったものと考えている。ただし、当該ホテル学科の就職率は、平成 29 (2017) 年度と 30 (2018) 年度の両年とも 100%であり、当該学科の専門学校教育はその成果を十分に挙げている。

一方で、本学が提供する教育は、専門学校の教育と全く異なるコンセプトを有している。本学の教育課程は専門職短期大学設置基準に従い、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目から構成している。まず、基礎科目において、観光学の理論を学ぶための基礎となる「地理学」と「文化論」を必修科目として開設するとともに、選択科目には、「企業の社会的責任」「法と社会」「災害と防災の科学」「信仰の歴史」「異文化理解」「ビジネスコミュニケーション」を配置し、大学教育において重要な「思考力」を涵養するとともに、職業専門科目における観光学の理論を学修する基礎を築いている。また、観光振興においては、高齢者や障がい者への適切な対応が重要となってくるため、その基礎的な知識と技能を学修するため「介助実務実習」を必修科目として配置している。

次に、職業専門科目においては「観光の理論と知識」を学修する学術科目と「観光実務の知識と技能」を学修する実務科目のバランスを考慮し、学術科目では「観光学概論」を起点として、「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」の観光基礎理論を学修する科目を配置し、それらが「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」「観光データ整理実習」「エコツーリズム実習」の観光応用理論を学修する科目に繋がっていくように配置している。一方で地域の観光についても学修するため、「地域資源論」「地域観光基礎実習」の地域観光論基礎科目を配置し、それらが「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」のせとうち観光研究科目群に繋がっていくように配置している。この 2 つの系統は相互に関連しており、これにより系統的かつ複合的な学びを担保している。

このように観光の理論を体系的に学びつつ、瀬戸内や四国の観光事業の成果や成功事例を教材にした学修と研究が可能であり、これにより、理論に裏付けられた実務を学修するために必要な観光学の理論の幅を広げ、かつ深化させるものとなっている。

一方の実務科目では、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」「観光事業論」という観光実務理論や観光事業理論を必修科目として学修した後、「ホスピタリティ実務実習 A・B」を学内実習として学修し、「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」及び「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」により、それぞれ目的が異なり、多彩な実習施設における臨地実務実習が展開される。それぞれの臨地実務実習には事前学修として関連する実務の内容や留意点を講義にて学修する「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」と、事後学修として実習後の振り返りや知識・技能

の定着と展開やマネジメント能力の強化を図るための「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を必修科目として配置するとともに、実務科目の締めくくりとして、「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置しており、「観光実務の知識と技能」が系統的に学修できるという特色がある。本学はクォーター制を採用しており、臨地実務実習科目の前後のクォーターにおいては、先に述べた「観光の理論と知識」を学修し、相乗効果が発揮されるよう授業科目を配列している。

展開科目においては、①企業やNPO法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）、②事業イノベーションを生み出すための情報力や創造力（情報力・創造力）の育成を目的として、経営関係科目と情報関係科目を中心に配置する。講義科目では、「経営学」「マーケティング論」「コミュニティデザイン論」「中小企業論」「起業論」「ICTとIoT」「人工知能概論」の7科目を配置している。また、実習科目では、「ICT実習」「人工知能プログラミング実習」「メディアコンテンツ実習」「マップデザイン実習」「ファシリテーション実習」の5科目を配置して、「事業イノベーションや地域社会の魅力を生み出すことができる応用的能力」を育成する。これにより、学生が卒業直後の進路のみを意識するのではなく、職業経験や社会経験を経た後の将来像を見据えた総合的な教育を展開することができる。

最後に、総合科目に「専門演習」を設置するが、本演習は、これまでに学んだ全科目及び、本演習と同時に学んでいる全科目との学修成果を、学生自身で総括する目的を持ち、学生は、「観光地研究」という統一テーマについて、担当教員による指導の下で、他の学生と協力しながら調査研究を行う。この演習のフィールドワークやワークショップを通して、観光振興専門職にとって不可欠となる新たな課題を自ら発見する力、その課題を主体的に学ぶ力、課題に協働で取り組む力、課題を解決する力を身に付けるものである。

よって、学生募集の主なターゲットとするのは専門学校進学希望者ではなく、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者である。高校生に対するアンケート調査によれば、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者 4,881人（56.4%）に対し、「専門学校」進学希望者は2,323人（26.9%）となっており、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者が「専門学校」進学希望者の2倍以上であることが分かる。また、令和元年度の学校基本調査によれば、高等学校卒業後の進路状況では、大学・短期大学進学者が578,769人（54.8%）、専門学校進学者が172,376人（16.3%）となっている。これらのことから、学生募集の主なターゲットの分母となる人数が明らかに異なることが分かる。

専門学校がこれまで「専門学校」進学希望者をターゲットとして学生募集を行ってきたため、定員の6割程度の充足率であったが、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者をターゲットとするため、その分母が2倍以上になることから、それに比例して本学への進学希望者が増えるものと思慮され、定員充足を見通すことができると考えている。

（学生確保の見通しを記載した書類 17 ページ）

### **(3) 中長期的な学生確保の見通し**

18歳人口の減少や全国の短期大学への進学率が低下するなど、専門職短期大学にとって厳しい状況にあることは認識しているが、それらを払拭するために以下のような観点から分析を行い、本学の中長

期的な学生確保の見通しを立てている。

### ①世界的な観光の隆盛とその持続性

世界の観光客数は、第二次大戦の戦禍から経済復興を遂げた先進諸国において昭和 40（1965）年代に激増し始め、さらに平成 7（1995）年頃以降には中進諸国からも急増して、現在に至るまで世界全体でほぼ右肩上がりに増大した。国連世界観光機関の統計によれば、先進国に大衆観光が出現した昭和 35（1960）年に年間 7000 万人であった国際観光客到着数は、平成 29（2017）年には 13 億 2,600 万人（前年比 7%増）となり、2030 年には 18 億人に達すると予測されている。さらに、国際観光収入総額は 1 兆 3,400 億米ドル（前年比 5%増）となった。観光は、今や地球規模の巨大な社会現象であり、観光の経済的規模は、2017 年に世界全体の GDP 総額（79 兆 8000 億米ドル）の 10.4%（8 兆 3,000 億米ドル）を占め、3 億 1,300 万件の雇用（全雇用の 9.9%）を生み出している。こうして、観光は、「21 世紀の基幹産業」であると評価されるが、同時に、世界中で観光地の社会、文化、環境等に多大な負の影響を及ぼすと批判もされた。そのような観光の負の影響にも拘わらず、観光客の「爆発的な増大」という事実から明白なように、観光は世界中の誰もが望む余暇活動であり、すべての人々が享受すべき「人権」である、と国際的に認識されている。

そこで、観光地に弊害をもたらす従来の観光に代わる新たな観光形態が、昭和 50（1975）年代以降に国連世界観光機関等の観光関係機関によって模索され、実践され始めた。持続可能な観光とは、観光地に負の効果を与えず、むしろ観光を通して、観光地の自然・生態系を保護したり、文化を継承・創造したりする観光形態であり、それによって、観光地の持続可能性を実現すると同時に、観光それ自体の持続可能性をも具現する観光形態である。このような、現代観光の隆盛という地球規模の社会背景において、観光による地域創生や観光まちづくりの観点から観光振興と地域社会の発展を実現することができる人材を速やかに育成することが、我が国の観光にとっても喫緊の課題となっていると同時に、そのような人材の需要は中長期的に安定したものとなると分析している。

### ②我が国における観光振興の現状と政府の施策

我が国のインバウンドが平成 15（2003）年の観光立国宣言を契機に増大し始め、宣言時に 521 万人であった訪日観光客到着数が、特に平成 24（2012）年以降に急増して、平成 30（2018）年には過去最高の 3,119 万人となった。

また、平成 28（2016）年 3 月 30 日に明日の日本を支える観光ビジョン構想会議が報告した「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたい日本へ―」によれば、訪日外国人旅行者数の目標を、2020 年には 4,000 万人、2030 年には 6,000 万人としている。さらに、訪日外国人旅行消費額の目標を、2020 年には 8 兆円、2030 年には 15 兆円。地方部での外国人延べ宿泊者数の目標を 2020 年には 7,000 万人泊、2030 年には 1 億 3,000 万人泊としている。さらに、国を挙げて、観光を我が国の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」という新たな挑戦に踏み切る覚悟を示して、観光先進国への「3つの視点」と「10の改革」を掲げた。その後、政府は着実に改革を推進している。

このように「観光」は我が国の経済を支える主要な産業であり、「観光」を抜きにしては、我が国の発展は考えられないといってもおかしくない状況にあり、「観光」を支える中核的人材の需要は中長期的に安定したものとなると分析している。

### ③大学における社会系学部の定員充足率

日本私立学校振興・共済事業団「平成31（2019）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」によると、本学に関連する「観光ビジネス」、「観光」、「地域創造」、「地域創生」といった大学における学部系統区分は、「社会科学系」に包含されている。「社会科学系」は、「経済学部、経営学部、法学部、商学部、社会学部、社会福祉学部、総合政策学部、人間社会学部、現代社会学部、経営情報学部、情報学部、経済経営学部、現代ビジネス学部、観光学部、政治経済学部、総合経営学部、国際経営学部、総合福祉学部、国際観光学部、経営経済学部、環境情報学部、人間福祉学部、その他」の23の学部系統に細分化されている。

「社会科学系」では、「過去5カ年における学部系統別の入学定員充足率」が掲載されているが、その各年の定員充足率は、平成27年度104.92%、平成28年度105.61%、平成29年度106.93%、平成30年度104.51%、平成31年度103.51%であり、いずれも定員を充足している。また、志願倍率は、平成27年度7.16倍、平成28年度7.66倍、平成29年度8.46倍、平成30年度9.21倍、平成31年度9.85倍と右肩上がりの上昇を示している。

細分化された学部系統の中で、明確に「観光」を学部名に冠している学部は、「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部である。「観光学部」6学部の定員充足率は、平成30年度96.41%、平成31年度105.24%と、8.83ポイントの増加となっている。国際観光学部3学部の定員充足率は、平成30年度106.55%、平成31年度107.69%と1.14ポイントの増加となっている。観光学部と国際観光学部の平成31年度の定員充足率は、「社会科学系」の103.51%を2~4ポイント上回っている。また、志願倍率は、「観光学部」6学部で平成30年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,501名の9.2倍、平成31年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,197名の8.9倍で若干減少したものの高い志願倍率を維持している。「国際観光学部」3学部で平成30年度入学定員611名に対して、志願者が6,793名の11.1倍、平成31年度入学定員611名に対して、志願者が7,769名の12.7倍と上昇しつつ、高い志願倍率となっている。このように「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部は、「社会科学系」の人気を支える一つの要因になっていると思われる。

本学は3年制の専門職短期大学であり、大学におけるこれらのデータを直接に材料として説明することはできないが、本学の教育内容は「観光理論」においては、四年制大学の観光学部とそん色ない内容（学術系専任教員は現職の四年制大学の教員4名（うち3名が博士号取得者）と3月に北海道大学大学院を修了し博士の学位を取得することが内定している1名から構成されている。）とするよう努めていることから、卒業単位数や学位においては四年制大学との違いがあるものの、この点を重点的に高校生や保護者に説明するとともに、就職においては企業の採用担当者に四年制大学と同等なものと考えてもらうよう説明することによって、四年制大学の「社会科学系」のデータを援用することができるのではないかと分析している。

### ④高校生に対するアンケート調査

学生の確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類のとおり、本学が株式会社日本ドリコムに委託して実施した受容性調査【高校生】においては、中国・四国地域の高校2年生の「大学・短大等進学希望者」で回答のあった6,162人のうち、本学に「入学したい」と回答した者が260人（4.2%）いた。その回答者数は、本学の入学定員80人の3倍以上であった。

これにより、開学当初の学生確保の見通しを立てることができると考えているが、これを持続させ、中長期的な見通しを立てるためには、「学生確保→教育・研究の充実→産学連携・地域連携による支援体制の構築→安定した就職状況→学生確保」という好循環を生み出し、持続させることが必要であると分析している。

#### ⑤現状の大学教育において、斬新で異彩を放つ存在となるための創意工夫

本学が大学とも異なり、短期大学や専門学校とは次元を異にする教育を提供すること及びそれらを丁寧  
に説明して、現状の大学教育において、斬新で異彩を放つ存在として確立することにより、中長期的な学生確保の見通しが立てられるものと分析している。

#### ⑥産学連携・地域連携を通じた本学へ支援体制の構築

我が国と瀬戸内地域における観光と観光産業の振興はすでに進展しているが、今後はこのような産学官が組織的・体系的に連携して実践する観光振興の実態を把握し、それらを整理・分析して人材の養成に活用・反映させるとともに、これらを基に産業界や香川県、高松市、地域社会と連携し、それらに貢献していく必要がある。具体的には、優秀な人材の供給はもちろんのこと、産業界や香川県、高松市、地域社会に対して必要な提案や提言等の支援を行っていく必要がある。このため、本学は「せとうち観光学研究所」を学内に設置し、産学連携・地域連携の拠点とする。同研究所は、瀬戸内を中心として、国際的視野から観光と観光産業の研究を推進し、その研究成果から観光振興や地域創生の様々な課題について、産業界や香川県、高松市、地域社会と一体となって、その解決に取り組む。

これらの産学連携・地域連携を通じて、本学の支援体制を構築していくことは、おのずと本学の認知度や信頼度の向上を図ることとなり、中長期的な学生確保の見通しを立てるうえで重要な要素であると分析している。

#### ⑦学生確保に向けた具体的取組への重点化

本学設置準備室においては、学生の確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類に記載したとおり、学生確保に向けた具体的取組を行っているが、2019年12月より、広報・学生募集担当者を1名増員し、合計3名体制で様々な取り組みを推進している。オープンキャンパスはもちろんのこと、高校訪問や会場型・高校内進学ガイダンス、広報媒体の活用を重点的に強化し、本学及び本学の教育課程の特色等に対する認知度及び信頼度の向上に努力している。

香川県の人口は、令和元年度の香川県人口移動調査結果によると、6,031人減少して、平成12年度から20年連続の減少となった。その内訳は自然増減が△5,492人、社会増減が△539人である。社会増減には、県内における転入転出を含むため、これを県外移動のみに限定すると△774人となっている。

これらの転出先としては、東京都を中心とする首都圏及び大阪府を中心とする関西圏に集中していることが分かる。

また、香川県の年齢別人口構成は、男女とも第1次ベビーブーム世代が(70～72歳あたり)が最も多く、次いで第2次ベビーブーム世代(45～48歳あたり)が多くなっており、二つの階級を中心としたふくらみを持つ「ひょうたん型」の形態となっているが、特に県外への就学・就職が多い20歳代は少なくなっている。

このことから、県外への就学・就職が多い20歳代が首都圏や関西圏に多く流出していることが分かるが、これには香川県内に大学及び短期大学が少ないことも影響しており、本学の設置によりこれらの人口流出減少に歯止めをかける一助となるものと思われる。

本学は、これまでに述べた学生確保に向けた具体的取組の重点化により、若年層を県内に留めるよう尽力し、同時に学生確保の見通しを立てていきたいと考えている。

(学生確保の見通しを記載した書類 17ページ)

### 3) 「観光振興専門職」を求める企業の人材需要

第三者機関に委託して実施したアンケート調査【企業】の結果によれば、本学が養成する「観光振興専門職」についての企業の人材ニーズは、全般的に高い。同調査【企業】の「本学が養成する人材」について、回答企業 254 社 の内、「ニーズは極めて高い」という回答が 61 社 (24.0%)、「ニーズはある程度高い」という回答が 150 社 (59.1%) であった。回答した 254 社中 211 社 (83.1%) が、本学の養成する人材のニーズは高いと評価している。

また、同調査【企業】では、「本学が養成する人材の採用意向」について、回答した 258 社中、136 社 (52.7%) が「本学が養成する人材の採用」に前向きである。回答企業 258 社中、「採用したい」48 社 (18.6%)、「採用を検討したい」88 社 (34.1%)、「どちらともいえない」101 社 (39.1%)、「採用しない」21 社 (8.1%) という回答結果であった。

このように、本学が養成する「観光振興専門職」について、企業がそのニーズを評価し、採用しようとする状況は、その社会的需要が拡大する現状を反映している。

### 4) 「資料 27 本学の観光振興専門職教育への企業のニーズ」及び「資料 28 本学が養成する人材の採用予定」に係るデータの概要

資料 27 及び資料 28 には、「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) 受容性調査結果報告書【企業】」のデータが用いられた。

この「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) 受容性調査【企業】」は、本学が委託した第三者機関の株式会社日本ドリコムによって、令和元 (2019) 年 8 月から 9 月及び追加調査として令和 2 (2020) 年 2 月に実施された。

同調査【企業】の目的は、本学本学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体に対して、本学の設置構想についての関心度やニーズ、採用状況等を質問し、その回答結果を設置構想の基礎資料とすることである。

本調査【企業】では、700 社 の団体を対象として、質問票が郵送ないしは持参で配布され、質問紙調査が留置法によって実施された。回収された質問紙は、261 件 (回収率 37.3%) である。

同調査【企業】では、回答社属性 (所在する都道府県、業種)、新卒採用・人材充足状況 (重視する能力、人材の過不足状況) 等の他に、本学観光振興学科が養成する人材について、「社会的ニーズ」、「採用意向」、「採用想定人数」、「本学への意見・要望」等が質問された。

「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) 受容性調査結果報告書【企業】」の概要は、以下のとおりである。(資料 29 受容性調査【企業】結果報告書 (2019 年 8 月～2019 年 9 月)) (資料 30 受容性調査【企業】結果報告書 (2020 年 2 月))

### ①調査目的

本調査は、学校法人穴吹学園 せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科（仮称）の設置構想に伴い、該当学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体へ本構想に対する関心度及び現在の採用状況を尋ね社会的ニーズを把握し、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。

### ②調査期間

2019年8月～2019年9月及び2020年2月

### ③調査対象・地域・方法

企業・団体 700社・団体を対象に郵送もしくは持参でアンケート調査を実施。

### ④回収状況

261件（回収率約37.3%）

（新旧対照表）学生確保の見通しを記載した書類（2ページ）

新	旧
<p>細分化された学部系統の中で、明確に「観光」を学部名に冠している学部は、「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部である。「観光学部」6学部の定員充足率は、平成30年度96.41%、平成31年度105.24%と、8.83ポイントの増加となっている。国際観光学部3学部の定員充足率は、平成30年度106.55%、平成31年度107.69%と1.14ポイントの増加となっている。観光学部と国際観光学部の平成31年度の定員充足率は、「社会科学系」の103.51%を2～4ポイント上回っている。また、<u>志願倍率は、「観光学部」6学部で平成30年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,501名の9.2倍、平成31年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,197名の8.9倍で若干減少したものの高い志願倍率を維持している。「国際観光学部」3学部で平成30年度入学定員611名に対して、志願者が6,793名の11.1倍、平成31年度入学定員611名に対して、志願者が7,769名の12.7倍と上昇しつつ、高い志願倍率となっている。このように「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部は、「社会科学系」の人気を支える一つの要因になっていると思われる。</u></p>	<p>細分化された学部系統の中で、明確に「観光」を学部名に冠している学部は、「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部である。「観光学部」6学部の定員充足率は、平成30年度96.41%、平成31年度105.24%と、8.83ポイントの増加となっている。国際観光学部3学部の定員充足率は、平成30年度106.55%、平成31年度107.69%と1.14ポイントの増加となっている。観光学部と国際観光学部の平成31年度の定員充足率は、「社会科学系」の103.51%を2～4ポイント上回っており、「社会科学系」の人気を支える一つの要因になっていると思われる。</p>



新	旧
<p><b>3) 既設の専門学校の動向</b></p> <p>本学園の既設専門学校9校37学科は、定員未充足であるが、それらの定員未充足には、専修学校設置基準47条に規定する校舎面積を基に、当該校舎の収容可能な総定員を計算し、その範囲内で入学定員を1クラス40名以内で開設時に設定してきた経緯が影響している。<u>そのような状況において、18歳人口の減少に伴い入学者が減少する中で、定員設定の見直しをしないまま、現在に至っていることが定員未充足の主な原因である。</u></p> <p><u>このため、現在定員の見直しを進めており、専門学校全体で平成29年度は57.2%、平成30年度は57.5%、令和元年度は64.1%と徐々に改善している。</u></p> <p><u>また、既設専門学校の学科の定員充足率は全体的に低い</u>が、経営状況は安定しており、日本私立学校振興・共済事業団が作成した「<u>定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体)</u>」のA3に分類され、健全な財務状況を維持している。</p> <p><u>2017年2月から3月にかけて、観光庁観光産業課が株式会社日経リサーチ社に委託して実施した「観光教育の現状ニーズ調査～専門学校編～」によると、観光に関連する学科・専攻・コースの出願倍率はどれくらいかとの質問に対して、回答した51校中、0.9倍未満の専門学校は35校あり、その平均は0.4倍であった。また、1倍以上の専門学校でも約9割が1倍～1.9倍に留まっていた。</u></p> <p><u>また、専門学校に入学する理由として、希望の職種につけるからという理由が約6割を占め、カリキュラム等についての関心は高くない。専門学校における学生募集の主なターゲットは、対象となる高等学校等や入学希望者の思考において、進学校や大学進学希望者のそれとは異なるものと考えている。</u></p> <p>さらに、既設専門学校の中で、穴吹ビジネスカレッジのホテル学科は、本学本学科の卒業生の主な進路としてホテルや旅館を想定し、「<u>臨地実務実</u></p>	<p><b>3) 既設の専門学校の動向</b></p> <p>本学園の既設専門学校9校37学科は、定員未充足であるが、それらの定員未充足は、専修学校設置基準47条に規定する校舎面積を基に、当該校舎の収容可能な総定員を計算し、その範囲内で入学定員を1クラス40名以内で開設時に設定してきた経緯による。</p> <p>18歳人口の減少に伴い入学者も減少する中で、定員未充足の原因は、地域の期待に応えるべく、18歳人口の減少に合わせて定員設定の見直しをしないまま、現在に至っていたことが原因である。既設専門学校の学科の定員充足率は全体に低いが、経営状況は安定している。</p> <p>なお、既設専門学校の9校37学科は、本学の開学予定を契機に再編成し、平成31年度入学生から定員設定について見直しを行い、改善を図っているところである。</p> <p>さらに、既設専門学校の中で、穴吹ビジネスカレッジのホテル学科は、本学本学科の卒業生の主な進路としてホテルや旅館を想定し、「<u>臨地実務実</u></p>

習Ⅱ・Ⅲ（宿泊クラス）」等の授業科目を配置することから、名称上相似しているが、両者が全く異なる教育機関であることは、「10 設置の趣旨等を記載した書類」の「1-13 既設の専門学校とのカリキュラム上の相違（28 ページ）」で見たように、養成する人材像や教育課程、授業科目の内容等において明白である。

既設専門学校のホテル学科の定員 20 人の充足率は、平成 29（2017）年度に 55%、平成 30（2018）年度に 42.5%、令和元（2019）年度に 31.4%と低かった。志願者の多いホテル系の専門学校が、主としてホテル系単科である事例が多いのに対して、既設専門学校のホテル学科は、穴吹ビジネスカレッジ 7 学科中の 1 学科であり、現在、他の 6 学科の構成は、ブライダル学科、企業ビジネス学科、公務員ビジネス学科、公務員学科、国際ビジネス学科、海外ビジネス学科となっている。つまり『ビジネス』という広い概念の中に、相互の関連性の薄い学科が併存する中で、『ホテル学科』という名称が隠れて存在感が薄れてしまったこと、また、それにより、生徒及び保護者に、教育内容や教育環境が十分に評価されず、訴求力のある募集活動に繋がらなかったものと考えている。ただし、当該ホテル学科の就職率は、平成 29（2017）年度と 30（2018）年度の両年とも 100%であり、当該学科の専門学校教育はその成果を十分に挙げている。

一方で、本学が提供する教育は、専門学校の教育と全く異なるコンセプトを有している。本学の教育課程は専門職短期大学設置基準に従い、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目から構成している。まず、基礎科目において、観光学の理論を学ぶための基礎となる「地理学」と「文化論」を必修科目として開設するとともに、選択科目には、「企業の社会的責任」「法と社会」「災害と防災の科学」「信仰の歴史」「異文化理解」「ビジネスコミュニケーション」を配置し、大学教育において重要な「思考力」を涵養するとともに、職業

習Ⅱ・Ⅲ（宿泊クラス）」等の授業科目を配置することから、名称上相似しているが、両者が全く異なる教育機関であることは、「10 設置の趣旨等を記載した書類」の「1-13 既設の専門学校とのカリキュラム上の相違（28 ページ）」で見たように、養成する人材像や教育課程、授業科目の内容等において明白である。

既設専門学校のホテル学科の定員 20 人の充足率は、平成 29（2017）年度に 55%、平成 30（2018）年度に 42.5%、令和元（2019）年度に 31.4%と低かった。志願者の多いホテル系の専門学校が、主としてホテル系単科である事例が多いのに対して、既設専門学校のホテル学科は、穴吹ビジネスカレッジ 7 学科中の 1 学科であり、現在、他の 6 学科の構成は、ブライダル学科、企業ビジネス学科、公務員ビジネス学科、公務員学科、国際ビジネス学科、海外ビジネス学科となっている。つまり『ビジネス』という広い概念の中に、相互の関連性の薄い学科が併存する中で、『ホテル学科』という名称が隠れて存在感が薄れてしまったこと、また、それにより、生徒及び保護者に、教育内容や教育環境が十分に評価されず、訴求力のある募集活動に繋がらなかったものと考えている。ただし、当該ホテル学科の就職率は、平成 29（2017）年度と 30（2018）年度の両年とも 100%であり、当該学科の専門学校教育はその成果を十分に挙げている。

これに対し本学本学科では、ホテルスタッフ以外にも職業選択の幅が広がるとともに、「せとうち観光専門職短期大学」及び「観光振興学科」という名称のもとに、『観光』という職業分野で、観光のエキスパートを養成することが大学名及び学科名称から分かりやすいことや養成する『観光振興専門職』という人材像を明確にした学生募集を展開できることから、高校生、保護者、進路指導教員等にも理解されやすく、教育内容や教育環境においての専門学校との違いについても理解を得やすい。このことから、専門学校のホテル学科のケ

専門科目における観光学の理論を学修する基礎を築いている。また、観光振興においては、高齢者や障がい者への適切な対応が重要となってくるため、その基礎的な知識と技能を学修するため「介助実務実習」を必修科目として配置している。

次に、職業専門科目においては「観光の理論と知識」を学修する学術科目と「観光実務の知識と技能」を学修する実務科目のバランスを考慮し、学術科目では「観光学概論」を起点として、「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」の観光基礎理論を学修する科目を配置し、それらが「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」「観光データ整理実習」「エコツーリズム実習」の観光応用理論を学修する科目に繋がっていくように配置している。一方で地域の観光についても学修するため、「地域資源論」「地域観光基礎実習」の地域観光論基礎科目を配置し、それらが「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」のせとうち観光研究科目群に繋がっていくように配置している。この2つの系統は相互に関連しており、これにより系統的かつ複合的な学びを担保している。

このように観光の理論を体系的に学びつつ、瀬戸内や四国の観光事業の成果や成功事例を教材にした学修と研究が可能であり、これにより、理論に裏付けられた実務を学修するために必要な観光学の理論の幅を広げ、かつ深化させるものとなっている。

一方の実務科目では、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」「観光事業論」という観光実務理論や観光事業理論を必修科目として学修した後、「ホスピタリティ実務実習A・B」を学内実習として学修し、「臨地実務実習I」「臨地実務実習II（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」及び「臨地実務実習III（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」により、それぞれ目的が異なり、

ースが、直ちに本学にも当てはまるものではないと考えている。

このように、既設専門学校の現況に対して、本学本学科は、観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材を養成する使命と責任を効果的にPRし、学生募集することによって、観光振興専門職を目指す進学志望者の本学への進学意欲を高めることができると考えている。

多彩な実習施設における臨地実務実習が展開される。それぞれの臨地実務実習には事前学修として関連する実務の内容や留意点を講義にて学修する「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」と、事後学修として実習後の振り返りや知識・技能の定着と展開やマネジメント能力の強化を図るための「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を必修科目として配置するとともに、実務科目の締めくくりとして、「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置しており、「観光実務の知識と技能」が系統的に学修できるという特色がある。本学はクォーター制を採用しており、臨地実務実習科目の前後のクォーターにおいては、先に述べた「観光の理論と知識」を学修し、相乗効果が発揮されるよう授業科目を配列している。

展開科目においては、①企業やNPO法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）、②事業イノベーションを生み出すための情報力や創造力（情報力・創造力）の育成を目的として、経営関係科目と情報関係科目を中心に配置する。講義科目では、「経営学」「マーケティング論」「コミュニティデザイン論」「中小企業論」「起業論」「ICTとIoT」「人工知能概論」の7科目を配置している。また、実習科目では、「ICT実習」「人工知能プログラミング実習」「メディアコンテンツ実習」「マップデザイン実習」「ファッション実習」の5科目を配置して、「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」を育成する。これにより、学生が卒業直後の進路のみを意識するのではなく、職業経験や社会経験を経た後の将来像を見据えた総合的な教育を展開することができる。

最後に、総合科目に「専門演習」を設置するが、本演習は、これまでに学んだ全科目及び、本演習と同時に学んでいる全科目との学修成果を、学生自身で総括する目的を持ち、学生は、「観光地研究」

<p>という統一テーマについて、担当教員による指導の下で、他の学生と協力しながら調査研究を行う。この演習のフィールドワークやワークショップを通して、観光振興専門職にとって不可欠となる新たな課題を自ら発見する力、その課題を主体的に学ぶ力、課題に協働で取り組む力、課題を解決する力を身に付けるものである。</p> <p>よって、学生募集の主なターゲットとするのは専門学校進学希望者ではなく、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者である。高校生に対するアンケート調査によれば、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者 4,881 人 (56.4%) に対し、「専門学校」進学希望者は 2,323 人 (26.9%) となっており、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者が「専門学校」進学希望者の 2 倍以上であることが分かる。また、令和元年度の学校基本調査によれば、高等学校卒業後の進路状況では、大学・短期大学進学者が 578,769 人 (54.8%)、専門学校進学者が 172,376 人 (16.3%) となっている。これらのことから、学生募集の主なターゲットの分母となる人数が明らかに異なることが分かる。</p> <p>専門学校がこれまで「専門学校」進学希望者をターゲットとして学生募集を行ってきたため、定員の 6 割程度の充足率であったが、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者をターゲットとするため、その分母が 2 倍以上になることから、それに比例して本学への進学希望者が増えるものと思慮され、定員充足を見通すことができると考えている。</p>	
--	--

(新旧対照表) 学生確保の見通しを記載した書類 (17ページ)

新	旧
<p><b>3) 「観光振興専門職」を求める企業の人材需要</b>            第三者機関に委託して実施したアンケート調査【企業】の結果によれば、本学が養成する「観光振興専門職」についての企業の人材ニーズは、全般的に高い。同調査【企業】の「本学が養成する</p>	<p><b>3) 「観光振興専門職」を求める企業の人材需要</b>            第三者機関に委託して実施したアンケート調査【企業】の結果によれば、本学が養成する「観光振興専門職」についての企業の人材ニーズは、全般的に高い。同調査【企業】の「本学が養成する</p>

<p>人材」について、回答企業 <u>254 社</u>の内、「ニーズは極めて高い」という回答が <u>61 社 (24.0%)</u>、「ニーズはある程度高い」という回答が <u>150 社 (59.1%)</u>であった。回答した <u>254 社中 211 社 (83.1%)</u>が、本学の養成する人材のニーズは高いと評価している。</p> <p>また、同調査【企業】では、「本学が養成する人材の採用意向」について、回答した <u>258 社中、136 社 (52.7%)</u>が「本学が養成する人材の採用」に前向きである。<u>回答企業 258 社中、「採用したい」48 社 (18.6%)</u>、「採用を検討したい」<u>88 社 (34.1%)</u>、「どちらともいえない」<u>101 社 (39.1%)</u>、「採用しない」<u>21 社 (8.1%)</u>という回答結果であった。</p> <p>このように、本学が養成する「観光振興専門職」について、企業がそのニーズを評価し、採用しようとする状況は、その社会的需要が拡大する現状を反映している。</p> <p><b>4) 「資料 27 本学の観光振興専門職教育への企業のニーズ」及び「資料 28 本学が養成する人材の採用予定」に係るデータの概要</b></p> <p>資料 27 及び資料 28 には、「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) 受容性調査結果報告書【企業】」のデータが用いられた。</p> <p>この「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) 受容性調査【企業】」は、本学が委託した第三者機関の株式会社日本ドリコムによって、令和元 (2019) 年 8 月から 9 月及び追加調査として令和 2(2020)年 2 月に実施された。</p> <p>同調査【企業】の目的は、本学本学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体に対して、本学の設置構想についての関心度やニーズ、採用状況等を質問し、その回答結果を設置構想の基礎資料とすることである。</p> <p>本調査【企業】では、<u>700 社</u>の団体を対象として、質問票が郵送ないしは持参で配布され、質問紙調査が留置法によって実施された。回収された質問紙は、<u>261 件 (回収率 37.3%)</u>である。</p> <p>同調査【企業】では、回答社属性 (所在する都</p>	<p>人材」について、回答企業 178 社の内、「ニーズは極めて高い」という回答が 47 社 (26.4%)、「ニーズはある程度高い」という回答が 102 社 (57.3%)であった。回答した 178 社中 149 社 (83.7%)が、本学の養成する人材のニーズは高いと評価している。</p> <p>また、同調査【企業】では、「本学が養成する人材の採用意向」について、回答した 180 社中、94 社 (52.2%)が「本学が養成する人材の採用」に前向きである。回答企業 180 社中、「採用したい」36 社 (20.0%)、「採用を検討したい」58 社 (32.2%)、「どちらともいえない」69 社 (38.3%)、「採用しない」17 社 (9.4%)という回答結果であった。</p> <p>このように、本学が養成する「観光振興専門職」について、企業がそのニーズを評価し、採用しようとする状況は、その社会的需要が拡大する現状を反映している。</p> <p><b>4) 「資料 26 本学の観光振興専門職教育への企業のニーズ」及び「資料 27 本学が養成する人材の採用予定」に係るデータの概要</b></p> <p>資料 26 及び資料 27 には、「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) 受容性調査結果報告書【企業】」のデータが用いられた。</p> <p>この「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) 受容性調査【企業】」は、本学が委託した第三者機関の株式会社日本ドリコムによって、令和元年 (2019) 年 8 月から 9 月にかけて実施された。</p> <p>同調査【企業】の目的は、本学本学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体に対して、本学の設置構想についての関心度やニーズ、採用状況等を質問し、その回答結果を設置構想の基礎資料とすることである。</p> <p>本調査【企業】では、200 社の団体を対象として、質問票が郵送ないしは持参で配布され、質問紙調査が留置法によって実施された。回収された質問紙は、182 件 (回収率 91.0%) である。</p> <p>同調査【企業】では、回答社属性 (所在する都</p>
--	--

<p>道府県、業種)、新卒採用・人材充足状況(重視する能力、人材の過不足状況)等の他に、本学観光振興学科が養成する人材について、「社会的ニーズ」、「採用意向」、「採用想定人数」、「本学への意見・要望」等が質問された。</p> <p>「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科(仮称)受容性調査結果報告書【企業】」の概要は、以下のとおりである。<b><u>(資料 29 受容性調査【企業】結果報告書(2019年8月～2019年9月)) (資料 30 受容性調査【企業】結果報告書(2020年2月))</u></b></p> <p>①調査目的</p> <p>本調査は、学校法人穴吹学園 せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科(仮称)の設置構想に伴い、該当学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体へ本構想に対する関心度及び現在の採用状況を尋ね社会的ニーズを把握し、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。</p> <p>②調査期間</p> <p>2019年8月～2019年9月及び2020年2月</p> <p>③調査対象・地域・方法</p> <p>企業・団体 700社・団体を対象に郵送もしくは持参でアンケート調査を実施。</p> <p>④回収状況</p> <p>261件(回収率約37.3%)</p> <p><b><u>(3) 中長期的な学生確保の見通し</u></b></p> <p><u>18歳人口の減少や全国の短期大学への進学率が低下するなど、専門職短期大学にとって厳しい状況にあることは認識しているが、それらを払拭するために以下のような観点から分析を行い、本学の中長期的な学生確保の見通しを立てている。</u></p> <p>①世界的な観光の隆盛とその持続性</p> <p>世界の観光客数は、第二次大戦の戦禍から経済</p>	<p>道府県、業種)、新卒採用・人材充足状況(重視する能力、人材の過不足状況)等の他に、本学観光振興学科が養成する人材について、「社会的ニーズ」、「採用意向」、「採用想定人数」、「本学への意見・要望」等が質問された。</p> <p>「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科(仮称)受容性調査結果報告書【企業】」の概要は、以下のとおりである。<b><u>(資料 28 受容性調査【企業】結果報告書)</u></b></p> <p>①調査目的</p> <p>本調査は、学校法人穴吹学園 せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科(仮称)の設置構想に伴い、該当学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体へ本構想に対する関心度及び現在の採用状況を尋ね社会的ニーズを把握し、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。</p> <p>②調査期間</p> <p>2019年8月～2019年9月</p> <p>③調査対象・地域・方法</p> <p>企業・団体 200社・団体を対象に郵送もしくは持参でアンケート調査を実施。</p> <p>④回収状況</p> <p>182件(回収率約91.0%)</p> <p>(新規)</p>
---	---

復興を遂げた先進諸国において昭和 40 (1965) 年代に激増し始め、さらに平成 7 (1995) 年頃以降には中進諸国からも急増して、現在に至るまで世界全体ではほぼ右肩上がりに増大した。国連世界観光機関の統計によれば、先進国に大衆観光が出現した昭和 35 (1960) 年に年間 7000 万人であった国際観光客到着数は、平成 29 (2017) 年には 13 億 2,600 万人 (前年比 7%増) となり、2030 年には 18 億人に達すると予測されている。さらに、国際観光収入総額は 1 兆 3,400 億米ドル (前年比 5%増) となった。観光は、今や地球規模の巨大な社会現象であり、観光の経済的規模は、2017 年に世界全体の GDP 総額 (79 兆 8000 億米ドル) の 10.4% (8 兆 3,000 億米ドル) を占め、3 億 1,300 万件の雇用 (全雇用の 9.9%) を生み出している。こうして、観光は、「21 世紀の基幹産業」であると評価されるが、同時に、世界中で観光地の社会、文化、環境等に多大な負の影響を及ぼすと批判もされた。そのような観光の負の影響にも拘わらず、観光客の「爆発的な増大」という事実から明白なように、観光は世界中の誰もが望む余暇活動であり、すべての人々が享受すべき「人権」であると国際的に認識されている。

そこで、観光地に弊害をもたらす従来の観光に代わる新たな観光形態が、昭和 50 (1975) 年代以降に国連世界観光機関等の観光関係機関によって模索され、実践され始めた。持続可能な観光とは、観光地に負の効果を与えず、むしろ観光を通して、観光地の自然・生態系を保護したり、文化を継承・創造したりする観光形態であり、それによって、観光地の持続可能性を実現すると同時に、観光それ自体の持続可能性をも具現する観光形態である。このような、現代観光の隆盛という地球規模の社会背景において、観光による地域創生や観光まちづくりの観点から観光振興と地域社会の発展を実現することができる人材を速やかに育成することが、我が国の観光にとっても喫緊の課題となっていると同時に、そのような人材の需要は中長



期的に安定したものとなると分析している。

### ②我が国における観光振興の現状と政府の施策

我が国のインバウンドが平成 15 (2003) 年の観光立国宣言を契機に増大し始め、宣言時に 521 万人であった訪日観光客到着数が、特に平成 24 (2012) 年以降に急増して、平成 30 (2018) 年には過去最高の 3,119 万人となった。

また、平成 28 (2016) 年 3 月 30 日に明日の日本を支える観光ビジョン構想会議が報告した「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたい日本へ―」によれば、訪日外国人旅行者数の目標を、2020 年には 4,000 万人、2030 年には 6,000 万人としている。さらに、訪日外国人旅行消費額の目標を、2020 年には 8 兆円、2030 年には 15 兆円。地方部での外国人延べ宿泊者数の目標を 2020 年には 7,000 万人泊、2030 年には 1 億 3,000 万人泊としている。さらに、国を挙げて、観光を我が国の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」という新たな挑戦に踏み切る覚悟を示して、観光先進国への「3つの視点」と「10の改革」を掲げた。その後、政府は着実に改革を推進している。

このように「観光」は我が国の経済を支える主要な産業であり、「観光」を抜きにしては、我が国の発展は考えられないといってもおかしくない状況にあり、「観光」を支える中核的人材の需要は中長期的に安定したものとなると分析している。

### ③大学における社会系学部の定員充足率

日本私立学校振興・共済事業団「平成31 (2019) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」によると、本学に関連する「観光ビジネス」、「観光」、「地域創造」、「地域創生」といった大学における学部系統区分は、「社会科学系」に包含されている。「社会科学系」は、「経済学部、経営学部、法学部、商学部、社会学部、社会福祉学部、総合政策学部、人間社会学部、現代社会学部、経営情報学部、情報学部、経済経営学部、現代ビジネス学部、観光

学部、政治経済学部、総合経営学部、国際経営学部、総合福祉学部、国際観光学部、経営経済学部、環境情報学部、人間福祉学部、その他」の23の学部系統に細分化されている。

「社会科学系」では、「過去5カ年における学部系統別の入学定員充足率」が掲載されているが、その各年の定員充足率は、平成27年度104.92%、平成28年度105.61%、平成29年度106.93%、平成30年度104.51%、平成31年度103.51%であり、いずれも定員を充足している。また、志願倍率は、平成27年度7.16倍、平成28年度7.66倍、平成29年度8.46倍、平成30年度9.21倍、平成31年度9.85倍と右肩上がりの上昇を示している。細分化された学部系統の中で、明確に「観光」を学部名に冠している学部は、「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部である。「観光学部」6学部の定員充足率は、平成30年度96.41%、平成31年度105.24%と、8.83ポイントの増加となっている。国際観光学部3学部の定員充足率は、平成30年度106.55%、平成31年度107.69%と1.14ポイントの増加となっている。観光学部と国際観光学部の平成31年度の定員充足率は、「社会科学系」の103.51%を2～4ポイント上回っている。また、志願倍率は、「観光学部」6学部で平成30年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,501名の9.2倍、平成31年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,197名の8.9倍で若干減少したものの高い志願倍率を維持している。

「国際観光学部」3学部で平成30年度入学定員611名に対して、志願者が6,793名の11.1倍、平成31年度入学定員611名に対して、志願者が7,769名の12.7倍と上昇しつつ、高い志願倍率となっている。このように「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部は、「社会科学系」の人気を支える一つの要因になっていると思われる。

本学は3年制の専門職短期大学であり、大学におけるこれらのデータを直接に材料として説明することはできないが、本学の教育内容は「観光理論」においては、四年制大学の観光学部とそん色

ない内容（学術系専任教員は現職の四年制大学の教員4名（うち3名が博士号取得者）と3月に北海道大学大学院を修了し博士の学位を取得することが内定している1名から構成されている。）とするよう努めていることから、卒業単位数や学位においては四年制大学との違いがあるものの、この点を重点的に高校生や保護者に説明するとともに、就職においては企業の採用担当者に四年制大学と同等なものと考えてもらうよう説明することによって、四年制大学の「社会科学系」のデータを援用することができるのではないかと分析している。

#### ④高校生に対するアンケート調査

学生の確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類のとおり、本学が株式会社日本ドリコムに委託して実施した受容性調査【高校生】においては、中国・四国地域の高校2年生の「大学・短大等進学希望者」で回答のあった6,162人のうち、本学に「入学したい」と回答した者が260人（4.2%）いた。その回答者数は、本学の入学定員80人の3倍以上であった。

これにより、開学当初の学生確保の見通しを立てることができると考えているが、これを持続させ、中長期的な見通しを立てるためには、「学生確保→教育・研究の充実→産学連携・地域連携による支援体制の構築→安定した就職状況→学生確保」という好循環を生み出し、持続させることが必要であると分析している。

#### ⑤現状の大学教育において、斬新で異彩を放つ存在となるための創意工夫

本学が大学とも異なり、短期大学や専門学校とは次元を異にする教育を提供すること及びそれらを丁寧に説明して、現状の大学教育において、斬新で異彩を放つ存在として確立することにより、中長期的な学生確保の見通しが立てられるものと分析している。

⑥産学連携・地域連携を通じた本学へ支援体制の構築

我が国と瀬戸内地域における観光と観光産業の振興はすでに進展しているが、今後はこのような産学官が組織的・体系的に連携して実践する観光振興の実態を把握し、それらを整理・分析して人材の養成に活用・反映させるとともに、これらを基に産業界や香川県、高松市、地域社会と連携し、それらに貢献していく必要がある。具体的には、優秀な人材の供給はもちろんのこと、産業界や香川県、高松市、地域社会に対して必要な提案や提言等の支援を行っていく必要がある。このため、本学は「せとうち観光学研究所」を学内に設置し、産学連携・地域連携の拠点とする。同研究所は、瀬戸内を中心として、国際的視野から観光と観光産業の研究を推進し、その研究成果から観光振興や地域創生の様々な課題について、産業界や香川県、高松市、地域社会と一体となって、その解決に取り組む。

これらの産学連携・地域連携を通じて、本学の支援体制を構築していくことは、おのずと本学の認知度や信頼度の向上を図ることとなり、中長期的な学生確保の見通しを立てるうえで重要な要素であると分析している。

⑦学生確保に向けた具体的取組への重点化

本学設置準備室においては、学生の確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類に記載したとおり、学生確保に向けた具体的取組を行っているが、2019年12月より、広報・学生募集担当者を1名増員し、合計3名体制で様々な取り組みを推進している。オープンキャンパスはもちろんのこと、高校訪問や会場型・高校内進学ガイダンス、広報媒体の活用を重点的に強化し、本学及び本学の教育課程の特色等に対する認知度及び信頼度の向上に努力している。

香川県の人口は、令和元年度の香川県人口移動調査結果によると、6,031人減少して、平成12年度

<p>から20年連続の減少となった。その内訳は自然増減が△5,492人、社会増減が△539人である。社会増減には、県内における転入転出を含むため、これを県外移動のみに限定すると△774人となっている。これらの転出先としては、東京都を中心とする首都圏及び大阪府を中心とする関西圏に集中していることが分かる。</p> <p>また、香川県の年齢別人口構成は、男女とも第1次ベビーブーム世代が（70～72歳あたり）が最も多く、次いで第2次ベビーブーム世代（45～48歳あたり）が多くなっており、二つの階級を中心としたふくらみを持つ「ひょうたん型」の形態となっているが、特に県外への就学・就職が多い20歳代は少なくなっている。</p> <p>このことから、県外への就学・就職が多い20歳代が首都圏や関西圏に多く流出していることが分かるが、これには香川県内に大学及び短期大学が少ないことも影響しており、本学の設置によりこれらの人口流出減少に歯止めをかける一助となるものと思われる。</p> <p>本学は、これまでに述べた学生確保に向けた具体的取組の重点化により、若年層を県内に留めるよう尽力し、同時に学生確保の見通しを立てていきたいと考えている。</p>	
---	--

【大学等の設置の趣旨・必要性】

4 <留学生の受入れ方針の考え方や選抜方法が不明確>

本学は留学生の受入れを積極的には行わないとあるが、本方針の考え方が不明なため、人材養成像を踏まえた本学における留学生の受入れ方針の考え方を明確に説明すること。

また、本学は留学生の受入れを拒むものではなく、「日本語による授業に対応することが十分に可能な日本語能力を有する留学生等」の選抜に当たっては高等学校卒業者と同一の選抜方法で実施するとあるが、選抜時における日本語能力の資格要件やその測定方法、経費支弁能力の確認、及び受入れ後の履修指導や生活指導等の配慮も踏まえた留学生の受入れ方策等の具体的な計画が不明確なため、これらについて妥当性も含めて明確に説明すること。

(対応)

1. <対応の概要>

留学生の受け入れについて、本学の考え方を明らかにするとともに、一般選抜入試及び総合型選抜入試における日本語能力の資格要件やその測定方法、経費支弁能力の確認、及び受入れ後の履修指導や生活指導等の配慮も踏まえた留学生の受入れ方策等の具体的な計画を定めて、設置の趣旨等を記載した書類を補正する。

2. <本学の留学生の受け入れに関する考え方>

留学生の受け入れについて、当初は「積極的には行わないが、入学選抜は、高等学校卒業者と同一の選抜方式によって実施することにより行う計画であり、受け入れを拒むものではない。」としていたが、これは定員充足の手段として留学生の受け入れ枠を大幅に設定するつもりはなく、既設専門学校の日本語学科、国際ビジネス学科等に在籍する留学生の入学を期待しているものではないことを明確に示したいとの考えから、このように記述したものであった。

令和元年11月28日の全体計画に関する面接調査において、インバウンド対応の観点から留学生を受け入れる必要があるのではないかとのご意見があったが、本学が養成する人材像は、インバウンドに対応する現場（接客等）の人材ではなく、これらを統括してその対応策を企画・立案・実施することができるマネジメント人材であるため、必ずしも留学生が適しているとは考えていない。しかしながら、日本に対する外国人の視点や異文化理解の促進のためには、留学生の存在が必要な場合も考えられることから、もとより、自然体で対応したいと考えていたものである。

よって、本学の留学生受け入れに関する考え方は、当初の考え方を維持・踏襲したい。

3. <審査意見への対応方針>

しかしながら、設置の趣旨等を記載した書類の記載内容については不備があり、不明瞭な記載となっていたため、審査意見を踏まえ、一般選抜入試及び総合型選抜入試における日本語能力の資格要件やその測定方法、経費支弁能力の確認、及び受入れ後の履修指導や生活指導等の配慮も踏まえた留学生の受入れ方策等の具体的な計画を、以下のように定めるものとする。

(出願資格)

次の1~3のすべての条件を満たしている者

1. 外国の国籍を有し、外国において日本の高等学校に相当する12年の教育課程を修了した者、および2021年3月修了見込みの者、またはそれと同等以上の資格を有すると本学が認めた者  
※ 上記には、日本の教育制度に基づく中学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内の者を含む。
2. 「出入国管理および難民認定法」による「留学」の在留資格を取得できる者または、「留学」の在留資格を有し、更新できる者
3. 次のいずれかに該当する者
  - (1) 日本語能力試験 N2 合格以上または日本留学試験（日本語）200 点以上（記述問題の得点は含まない）で、就学に必要な日本語能力のある者
  - (2) 本学において上記(1)と同等以上の学力があると認めた者
4. 経費支弁能力を別に定める書類等により証明できる者  
※経費支払能力を証明する書類  
本人が負担する場合：銀行の残高証明書、奨学金受給証明書など  
海外から送金される場合：送金証明書、送金者の預金通帳の写し、本人との関係を証明する書類など  
本人以外の国内居住者が支弁する場合：経費支弁者の在職証明書、所得証明書、本人との関係を証明する書類など

(受け入れ後の履修指導)

原則として、学生課において日本人学生と共に同様の履修指導を行うが、当該留学生の国籍や母国語等に応じて、外国語や異文化理解に精通した教員がサポートする体制を構築する。

(受け入れ後の生活指導等への配慮)

希望する留学生は、学校法人穴吹学園が所有する寮への入所が可能である。その他の生活指導やキャリア支援等については、原則として、学生課において日本人学生と共に同様の指導及び支援を行うが、当該留学生の国籍や母国語等に応じて、外国語や異文化理解に精通した教員がサポートする体制を構築する。

(その他のサポート)

学校法人穴吹学園では、国際部留学生センターを設置し、既設の専門学校への留学生に対する各種サポートを行っているが、これらのノウハウも活用して留学生の円滑な修学及び生活支援に努める。

#### 4. <設置の趣旨等を記載した書類の補正>

これに伴い、設置の趣旨等を記載した書類の79ページを以下のとおり、補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類79ページ)

#### **(2) 留学生及び帰国生徒の受け入れ**

留学生の受け入れについては、入学定員に留学生枠を設けず、留学生特別入試等は行わないが、日本

語による授業に対応することが十分に可能な日本語能力を有する留学生及び帰国生徒等を含む受験者の入学選抜は、高等学校卒業者と同一の選抜方式によって実施することにより行う計画である。

その際の留学生受け入れ計画を下記のとおり設けるものとする。

(出願資格)

次の1～3のすべての条件を満たしている者

1. 外国の国籍を有し、外国において日本の高等学校に相当する12年の教育課程を修了した者、および2021年3月修了見込みの者、またはそれと同等以上の資格を有すると本学が認めた者

※ 上記には、日本の教育制度に基づく中学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内の者を含む。

2. 「出入国管理および難民認定法」による「留学」の在留資格を取得できる者または、「留学」の在留資格を有し、更新できる者

3. 次のいずれかに該当する者

(1) 日本語能力試験N2合格以上または日本留学試験(日本語)200点以上(記述問題の得点は含まない)で、就学に必要な日本語能力のある者

(2) 本学において上記(1)と同等以上の学力があると認めた者

4. 経費支弁能力を別に定める書類等により証明できる者

※経費支払能力を証明する書類

本人が負担する場合：銀行の残高証明書、奨学金受給証明書など

海外から送金される場合：送金証明書、送金者の預金通帳の写し、本人との関係を証明する書類など

本人以外の国内居住者が支弁する場合：経費支弁者の在職証明書、所得証明書、本人との関係を証明する書類など

(受け入れ後の履修指導)

原則として、学生課において日本人学生と共に同様の履修指導を行うが、当該留学生の国籍や母国語等に応じて、外国語や異文化理解に精通した教員がサポートする体制を構築する。

(受け入れ後の生活指導等への配慮)

希望する留学生は、学校法人穴吹学園が所有する寮への入所が可能である。その他の生活指導やキャリア支援等については、原則として、学生課において日本人学生と共に同様の指導及び支援を行うが、当該留学生の国籍や母国語等に応じて、外国語や異文化理解に精通した教員がサポートする体制を構築する。

(その他のサポート)

学校法人穴吹学園では、国際部留学生センターを設置し、既設の専門学校への留学生に対する各種サポートを行っているが、これらのノウハウも活用して留学生の円滑な修学及び生活支援に努める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 89 ページ) (旧 79 ページ)

新	旧
(2) <b>留学生及び帰国生徒の受け入れ</b> 留学生の受け入れについては、 <u>入学定員に留学</u>	(2) <b>留学生及び帰国生徒の受け入れ</b> 留学生の受け入れについては、 <u>積極的な受け入れ</u>



<p><u>生枠を設けず、留学生特別入試等を行わないが、日本語による授業に対応することが十分に可能な日本語能力を有する留学生及び帰国生徒等を含む受験者の入学選抜は、高等学校卒業者と同一の選抜方式によって実施することにより行う計画である。</u></p> <p><u>その際の留学生受け入れ計画を下記のとおり設けるものとする。</u></p> <p><u>(出願資格)</u></p> <p><u>次の1～3のすべての条件を満たしている者</u></p> <p><u>1. 外国の国籍を有し、外国において日本の高等学校に相当する12年の教育課程を修了した者、および2021年3月修了見込みの者、またはそれと同等以上の資格を有すると本学が認めた者</u></p> <p><u>※ 上記には、日本の教育制度に基づく中学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内の者を含む。</u></p> <p><u>2. 「出入国管理および難民認定法」による「留学」の在留資格を取得できる者または、「留学」の在留資格を有し、更新できる者</u></p> <p><u>3. 次のいずれかに該当する者</u></p> <p><u>(1) 日本語能力試験 N2 合格以上または日本留学試験（日本語）200点以上（記述問題の得点は含まない）で、就学に必要な日本語能力のある者</u></p> <p><u>(2) 本学において上記(1)と同等以上の学力があると認めた者</u></p> <p><u>4. 経費支弁能力を別に定める書類等により証明できる者</u></p> <p><u>※経費支払能力を証明する書類</u></p> <p><u>本人が負担する場合：銀行の残高証明書、奨学金受給証明書など</u></p> <p><u>海外から送金される場合：送金証明書、送金者の預金通帳の写し、本人との関係を証明する書類など</u></p>	<p>は行わない。しかしながら、日本語による授業に対応することが十分に可能な日本語能力を有する留学生及び帰国生徒等を含む受験者の入学選抜は、高等学校卒業者と同一の選抜方式によって実施することにより行う計画であり、受け入れを拒むものではない。</p> <p>(新規)</p>
---	--

<p><u>本人以外の国内居住者が支弁する場合：</u>  <u>経費支弁者の在職証明書、所得証明書、本人との関係を証明する書類など</u>  <u>(受け入れ後の履修指導)</u>  <u>原則として、学生課において日本人学生と共に同様の履修指導を行うが、当該留学生の国籍や母国語等に応じて、外国語や異文化理解に精通した教員がサポートする体制を構築する。</u>  <u>(受け入れ後の生活指導等への配慮)</u>  <u>希望する留学生は、学校法人穴吹学園が所有する寮への入所が可能である。その他の生活指導やキャリア支援等については、原則として、学生課において日本人学生と共に同様の指導及び支援を行うが、当該留学生の国籍や母国語等に応じて、外国語や異文化理解に精通した教員がサポートする体制を構築する。</u>  <u>(その他のサポート)</u>  <u>学校法人穴吹学園では、国際部留学生センターを設置し、既設の専門学校への留学生に対する各種サポートを行っているが、これらのノウハウも活用して留学生の円滑な修学及び生活支援に努める。</u></p>	
--	--

(是正事項) 観光振興学科

【教育課程等】

5 <カリキュラム・ポリシーが不適切>

カリキュラム・ポリシーの記載が科目群を配置するといった抽象的な記載にとどまっており、ディプロマ・ポリシーと整合しているか判断できず、必要な能力が適切に修得できるか不明確なため、カリキュラム・ポリシーを適切に修正するとともに、ディプロマ・ポリシーや教育課程と対応していることを明確にすること。

(対応)

1. <対応の概要>

審査意見を踏まえ、カリキュラム・ポリシーを下記のとおり必要事項を追記し、修正する。また、これに伴い、ディプロマ・ポリシーの一部を修正する。さらに、カリキュラム・ポリシーが、ディプロマ・ポリシーや教育課程と対応していることを明確にするため、対比表を作成するとともに、設置の趣旨等を記載した書類の本文及び添付資料の該当箇所をすべて修正する。

2. <カリキュラム・ポリシーの修正>

審査意見を踏まえ、カリキュラム・ポリシーの CP I の CP1～CP7 を以下のとおり、修正する。

CP I (教育課程の編成)

ディプロマ・ポリシーで定めた7つの教育目標を達成するため、「基礎科目群 (自学自修)」、「基礎科目群 (思考法)」、「職業専門科目群 (学術)」、「職業専門科目群 (実務)」、「職業専門科目群 (観光英語)」、「展開科目群」、という6つの科目群と、「総合科目」という1つの科目から成る教育課程を編成する。各科目群に配置される科目は、履修の順序に従って、その内容が「基礎から応用へ」ないしは「初級から上級へ」と配列する。

CP1 「基礎科目群 (自学自修)」

「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎知識や技能を修得するための授業科目として、「基礎科目群 (自学自修)」に「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」を配置し、講義及び演習形式で授業を行う。

CP2 「基礎科目群 (思考法)」

「思考力」を養い、基礎的な思考法を修得するための授業科目として、「基礎科目 (思考法)」に「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「ビジネスコミュニケーション」「信仰の歴史」「異文化理解」「災害と防災の科学」「介助実務実習」を配置し、講義及び実習形式により、授業を行う。

CP3 「職業専門科目群 (学術)」

観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群 (学術)」に観光学の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。

①観光学入門科目

観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理

論や方法を修得するための授業科目として「観光学概論」を配置し、講義形式により授業を行う。

#### ②地域観光論入門科目群

「地域資源」や「地域社会」に関する理解を深め、課題の発見や解決の方策に必要な思考法や調査手法を修得するために必要な授業科目として、「地域資源論」を講義形式により、「地域観光基礎実習」を実習形式により配置する。

#### ③観光基礎理論科目群

観光学術理論の基礎的理論について考察し、観光研究に関する理論と方法論を修得することにより、観光学術理論の基盤を形成するための講義科目として「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」を配置し、講義形式により授業を行う。

#### ④観光応用理論科目群

観光学術理論の応用的理論について考察し、観光振興専門職としての飛躍を図るために必要な能力を修得するための授業科目として「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」を配置し、講義形式により授業を行う。

#### ⑤せとうち観光研究科目群

瀬戸内地域における観光の現実や課題、観光振興及び観光による地域振興に対する理解を深め、地域における観光振興の方法論と課題解決方策の発見等に必要な能力を修得するため「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」を配置し、講義形式により授業を行う。

### CP4「職業専門科目群（実務）」

観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論及び知識を修得するとともに、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を修得するための授業科目として「職業専門科目群（実務）」に観光実務の理論と技能を学ぶ実務科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。

#### ①観光実務理論科目群

観光事業において重要な経営施策であり、また観光振興専門職にとっても不可欠な能力・技能であるホスピタリティ及びリスクマネジメントに関する能力を修得するための講義科目として、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」を配置し、講義形式により授業を行う。

#### ②観光事業論科目群

観光実務の実践のための基盤となる能力を修得するとともに、臨地実務実習後の観光実務に関する理論と知識の総まとめと定着を図るための授業科目として、「観光事業論」「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置し、講義形式により授業を行う。

#### ③臨地実務実習事前学修科目群

ホスピタリティ業務に関わる「技能訓練」の基礎を修得するための授業科目として「ホスピタリティ実務実習A・B」を配置し、学内における実習形式により授業を行う。また、臨地実務実習における実習の目的、内容、日程、留意事項などを体系的に指導し、学生が臨地実務実習で効果的な学修成果を達成するために必要な授業科目として、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。

#### ④臨地実務実習科目群

観光実務の基礎から応用、マネジメントに至るまでのスキルを修得するとともに、観光振興、観光による地域創生の観点から観光事業を企画・立案・運営するために必要な能力を修得するための授業科目として「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」「臨地実務実習Ⅲ」を配置し、学外における実習形式により授業を行う。

#### ⑤臨地実務実習事後学修科目群

臨地実務実習の実践的学修の成果を振り返り、それらを理論的に整理しながら、今後の学修に有機的につなげることを目的として、「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。

#### CP5「職業専門科目群（観光英語）」

インバウンド観光の多様な状況に対応するための観光英語力を修得するための授業科目として、初級から応用へと段階的に「観光基礎英語Ⅰ～Ⅱ」「観光英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、演習形式により授業を行う。

#### CP6「展開科目群」

観光関係以外の異分野から、「①企業やNPO法人、地域社会等における組織及び事業運営能力(マネジメント力)」及び「②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力(情報力・創造力)」に関する応用的な能力を修得するための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニティデザイン論」「マーケティング論」「起業論」「ICTとIoT」「人工知能概論」を配置し、講義形式により授業を行うとともに、「ファシリテーション実習」「ICT実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」を配置し、実習形式により授業を行う。

#### CP7「総合科目」

3年間で学修した全教科の成果を統括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を修得するため、「専門演習」を通年で配置し、演習形式により授業を行う。

#### CPⅡ（学修形態）

学修の形態は、授業の内容によって、講義形式と演習形式及び実習形式に分かれる。なお、講義形式においてもグループワークやワークショップ等の演習形態が取り入れられる場合がある。

#### CPⅢ（成績評価の在り方）

授業時間と事前・事後学修時間を確保し、各科目の到達目標毎に対応する成績評価基準で適正な成績評価を行うことによって、卒業要件・学位授与のための単位を実質化する。成績評価の方針と基準については、シラバスに明記する。

### 3. <ディプロマ・ポリシーの一部修正>

カリキュラム・ポリシーの修正に伴い、以下のとおり、ディプロマ・ポリシーの表現を一部修正する。

#### DP5（観光英語力の修得）

観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。

#### 4. <対比表の作成>

カリキュラム・ポリシーがディプロマ・ポリシーや教育課程と対応していることを明確にするための以下のとおり、対比表を作成するとともに、本書類及び設置の趣旨等を記載した書類の添付資料として添付する。(資料5 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程の対比表)

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの対比

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
<p>DP 1 (自学自修の態度形成)</p> <p>「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎技能を身に付け、生涯に渡り充実した日常生活と有意義なキャリアデベロップメントを実現することができる。</p>	<p>CP 1 基礎科目群 (自学自修)</p> <p>「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎知識や技能を修得するための授業科目として、「基礎科目群 (自学自修)」に「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」を配置し、講義及び演習形式で授業を行う。</p>
<p>DP 2 (思考法の修得)</p> <p>基礎科目における学術科目によって「思考力」を養い、基礎的な思考法を身に付けて、現実を的確に捉えることができる。</p>	<p>CP 2 基礎科目群 (思考法)</p> <p>「思考力」を養い、基礎的な思考法を修得するための授業科目として、「基礎科目群 (思考法)」に「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「ビジネスコミュニケーション」「信仰の歴史」「異文化理解」「災害と防災の科学」「介助実務実習」を配置し、講義及び実習形式により、授業を行う。</p>
<p>DP 3 (観光の理論と知識の理解)</p> <p>観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶことによって、社会現象としての観光の現実を捉えることができる。</p>	<p>CP 3 職業専門科目群 (学術)</p> <p>観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群 (学術)」に観光の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。</p> <p>①観光学入門科目 観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を修得するための授業科目として「観光学概論」を配置し、講義形式により授業を行う。</p> <p>②地域観光学入門科目群 「地域資源」や「地域社会」に関する理解を深め、課題の発見や解決の方策の必要な思考法や調査手法を修得するために必要な授業科目として、「地域資源論」を講義形式により、「地域観光基礎実習」を実習形式により配置する。</p> <p>③観光基礎理論科目群 観光学術理論の基礎的理論について考察し、観光研究に関する理論と方法論を修得することにより、観光学術理論の基盤を形成するための講義科目として「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」を配置し、講義形式により授業を行う。</p> <p>④観光応用理論科目群 観光学術理論の応用的理論について考察し、観光振興専門職としての飛躍を図るために必要な能力を修得するための授業科目として「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」を配置し、講義形式により授業を行う。</p> <p>⑤せとうち観光研究科目群 瀬戸内地域における観光の現実や課題、観光振興及び観光による地域振興に対する理解を深め、地域における観光振興の方法論と課題解決方策の発見等に必要となる能力を修得するため「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」を配置し、講義形式により授業を行う。</p>

<p><b>DP 4 (観光実務の知識と技能の修得)</b> 観光産業や観光による地域創生事業の実務に関する理論・知識を学んだうえで、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を身に付けることによって、観光振興専門職としての職場の状況や問題を分析でき、チームワークで問題を解決できる。</p>	<p><b>CP 4 職業専門科目群 (実務)</b> 観光産業や観光による地域創生事業の実務に関する理論及び知識を修得するとともに、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を修得するための授業科目として「職業専門科目群 (実務)」に観光実務の理論と技能を学ぶ実務科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。</p> <p>①観光実務理論科目群 観光事業において重要な経営施策であり、また観光振興専門職にとっても不可欠な能力・技能であるホスピタリティ及びリスクマネジメントに関する能力を修得するための講義科目として、「ホスピタリティマネジメント」「観光リスクマネジメント」を配置し、講義形式により授業を行う。</p> <p>②観光事業論科目群 観光実務の実践のための基盤となる能力を修得するとともに、臨地実務実習後の観光実務に関する理論と知識の総まとめと定着を図るための授業科目として、「観光事業論」「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置し、講義形式により授業を行う。</p> <p>③臨地実務実習事前学修科目群 ホスピタリティ業務に関わる「技能訓練」の基礎を修得するための授業科目として「ホスピタリティ実務実習A・B」を配置し、学内における実習形式により授業を行う。また、臨地実務実習における実習の目的、内容、日程、留意事項などを体系的に指導し、学生が臨地実務実習で効果的な学修成果を達成するために必要な授業科目として、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。</p> <p>④臨地実務実習科目群 観光実務の基礎から応用、マネジメントに至るまでのスキルを修得するとともに、観光振興、観光による地域創生の観点から観光事業を企画・立案・運営するために必要な能力を修得するための授業科目として「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」「臨地実務実習Ⅲ」を配置し、学外における実習形式により授業を行う。</p> <p>⑤臨地実務実習事後学修科目群 臨地実務実習の実践的学修の成果を振り返り、それらを理論的に整理しながら、今後の学修に有機的につなげることを目的として、「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。</p>
<p><b>DP 5 (観光英語力の修得)</b> 観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。</p>	<p><b>CP 5 職業専門科目群 (観光英語)</b> インバウンド観光の多様な状況に対応するための観光英語力を修得するための授業科目として、初級から応用へと段階的に「観光基礎英語Ⅰ～Ⅱ」「観光英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、演習形式により授業を行う。</p>
<p><b>DP 6 (他分野の応用的な能力の修得)</b> 観光関係以外の異分野から、次のような「応用的な能力」を身に付けて、観光振興専門職として実践的かつ創造的な職務に積極的に取り組むことができる。 ① 企業やNPO法人、地域社会等における組織及び事業運営能力 (マネジメント力) ② 事業イノベーションや地域社会の魅力を生み出すための情報力や創造力 (情報力・創造力)</p>	<p><b>CP 6 展開科目群</b> 観光関係以外の異分野から、「①企業やNPO法人、地域社会等における組織及び事業運営能力 (マネジメント力)」及び「②事業イノベーションや地域社会の魅力を生み出すための情報力や創造力 (情報力・創造力)」に関する応用的な能力を修得するための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニティデザイン論」「マーケティング論」「起業論」「ICTとIoT」「人工知能概論」を配置し、講義形式により授業を行うとともに、「ファシリテーション実習」「ICT実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」を配置し、実習形式により授業を行う。</p>
<p><b>DP 7 (観光振興専門職としての総合力の育成)</b> 3年間で学修した全教科の成果を統括する専門演習において、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を身に付けて、観光振興と地域社会の発展のための課題に果敢に挑戦することができる。</p>	<p><b>CP 7 総合科目</b> 3年間で学修した全教科の成果を統括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を修得するため、「専門演習」を通年で配置し、演習形式により授業を行う。</p>

## カリキュラム・ポリシーと教育課程との対比

カリキュラム・ポリシー	授業科目	教育課程													
		履修区分	単位	1年次				2年次				3年次			
				①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
<b>CP1 基礎科目群 (自学自修)</b> 「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎知識や技能を修得するための授業科目として、「基礎科目群 (自学自修)」に「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」を配置し、講義及び演習形式で授業を行う。	基礎演習 キャリアデザイン論	必修	2	4	4										
<b>CP2 基礎科目群 (思考法)</b> 「思考力」を養い、基礎的な思考法を修得するための授業科目として、「基礎科目群 (思考法)」に「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「ビジネスコミュニケーション」「情報の歴史」「異文化理解」「災害と防災の科学」「介助実践実習」を配置し、講義及び演習形式により授業を行う。	文化論 地理学 企業の社会的責任 法と社会 ビジネスコミュニケーション 情報の歴史 異文化理解 災害と防災の科学 介助実践実習	必修	2			A	B								
<b>CP3 職業専門科目群 (修得)</b> 観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事業の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群 (学術)」に観光の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。															
①観光学入門科目 観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を修得するための授業科目として「観光学概論」を配置し、講義形式により授業を行う。	観光学概論	必修	2	A/B											
②地域観光学入門科目 「地域振興」や「観光政策」に関する理解を深め、個々の意見や解決の方針に必要な思考や調査手法を修得するために必要な授業科目として、「地域観光学」を講義形式により、「地域観光基礎実習」を演習形式により配置する。	地域観光学 地域観光基礎実習	必修	2	A/B											
③観光基礎理論科目群 観光学理論の基礎的理論について考察し、観光研究に関する理論と方法論を修得することにより、観光学理論の基礎を形成するための基礎科目として「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」を配置し、講義形式により授業を行う。	観光社会文化論 観光振興・地域創生論 観光行動論	必修	2		A	B									
④観光応用理論科目群 観光学理論の応用的理論について考察し、観光振興専門職としての機能を果たすために必要な知識を修得するための授業科目として「国際観光論」「観光文化論」を配置し、講義形式により授業を行う。	国際観光論 観光文化論	選択	2												
⑤せとら観光研究科目群 国内地域における観光の現状や課題、観光振興及び観光による地域振興に対する理解を深め、地域における観光振興の方法論と課題解決策の発見等に必要となる能力を修得するための「せとら観光アート論」「せとら観光実践論」「国際観光研究」「国際観光史」を配置し、講義形式により授業を行う。	せとら観光アート論 せとら観光実践論 国際観光研究 国際観光史	2科目 選択 必修	2												
<b>CP4 職業専門科目群 (実務)</b> 観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論及び知識を修得するとともに、観光実務を体系的に学び、「思考力」を土台として、「実務力」と「協働力」を修得するための授業科目として「職業専門科目群 (実務)」に観光実務の理論と技能を学ぶ実務科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。															
①観光実務理論科目群 観光事業において重要な経営基盤であり、また観光振興専門職にとっても不可欠な能力・技能であるホスピタリティ及びリスクマネジメントに関する能力を修得するための基礎科目として、「ホスピタリティマネジメント」「観光リスクマネジメント」を配置し、講義形式により授業を行う。	ホスピタリティマネジメント論 観光リスクマネジメント	必修	2	A	B										
②観光実務応用科目群 観光実務の実態のための基礎となる能力を修得するとともに、観光実務実習等の観光実務に関する理論と知識の補完と応用するための授業科目として、「観光実務実習」「交通実務論」「宿泊実務論」「地域創生実務論」を配置し、講義形式により授業を行う。	観光実務論 交通実務論 宿泊実務論 地域創生実務論	必修 選択 選択 必修	2		A	B									
③観光実務実習前学修科目群 ホスピタリティ実務に關する「技能訓練」の基礎を修得するための授業科目として「ホスピタリティ実務実習A・B」を配置し、学内における実習形式により授業を行う。また、観光実務実習における実習の目的、内容、日程、留意事項などを体系的に指導し、学生が観光実務実習で効果的な学習成果を達成するために必要な授業科目として、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。	ホスピタリティ実務実習A ホスピタリティ実務実習B 観光支援ビジネス実務基礎論 観光実務基礎論(航空クラス) 観光実務基礎論(鉄道クラス) 観光実務基礎論(宿泊クラス) 観光実務基礎論(観光地域創生クラス) 観光実務応用論(航空クラス) 観光実務応用論(鉄道クラス) 観光実務応用論(宿泊クラス) 観光実務応用論(観光地域創生クラス)	1科目 1科目 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1												
④観光実務実習科目群 観光実務の基礎から応用、マネジメントに至るまでのスキルを修得するとともに、観光振興、観光による地域創生の観点から観光事業を企画・立案・運営するために必要な能力を修得するための授業科目として「観光実務実習Ⅰ」「観光実務実習Ⅱ」「観光実務実習Ⅲ」を配置し、学内における実習形式により授業を行う。	観光実務実習Ⅰ 観光実務実習Ⅱ(航空クラス) 観光実務実習Ⅱ(鉄道クラス) 観光実務実習Ⅱ(宿泊クラス) 観光実務実習Ⅱ(観光地域創生クラス) 観光実務実習Ⅲ(航空クラス) 観光実務実習Ⅲ(鉄道クラス) 観光実務実習Ⅲ(宿泊クラス) 観光実務実習Ⅲ(観光地域創生クラス)	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	4												
⑤観光実務実習事後学修科目群 観光実務実習の理論的学習の成果を振り返り、それらを理論的に整理しながら、今後の学習に体系的に活かすことと目的として、「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。	観光支援ビジネス実務発展論 観光実務発展論(航空クラス) 観光実務発展論(鉄道クラス) 観光実務発展論(宿泊クラス) 観光実務発展論(観光地域創生クラス) 観光実務マネジメント論(航空クラス) 観光実務マネジメント論(鉄道クラス) 観光実務マネジメント論(宿泊クラス) 観光実務マネジメント論(観光地域創生クラス)	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1				S								
<b>CP5 職業専門科目群 (観光英語)</b> インバウンド観光の多様な状況に対応するための観光英語力を修得するための授業科目として、初級から応用と段階的に「観光基礎英語Ⅰ～Ⅱ」「観光英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、演習形式により授業を行う。	観光基礎英語Ⅰ 観光基礎英語Ⅱ 観光英語Ⅰ 観光英語Ⅱ 観光英語Ⅲ 観光英語Ⅳ	必修 必修 選択 選択 選択 選択	1	A/B											
<b>CP6 展開科目群</b> 観光振興以外の分野から、「①企業やNPO法人、地域社会等における風土及び事業運営能力(マネジメント力)」及び「②海外インターンシップや地域社会の協力を創出するための情報力や創造力(情報力・創造力)」に関する応用的な能力を修得するための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニケーションデザイン」「マーケティング論」「起業論」「IoT&IoT」「人工知能概論」を配置し、講義形式により授業を行うとともに、「フューチャー・デザイン実習」「IoT実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」を配置し、実習形式により授業を行う。	経営学 中小企業論 コミュニケーションデザイン論 マーケティング論 起業論 フューチャー・デザイン実習 IoT実習 人工知能概論 人工知能プログラミング実習 マップデザイン実習 メディアコンテンツ実習	必修 必修 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	2					A	B						
<b>CP7 総合科目</b> 3年間で学修した全教科の成果を総括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実施することにより、「観光振興専門職としての総合力と職業実践力を修得するため、「専門演習」を必修科目として、演習形式により授業を行う。	専門演習	必修	4												



5. <設置の趣旨等を記載した書類の補正>

上記2及び3の修正に伴い、設置の趣旨等を記載した書類26ページ及び33ページを補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類26ページ)

DP5 (観光英語力の修得)

観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。

(設置の趣旨等を記載した書類33ページ)

CP1「基礎科目群 (自学自修)」

「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎知識や技能を修得するための授業科目として、「基礎科目群 (自学自修)」に「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」を配置し、講義及び演習形式で授業を行う。

CP2「基礎科目群 (思考法)」

「思考力」を養い、基礎的な思考法を修得するための授業科目として、「基礎科目 (思考法)」に「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「ビジネスコミュニケーション」「信仰の歴史」「異文化理解」「災害と防災の科学」「介助実務実習」を配置し、講義及び実習形式により、授業を行う。

CP3「職業専門科目群 (学術)」

観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群 (学術)」に観光学の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。

①観光学入門科目

観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を修得するための授業科目として「観光学概論」を配置し、講義形式により授業を行う。

②地域観光論入門科目群

「地域資源」や「地域社会」に関する理解を深め、課題の発見や解決の方策の必要な思考法や調査手法を修得するために必要な授業科目として、「地域資源論」を講義形式により、「地域観光基礎実習」を実習形式により配置する。

③観光基礎理論科目群

観光学術理論の基礎的理論について考察し、観光研究に関する理論と方法論を修得することにより、観光学術理論の基盤を形成するための講義科目として「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」を配置し、講義形式により授業を行う。

④観光応用理論科目群

観光学術理論の応用的理論について考察し、観光振興専門職としての飛躍を図るために必要な能力を修得するための授業科目として「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」を配置し、講義形式により授業を行う。

#### ⑤せとうち観光研究科目群

瀬戸内地域における観光の現実や課題、観光振興及び観光による地域振興に対する理解を深め、地域における観光振興の方法論と課題解決方策の発見等に必要能力を修得するため「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」を配置し、講義形式により授業を行う。

#### CP4「職業専門科目群（実務）」

観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論及び知識を修得するとともに、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を修得するための授業科目として「職業専門科目群（実務）」に観光実務の理論と技能を学ぶ実務科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。

##### ①観光実務理論科目群

観光事業において重要な経営施策であり、また観光振興専門職にとっても不可欠な能力・技能であるホスピタリティ及びリスクマネジメントに関する能力を修得するための講義科目として、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」を配置し、講義形式により授業を行う。

##### ②観光事業論科目群

観光実務の実践のための基盤となる能力を修得するとともに、臨地実務実習後の観光実務に関する理論と知識の総まとめと定着を図るための授業科目として、「観光事業論」「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置し、講義形式により授業を行う。

##### ③臨地実務実習事前学修科目群

ホスピタリティ業務に関わる「技能訓練」の基礎を修得するための授業科目として「ホスピタリティ実務実習A・B」を配置し、学内における実習形式により授業を行う。また、臨地実務実習における実習の目的、内容、日程、留意事項などを体系的に指導し、学生が臨地実務実習で効果的な学修成果を達成するために必要な授業科目として、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。

##### ④臨地実務実習科目群

観光実務の基礎から応用、マネジメントに至るまでのスキルを修得するとともに、観光振興、観光による地域創生の観点から観光事業を企画・立案・運営するために必要能力を修得するための授業科目として「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」「臨地実務実習Ⅲ」を配置し、学外における実習形式により授業を行う。

##### ⑤臨地実務実習事後学修科目群

臨地実務実習の実践的学修の成果を振り返り、それらを理論的に整理しながら、今後の学修に有機的につなげることを目的として、「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。

#### CP5「職業専門科目群（観光英語）」

インバウンド観光の多様な状況に対応するための観光英語力を修得するための授業科目として、初級から応用へと段階的に「観光基礎英語Ⅰ～Ⅱ」「観光英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、演習形式により授業を行う。

CP6「展開科目群」

観光関係以外の異分野から、「①企業やNPO法人、地域社会等における組織及び事業運営能力(マネジメント力)」及び「②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力(情報力・創造力)」に関する応用的な能力を修得するための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニティデザイン論」「マーケティング論」「起業論」「ICTとIoT」「人工知能概論」を配置し、講義形式により授業を行うとともに、「ファシリテーション実習」「ICT実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」を配置し、実習形式により授業を行う。

CP7「総合科目」

3年間で学修した全教科の成果を統括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を修得するため、「専門演習」を通年で配置し、演習形式により授業を行う。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 27 ページ) (旧 26 ページ)

新	旧
DP5 (観光英語力の修得) 観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。	DP5 (観光英語力の修得) 英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 35 ページ) (旧 33 ページ)

新	旧
CP1「基礎科目群 (自学自修)」 <u>「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎知識や技能を修得するための授業科目として、「基礎科目群 (自学自修)」に「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」を配置し、講義及び演習形式で授業を行う。</u>	CP1「基礎科目群 (自学自修)」 初年次教育やキャリア教育として、一般常識と自学自修の態度形成を学ぶ科目を配置する。
CP2「基礎科目群 (思考法)」 <u>「思考力」を養い、基礎的な思考法を修得するための授業科目として、「基礎科目 (思考法)」に「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「ビジネスコミュニケーション」「信仰の歴史」「異文化理解」「災害と防災の科学」「介助実務実習」を配置し、講義及び実習形式により、授業を行う。</u>	CP2「基礎科目群 (思考法)」 社会や文化に関する学術的な理論を学ぶことにより、思考法を修得するための科目を配置する。
CP3「職業専門科目群 (学術)」 観光学の理論と観光に関連する知識を身	CP3「職業専門科目群 (学術)」 「観光の理論と知識を学ぶ学術科目群」を

<p>に付け、<u>観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群（学術）」に観光の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。</u></p> <p>①観光学入門科目</p> <p><u>観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を修得するための授業科目として「観光学概論」を配置し、講義形式により授業を行う。</u></p> <p>②地域観光論入門科目群</p> <p><u>「地域資源」や「地域社会」に関する理解を深め、課題の発見や解決の方策に必要な思考や調査手法を修得するために必要な授業科目として、「地域資源論」を講義形式により、「地域観光基礎実習」を実習形式により配置する。</u></p> <p>③観光基礎理論科目群</p> <p><u>観光学術理論の基礎的理論について考察し、観光研究に関する理論と方法論を修得することにより、観光学術理論の基盤を形成するための講義科目として「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」を配置し、講義形式により授業を行う。</u></p> <p>④観光応用理論科目群</p> <p><u>観光学術理論の応用的理論について考察し、観光振興専門職としての飛躍を図るために必要な能力を修得するための授業科目として「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」を配置し、講義形式により授業を行う。</u></p> <p>⑤せとうち観光研究科目群</p> <p><u>瀬戸内地域における観光の現実や課題、観光振興及び観光による地域振興に対する</u></p>	<p>配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。</p> <p>①観光学入門科目</p> <p>②地域観光論入門科目群</p> <p>③観光基礎理論科目群</p> <p>④観光応用理論科目群</p> <p>⑤せとうち観光研究科目群</p>
---	---

理解を深め、地域における観光振興の方法論と課題解決方策の発見等に必要な能力を修得するため「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」を配置し、講義形式により授業を行う。

CP4「職業専門科目群（実務）」

観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論及び知識を修得するとともに、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を修得するための授業科目として「職業専門科目群（実務）」に観光実務の理論と技能を学ぶ実務科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。

①観光実務理論科目群

観光事業において重要な経営施策であり、また観光振興専門職にとっても不可欠な能力・技能であるホスピタリティ及びリスクマネジメントに関する能力を修得するための講義科目として、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」を配置し、講義形式により授業を行う。

②観光事業論科目群

観光実務の実践のための基盤となる能力を修得するとともに、臨地実務実習後の観光実務に関する理論と知識の総まとめと定着を図るための授業科目として、「観光事業論」「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置し、講義形式により授業を行う。

③臨地実務実習事前学修科目群

ホスピタリティ業務に関わる「技能訓練」の基礎を修得するための授業科目として「ホスピタリティ実務実習A・B」を配置し、学内における実習形式により授業を行う。また、臨地実務実習における実習の目的、内容、日程、留意事項などを体系的に

CP4「職業専門科目群（実務）」

「観光実務の理論と技能を学ぶ実務科目群」を配置する。さらに、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。

①観光実務理論科目群

②観光事業論科目群

③臨地実務実習事前学修科目群

指導し、学生が臨地実務実習で効果的な学修成果を達成するために必要な授業科目として、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。

④臨地実務実習科目群

観光実務の基礎から応用、マネジメントに至るまでのスキルを修得するとともに、観光振興、観光による地域創生の観点から観光事業を企画・立案・運営するために必要な能力を修得するための授業科目として「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」「臨地実務実習Ⅲ」を配置し、学外における実習形式により授業を行う。

⑤臨地実務実習事後学修科目群

臨地実務実習の実践的学修の成果を振り返り、それらを理論的に整理しながら、今後の学修に有機的につなげることを目的として、「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。

CP5「職業専門科目群（観光英語）」

インバウンド観光の多様な状況に対応するための観光英語力を修得するための授業科目として、初級から応用へと段階的に「観光基礎英語Ⅰ～Ⅱ」「観光英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、演習形式により授業を行う。

CP6「展開科目群」

観光関係以外の異分野から、「①企業やNPO法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）」及び「②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力）」に関する応用的な能力を修得するための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニティデザイン論」「マーケティング論」「起業論」

④臨地実務実習科目群

⑤臨地実務実習事後学修科目群

CP5「職業専門科目群（観光英語）」

観光に対応するための観光英語を、初級から応用へと6科目配置する。

CP6「展開科目群」

観光関連以外の学術分野から観光振興専門職の職務遂行に有効な応用能力として、組織や事業等のマネジメント能力、事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力を養成する応用科目を配置する。

「ICT と IoT」「人工知能概論」を配置し、講義形式により授業を行うとともに、「ファシリテーション実習」「ICT 実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」を配置し、実習形式により授業を行う。

CP7「総合科目」

3年間で学修した全教科の成果を統括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を修得するため、「専門演習」を3年間で配置し、演習形式により授業を行う。

CP7「総合科目」

職業専門科目群の履修時期に応じて学修成果を統合・拡充するための専門演習を配置する。

【教育課程等】

6 <地域振興に関する教育内容が不十分>

「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出する」という人材養成像に照らすと、地域経済、地域行政に関する内容を学習する必要があるが、十分とは認められないため、教育課程において適切に盛り込むこと。

(対応)

1. <対応の概要>

審査意見を踏まえ、地域経済、地域行政に関する内容を授業科目に盛り込むことにより対応する。

2. <授業科目の見直し>

審査意見を踏まえ、ディプロマ・ポリシーに定める「DP4（観光実務の知識と技能の修得）観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論・知識を学んだうえで、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を身に付けることによって、観光振興専門職として職場の状況や問題を分析でき、チームワークで問題を解決できる。」を達成するため、カリキュラム・ポリシーCP4「職業専門科目群（実務）」の②観光事業論科目群において、観光実務の実践のための基盤となる能力を修得するとともに、臨地実務実習後の観光実務に関する理論と知識の総まとめと定着を図るための授業科目として配置する「**地域創生事業論**」に地域経済、地域行政に関する授業内容を盛り込む。

3. <授業科目概要の修正>

そのため、別記様式第2号（その3の1）授業科目の概要を以下のとおり、修正する。

（「地域創生事業論」授業科目概要）

この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解するとともに、地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政組織の仕組みや役割については、香川県及び高松市の幹部職員をゲストスピーカーとして招へいする。そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。

4. <シラバスの修正>

また、シラバスの授業概要、キーワード、授業計画を以下のとおり、修正する。

（シラバスの授業概要）

この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を



事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解するとともに、地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政組織の仕組みや役割については、香川県及び高松市の幹部職員をゲストスピーカーとして招へいする。そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。

(シラバスのキーワード)

地域創生、観光振興、商店街、街づくり、集客戦略、合意形成、組織運営、持続可能な地域社会  
地域経済、地域行政、行政組織

(シラバスの授業計画)

- 第 1回 オリエンテーション 地域経済・地域創生とは何か
- 第 2回 基礎知識の修得 地域創生と持続可能な観光振興
- 第 3回 国策である「中心市街地活性化」としての「地方創生」の必要性
- 第 4回 地方自治と行政組織① 組織の成り立ち及び政策決定の仕組みと過程
- 第 5回 地方自治と行政組織② 地域行政による観光地域創生の取り組みと行政組織
- 第 6回 地域経済事情① 地域経済と観光振興
- 第 7回 地域経済事情② 地域運営組織の実態と課題
- 第 8回 地域経済事情③ 地域資源の開発と魅力の伝え方
- 第 9回 丸亀町商店街再生計画① 商店街の成り立ちと歴史
- 第10回 丸亀町商店街再生計画② 再開発の背景としての地域経済
- 第11回 丸亀町商店街再生計画③ 商店街の開発スキーム
- 第12回 丸亀町商店街再生計画④ 集客戦略と合意形成、組織運営論
- 第13回 丸亀町商店街再生計画⑤ 新しいビジネスモデルとしての商店街の在り方と  
全国の商店街の事例
- 第14回 なぜ丸亀町商店街が国内外からこれほどの注目を浴びたのか
- 第15回 学修到達度の確認および講義内容の総括

#### 5. <設置の趣旨等を記載した書類の補正>

上記3及び4の修正に伴い、設置の趣旨等を記載した書類の40ページ及び47ページを以下のとおり、補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類の40ページ及び47ページ)

この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解するとともに、地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政組織の仕組みや役割については、香川県及び高松市の幹部職員をゲストスピーカーとして招へいす

る。そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかにかに寄与するかについての仕組みを学修する。

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	旧
<p>この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解するとともに、<u>地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政組織の仕組みや役割については、香川県及び高松市の幹部職員をゲストスピーカーとして招へいする。</u>そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかにかに寄与するかについての仕組みを学修する。</p>	<p>この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解し、そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかにかに寄与するかについての仕組みを学修する。</p>

(新旧対照表) シラバス

新	旧
<p>(授業概要)</p> <p>この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解するとともに、<u>地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政</u></p>	<p>(授業概要)</p> <p>この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解し、そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらに</p>

組織の仕組みや役割については、香川県及び高松市の幹部職員をゲストスピーカーとして招へいする。そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。

(キーワード)

地域創生、観光振興、商店街、街づくり、集客戦略、合意形成、組織運営、持続可能な地域社会、地域経済、地域行政、行政組織

(授業計画)

- 第 1回 オリエンテーション地域創生とは何か
- 第 2回 基礎知識の修得 地域創生と持続可能な観光振興
- 第 3回 国策である「中心市街地活性化」としての「地方創生」の必要性
- 第 4回 地方自治と行政組織① 組織の成り立ち及び政策決定の仕組みと過程
- 第 5回 地方自治と行政組織② 地域行政による観光地域創生の取り組みと行政組織
- 第 6回 地域経済事情① 地域経済と観光振興
- 第 7回 地域経済事情② 地域運営組織の実態と課題
- 第 8回 地域経済事情③ 地域資源の開発と魅力の伝え方
- 第 9回 丸亀町商店街再生計画① 商店街の成り立ちと歴史
- 第10回 丸亀町商店街再生計画② 再開発の背景としての地域経済

そうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。

(キーワード)

地域創生、観光振興、商店街、街づくり、集客戦略、合意形成、組織運営、持続可能な地域社会

(授業計画)

- 第 1回 オリエンテーション地域創生とは何か
- 第 2回 基礎知識の修得 地域創生と持続可能な観光振興
- 第 3回 国策である「中心市街地活性化」としての「地方創生」の必要性
- 第 4回 地方自治体による地域創生の取り組み
- 第 5回 国の制度としての地域創生の施策
- 第 6回 丸亀町商店街再生計画① 商店街の成り立ちと歴史
- 第 7回 丸亀町商店街再生計画② 再開発の地域背景
- 第 8回 丸亀町商店街再生計画③ 地方の実体経済
- 第 9回 丸亀町商店街再生計画④ 商店街の開発スキーム
- 第10回 丸亀町商店街再生計画⑤ 集客戦略と合意形成

第11回 丸亀町商店街再生計画③ 商店街の開発スキーム	第11回 丸亀町商店街再生計画⑥ 組織運営論
第12回 丸亀町商店街再生計画④ 集客戦略と合意形成、組織運営論	第12回 丸亀町商店街再生計画⑦ 新しいビジネスモデルとしての商店街の在り方
第13回 丸亀町商店街再生計画⑤ 新しいビジネスモデルとしての商店街の在り方と全国の商店街の事例	第13回 全国の商店街の事例
第14回 なぜ丸亀町商店街が国内外からこれほどの注目を浴びたのか	第14回 なぜ丸亀町商店街が国内外からこれほどの注目を浴びたのか
第15回 学修到達度の確認および講義内容の総括	第15回 学修到達度の確認および講義内容の総括

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 43 ページ) (旧 40 ページ)

新	旧
<p>この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解するとともに、<u>地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政組織の仕組みや役割については、香川県及び高松市の幹部職員をゲストスピーカーとして招へいする。</u>そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。</p>	<p>この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解し、そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 50 ページ) (旧 47 ページ)

新	旧
<p>この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事</p>	<p>この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事</p>

<p>例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解するとともに、<u>地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政組織の仕組みや役割については、香川県及び高松市の幹部職員をゲストスピーカーとして招へいする。</u>そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。</p>	<p>例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解し、そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。</p>
---	--

(改善事項) 観光振興学科

【教育課程等】

7 <キャリア形成教育の一層の充実>

キャリア形成必読書のリストについて、学生がより効果的に活用できるよう、専門分野や推奨年次ごとに体系化する等の充実を図ること。

(対応)

1. <対応の概要>

キャリア形成必読書のリストについて、学生がより効果的に活用できるよう、専門分野や推奨年次ごとに体系化する。

2. <キャリア形成必読書のリストについて>

本リストに掲載されている必読書については、1年次の基礎演習及び3年次の専門演習において教材として取り上げるものであるとともに、学生のキャリア教育として自学自修の態度や思考力の向上を図る上で有効なものを専任教員がリストアップしたものであり、授業以外での有効活用も図っていきいたいと考えている。

3. <補正の方針>

審査意見を踏まえ、日本十進分類法の類目表及び要目表により、リストの並べ替えを行い、さらに「基礎演習」の教材となると考えられるものと、「専門演習」の教材となると考えられるもの分類するとともに、推奨年次を明記することとする。(資料6 キャリア形成必読書100冊)

4. <リストの書式の修正>

必読書リストの書式としては、以下のように修正し、補正後のリストを別添資料として、本書類及び設置の趣旨を記載した書類に添付する。(資料6 キャリア形成必読書100冊)

日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							1年次	2年次	3年次
1 哲学 (哲学、心理学、倫理学、宗教学)	0総記 (情報学、図書館、図書、百科事典、一般論文集、逐次刊行物、団体、ジャーナリズム、叢書)	1	梅棹忠夫	知的生産の技術	岩波書店		●		●	
		2	西堀 栄三郎	石橋を叩けば壊れない	生産性出版			●		
		3	松宮秀治	ミュージアムの思想	白水社					●
		116倫理学、弁証法、方法論	4	内田樹	寝ながら学べる構造主義	文芸春秋			●	
		121日本思想	5	和辻哲郎	『風土—人間学的考察』	岩波文庫	●		●	
		140心理学	6	ロビン・ダンバー	発達の数は何人? ダンバー数とつながりの進化心理学	インターシフト		●		●
		141普通心理学、心理各論	7	外山道比古	思考の整理学	筑摩書房	●		●	
		141普通心理学、心理各論	8	苜谷 剛彦	知的探偵思考法	講談社+α				●
		145異常心理学	9	ちきりん	自分のアタマで考えよう	ダイヤモンド社				●
		146臨床心理学、精神分析学	10	岸見一郎、古賀史健	嫌われる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教え	ダイヤモンド社	●			●
		159人生訓、教訓	11	Haruhiko Saito	マインドセット「やればできる」の研究	草思社			●	
		159人生訓、教訓	12	クランボルツ	その幸運は偶然ではないんです	ダイヤモンド社			●	●
		159人生訓、教訓	13	堀本哲史	僕は君たちに武器を配りたい	講談社文庫	●		●	
		159人生訓、教訓	14	吉野謙三郎	君たちはどう生きるか	岩波文庫	●		●	
		164神話、神話学	15	阿刀田高	ギリシア神話を知っていますか	新潮社	●		●	
		167イスラム教	16	菊地達也	『図説イスラム教の歴史』	河出書房新社	●		●	
		193聖書	17	阿刀田高	旧約聖書を知っていますか	新潮文庫	●		●	
		198各教派、教会史	18	渡辺和子	置かれた場所で咲きなさい	幻冬舎			●	

5. <設置の趣旨等を記載した書類の補正>

設置の趣旨等を記載した書類の21ページ及び64ページを以下のとおり、補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類 21ページ)

なお、基礎科目群では、社会人としての一般常識もまた不可欠な能力であるため、上記の「基礎演習」と「キャリアデザイン論」において、一般常識の必要性についても学生に啓発する。同時に、生涯にわたるキャリア形成の一助となる「キャリア形成必読書リスト 100 冊」を作成し、そのリストの中から特に3冊を選定し、そのうち一般常識関連の1冊については基礎演習で、また職業専門科目関連の2冊については専門演習で、それぞれの必読書の読み方等を指導する。このようにして、学生が社会人の一般常識を自ら日常的に学修し続ける態度を育成する。「キャリア形成必読書リスト 100 冊」は日本十進分類法の類目表及び要目表により整理し、基礎演習の対象となるものと専門演習の対象となるものの区分を明示するとともに、推奨年次についても表記する。

(設置の趣旨等を記載した書類 64ページ)

また、本学は、教養教育に関連する書籍を含め、「キャリア形成必読書リスト 100 冊」という推薦図書を選定し、そのうち3冊について、学生が在学期間中にそれらの図書を読破するように指導する。その指導は、書籍の内容に応じ、一般常識関連の書籍については「基礎演習」において、また、書籍の内容が職業専門科目に関連する書籍については「専門演習」において行う。「キャリア形成必読書リスト 100 冊」は日本十進分類法の類目表及び要目表により整理し、基礎演習の対象となるものと専門演習の対象となるものの区分を明示するとともに、推奨年次についても表記する。

(新旧対照表) 資料 27 キャリア形成必読書リスト 100 冊

新	旧
(追加した項目)	
<u>日本十進分類表</u> 類目表	(新規)
要目表	
<u>当初番号</u>	
<u>基礎演習</u>	
<u>専門演習</u>	
<u>推奨年次</u>	
1年次	
2年次	
3年次	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 21 ページ) (旧 21 ページ)

新	旧
なお、基礎科目群では、社会人としての一般常識もまた不可欠な能力であるため、上記の「基礎演習」と「キャリアデザイン論」において、一般常識の必要性についても学生に啓発する。同時に、	なお、基礎科目群では、社会人としての一般常識もまた不可欠な能力であるため、上記の「基礎演習」と「キャリアデザイン論」において、一般常識の必要性についても学生に啓発する。同時に、

<p>生涯にわたるキャリア形成の一助となる「キャリア形成必読書リスト 100 冊」を作成し、そのリストの中から特に 3 冊を選定し、そのうち一般常識関連の 1 冊については基礎演習で、また職業専門科目関連の 2 冊については専門演習で、それぞれの必読書の読み方等を指導する。このようにして、学生が社会人の一般常識を自ら日常的に学修し続ける態度を育成する。<u>「キャリア形成必読書 100 冊」は日本十進分類法の類目表及び要目表により整理し、基礎演習の対象となるものと専門演習の対象となるものの区分を明示するとともに、推奨年次についても表記する。</u></p>	<p>生涯にわたるキャリア形成の一助となる「キャリア形成必読書リスト 100 冊」を作成し、そのリストの中から特に 3 冊を選定し、そのうち一般常識関連の 1 冊については基礎演習で、また職業専門科目関連の 2 冊については専門演習で、それぞれの必読書の読み方等を指導する。このようにして、学生が社会人の一般常識を自ら日常的に学修し続ける態度を育成する。</p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 67 ページ) (旧 64 ページ)

新	旧
<p>また、本学は、教養教育に関連する書籍を含め、「キャリア形成必読書リスト 100 冊」という推薦図書を選定し、そのうち 3 冊について、学生が在学期間中にそれらの図書を読破するように指導する。その指導は、書籍の内容に応じ、一般常識関連の書籍については「基礎演習」において、また、書籍の内容が職業専門科目に関連する書籍については「専門演習」において行う。<u>「キャリア形成必読書 100 冊」は日本十進分類法の類目表及び要目表により整理し、基礎演習の対象となるものと専門演習の対象となるものの区分を明示するとともに、推奨年次についても表記する。</u></p>	<p>また、本学は、教養教育に関連する書籍を含め、「キャリア形成必読書リスト 100 冊」という推薦図書を選定し、そのうち 3 冊について、学生が在学期間中にそれらの図書を読破するように指導する。その指導は、書籍の内容に応じ、一般常識関連の書籍については「基礎演習」において、また、書籍の内容が職業専門科目に関連する書籍については「専門演習」において行う。</p>



【教育課程等】

8 <実習科目の内容等が不明確>

臨地実務実習に関する以下の点について、適切に対応すること。

- (1) 「臨地実務実習Ⅲ」の実習先に四国キヨスク株式会社が設定されているが、本実習先での実習による効果が不明確なため、実習内容が単なる接客業務の体験にとどまらず、実習を通じて具体的にどのように必要な能力を修得するのかを明確に説明すること。

(対応)

1. <対応の概要>

四国キヨスク株式会社における臨地実務実習の実習内容及び実習を通じて具体的にどのように必要な能力を修得するのかを明確に説明する。

2. <四国キヨスク株式会社における臨地実務実習>

四国旅客鉄道株式会社は、四国における基幹的公共輸送機関としての鉄道事業を中心に、バス、ホテル、物販やITビジネスなど幅広い事業を展開している。新型特急車両やICカードの導入、地域と連携した観光開発・誘客、鉄道以外のビジネス強化にも取り組んでいる。さらに安全・安心輸送を前提としつつ、四国への観光誘客の促進、地域と連携した観光需要の創出、「ものがたり列車」をはじめとする観光列車の運行、インバウンド事業等を積極的に展開している。

四国キヨスク株式会社は、JR四国グループの一員として、「お客さま第一」の店づくり、品揃えやサービスの提供に取り組んでいる。JR四国の「駅ナカ」を中心に、四国地域ならではの土産品や特産品を取扱いや商品の開発に取り組み、駅利用の観光客や地域住民に密着した小売業として、魅力ある店づくりを通して、地域に貢献し、信頼される企業を目指しており、地域の名産品や土産品の販売だけでなく、新たな地域の特産品の発見や開発に尽力している。そこには、創意工夫が必要となり、マーケティングやブランディングの能力も必要となってくるため、学生にとっては、ホスピタリティの実践能力の修得に加え、経営の視点からマーケティングやブランディングについても学修することができる臨地実務実習施設である。

3. <四国キヨスク株式会社における臨地実務実習の内容の補正>

審査意見を踏まえ、四国キヨスク株式会社における臨地実務実習の内容を以下のとおり補正し、この実習を通じて具体的にどのように必要な能力を修得するのかを明確に説明する。

(四国キヨスク株式会社における臨地実務実習の内容)

⑦キヨスク業務実習 (実習の期間：1週間 主たる実習場所：四国キヨスク[高松銘品館、丸亀店、坂出店、宇多津店])

- ・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ・本業とのシナジー効果等を学修した上で、その一例として、駅構内での地元名産品販売を中心とするキヨスク業務を、実習施設実務担当者の指導の下、体験するとともに、新規商品の模擬企画実習を実施する。また、マネジメントの立場から、商品企画の重要性、意義等について理解出来るよう、実習先実務担当者の指導に基づき学修する。

れにより、顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得し、ブランディングやマーケティングに対する理解を深める。

#### 4. <評価との関係>

これにより、設置の趣旨等を記載した書類の資料55 臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅲ(鉄道クラス)】の評価項目の「C思考力、3. 経営の視点」に繋がり、最終的には到達目標に掲げる「⑥鉄道事業の新規需要/マーケット開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、IT等を活用したイノベーション等について、自己のアイデアを発表することができる。」を達成するための実習であることが明確になる。(資料7 臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅲ(鉄道クラス)】)

#### 5. <設置の趣旨等を記載した書類及び臨地実務実習クラス別実習計画書の補正>

このため、設置の趣旨等を記載した書類132ページ及び資料54の臨地実務実習クラス別実習計画書を以下のとおり補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類132ページ)

#### ⑦キヨスク業務実習(実習の期間: 1週間 主たる実習場所: 四国キヨスク[高松銘品館、丸亀店、坂出店、宇多津店])

- ・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ・本業とのシナジー効果等を学修した上で、その一例として、駅構内での地元名産品販売を中心とするキヨスク業務を、実習施設実務担当者の指導の下、体験するとともに、新規商品の模擬企画実習を実施する。また、マネジメントの立場から、商品企画の重要性、意義等について理解出来るよう、実習先実務担当者の指導に基づき学修する。これにより、顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得し、ブランディングやマーケティングに対する理解を深める。

(資料54 臨地実務実習クラス別実習計画書)

実習の内容

#### ●キヨスク業務実習(実習の期間: 1週間 主たる実習場所: 四国キヨスク[高松銘品館、丸亀店、坂出店、宇多津店])

- ・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ・本業とのシナジー効果等を学修した上で、その一例として、駅構内での地元名産品販売を中心とするキヨスク業務を、実習施設実務担当者の指導の下、体験するとともに、新規商品の模擬企画実習を実施する。また、マネジメントの立場から、商品企画の重要性、意義等について理解出来るよう、実習先実務担当者の指導に基づき学修する。これにより、顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得し、ブランディングやマーケティングに対する理解を深める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 147 ページ) (旧 132 ページ)

新	旧
<p><b>⑦キヨスク業務実習 (実習の期間：1週間 主たる実習場所：四国キヨスク[高松銘品館、丸亀店、坂出店、宇多津店])</b></p> <p>・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ・本業とのシナジー効果等を学修した上で、その一例として、駅構内での地元名産品販売を中心とするキヨスク業務を、<u>実習施設実務担当者の指導の下、体験するとともに、新規商品の模擬企画実習を実施する。また、マネジメントの立場から、商品企画の重要性、意義等について理解出来るよう、実習先実務担当者の指導に基づき学修する。これにより、顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得し、ブランディングやマーケティングに対する理解を深める。</u></p>	<p><b>⑦キヨスク業務実習 (実習の期間：1週間 主たる実習場所：四国キヨスク[高松銘品館、丸亀店、坂出店、宇多津店])</b></p> <p>・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ・本業とのシナジー効果等を学修した上で、その一例として、駅構内での地元名産品販売を中心とするキヨスク業務を、<u>実習施設実務担当者の指導の下、体験する。また、顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得する。</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料 54 臨地実務実習クラス別計画書

新	旧
<p>実習の内容</p> <p>●キヨスク業務実習 (実習の期間：1週間 主たる実習場所：四国キヨスク[高松銘品館、丸亀店、坂出店、宇多津店])</p> <p>・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ・本業とのシナジー効果等を学修した上で、その一例として、駅構内での地元名産品販売を中心とするキヨスク業務を、<u>実習施設実務担当者の指導の下、体験するとともに、新規商品の模擬企画実習を実施する。また、マネジメントの立場から、商品企画の重要性、意義等について理解出来るよう、実習先実務担当者の指導に基づき学修する。これにより、顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得し、ブランディングやマーケティングに対する理解を深める。</u></p>	<p>実習の内容</p> <p>●キヨスク業務実習 (実習の期間：1週間 主たる実習場所：四国キヨスク[高松銘品館、丸亀店、坂出店、宇多津店])</p> <p>・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ・本業とのシナジー効果等を学修した上で、その一例として、駅構内での地元名産品販売を中心とするキヨスク業務を、<u>実習施設実務担当者の指導の下、体験する。また、顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得する。</u></p>

(是正事項) 観光振興学科

**【教育課程等】**

8 <実習科目の内容等が不明確>

臨地実務実習に関する以下の点について、適切に対応すること。

(2) 実習先の実習指導者については、適切な指導能力を有する必要があるが、実務経験年数が少ない(特に少ないものでは2年)実習指導者のみの実習先も散見されるため、本学における実習指導者の考え方や妥当性を明確に説明し、必要に応じて実習指導者や実習先を適切に修正すること。

(対応)

1. <対応の概要>

本学における実習指導者の考え方や妥当性を明確に説明し、実習指導者の実務経験年数を再確認し、その妥当性を明確に説明する。

2. <本学の臨地実務実習指導者の選定に関する基準>

本学では、実務家教員のおおむね実務経験5年以上の基準に準じて、臨地実務実習施設の指導者の経験年数を3年以上としているが、設置の趣旨等を記載した書類の本文には明確に記載しておらず、設置の趣旨等を記載した書類の「資料 50 臨地実務実習施設の選定基準」にのみ記載していた。そのため、設置の趣旨等を記載した書類 119 ページにその旨を追記して、明確にする。

(設置の趣旨等を記載した書類 119 ページ)

**11-3 実習施設の確保の状況**

**(1) 教育課程に必要な実習施設の確保**

実習施設の数、各臨地実務実習に割り振られる学生数の上限、実習全体のスケジュール、各団体の受け入れ可能人数等を勘案した結果として決定した。実習施設は、航空会社 8 社 (10 施設)、鉄道会社 4 社 (13 施設)、ホテル 13 社 (16 施設)、旅館 8 社 (11 施設)、旅行会社 1 社 (1 施設)、その他の観光事業所 39 社 (40 施設) の計 73 社 (91 施設) であり、それらの実習施設は、本学が定める「臨地実務実習施設の選定基準」に基づき選定した。

臨地実務実習施設の実習指導者については、本学教育課程における臨地実務実習の目的と意義を理解したうえで、実習目的の実務に精通し、大学専門職業教育としての臨地実務実習を真摯に担当できる人材であることを条件とし、3年以上の実務経験を有することを確認したうえで、当該指導者が臨時実務教育の意味を理解し教育に対する適正な能力や姿勢等を具えているかを確認することとしている。

3. <基準に基づく再確認(特に少ないものは2年)>

イーストとくしま観光推進機構の実習指導者は、当該団体には2年の実績を有するのみであるが、観光に関連する実務実績が他機関においてあるため、その点を確認して別記様式第7号の4(その3)「臨地実務実習施設の概要」を補正する。

イーストとくしま観光推進機構の勇 寿憲専務理事の実務経験は、以下のとおりである。

昭和62年 株式会社リクルート入社  
 平成9年 北海道テレビ放送株式会社入社 営業推進部、編成部等を歴任  
 平成27年 メディアプロモーション事業部、プロモーション事業部にて食資源のブランディングや観光資源の発掘・磨き上げならびに番組の企画・制作に従事。

- 【主な業績】
- ・イチオシまつり自治体エリア監修、営業統括
  - ・地元商品開発企画コーディネーター
  - ・森町さくらまつりプロデュース
  - ・十勝イノベーションプログラム参加
  - ・南空知4町定住移住企画番組プロデュース
  - ・奈井江町定住移住動画企画プロデュース
  - ・滝上町アクティビティ開発企画プロデュース
  - ・天塩町産品再発見&ブランディング事業企画プロデュース
  - ・千歳空港商品開発事業 他

平成30年 イーストとくしま観光推進機構 専務理事 就任

このような経歴から、平成27年から29年までの3年間の実務経験を認め、別記様式第7号の4（その3）「臨地実務実習施設の概要」実務経験欄を「5年」に補正する。

#### 4. <基準に基づく再確認（その他）>

その他の臨地実務実習施設についても、あらためて確認を行った結果、経験年数別分布は以下のとおりとなった。

##### ○経験年数分布

実務経験年数	人数
4年	5名
5年～9年	41名
10年～14年	45名
15年～19年	21名
20年～24年	26名
25年～29年	16名
30年以上	19名

##### （資料8 臨地実務実習施設指導者の実務経験年数一覧）

また、これに伴う一部修正により、別記様式第7号の4（その3）「臨地実務実習施設の概要」を下記のとおり補正する。

##### ◎四国キヨスク坂出駅店

大久保晋二店長の実務経験をJR四国人事部に確認したところ、2014年12月1日採用のため補正時には5年になるとの回答を得たため、実務経験を「5年」に補正する。また、実務経験11年を有する指導者を1名追加して補正する。

##### ◎せとうち観光推進機構

金平京子事業本部長の実務経験を当初は「4年」と記載していたが、以下のような豊富な実務経験を確認できたため、実務経験を「36年」に補正する。

【金平京子氏のこれまでの主な職務経歴】

一般社団法人せとうち観光推進機構 専務理事 兼 事業本部長略歴 氏名：金 平 京 子

主な略歴等： 1983 年 株式会社オリエンタルランド エンターテイメント部及び営業本部

1987 年 株式会社東急エージェンシー 外資担当シニア・アカウント・スーパーバイザー

1997 年 オーストラリア政府観光局 ブランド・デベロップメント・マネージャー

2001 年 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 マーケティング・マネージャー

2004 年 英国政府観光庁 日本・韓国代表

2008 年 オーストラリアニューサウスウェールズ州政府観光局 日本局長

2011 年 東京都中央区区民部 副参事（観光・文化振興特命担当）

2014 年 オーストラリア・ビクトリア州政府観光局 日本局長 2014 年 公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー 東京支局長

2016 年～現在 ドバイ政府観光局・商務局 副代表

2018 年～現在 JNTO(日本政府観光局)アドバイザー

2019 年 10 月～現在 一般社団法人せとうち観光推進機構 専務理事 兼 事業本部長

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新129ページ) (旧119ページ)

新	旧
<p><b>11-3 実習施設の確保の状況</b></p> <p><b>(1)教育課程に必要な実習施設の確保</b></p> <p>実習施設の数は、各臨地実務実習に割り振られる学生数の上限、実習全体のスケジュール、各団体の受け入れ可能人数等を勘案した結果として決定した。実習施設は、航空会社 8 社 (10 施設)、鉄道会社 4 社 (13 施設)、ホテル 13 社 (16 施設)、旅館 8 社 (11 施設)、旅行会社 1 社 (1 施設)、その他の観光事業所 39 社 (40 施設) の計 73 社 (91 施設) であり、それらの実習施設は、本学が定める「<u>臨地実務実習施設の選定基準</u>」に基づき選定した。<b>(資料 49 臨地実務実習施設一覧) (資料 50 臨地実務実習施設の選定基準)</b></p> <p><u>臨地実務実習施設の実習指導者については、本学教育課程における臨地実務実習の目的と意義を理解したうえで、実習目的の実務に精通し、大学専門職業教育としての臨地実務実習を真摯に担当できる人材であることを条件とし、3年以上の実務経験を有することを確認したうえで、当該指導者が臨時実務教育の意味を理解し教育に対する適</u></p>	<p><b>11-3 実習施設の確保の状況</b></p> <p><b>(1)教育課程に必要な実習施設の確保</b></p> <p>実習施設の数は、各臨地実務実習に割り振られる学生数の上限、実習全体のスケジュール、各団体の受け入れ可能人数等を勘案した結果として決定した。実習施設は、航空会社 8 社 (10 施設)、鉄道会社 4 社 (13 施設)、ホテル 13 社 (16 施設)、旅館 8 社 (11 施設)、旅行会社 1 社 (1 施設)、その他の観光事業所 39 社 (40 施設) の計 73 社 (91 施設) であり、それらの実習施設は、本学が定める「<u>臨地実務実習施設の選定基準</u>」に基づき選定した。<b>(資料 49 臨地実務実習施設一覧) (資料 50 臨地実務実習施設の選定基準)</b></p> <p>(新規)</p>

<p>正な能力や姿勢等を具えているかを確認すること としている。</p> <p><b>(資料 70 臨地実務実習施設指導者の実務経験年数 一覧)</b></p>	
--	--

(新旧対照表) 臨地実務実習施設の概要 (59ページ)

新	旧
<p>実習指導者 氏名 大久保晋二 所属・職名 坂出駅店・店長 実務経験年数 <u>5年</u></p> <p>氏名 <u>川井優子</u> 所属・職名 <u>坂出駅店・店舗主任</u> 実務経験年数 <u>11年</u></p>	<p>実習指導者 氏名 大久保晋二 所属・職名 坂出駅店・店長 実務経験年数 4年</p> <p>(新規)</p>

(新旧対照表) 臨地実務実習施設の概要 (87ページ)

新	旧
<p>実習指導者 氏名 勇 寿憲 所属・職名 専務理事 実務経験年数 <u>5年</u></p>	<p>実習指導者 氏名 勇 寿憲 所属・職名 専務理事 実務経験年数 2年</p>

(新旧対照表) 臨地実務実習施設の概要 (91ページ)

新	旧
<p>実習指導者 氏名 金平京子 所属・職名 事業本部長 実務経験年数 <u>36年</u></p>	<p>実習指導者 氏名 金平京子 所属・職名 事業本部長 実務経験年数 4年</p>

(是正事項) 観光振興学科

**【教育課程等】**

8 <実習科目の内容等が不明確>

臨地実務実習に関する以下の点について、適切に対応すること。

(3) 本学の臨地実務実習を担当する実務家教員は高齢の者が多く、担当科目・単位数も多いことから、巡回指導以外の実習に係る日常的な学生への指導も含めた実習指導体制が適切か疑義があるため、本学の実習指導体制について、組織的なサポート体制も含めて妥当性を明確に説明し、必要に応じて適切に修正すること。

(対応)

1. <対応の概要>

実習の指導体制について、明確に説明し、そのうえで実習指導担当教員の負担について検証するとともに、臨地実務実習の指導に伴う教員の授業担当コマ数が月曜日から金曜日の全コマ数25コマのうち、20コマを超えないように修正する。また、これらを支える本学の組織的なサポート体制についても明確に説明する。

2. <臨地実務実習の指導体制>

臨地実務実習の現場における具体的な指導体制については、設置の趣旨等を記載した書類の119ページ、143ページ、146ページに記載していたが、審査意見を踏まえ、これらを時系列に整理し直し、以下のとおり取りまとめた形で説明を加えることとする。これにより、設置の趣旨等を記載した書類の146ページに以下のとおり追記し、補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類の146ページ)

**11-11 実習指導体制に関するまとめ**

これまで、臨地実務実習の計画について述べてきたが、その根幹となる指導体制について、改めて時系列に整理しなおし、各々の役割や責任を確認する。

**(1) 実習の学内体制の整備**

① 実習の運営にあたり、学科内に「実習運営委員会」を設置する。本委員会は、学科長、学術系専任教員2名、実習担当専任教員7名、実習担当職員2名で構成する。委員長は、学科長とする。実習担当専任教員は、実習の実質的な運営と成績評価を行い、学術系専任教員は、実習をディプロマ・ポリシー(DP)に沿った実習プログラムとするための授業設計支援を行う。職員は実習運営にかかる諸手続きを担う。

**(2) 実習の事前協議**

② 実習前に各実習施設において「実習調整会議」を開催する。当会議に出席するのは、本学の実習担当教員と、実習施設の責任者及び実習指導者である。

**(3) 実習の事前指導**

③ CP4 の③「臨地実務実習事前学修科目群」の「ホスピタリティ実務実習A・B」(いずれか1科目選択必修)、「観光支援ビジネス実務基礎論」(必修)、「観光実務基礎論」(必修)、「観光実務応



用論」(必修)によって、実習の事前指導を行う。これらは担当実務系専任教員が指導する。

#### **(4)実習中の指導**

- ④ 臨地実務実習施設の実習指導者を配置し、実習指導者は、本学と実習施設の間で作成した実習目的と実習プログラムに基づき、本学実習担当教員と連携して実習生の指導に当たる。
- ⑤ 学生は実習期間中活動日誌を作成し、実習施設の指導者の確認の後、それらを写真等におさめ、本学の実習担当教員に、週に1回、メール等で送信することとする。
- ⑥ 実習中は、各実習担当教員が実習施設に出向き、学生の実習現場を観察し、実習施設の担当者との意見を交換して、学生の実習状況を確認する。巡回頻度は実習内容によって異なり、臨地実務実習Ⅰにおいては、実習担当の全教員が分担し、2週間に1回巡回指導を行う。また、臨地実務実習Ⅱ及びⅢの航空クラスは3名の教員が、宿泊クラス、観光地域創生クラスにおいては、2名の教員が分担し、3週間に1回、実習施設にて巡回指導を行う。また、鉄道クラスでは2名の教員が週に1回実習施設にて巡回指導を行う。
- ⑦ 「実習施設指導者による臨地実務実習の評価」については、実習施設の業種や業務に関わらず、学生が修得すべき能力を一般化して評価することを中心とする。具体的には、実習により体得すべき「A実践力」及び「B協働力」を主体として、その土台となる「C思考力」についても評価する。また、それぞれの能力の下には、具体的に修得すべき技能や知識を「実務知識技能」「安全確保」「ホスピタリティ」「チームワーク」「リーダーシップ」「他者への共感・受容・気配り」「変革と新しい価値創造」「職業倫理」「経営の視点」のように細分化して定める。臨地実務実習施設の業種や業務ごとの評価については、それぞれの到達目標の達成度を評価することにより行うものとする。
- ⑧ 成績評価については、実習担当教員が行う。評価は、「1. 実習施設指導者による実習評価書」、「2. 実習直後に学生が提出する振り返りレポート」という2点の評価基準によってなされる。

#### **(5)実習中の連絡体制**

- ⑨ 実習の運営に係る諸連絡は、実習担当教員と実習施設指導者の間でなされるが、その際、実習担当教員による判断や対応の困難な問題等が発生した場合には、実習担当教員から実習運営委員会委員長(学科長)へ即座に報告する連絡体制を敷いて、実習運営委員会が迅速に対応できる体制を整備する。

#### **(6)実習の事後指導**

- ⑩ CP4の⑤「臨地実務実習事後学修科目群」の「観光ビジネス実務発展論」(必修)、「観光実務発展論」(必修)、「観光実務マネジメント論」(必修)によって、実習の事後指導を行う。これらは担当実務系専任教員が指導する。

#### **(7)実習の事後協議**

- ⑪ 実習終了後、「実習調整会議」において、実習の成果や教育の質の保証の確認を行い、改善策等を協議する。

3. <臨地実務実習の指導体制における業務分担>

上記2の指導体制を、担当者別にその役割と業務を分類すると、次の表のとおりとなる。

(資料9 臨地実務実習に関する業務担当表)

項目 番号	役割・業務	実習運営委員会											臨地実務実習施設			
		学科長	実習担当教員(実務系専任教員)							学術系専任教員		事務職員		責任者	指導者	
		安村	青木	安本	堀田	石床	小島	阿部	古川	平	谷崎	A	B	SK	SD	
①	実習運営委員会	委員長	運営、指導、成績評価							授業設計支援		諸手続				
②	実習調整会議(事前協議)	総括	○	○	○	○	○	○	○	実務家教員の補助業務		○	○	◎	◎	
③	事前学修科目	ホスピタリティ実務実習A			1年2Q						授業準備支援					
		ホスピタリティ実務実習B				1年2Q					授業準備支援					
		観光支援ビジネス実務基礎論			1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q		授業準備支援					
		観光実務基礎論			2年1Q		2年1Q		2年1Q		授業準備支援					
④	実習指導(実習施設)	観光実務応用論			2年3Q		2年3Q		2年3Q		授業準備支援					
														○	◎	
⑤	臨地実務実習活動報告	臨地実務実習Ⅰ			1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q		学生の生活面の支援		報告書整理・確認補助		確認	
		臨地実務実習Ⅱ		2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	学生の生活面の支援		報告書整理・確認補助			
		臨地実務実習Ⅲ		2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	学生の生活面の支援		報告書整理・確認補助			
⑥	臨地実務実習巡回指導	臨地実務実習Ⅰ			1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q						◎	
		臨地実務実習Ⅱ		2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q						
		臨地実務実習Ⅲ		2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q						
⑦	成績評価(実習施設)														◎	
⑧	成績評価(本学)		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
⑨	実習中の連絡	有事対応	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑩	事後学修科目	観光支援ビジネス実務発展論			1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q		授業準備支援		報告書整理・確認補助			
		観光実務発展論			2年3Q		2年3Q		2年3Q		授業準備支援		報告書整理・確認補助			
		観光実務マネジメント論			3年1Q		3年1Q		3年1Q		授業準備支援		報告書整理・確認補助			
⑪	実習調整会議(事後協議)	総括	○	○	○	○	○	○	○	実務科教員の補助業務		○	○	◎	◎	
	開設時の年齢		66	72	61	65	51	68	51	64	34	31				

◎は本人が参加しなければならない会議・役割、○は分担して参加する会議・役割

※この他、事務局学生課(教務学生センター、キャリアセンター)が業務全般のサポート業務を行う。

この表のように、本学は臨地実務実習を「事前学習—臨地実務実習—事後学修」のセットで行うために、臨地実務実習を担当する実務家教員の中でも、安本幸博、堀田明美、石床渉、小島英夫、阿部有香の5名が多忙となると思われるが、この5名の平均年齢は59.4歳であり、本学の教員定年規程の基準を5歳下回っている。

この5名のうち、65歳以上となる者は小島英夫、堀田明美の2名である。小島英夫は、都市部の大規模ホテルでの実務経験を有し、かつ地元ホテルの経営者として、宿泊産業の現場における業務全般について精通しているだけでなく、経営的観点から総合的に業務を推進してきた経験を有しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではない。また、現在も臨地実務実習施設への協力依頼や実習内容の打合せ等に事務職員とともに出向いており、遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。また、堀田明美は、航空会社において長く客室乗務員として勤務した経験があり、航空産業の業務全般に精通しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではなく、航空クラスの巡回指導のための遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。

以上のような状況から、本学における臨地実務実習を担当する実務家教員の構成は妥当であると考える。しかしながら、審査意見を踏まえて、以下、個人別に時間割を作成することにより、教員の負担を検証する。

4. <臨地実務実習を担当する実務家教員の負担>

本学の専任教員の負担を検証するため、専任教員の個人別の時間割をクォーター及び週ごとに作成した。(資料10 専任教員個人別時間割) これに基づき、完成年次における各専任教員の授業担当コマ数を確認すると(資料11 専任教員の担当授業コマ数一覧)のとおりとなり、授業以外に想定

される教授会や各委員会、研究会議やオフィスアワーに対応することや臨地実務実習に伴う巡回指導やその移動時間を確保することも可能であり、直ちに教員・研究に支障をきたすものではないと考えている。

### 専任教員の授業担当コマ数一覧

※   は臨地実務実習期間で、巡回指導(移動時間を含む)及び学内指導を、授業担当コマ数に換算している。

区分	クォーター		第1クォーター								第2クォーター								年間 総コマ数		
	週		1	2	3	4	5	6	7	8	平均	1	2	3	4	5	6	7		8	平均
	専任教員氏名	年齢																			
学術系教員	安村克己		6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	120
	吉田雄介		8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
	田保 顕		2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	90
	平 侑子		8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
	谷崎友紀		8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
実務系教員	安本幸博		5	5	5	5	5	5	5	4	4.9	4	15	12	2	15	12	2	1	7.9	206
	小島英夫		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	12	17	12	12	17	12	1	10.5	216
	石床 涉		3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	5	16	11	6	16	11	6	3	9.3	208
	青木義英		4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	2	18	3	3	18	3	3	1	6.4	102
	藤野公孝		5	5	5	5	5	5	5	3	4.8	3	3	3	3	3	3	3	2	2.9	90
	堀田明美		4	3	3	4	3	3	3	3	3.3	5	16	14	9	16	14	9	3	10.8	208
	古川康造		0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	2	13	8	3	13	8	3	1	6.4	87
	阿部有香		3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	1	12	12	2	12	12	2	1	6.8	188
区分	クォーター		第3クォーター								第4クォーター								平均 コマ数		
	週		1	2	3	4	5	6	7	8	平均	1	2	3	4	5	6	7		8	平均
	専任教員氏名	年齢																			
学術系教員	安村克己		4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	2	2	2	2	2	2	2	1	1.9	3.8
	吉田雄介		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8
	田保 顕		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	3	3	3	3	3	3	2	1	2.6	2.8
	平 侑子		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8
	谷崎友紀		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8
実務系教員	安本幸博		5	5	5	5	3	9	9	4	5.6	6	7	14	9	15	7	1	0	7.4	6.4
	小島英夫		3	3	3	3	1	7	12	2	4.3	3	14	19	14	12	17	11	0	11.3	6.8
	石床 涉		5	5	5	5	3	9	14	4	6.3	3	14	9	9	12	12	1	0	7.5	6.5
	青木義英		2	2	2	2	2	2	2	1	1.9	0	1	1	1	1	1	1	0	0.8	3.2
	藤野公孝		3	3	3	3	3	3	3	2	2.9	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	2.8
	堀田明美		4	3	3	4	1	7	12	3	4.6	3	4	17	12	12	10	1	0	7.4	6.5
	古川康造		0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	11	6	1	11	6	1	0	4.5	2.7
阿部有香		5	5	5	5	3	9	14	4	6.3	3	14	14	4	12	12	1	0	7.5	5.9	

特に、臨地実務実習を担当する実務家教員の負担については、臨地実務実習中の負担が大きいと考えられるが、少しでも負担を軽減するため、次のとおり設定している。

- ①学内における学生の活動報告書の確認等のために週に1コマを必要として計算する。
- ②巡回指導については移動時間を含めて、半日で実施する場合は3コマ、日帰りの場合には5コマ、1泊2日の場合は10コマ、2泊3日の場合は15コマを必要とするものとして計算している。

③上記①及び②と学内での講義科目等を合わせて、週20コマを超えないように設定する。

- (1) 安本幸博は、1年間の担当授業コマ数が206コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.4コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「観光リスクマネジメントB」、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり4科目5コマ（8週目のみ4コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」、の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても9コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。
- (2) 小島英夫は、1年間の担当授業コマ数が216コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、3年次「専門演習」のみの1週あたり1科目1コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、3年次「専門演習」の3科目を担当し、前半4週は3コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても12コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。
- (3) 石床 渉は、1年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習B」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」「宿泊産業論」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。
- (4) 青木義英は、1年間の担当授業コマ数が102コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.2コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、1年次

「ホスピタリティマネジメント論A」、2年次「キャリアデザイン論B」の1週あたり2科目4コマ（第8週目のみ2コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、1年次「観光リスクマネジメントA」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、2年次「キャリアデザイン論A」の1科目のみを担当する。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、巡回指導には赴かないため、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は1コマとなっている。

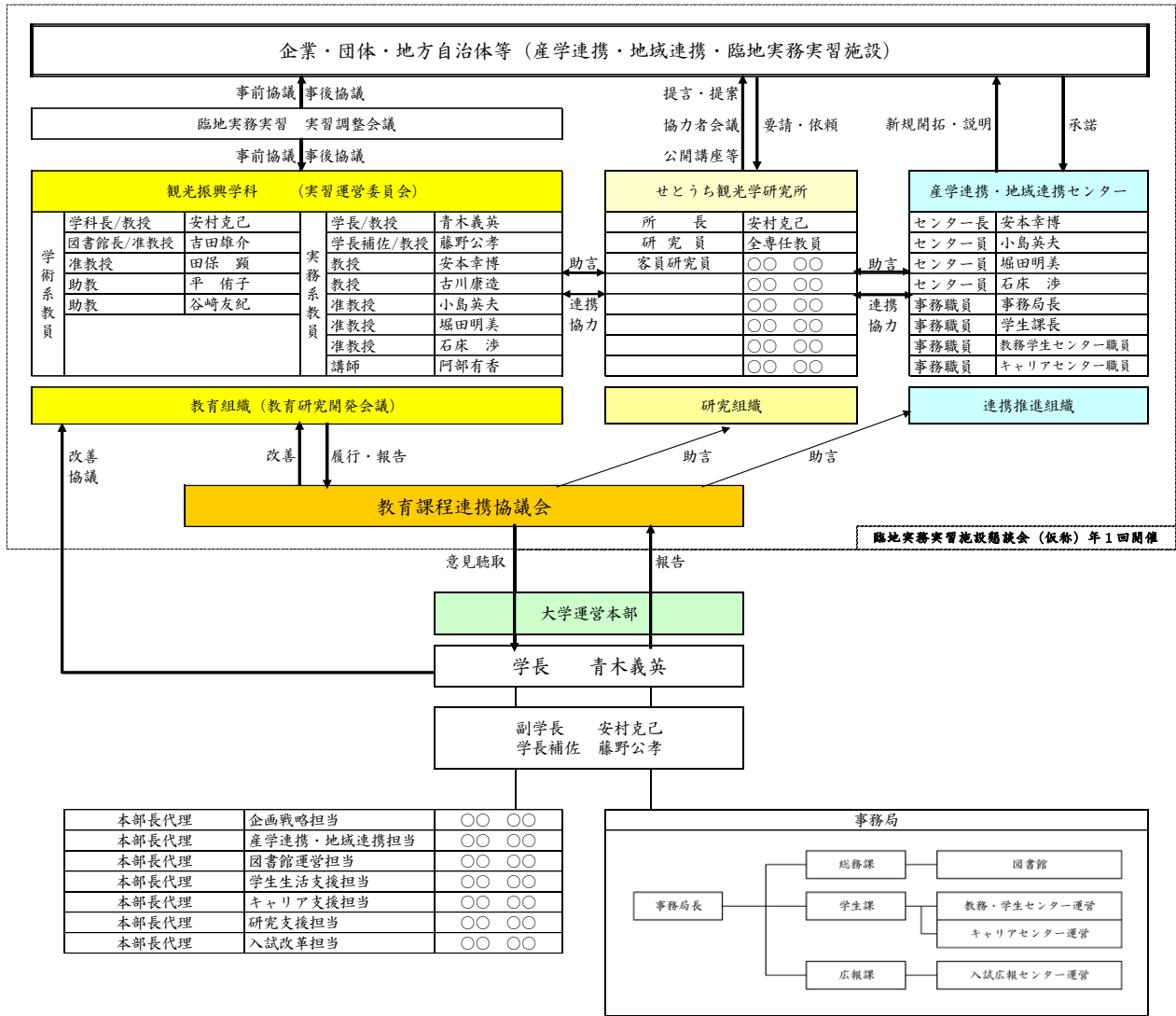
(5) 堀田明美は、1年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「キャリアデザイン論B」「ビジネスコミュニケーション」、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「キャリアデザイン論B」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、1週あたり平均3.3コマを担当することになる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習A」「ホスピタリティマネジメント論B」、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「キャリアデザイン論A」、3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「キャリアデザイン論A」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、前半4週は1週あたり平均3.5コマであり、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

(6) 古川康造は、1年間の担当授業コマ数が87コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.7コマとなる。第1クォーター及び第3クォーターは担当する授業科目はない。第2クォーターは、3年次「地域創生事業論」と2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

(7) 阿部有香は、1年間の担当授業コマ数が188コマであり、1週当たりの平均担当コマ数5.9コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

5. <本学における臨地実務実習のサポート体制>

本学の臨地実務実習については、開学後は本学の産学連携地域連携方策の中にしっかりと位置付けて、大学全体で推進していきたい。そのため、臨地実務実習の運営体制についても、以下のような組織的な体制を構築する。(資料12 臨地実務実習等に関する組織体制図)



- (1) 臨地実務実習の統括責任は、大学運営本部及び本部長である学長が負うものとする。
- (2) 学長は、臨地実務実習の運営に関して教育課程連携協議会の意見を聞くものとする。
- (3) 副本部長である副学長及び学長補佐は、学長をサポートする。
- (4) 観光振興学科は、臨地実務実習施設の開拓から実施に関する企画・立案を行う。
- (5) 観光振興学科に、実習運営委員会を置き、臨地実務実習を実施し、現場としての責任を負う。  
実習運営委員会には、実務系の実習担当教員に加え、学術系の若手教員が参画し、その機動力を生かして実務系教員を側面から支援する。
- (6) せとうち観光学研究所は、その専門的見地や研究成果を踏まえて、観光振興学科に対し臨地実務実習施設の選定及び開拓に関する助言を行うとともに、自治体・企業・団体等に対して、提案・提言を行い、有識者会議・協力者会議等への参画の要請に応える。

- (7)産学連携・地域連携センターにおいては、自治体・企業・団体等の窓口となり、働きかけや説明から連携協定の締結及びそのフォローアップに関する現場責任を負う。
- (8)臨地実務実習の実施に当たっては、本学教員と、企業・団体等の責任者及び指導者の間で実習調整会議を開催し、事前協議及び事後協議を行う。

#### 6. <設置の趣旨等を記載した書類の補正>

審査意見を踏まえ、本学における臨地実務実習の教員の指導及びサポート体制について、設置の趣旨等を記載した書類の119ページ及び146ページに以下のとおり追記し、補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類 119ページ)

#### **(4)実習中の教員の指導**

実習中は、各実習担当教員が実習施設に出向き、学生の実習現場を観察し、実習施設の担当者との意見を交換して、学生の実習状況を確認する。巡回頻度は実習内容によって異なり、臨地実務実習Ⅰにおいては、実習担当の全教員が分担し、2週間に1回巡回指導を行う。また、臨地実務実習Ⅱ及びⅢの航空クラスは3名の教員が、宿泊クラス、観光地域創生クラスにおいては、2名の教員が分担し、3週間に1回、実習施設にて巡回指導を行う。また、鉄道クラスでは2名の教員が週に1回実習施設にて巡回指導を行う。**(資料 51 せとうち観光専門職短期大学臨地実務実習 実施スケジュール)(資料 52 せとうち観光専門職短期大学臨地実務実習 巡回指導計画)**

なお、巡回指導を補うため、学生は実習期間中活動日誌を作成し、実習施設の指導者の確認の後、それらを写真等におさめ、本学の実習担当教員に、定期的にメール等で送信することとする。**(資料 53 臨地実務実習 活動日誌)**

実習担当教員は、実習施設担当者に実習運営上の課題等についても聞き取りをして、緊急性を要する課題については迅速に対応する。各実習の課題や実習全体の運営に関わる課題については、各実習担当教員間で情報を共有すると同時に、学科内に設置する「実習運営委員会」を随時開催して、課題の改善策を検討し、実習施設とも協議の上で、即座に改善策を実施する。また、実習担当教員は、巡回時に限らず、実習施設担当者と毎週定期的に電話やメール等で連絡を取り、実習の進捗状況を確認する。実習施設を巡回する移動方法は、香川県内や四国や小豆島といった近隣地域の実習施設については公用車を用い、成田、金沢、京阪、福岡、沖縄等の遠方地域については、鉄道や航空を利用する。

臨地実務実習を担当する専任教員7名のうち、安本幸博、小島英夫、石床 渉、堀田明美、阿部有香の5名が多忙となると思われるが、この5名の平均年齢は、59.4歳であり、本学の教員の定年規程の基準を5歳下回っている。

この5名のうち、65歳以上となる者は小島英夫、堀田明美の2名である。小島英夫は、都市部の大規模ホテルでの実務経験を有し、かつ地元ホテルの経営者として、宿泊産業の現場における業務全般について精通しているだけでなく、経営的観点から総合的に業務を推進してきた経験を有しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではない。また、現在も臨地実務実習施設への協力依頼や実習内容の打合せ等に事務職員とともに出向いており、遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。また、堀田明美は、航空会社において長く客室乗務員として勤務した経験があり、航空産業の業務全般に精通しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のもので



はなく、航空クラスの巡回指導のための遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。臨地実務実習を担当する専任教員の負担は、以下のとおりとなる。(資料 66 専任教員個人別時間割) (資料

### 67 専任教員の担当授業コマ数一覧)

臨地実務実習を担当する実務家教員の負担については、週によりばらつきがあるため、各クォーターにおける1週あたりのコマ数について記述する。なお、学内における学生の活動報告書の確認等のために週に1コマを必要とし、巡回指導については移動時間を含めて、半日で実施する場合は3コマ、日帰りの場合には5コマ、1泊2日の場合は10コマ、2泊3日の場合は15コマを必要するものとして計算しているが、最大でも週に20コマを超えないように設定している。

① 安本幸博は、1年間の担当授業コマ数が206コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.4コマとなる。

本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「観光リスクマネジメントB」、2年次「観光実務基礎論」(後半4週)、3年次「観光実務マネジメント論」(前半4週)「専門演習」の1週あたり4科目5コマ(8週目のみ4コマ)を担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」(6週)3年次「専門演習」、の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」(前半4週)「臨地実務実習Ⅰ」(3週)、2年次「観光実務発展論」(前半4週)「観光実務応用論」(後半4週)、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても9コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」(前半4週)、2年次「臨地実務実習Ⅲ」(6週)、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

② 小島英夫は、1年間の担当授業コマ数が216コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.8コマとなる。

本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、3年次「専門演習」のみの1週あたり1科目1コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」(6週)3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」(前半4週)「臨地実務実習Ⅰ」(3週)、3年次「専門演習」の3科目を担当し、前半4週は3コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても12コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」(前半4週)、2年次「臨地実務実習Ⅲ」(6週)、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。

③ 石床 渉は、1年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。

本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」(後半4週)、3年次「観光実務マネジメント論」(前半4週)「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習B」2年次「臨地実務実習Ⅱ」(6週)3年次「専門演習」「宿泊産業論」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」(前半4週)「臨地実務実習Ⅰ」(3週)、2年次「観光実務発展論」(前半4週)「観光実務応用論」(後半4週)、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」(前半4週)、2年次「臨地実務実習Ⅲ」(6週)、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は



最大で11コマに留めている。

- ④ 青木義英は、1年間の担当授業コマ数が102コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.2コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「ホスピタリティマネジメント論A」、2年次「キャリアデザイン論B」の1週あたり2科目4コマ（第8週目のみ2コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、1年次「観光リスクマネジメントA」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、2年次「キャリアデザイン論A」の1科目のみを担当する。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、巡回指導には赴かないため、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は1コマとなっている。
- ⑤ 堀田明美は、1年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「キャリアデザイン論B」「ビジネスコミュニケーション」、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「キャリアデザイン論B」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、1週あたり平均3.3コマを担当することになる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習A」「ホスピタリティマネジメント論B」、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「キャリアデザイン論A」、3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「キャリアデザイン論A」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、前半4週は1週あたり平均3.5コマであり、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。
- ⑥ 古川康造は、1年間の担当授業コマ数が87コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.7コマとなる。第1クォーター及び第3クォーターは担当する授業科目はない。第2クォーターは、3年次「地域創生事業論」と2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。
- ⑦ 阿部有香は、1年間の担当授業コマ数が188コマであり、1週当たりの平均担当コマ数5.9コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

**（資料 66 専任教員個人別時間割）（資料 67 専任教員の担当授業コマ数一覧）**

(設置の趣旨等を記載した書類 146ページ)

### 11-10 臨地実務実習に関する全学的なサポート体制

本学の臨地実務実習については、産学連携・地域連携方策の中にしっかりと位置付けて、大学全体で推進していきたいと考えている。そのため、以下のような全学的なサポートを構築する。

(1) 臨地実務実習の統括責任は、大学運営本部及び本部長である学長が負うものとする。

(2) 学長は、臨地実務実習の運営に関して教育課程連携協議会の意見を聞くものとする。

(3) 副本部長である副学長及び学長補佐は、学長をサポートする。

(4) 観光振興学科は、臨地実務実習施設の開拓から実施に関する企画・立案を行う。

(5) 観光振興学科に、実習運営委員会を置き、臨地実務実習を実施し、現場としての責任を負う。

実習運営委員会には、実務系の実習担当教員に加え、学術系の若手教員が参画し、その機動力を生かして実務系教員を側面から支援する。

(6) せとうち観光学研究所は、その専門的見地や研究成果を踏まえて、観光振興学科に対し臨地実務実習施設の選定及び開拓に関する助言を行うとともに、自治体・企業・団体等に対して、提案・提言を行い、有識者会議・協力者会議等への参画の要請に応える。

(7) 産学連携・地域連携センターにおいては、自治体・企業・団体等の窓口となり、働きかけや説明から連携協定の締結及びそのフォローアップに関する現場責任を負う。

(8) 臨地実務実習の実施に当たっては、本学教員と、企業・団体等の責任者及び指導者の間で実習調整会議を開催し、事前協議及び事後協議を行う。

### 7. <臨地実務実習に関する事務局のサポート体制>

また、事務局の教務・学生センター（学生課）によるサポート体制及びその実務は以下のとおりであり、組織の名称を確定したため、設置の趣旨等を記載した書類の118ページ及び68、69ページを以下のとおり補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類の 118 ページ)

### 11-2 臨地実務実習科目とクラスの選択方法

本学本学科の臨地実務実習においては、1年次第3クォーターの「観光支援ビジネス実務基礎論」「臨地実務実習Ⅰ」のクラス選択を行う必要がある。また、2年次第2クォーターの進路別の臨地実務実習Ⅱにおいては、進路に合わせて2年次第1クォーターから始まる、臨地実務実習事前学修科目の授業科目（「観光実務基礎論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」及び「臨地実務実習Ⅱ（「航空クラス」「鉄道クラス」「宿泊クラス」「観光地域創生クラス）」）のクラスを選択する。さらに、2年次第4クォーターの進路別の臨地実務実習Ⅲにおいては、進路に合わせて2年次第3クォーターから始まる、臨地実務実習事前学修科目の授業科目（「観光実務応用論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」及び「臨地実務実習Ⅲ（「航空クラス」「鉄道クラス」「宿泊クラス」「観光地域創生クラス）」）のクラスを選択する。これらのスケジュールは、概ね以下のとおり予定している。

- ① 4月上旬 履修オリエンテーション時に合わせて、臨地実務実習Ⅰのガイダンスを実施する。
- ② 4月中旬 履修相談会（就職の希望に関する面談を含む）を開催

- ③ 4月下旬 学生が、個人の学修計画として「学びのプログラム（仮称）」を作成し、教務・学生センターに提出。同時に、臨地実務実習Ⅰのクラス選択希望を教務・学生センターに提出。
- ④ 5月中旬 臨地実務実習Ⅰのクラスを決定する。
- ⑤ 翌年1月中旬 臨地実務実習Ⅱのガイダンスを実施する。
- ⑥ 翌年2月上旬 臨地実務実習Ⅱのクラス選択希望を教務・学生センターに提出。
- ⑦ 翌年2月下旬 臨地実務実習Ⅱのクラスを決定する。（教務委員会→学長決定）
- ⑧ 翌年8月上旬 臨地実務実習Ⅲのガイダンスを実施する。
- ⑨ 翌年8月中旬 臨地実務実習Ⅲのクラス選択希望を教務・学生センターに提出。
- ⑩ 翌年8月下旬 臨地実務実習Ⅲのクラスを決定する。（教務委員会→学長決定）

クラス分けにおいては、学生のクラス選択の希望に応じてできるだけ受け入れる方針だが、1クラスの学生数の上限を40名と設定するとともに、クラス内のグループ分けは、臨地実務実習施設の受け入れの状況により調整する場合がある。この上限は、学修効果の保証と、臨地実務実習における実習施設の学生受入れ人数とを考慮して決定した。あるクラスの学生希望者が40名を越えた場合やグループの希望者が臨地実務実習施設の受入可能数を超える場合には、学生の選択理由や動機づけ、普段の学修態度、就職先の志向性等を勘案して、一部の学生と相談の上で、該当学生に第一希望の選択クラスの変更を指導する。

以上のようなクラス分けの実務作業は、主に教務委員会と教務・学生センターの職員によって履行され、最終的なクラス分けの決定は、教授会の意見を聞いて学長が決定する。

（設置の趣旨等を記載した書類の68、69ページ）

## 6-2 入学時の学修計画の提出と臨地実務実習の選択方法

本学本学科の職業専門科目群において、学生は、カリキュラムツリーに従い、それぞれが3年間の学びの設計図を描く。学生の履修登録は、入学時の履修相談等を通じて、各自の「学びのプログラム（案）」を作成・提出した後、1年次の第1クォーターにおいて行われる。その後は、クォーターごとの履修ガイダンスを経て、履修登録を行う。

また、臨地実務実習においては、1年次第3クォーターの「観光支援ビジネス実務基礎論」「臨地実務実習Ⅰ」のクラス選択を行う必要がある。また、2年次第2クォーターの進路別の臨地実務実習Ⅱにおいては、進路に合わせて2年次第1クォーターから始まる、臨地実務実習事前学修科目の授業科目（「観光実務基礎論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」）及び「臨地実務実習Ⅱ（「航空クラス」「鉄道クラス」「宿泊クラス」「観光地域創生クラス）」）のクラスを選択する。さらに、2年次第4クォーターの進路別の臨地実務実習Ⅲにおいては、進路に合わせて2年次第3クォーターから始まる、臨地実務実習事前学修科目の授業科目（「観光実務応用論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」）及び「臨地実務実習Ⅲ（「航空クラス」「鉄道クラス」「宿泊クラス」「観光地域創生クラス）」）のクラスを選択する。これらのスケジュールは、概ね以下のとおり予定している。

- ① 4月上旬 履修オリエンテーション時に合わせて、臨地実務実習Ⅰのガイダンスを実施する。
- ② 4月中旬 履修相談会（就職の希望に関する面談を含む）を開催
- ③ 4月下旬 学生が、個人の学修計画として「学びのプログラム（仮称）」を作成し、教務・学生センターに提出。同時に、臨地実務実習Ⅰのクラス選択希望を教務・学生センターに提出。

- ④ 5月中旬 臨地実務実習Ⅰのクラスを決定する。
- ⑤ 翌年1月中旬 臨地実務実習Ⅱのガイダンスを実施する。
- ⑥ 翌年2月上旬 臨地実務実習Ⅱのクラス選択希望を教務・学生センターに提出。
- ⑦ 翌年2月下旬 臨地実務実習Ⅱのクラスを決定する。(教務委員会→学長決定)
- ⑧ 翌年8月上旬 臨地実務実習Ⅲのガイダンスを実施する。
- ⑨ 翌年8月中旬 臨地実務実習Ⅲのクラス選択希望を教務・学生センターに提出。
- ⑩ 翌年8月下旬 臨地実務実習Ⅲのクラスを決定する。(教務委員会→学長決定)

クラス分けにおいては、学生のクラス選択の希望に応じてできるだけ受け入れる方針だが、1クラスの学生数の上限を40名と設定するとともに、クラス内のグループ分けは、臨地実務実習施設の受け入れの状況により調整する場合がある。この上限は、学修効果の保証と、臨地実務実習における実習施設の学生受入れ人数とを考慮して決定した。あるクラスの学生希望者が40名を越えた場合やグループの希望者が臨地実務実習施設の受入可能数を超える場合には、学生の選択理由や動機づけ、普段の学修態度、進路等を勘案して、一部の学生と相談の上で、該当学生に第一希望の選択クラスの変更を指導する。

以上のようなクラス分けの実務作業は、主に教務委員会と教務・学生センターの職員によって履行され、最終的なクラス分けの決定は、教授会の意見を聞いて学長が決定する。

#### 6-5 履修指導の方法

学生が本学教育課程の教育目標と教育理念を把握したうえで、開設授業科目の目的や内容等を十分に理解し、適切な履修計画を策定できるように、以下の方法で履修指導を行う。

##### ●履修要項の作成

履修要項を作成し、その要項を用いて履修オリエンテーションを開催する。履修要項には、観光振興学科における教育の理念と目標、教育課程の内容と特徴、履修手続、履修モデル等が記載される。単位の実質化についても、学生に十分に理解させ、予習・復習の時間をきちんと確保するよう指導するとともに、学生自習室や図書館の活用を勧める。

##### ●履修モデルの作成

学生が観光振興学科の教育目標を的確に理解してその目標を体系的に達成するために、履修モデルを作成し学生に提示する。

##### ●シラバスの作成

学生が授業を履修するにあたって、授業の目的、内容、教育課程における位置付け等を把握できるようにシラバスを作成する。シラバスには、授業の概要、関連するディプロマ・ポリシー、キーワード、到達目標、授業計画、成績評価(評価の種類・評価割合・評価基準)、テキスト、参考書、授業時間外学修、課題に対するフィードバックの方法、受講ルール、連絡先等を記載する。

##### ●履修ガイダンス

履修要項やシラバス等を用いて、履修指導を目的とするオリエンテーションを実施する。履修ガイダンスは、各年次で、各クォーターの授業開始前の4月上旬、6月上旬、9月下旬、11月下旬に行われる。

加えて、窓口における教務・学生センターの職員による履修手続の指導や教員のオフィスアワーにおける履修指導等によって、履修ガイダンスによる指導を補完する。

##### ●事務局教務・学生センターの履修指導

履修登録の期間前と期間中に、履修登録の手続や方法、卒業要件等に関わる履修条件等について、学

生が個別に相談できる機会を設ける。さらに、履修の状況や卒業要件等のような、履修に関わる事柄に不安を持つ学生には、窓口等において教務・学生センターの職員が随時相談を受け付ける。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新131ページ) (旧119ページ)

新	旧
<p><b>(4)実習中の教員の指導</b></p> <p>実習中は、各実習担当教員が実習施設に出向き、学生の実習現場を観察し、実習施設の担当者との意見を交換して、学生の実習状況を確認する。巡回頻度は実習内容によって異なり、臨地実務実習Ⅰにおいては、実習担当の全教員が分担し、2週間に1回巡回指導を行う。また、臨地実務実習Ⅱ及びⅢの航空クラスは3名の教員が、宿泊クラス、観光地域創生クラスにおいては、2名の教員が分担し、3週間に1回、実習施設にて巡回指導を行う。また、鉄道クラスでは2名の教員が週に1回実習施設にて巡回指導を行う。<b>(資料 51 せとうち観光専門職短期大学臨地実務実習 実施スケジュール)(資料 52 せとうち観光専門職短期大学臨地実務実習 巡回指導計画)</b></p> <p>なお、巡回指導を補うため、学生は実習期間中活動日誌を作成し、実習施設の指導者の確認の後、それらを写真等におさめ、本学の実習担当教員に、定期的にメール等で送信することとする。<b>(資料 53 臨地実務実習 活動日誌)</b></p> <p>実習担当教員は、実習施設担当者に実習運営上の課題等についても聞き取りをして、緊急性を要する課題については迅速に対応する。各実習の課題や実習全体の運営に関わる課題については、各実習担当教員間で情報を共有すると同時に、学科内に設置する「実習運営委員会」を随時開催して、課題の改善策を検討し、実習施設とも協議の上で、即座に改善策を実施する。また、実習担当教員は、巡回時に限らず、実習施設担当者とは毎週定期的に電話やメール等で連絡を取り、実習の進捗状況を確認する。実習施設を巡回する移動方法は、香川県内や四国や小豆島といった近隣地域の実習施設については公用車を用い、成田、金沢、京阪、福</p>	<p><b>(2)実習中の教員の指導</b></p> <p>実習中は、各実習担当教員が実習施設に出向き、学生の実習現場を観察し、実習施設の担当者との意見を交換して、学生の実習状況を確認する。巡回頻度は実習内容によって異なり、臨地実務実習Ⅰにおいては、実習担当の全教員が分担し、2週間に1回巡回指導を行う。また、臨地実務実習Ⅱ及びⅢの航空クラスは3名の教員が、宿泊クラス、観光地域創生クラスにおいては、2名の教員が分担し、3週間に1回、実習施設にて巡回指導を行う。また、鉄道クラスでは2名の教員が週に1回実習施設にて巡回指導を行う。<b>(資料 51 せとうち観光専門職短期大学臨地実務実習 実施スケジュール)(資料 52 せとうち観光専門職短期大学臨地実務実習 巡回指導計画)</b></p> <p>なお、巡回指導を補うため、学生は実習期間中活動日誌を作成し、実習施設の指導者の確認の後、それらを写真等におさめ、本学の実習担当教員に、定期的にメール等で送信することとする。<b>(資料 53 臨地実務実習 活動日誌)</b></p> <p>実習担当教員は、実習施設担当者に実習運営上の課題等についても聞き取りをして、緊急性を要する課題については迅速に対応する。各実習の課題や実習全体の運営に関わる課題については、各実習担当教員間で情報を共有すると同時に、学科内に設置する「実習運営委員会」を随時開催して、課題の改善策を検討し、実習施設とも協議の上で、即座に改善策を実施する。また、実習担当教員は、巡回時に限らず、実習施設担当者とは毎週定期的に電話やメール等で連絡を取り、実習の進捗状況を確認する。実習施設を巡回する移動方法は、香川県内や四国や小豆島といった近隣地域の実習施設については公用車を用い、成田、金沢、京阪、福</p>

<p>岡、沖縄等の遠方地域については、鉄道や航空を利用する。</p> <p><u>臨地実務実習を担当する専任教員 7 名のうち、安本幸博、小島英夫、石床 渉、堀田明美、阿部有香の 5 名が多忙となると思われるが、この 5 名の平均年齢は、59.4 歳であり、本学の教員の定年規程の基準を 5 歳下回っている。</u></p> <p><u>この 5 名のうち、65 歳以上となる者は小島英夫、堀田明美の 2 名である。小島英夫は、都市部の大規模ホテルでの実務経験を有し、かつ地元ホテルの経営者として、宿泊産業の現場における業務全般について精通しているだけでなく、経営的観点から総合的に業務を推進してきた経験を有しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではない。また、現在も臨地実務実習施設への協力依頼や実習内容の打合せ等に事務職員とともに出向しており、遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。また、堀田明美は、航空会社において長く客室乗務員として勤務した経験があり、航空産業の業務全般に精通しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではなく、航空クラスの巡回指導のための遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。臨地実務実習を担当する専任教員の負担は、以下のとおりとなる。</u></p> <p><b><u>(資料 66 専任教員個人別時間割) (資料 67 専任教員の担当授業コマ数一覧)</u></b></p> <p><u>臨地実務実習を担当する実務家教員の負担については、週によりばらつきがあるため、各クォーターにおける 1 週あたりのコマ数について記述する。なお、学内における学生の活動報告書の確認等のために週に1コマを必要とし、巡回指導については移動時間を含めて、半日で実施する場合は3コマ、日帰りの場合には5コマ、1泊2日の場合は10コマ、2泊3日の場合は15コマを必要とするものとして計算しているが、最大でも週に20コマを超えないように設定している。</u></p> <p>① 安本幸博は、1 年間の担当授業コマ数が206コ</p>	<p>岡、沖縄等の遠方地域については、鉄道や航空を利用する。</p> <p>(新規)</p>
--	--

マであり、1週当たりの平均担当コマ数6.4コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「観光リスクマネジメントB」、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり4科目5コマ（8週目のみ4コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」、の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても9コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

② 小島英夫は、1年間の担当授業コマ数が216コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、3年次「専門演習」のみの1週あたり1科目1コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、3年次「専門演習」の3科目を担当し、前半4週は3コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても12コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数

は最大で16コマに留めている。

③ 石床 渉は、1年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習B」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」「宿泊産業論」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

④ 青木義英は、1年間の担当授業コマ数が102コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.2コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「ホスピタリティマネジメント論A」、2年次「キャリアデザイン論B」の1週あたり2科目4コマ（第8週目のみ2コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、1年次「観光リスクマネジメントA」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、2年次「キャリアデザイン論A」の1科目のみを担当する。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、巡回



指導には赴かないため、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は1コマとなっている。

⑤ 堀田明美は、1年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「キャリアデザイン論B」「ビジネスコミュニケーション」、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「キャリアデザイン論B」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、1週あたり平均3.3コマを担当することになる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習A」「ホスピタリティマネジメント論B」、2年次「臨地実務実習Ⅱ」(6週) 3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」(前半4週)「臨地実務実習Ⅰ」(3週)、2年次「キャリアデザイン論A」、3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「キャリアデザイン論A」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、前半4週は1週あたり平均3.5コマであり、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」(前半4週)、2年次「臨地実務実習Ⅲ」(6週)、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

⑥ 古川康造は、1年間の担当授業コマ数が87コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.7コマとなる。第1クォーター及び第3クォーターは担当する授業科目はない。第2クォーターは、3年次「地域創生事業論」と2年次「臨地実務実習Ⅱ」(6週)の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」(6週)を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」

<p>に係るコマ数は最大で11コマに留めている。</p> <p>⑦ 阿部有香は、1年間の担当授業コマ数が188コマであり、1週当たりの平均担当コマ数5.9コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。</p> <p><b>（資料 66 専任教員個人別時間割）（資料 67 専任教員の担当授業コマ数一覧）</b></p>	
--	--

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（新76ページ）（旧69ページ）

新	旧
<p>① 4月上旬 履修オリエンテーション時に合わせて、臨地実務実習Ⅰのガイダンスを実施する。</p>	<p>① 4月上旬 履修オリエンテーション時に合わせて、臨地実務実習Ⅰのガイダンスを実施する。</p>
<p>② 4月中旬 履修相談会（就職の希望に関する面談を含む）を開催</p>	<p>② 4月中旬 履修相談会（就職の希望に関する面談を含む）を開催</p>
<p>③ 4月下旬 学生が、個人の学修計画として「学びのプログラム（仮称）」を作成し、<u>教務・学生センター</u>に提出。同時に、臨地実務実習Ⅰのクラス選択</p>	<p>③ 4月下旬 学生が、個人の学修計画として「学びのプログラム（仮称）」を作成し、教務課に提出。同時に、臨地実務実習Ⅰのクラス選択希望を教務課</p>

<p>希望を<u>教務・学生センター</u>に提出。</p> <p>④ 5月中旬 臨地実務実習Ⅰのクラスを決定する。</p> <p>⑤ 翌年1月中旬 臨地実務実習Ⅱのガイダンスを実施する。</p> <p>⑥ 翌年2月上旬 臨地実務実習Ⅱのクラス選択希望を<u>教務・学生センター</u>に提出。</p> <p>⑦ 翌年2月下旬 臨地実務実習Ⅱのクラスを決定する。(教務委員会→学長決定)</p> <p>⑧ 翌年8月上旬 臨地実務実習Ⅲのガイダンスを実施する。</p> <p>⑨ 翌年8月中旬 臨地実務実習Ⅲのクラス選択希望を<u>教務・学生センター</u>に提出。</p> <p>⑩ 翌年8月下旬 臨地実務実習Ⅲのクラスを決定する。(教務委員会→学長決定)</p> <p>クラス分けにおいては、学生のクラス選択の希望に応じてできるだけ受け入れる方針だが、1クラスの学生数の上限を40名と設定するとともに、クラス内のグループ分けは、臨地実務実習施設の受け入れの状況により調整する場合がある。この上限は、学修効果の保証と、臨地実務実習における実習施設の学生受入れ人数とを考慮して決定した。あるクラスの学生希望者が40名を越えた場合やグループの希望者が臨地実務実習施設の受入可能数を超える場合には、学生の選択理由や動機づけ、普段の学修態度、進路等を勘案して、一部の学生と相談の上で、該当学生に第一希望の選択クラスの変更を指導する。</p> <p>以上のようなクラス分けの実務作業は、主に教務委員会と<u>教務・学生センター</u>の職員によって履行され、最終的なクラス分けの決定は、教授会の意見を聞いて学長が決定する。</p> <p><b>6-5 履修指導の方法</b></p> <p>学生が本学教育課程の教育目標と教育理念を把握したうえで、開設授業科目の目的や内容等を十分に理解し、適切な履修計画を策定できるように、以下の方法で履修指導を行う。</p> <p>●履修要項の作成</p>	<p>に提出。</p> <p>④ 5月中旬 臨地実務実習Ⅰのクラスを決定する。</p> <p>⑤ 翌年1月中旬 臨地実務実習Ⅱのガイダンスを実施する。</p> <p>⑥ 翌年2月上旬 臨地実務実習Ⅱのクラス選択希望を教務課に提出。</p> <p>⑦ 翌年2月下旬 臨地実務実習Ⅱのクラスを決定する。(教務委員会→学長決定)</p> <p>⑧ 翌年8月上旬 臨地実務実習Ⅲのガイダンスを実施する。</p> <p>⑨ 翌年8月中旬 臨地実務実習Ⅲのクラス選択希望を教務課に提出。</p> <p>⑩ 翌年8月下旬 臨地実務実習Ⅲのクラスを決定する。(教務委員会→学長決定)</p> <p>クラス分けにおいては、学生のクラス選択の希望に応じてできるだけ受け入れる方針だが、1クラスの学生数の上限を40名と設定するとともに、クラス内のグループ分けは、臨地実務実習施設の受け入れの状況により調整する場合がある。この上限は、学修効果の保証と、臨地実務実習における実習施設の学生受入れ人数とを考慮して決定した。あるクラスの学生希望者が40名を越えた場合やグループの希望者が臨地実務実習施設の受入可能数を超える場合には、学生の選択理由や動機づけ、普段の学修態度、進路等を勘案して、一部の学生と相談の上で、該当学生に第一希望の選択クラスの変更を指導する。</p> <p>以上のようなクラス分けの実務作業は、主に教務委員会と教務課の職員によって履行され、最終的なクラス分けの決定は、教授会の意見を聞いて学長が決定する。</p> <p><b>6-5 履修指導の方法</b></p> <p>学生が本学教育課程の教育目標と教育理念を把握したうえで、開設授業科目の目的や内容等を十分に理解し、適切な履修計画を策定できるように、以下の方法で履修指導を行う。</p> <p>●履修要項の作成</p>
--	--

<p>履修要項を作成し、その要項を用いて履修オリエンテーションを開催する。履修要項には、観光振興学科における教育の理念と目標、教育課程の内容と特徴、履修手続、履修モデル等が記載される。単位の実質化についても、学生に十分に理解させ、予習・復習の時間をきちんと確保するよう指導するとともに、学生自習室や図書館の活用を勧める。</p> <p>●履修モデルの作成</p> <p>学生が観光振興学科の教育目標を的確に理解してその目標を体系的に達成するために、履修モデルを作成し学生に提示する。</p> <p>●シラバスの作成</p> <p>学生が授業を履修するにあたって、授業の目的、内容、教育課程における位置付け等を把握できるようにシラバスを作成する。シラバスには、授業の概要、関連するディプロマ・ポリシー、キーワード、到達目標、授業計画、成績評価（評価の種類・評価割合・評価基準）、テキスト、参考書、授業時間外学修、課題に対するフィードバックの方法、受講ルール、連絡先等を記載する。</p> <p>●履修ガイダンス</p> <p>履修要項やシラバス等を用いて、履修指導を目的とするオリエンテーションを実施する。履修ガイダンスは、各年次で、各クォーターの授業開始前の4月上旬、6月上旬、9月下旬、11月下旬に行われる。</p> <p>加えて、窓口における<u>教務・学生センター</u>の職員による履修手続の指導や教員のオフィスアワーにおける履修指導等によって、履修ガイダンスによる指導を補完する。</p> <p>●事務局<u>教務・学生センター</u>の履修指導</p> <p>履修登録の期間前と期間中に、履修登録の手続や方法、卒業要件等に関わる履修条件等について、学生が個別に相談できる機会を設ける。さらに、履修の状況や卒業要件等のような、履修に関わる事柄に不安を持つ学生には、窓口等において<u>教務・学生センター</u>の職員が随時相談を受け付ける。</p>	<p>履修要項を作成し、その要項を用いて履修オリエンテーションを開催する。履修要項には、観光振興学科における教育の理念と目標、教育課程の内容と特徴、履修手続、履修モデル等が記載される。単位の実質化についても、学生に十分に理解させ、予習・復習の時間をきちんと確保するよう指導するとともに、学生自習室や図書館の活用を勧める。</p> <p>●履修モデルの作成</p> <p>学生が観光振興学科の教育目標を的確に理解してその目標を体系的に達成するために、履修モデルを作成し学生に提示する。</p> <p>●シラバスの作成</p> <p>学生が授業を履修するにあたって、授業の目的、内容、教育課程における位置付け等を把握できるようにシラバスを作成する。シラバスには、授業の概要、関連するディプロマ・ポリシー、キーワード、到達目標、授業計画、成績評価（評価の種類・評価割合・評価基準）、テキスト、参考書、授業時間外学修、課題に対するフィードバックの方法、受講ルール、連絡先等を記載する。</p> <p>●履修ガイダンス</p> <p>履修要項やシラバス等を用いて、履修指導を目的とするオリエンテーションを実施する。履修ガイダンスは、各年次で、各クォーターの授業開始前の4月上旬、6月上旬、9月下旬、11月下旬に行われる。</p> <p>加えて、窓口における教務課の職員による履修手続の指導や教員のオフィスアワーにおける履修指導等によって、履修ガイダンスによる指導を補完する。</p> <p>●事務局教務課の履修指導</p> <p>履修登録の期間前と期間中に、履修登録の手続や方法、卒業要件等に関わる履修条件等について、学生が個別に相談できる機会を設ける。さらに、履修の状況や卒業要件等のような、履修に関わる事柄に不安を持つ学生には、窓口等において教務課の職員が随時相談を受け付ける。</p>
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新129ページ) (旧118ページ)

新	旧
① 4月上旬 履修オリエンテーション時に合わせて、臨地実務実習Ⅰのガイダンスを実施する。	① 4月上旬 履修オリエンテーション時に合わせて、臨地実務実習Ⅰのガイダンスを実施する。
② 4月中旬 履修相談会(就職の希望に関する面談を含む)を開催	② 4月中旬 履修相談会(就職の希望に関する面談を含む)を開催
③ 4月下旬 学生が、個人の学修計画として「学びのプログラム(仮称)」を作成し、 <u>教務・学生センター</u> に提出。同時に、臨地実務実習Ⅰのクラス選択希望を <u>教務・学生センター</u> に提出。	③ 4月下旬 学生が、個人の学修計画として「学びのプログラム(仮称)」を作成し、教務課に提出。同時に、臨地実務実習Ⅰのクラス選択希望を教務課に提出。
④ 5月中旬 臨地実務実習Ⅰのクラスを決定する。	④ 5月中旬 臨地実務実習Ⅰのクラスを決定する。
⑤ 翌年1月中旬 臨地実務実習Ⅱのガイダンスを実施する。	⑤ 翌年1月中旬 臨地実務実習Ⅱのガイダンスを実施する。
⑥ 翌年2月上旬 臨地実務実習Ⅱのクラス選択希望を <u>教務・学生センター</u> に提出。	⑥ 翌年2月上旬 臨地実務実習Ⅱのクラス選択希望を教務課に提出。
⑦ 翌年2月下旬 臨地実務実習Ⅱのクラスを決定する。(教務委員会→学長決定)	⑦ 翌年2月下旬 臨地実務実習Ⅱのクラスを決定する。(教務委員会→学長決定)
⑧ 翌年8月上旬 臨地実務実習Ⅲのガイダンスを実施する。	⑧ 翌年8月上旬 臨地実務実習Ⅲのガイダンスを実施する。
⑨ 翌年8月中旬 臨地実務実習Ⅲのクラス選択希望を <u>教務・学生センター</u> に提出。	⑨ 翌年8月中旬 臨地実務実習Ⅲのクラス選択希望を教務課に提出。
⑩ 翌年8月下旬 臨地実務実習Ⅲのクラスを決定する。(教務委員会→学長決定)	⑩ 翌年8月下旬 臨地実務実習Ⅲのクラスを決定する。(教務委員会→学長決定)
<p>クラス分けにおいては、学生のクラス選択の希望に応じてできるだけ受け入れる方針だが、1クラスの学生数の上限を40名と設定するとともに、クラス内のグループ分けは、臨地実務実習施設の受け入れの状況により調整する場合がある。この上限は、学修効果の保証と、臨地実務実習における実習施設の学生受入れ人数とを考慮して決定した。あるクラスの学生希望者が40名を越えた場合やグループの希望者が臨地実務実習施設の受入可能数を超える場合には、学生の選択理由や動機づけ、普段の学修態度、就職先の志向性等を勘案して、一部の学生と相談の上で、該当学生に第一希</p>	<p>クラス分けにおいては、学生のクラス選択の希望に応じてできるだけ受け入れる方針だが、1クラスの学生数の上限を40名と設定するとともに、クラス内のグループ分けは、臨地実務実習施設の受け入れの状況により調整する場合がある。この上限は、学修効果の保証と、臨地実務実習における実習施設の学生受入れ人数とを考慮して決定した。あるクラスの学生希望者が40名を越えた場合やグループの希望者が臨地実務実習施設の受入可能数を超える場合には、学生の選択理由や動機づけ、普段の学修態度、就職先の志向性等を勘案して、一部の学生と相談の上で、該当学生に第一希</p>

<p>望の選択クラスの変更を指導する。</p> <p>以上のようなクラス分けの実務作業は、主に教務委員会と<u>教務・学生センター</u>の職員によって履行され、最終的なクラス分けの決定は、教授会の意見を聞いて学長が決定する。</p>	<p>望の選択クラスの変更を指導する。</p> <p>以上のようなクラス分けの実務作業は、主に教務委員会と教務課の職員によって履行され、最終的なクラス分けの決定は、教授会の意見を聞いて学長が決定する。</p>
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新161ページ) (旧146ページ)

新	旧
<p><b>11-10 臨地実務実習に関する全学的なサポート体制</b></p> <p><u>本学の臨地実務実習については、産学連携・地域連携方策の中にしっかりと位置付けて、大学全体で推進していきたいと考えている。そのため、以下のような全学的なサポートを構築する。</u></p> <p><u>(1)臨地実務実習の統括責任は、大学運営本部及び本部長である学長が負うものとする。</u></p> <p><u>(2)学長は、臨地実務実習の運営に関して教育課程連携協議会の意見を聞くものとする。</u></p> <p><u>(3)副本部長である副学長及び学長補佐は、学長をサポートする。</u></p> <p><u>(4)観光振興学科は、臨地実務実習施設の開拓から実施に関する企画・立案を行う。</u></p> <p><u>(5)観光振興学科に、実習運営委員会を置き、臨地実務実習を実施し、現場としての責任を負う。実習運営委員会には、実務系の実習担当教員に加え、学術系の若手教員が参画し、その機動力を生かして実務系教員を側面から支援する。</u></p> <p><u>(6)せとうち観光学研究所は、その専門的見地や研究成果を踏まえて、観光振興学科に対し臨地実務実習施設の選定及び開拓に関する助言を行うとともに、自治体・企業・団体等に対して、提案・提言を行い、有識者会議・協力者会議等への参画の要請に応える。</u></p> <p><u>(7)産学連携・地域連携センターにおいては、自治体・企業・団体等の窓口となり、働きかけや説明から連携協定の締結及びそのフォロー</u></p>	<p>(新規)</p>

アップに関する現場責任を負う。

(8)臨地実務実習の実施に当たっては、本学教員と、企業・団体等の責任者及び指導者の間で実習調整会議を開催し、事前協議及び事後協議を行う。

**(資料 71 臨地実務実習等に関する組織体制図)**

### **11-11 実習指導体制に関するまとめ**

(新規)

これまで、臨地実務実習の計画について述べてきたが、その根幹となる指導体制について、改めて時系列に整理しなおし、各々の役割や責任を確認する。

#### **(1)実習の学内体制の整備**

① 実習の運営にあたり、学科内に「実習運営委員会」を設置する。本委員会は、学科長、学術系専任教員 2 名、実習担当専任教員 7 名、実習担当職員 2 名で構成する。委員長は、学科長とする。実習担当専任教員は、実習の実質的な運営と成績評価を行い、学術系専任教員は、実習をディプロマ・ポリシー(DP)に沿った実習プログラムとするための授業設計支援を行う。職員は実習運営にかかる諸手続きを担う。

#### **(2)実習の事前協議**

② 実習前に各実習施設において「実習調整会議」を開催する。当会議に出席するのは、本学の実習担当教員と、実習施設の責任者及び実習指導者である。

#### **(3)実習の事前指導**

③ CP4 の③「臨地実務実習事前学修科目群」の「ホスピタリティ実務実習 A・B」(いずれか 1 科目選択必修)、「観光支援ビジネス実務基礎論」(必修)、「観光実務基礎論」(必修)、「観光実務応用論」(必修)によって、実習の事前指導を行う。これらは担当実務系専任教員が指導する。

#### **(4)実習中の指導**

④ 臨地実務実習施設の実習指導者を配置し、

実習指導者は、本学と実習施設の間で作成した実習目的と実習プログラムに基づき、本学実習担当教員と連携して実習生の指導に当たる。

⑤ 学生は実習期間中活動日誌を作成し、実習施設の指導者の確認の後、それらを写真等におさめ、本学の実習担当教員に、週に1回、メール等で送信することとする。

⑥ 実習中は、各実習担当教員が実習施設に向き、学生の実習現場を観察し、実習施設の担当者との意見を交換して、学生の実習状況を確認する。巡回頻度は実習内容によって異なり、臨地実務実習Ⅰにおいては、実習担当の全教員が分担し、2週間に1回巡回指導を行う。また、臨地実務実習Ⅱ及びⅢの航空クラスは3名の教員が、宿泊クラス、観光地域創生クラスにおいては、2名の教員が分担し、3週間に1回、実習施設にて巡回指導を行う。また、鉄道クラスでは2名の教員が週に1回実習施設にて巡回指導を行う。

⑦ 「実習施設指導者による臨地実務実習の評価」については、実習施設の業種や業務に関わらず、学生が修得すべき能力を一般化して評価することを中心とする。具体的には、実習により体得すべき「A 実践力」及び「B 協働力」を主体として、その土台となる「C 思考力」についても評価する。また、それぞれの能力の下には、具体的に修得すべき技能や知識を「実務知識技能」「安全確保」「ホスピタリティ」「チームワーク」「リーダーシップ」「他者への共感・受容・気配り」「変革と新しい価値創造」「職業倫理」「経営の視点」のように細分化して定める。臨地実務実習施設の業種や業務ごとの評価については、それぞれの到達目標の達成度を評価することにより行うものとする。

⑧ 成績評価については、実習担当教員が行う。



評価は、「1. 実習施設指導者による実習評価書」、「2. 実習直後に学生が提出する振り返りレポート」という2点の評価基準によってなされる。

#### **(6)実習中の連絡体制**

⑨ 実習の運営に係る諸連絡は、実習担当教員と実習施設指導者の間でなされるが、その際、実習担当教員による判断や対応の困難な問題等が発生した場合には、実習担当教員から実習運営委員会委員長（学科長）へ即座に報告する連絡体制を敷いて、実習運営委員会が迅速に対応できる体制を整備する。

#### **(7)実習の事後指導**

⑩ CP4の⑤「臨地実務実習事後学修科目群」の「観光ビジネス実務発展論」（必修）、「観光実務発展論」（必修）、「観光実務マネジメント論」（必修）によって、実習の事後指導を行う。これらは担当実務系専任教員が指導する。

#### **(8)実習の事後協議**

⑪ 実習終了後、「実習調整会議」において、実習の成果や教育の質の保証の確認を行い、改善策等を協議する。

【教育課程等】

8 <実習科目の内容等が不明確>

臨地実務実習に関する以下の点について、適切に対応すること。

- (4) 臨地実務実習先を継続的、安定的に確保し、更なる充実を図る観点から、実習先に対する実習成果等の還元を図ることが重要であるが、本学における組織的なフォローアップ体制が不明確なため、明確に説明すること。

(対応)

1. <対応の概要>

本学の、実習先に対する実習成果等の還元を図るための方策および本学における組織的なフォローアップ体制を明確に説明する。

2. <実習先に対する実習成果等の還元を図るための方策>

実習先に対する実習成果等の還元については、「専門職大学等の臨地実務実習の手引き」(文部科学省高等教育局専門教育課)にあるように、実習生の指導にあたる従業員にとっては、未経験の者に自らの知識や技術、勘やコツを教える経験がこれらの可視化・形式知化につながり、更なる能力向上の機会ともなり得ることや学生の自由なアイデア・発想は、組織の多様化・活性化の触媒ともなり、イノベーションの契機をもたらす可能性もあること、就職後のミスマッチの防止や企業・団体等の知名度・イメージの向上につながる可能性もあることなどが考えられる。これらについては、臨地実務実習施設の新規開拓の際に丁寧に説明しているが、今後も継続していきたい。

本学では、これらに加えて、年1回程度、臨地実務実習施設懇談会(仮称)を開催し、企業・団体等がこれに参加することで、本学と企業・団体等とのコミュニケーションの円滑化を図ることはもとより、企業・団体等相互の連携強化の機会として提供していきたい。

また、既存の四年制大学におけるインターンシップの事例を参考に、本学学生と企業・団体等が連携した新商品や旅行プラン、地域資源の掘り起こしや広報プランなどの開発及びマーケティングやアンケート調査の実施等が可能であると考えている。**(資料13 事例：和歌山大学地域インターンシップ)**

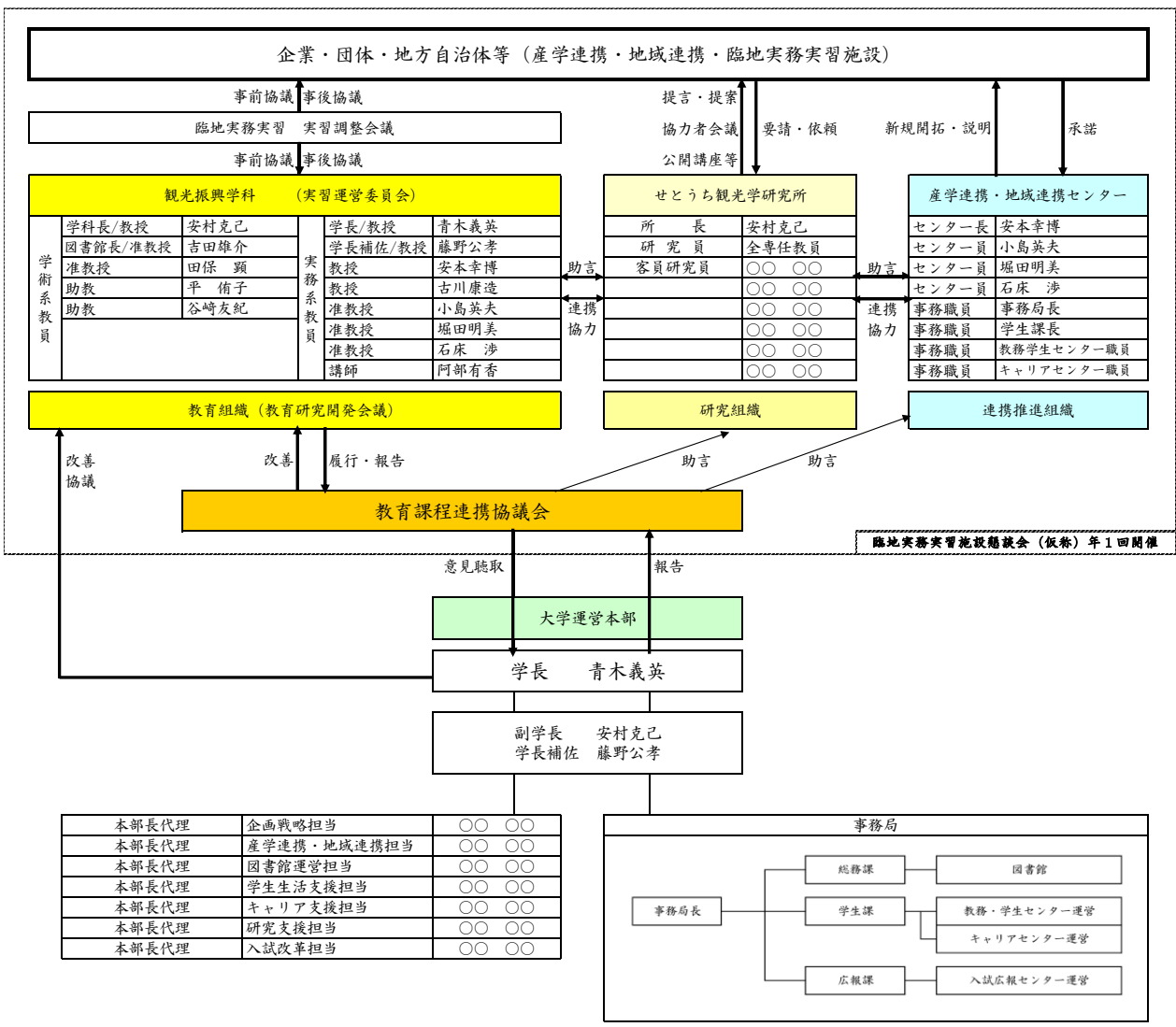
さらに、これらのことを一括して企業や団体等を訪問する際のパンフレットとして作成・配布することにより、企業や団体等との共通理解を図り、合意を形成するために努力していく計画である。

3. <本学における組織的なフォローアップ体制>

これらをフォローする本学の体制については、次ページの図のように体制を整備し、それぞれが下記の(1)～(8)の役割を果たし、責任を負う。

- (1) 臨地実務実習を含む産学連携・地域連携に関する事項の統括責任は、大学運営本部及び本部長である学長が負うものとする。
- (2) 学長は、臨地実務実習の運営に関して教育課程連携協議会の意見を聞くものとする。
- (3) 副本部長である副学長及び学長補佐は、学長をサポートする。
- (4) 観光振興学科は、臨地実務実習施設の開拓から実施に関する企画・立案を行う。

- (5) 観光振興学科に、実習運営委員会を置き、臨地実務実習を実施し、現場としての責任を負う。  
 実習運営委員会には、実務系の実習担当教員に加え、学術系の若手教員が参画し、その機動力を生かして実務系教員を側面から支援する。
- (6) せとうち観光学研究所は、その専門的見地や研究成果を踏まえて、観光振興学科に対し臨地実務実習施設の選定及び開拓に関する助言を行うとともに、自治体・企業・団体等に対して、提案・提言を行い、有識者会議・協力者会議等への参画の要請に応える。
- (7) 産学連携・地域連携センターにおいては、自治体・企業・団体等の窓口となり、働きかけや説明から連携協定の締結及びそのフォローアップに関する現場責任を負う。
- (8) 臨地実務実習の実施に当たっては、本学教員と、企業・団体等の責任者及び指導者の間で実習調整会議を開催し、事前協議及び事後協議を行う。(資料12臨地実務実習等に関する組織体制図)



4. <設置の趣旨等を記載した書類の補正>  
 審査意見を踏まえ、上記2~3の方針及び体制を明確にするとともに、設置の趣旨等を記載した書類の119ページを以下のとおり修正する。

### 11-3 実習施設の確保の状況

#### (1) 教育課程に必要な実習施設の確保

(省略)

#### (2) 今後の臨地実務実習の継続的かつ安定的な確保の方策とその体制

今後の臨地実務実習の継続的かつ安定的な確保のための実習先に対する実習成果等の還元については、「専門職大学等の臨地実務実習の手引き」(文部科学省高等教育局専門教育課)にあるように、実習生の指導にあたる従業員にとっては、未経験の者に自らの知識や技術、勘やコツを教える経験がこれらの可視化・形式知化につながり、更なる能力向上の機会ともなり得ることや学生の自由なアイデア・発想は、組織の多様化・活性化の触媒ともなり、イノベーションの契機をもたらす可能性もあること、就職後のミスマッチの防止や企業・団体等の知名度・イメージの向上につながる可能性もあることなどが考えられるが、これらについては臨地実務実習施設の新規開拓の際に、丁寧に説明している。

本学では、これらに加えて、年1回程度、臨地実務実習施設懇談会(仮称)を開催し、企業・団体等がこれに参加することで、本学と企業・団体等とのコミュニケーションの円滑化を図ることはもとより、企業・団体等相互の連携強化の機会としていきたい。また、本学学生と企業・団体等が連携した新商品や旅行プラン、地域資源の掘り起こしや広報プランなどの開発が可能であることが考えられる。

これらをフォローする本学の体制については、以下の①～⑧のように体制を整備し、それぞれがその役割を果たし、責任を負う。

- ①臨地実務実習を含む産学連携・地域連携に関する事項の統括責任は、大学運営本部及び本部長である学長が負うものとする。
- ②学長は、臨地実務実習の運営に関して教育課程連携協議会の意見を聞くものとする。
- ③副本部長である副学長及び学長補佐は、学長をサポートする。
- ④観光振興学科は、臨地実務実習施設の開拓から実施に関する企画・立案を行う。
- ⑤観光振興学科に、実習運営委員会を置き、臨地実務実習を実施し、現場としての責任を負う。  
実習運営委員会には、実務系の実習担当教員に加え、学術系の若手教員が参画し、その機動力を生かして実務系教員を側面から支援する。
- ⑥せとうち観光学研究所は、その専門的見地や研究成果を踏まえて、観光振興学科に対し臨地実務実習施設の選定及び開拓に関する助言を行うとともに、自治体・企業・団体等に対して、提案・提言を行い、有識者会議・協力者会議等への参画の要請に応える。
- ⑦産学連携・地域連携センターにおいては、自治体・企業・団体等の窓口となり、働きかけや説明から連携協定の締結及びそのフォローアップに関する現場責任を負う。
- ⑧臨地実務実習の実施に当たっては、本学教員と、企業・団体等の責任者及び指導者の間で実習調整会議を開催し、事前協議及び事後協議を行う。

(3) (審査意見9を踏まえて、別途追記。ここでは省略)

#### (4) 実習中の教員の指導

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 129 ページ) (旧 119 ページ)

新	旧
<p><b>11-3 実習施設の確保の状況</b></p> <p><b>(1) 教育課程に必要な実習施設の確保</b> (省略)</p> <p><b><u>(2) 今後の臨地実務実習の継続的かつ安定的な確保の方策とその体制</u></b></p> <p><u>今後の臨地実務実習の継続的かつ安定的な確保のための実習先に対する実習成果等の還元については、「専門職大学等の臨地実務実習の手引き」(文部科学省高等教育局専門教育課)にあるように、実習生の指導にあたる従業員にとっては、未経験の者に自らの知識や技術、勘やコツを教える経験がこれらの可視化・形式知化につながり、更なる能力向上の機会ともなり得ることや学生の自由なアイデア・発想は、組織の多様化・活性化の触媒ともなり、イノベーションの契機をもたらす可能性もあること、就職後のミスマッチの防止や企業・団体等の知名度・イメージの向上につながる可能性もあることなどが考えられるが、これらについては臨地実務実習施設の新規開拓の際に、丁寧に説明している。</u></p> <p><u>本学では、これらに加えて、年1回程度、臨地実務実習施設懇談会(仮称)を開催し、企業・団体等がこれに参加することで、本学と企業・団体等とのコミュニケーションの円滑化を図ることはもとより、企業・団体等相互の連携強化の機会としていきたい。また、本学学生と企業・団体等が連携した新商品や旅行プラン、地域資源の掘り起こしや広報プランなどの開発が可能であることが考えられる。</u></p> <p><u>これらをフォローする本学の体制については、以下の①～⑧のように体制を整備し、それぞれがその役割を果たし、責任を負う。</u></p> <p><u>①臨地実務実習を含む産学連携・地域連携に関する事項の統括責任は、大学運営本部及び本部長である学長が負うものとする。</u></p> <p><u>②学長は、臨地実務実習の運営に関して教育課</u></p>	<p><b>11-3 実習施設の確保の状況</b></p> <p><b>(1) 教育課程に必要な実習施設の確保</b> (省略)</p> <p>(新規)</p>

<p><u>程連携協議会の意見を聞くものとする。</u></p> <p><u>③副本部長である副学長及び学長補佐は、学長をサポートする。</u></p> <p><u>④観光振興学科は、臨地実務実習施設の開拓から実施に関する企画・立案を行う。</u></p> <p><u>⑤観光振興学科に、実習運営委員会を置き、臨地実務実習を実施し、現場としての責任を負う。実習運営委員会には、実務系の実習担当教員に加え、学術系の若手教員が参画し、その機動力を生かして実務系教員を側面から支援する。</u></p> <p><u>⑥せとうち観光学研究所は、その専門的見地や研究成果を踏まえて、観光振興学科に対し臨地実務実習施設の選定及び開拓に関する助言を行うとともに、自治体・企業・団体等に対して、提案・提言を行い、有識者会議・協力者会議等への参画の要請に応える。</u></p> <p><u>⑦産学連携・地域連携センターにおいては、自治体・企業・団体等の窓口となり、働きかけや説明から連携協定の締結及びそのフォローアップに関する現場責任を負う。</u></p> <p><u>⑧臨地実務実習の実施に当たっては、本学教員と、企業・団体等の責任者及び指導者の間で実習調整会議を開催し、事前協議及び事後協議を行う。</u></p> <p><b><u>(3)</u></b></p> <p>(省略)</p> <p><b><u>(4)実習中の教員の指導</u></b></p>	<p>(新 規)</p> <p><b><u>(2)実習中の教員の指導</u></b></p>
---	--

(改善事項) 観光振興学科

【教育課程等】

9 <実践教育現場の一層の充実>

本学の臨地実務実習先について、今後更に実践教育の場を充実させ、観光振興が盛んな香川県以外も含めた瀬戸内地域をフィールドとして実践教育を行っていくことが望ましいが、実践教育現場の更なる充実に向けた対応方針について説明すること。

(対応)

1. <対応の概要>

観光振興が盛んな香川県以外も含めた瀬戸内地域をフィールドとして実践教育を行っていくため、実践教育現場の更なる充実に向けた基本方針を作成し、そのためのフォローアップ体制を構築し、それらを明確に説明する。

2. <臨地実務実習施設確保の現状>

本学は、このたびの設置認可申請及び開学に向けて、臨地実務実習施設として、航空会社8社(10施設)、鉄道会社4社(13施設)、ホテル13社(16施設)、旅館8社(11施設)、旅行会社1社(1施設)、その他の観光事業所39社(40施設)の計73社(91施設)を確保している。

特に、臨地実務実習Ⅰは、香川県内に設定する各エリアのなかから1エリアを選定し、エリア内の観光産業及び観光による地方創生事業から1社を選択して実施するもので、香川県内の観光振興及び地域振興の現状をエリアとして捉え、理解することを実習の目標のひとつとしており、多くの県内の企業・団体等のご協力をいただいている。また、臨地実務実習Ⅱ及びⅢの観光地域創生クラスでは、香川県以外の瀬戸内地域の企業・団体からもご協力をいただいている。

3. <実践教育現場の更なる充実に向けた基本方針>

瀬戸内地域では、鳴門市の「道の駅なると(仮称)」(資料14 道の駅なると(仮称)基本計画(抄))の設置が計画されるなど、瀬戸内地域をフィールドとする実践教育現場のさらなる充実が期待されるため、今後ともこれらの企業・団体等との連携を深めつつ、教職協働で新たな臨地実務実習施設の開拓を進めていきたい。

そのため、教職員のネットワークの活用や学校法人穴吹学園と関連する企業、産業団体や商工会議所等との連携を強化するとともに、教育課程連携協議会の構成員が所属する企業・団体等とも教育目標を共有しながら、臨地実務実習施設を増やしていく方針である。

これが、実践教育現場の更なる充実に向けた基本方針であると考えている。

4. <フォローアップ体制の構築>

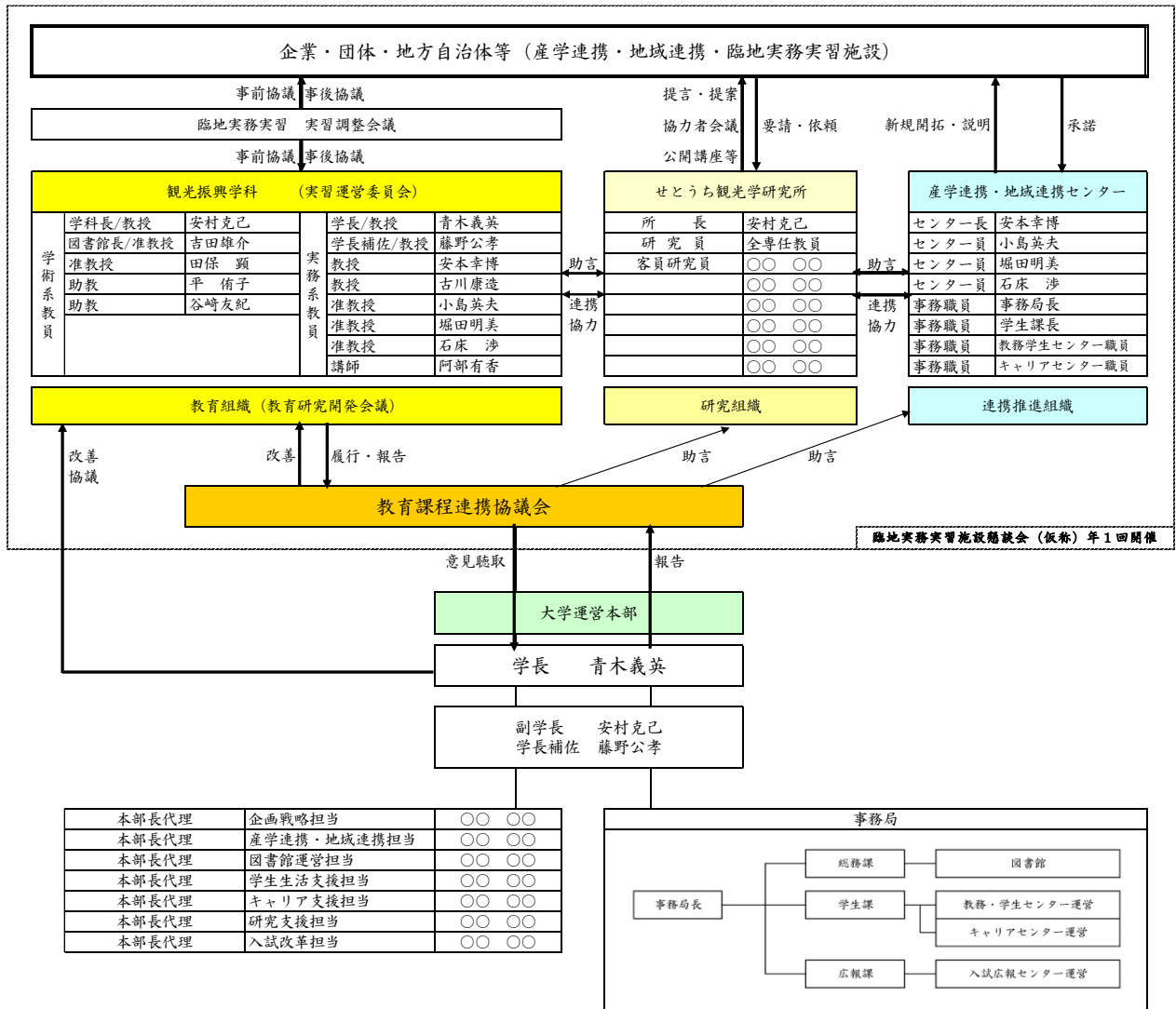
本学では、臨地実務実習施設の新規開拓を含めて、産学連携・地域連携センターを設置して、組織的に推進する方針であり、審査意見を踏まえ、その方針及フォローアップ体制を以下のとおり、定めるものとする。

(1)観光振興学科においては、臨地実務実習の授業内容・方法と照合し、その改善を常に視野に

入れつつ、本学のあらゆるネットワークを活用して、随時、臨地実務実習施設の新規開拓候補のリストアップを行う。

- (2)特に香川県以外を含めた瀬戸内地域においては、今後も道の駅等の開設計画があるため、これらを適時適切に捉えることにより、臨地実務実習施設の新規開拓に努めることとする。
- (3)せとうち観光学研究所においては、瀬戸内地域内外の観光振興及び観光による地域創生事業の成功事例や調査・研究の成果を踏まえ、随時、観光振興学科に対して臨地実務実習施設の新規開拓のための助言を行う。
- (4)学長が教育課程連携協議会（年2回）の意見等を聞いて、新規開拓候補を決定する。
- (5)教員と職員が一体となった産学連携・地域連携センターが窓口となり、新規開拓候補の企業・団体等に対して、働きかけと説明を行い、先方の承諾を得る。
- (6)先方から臨地実務実習への協力の申し出があった場合には、観光振興学科、せとうち観光学研究所、産学連携・地域連携センターがすみやかに調査・協議して、学長に対応を提案する。

これらの体制を図にすると以下のとおりとなる。（資料12臨地実務実習等に関する組織体制図）





5. <設置の趣旨等を記載した書類の補正>

設置の趣旨等を記載した書類の119ページに今後の方針を追記し、以下のように補正する。

(設置の趣旨等を記載した書類の119ページ)

**(3) 臨地実務実習施設のさらなる充実の方針**

本学は、教職員のネットワークの活用や学校法人穴吹学園と関連する企業、産業団体や商工会議所等との連携を強化するとともに、教育課程連携協議会の構成員が所属する企業・団体等とも教育目標を共有しながら、臨地実務実習施設を今後も継続的に増やしていく。その際、以下のような方針とフォローアップ体制を構築する。

- ①観光振興学科においては、臨地実務実習の授業内容・方法と照合し、その改善を常に視野に入れて、随時、臨地実務実習施設の新規開拓候補のリストアップを行う。
- ②特に香川県以外を含めた瀬戸内地域においては、今後も道の駅等の開設計画があるため、これらを適時適切に捉えることにより、臨地実務実習施設の新規開拓に努めることとする。
- ③せとうち観光学研究所においては、瀬戸内地域内外の観光振興及び観光による地域創生事業の成功事例や調査・研究の成果を踏まえ、随時、観光振興学科に対して臨地実務実習施設の新規開拓のための助言を行う。
- ④学長が教育課程連携協議会（年2回）の意見等を聞いて、新規開拓候補を決定する。
- ⑤教員と職員が一体となった産学連携・地域連携センターが窓口となり、新規開拓候補の企業・団体等に対して、働きかけと説明を行い、先方の承諾を得る。
- ⑥先方から臨地実務実習への協力の申し出があった場合には、観光振興学科、せとうち観光学研究所、産学連携・地域連携センターがすみやかに調査・協議して、学長に対応を提案する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 130 ページ) (旧 119 ページ)

新	旧
<p><b>11-3 実習施設の確保の状況</b></p> <p style="text-align: center;">(省略)</p> <p><b>(3) 臨地実務実習施設のさらなる充実の方針</b></p> <p>本学は、<u>教職員のネットワークの活用や学校法人穴吹学園と関連する企業、産業団体や商工会議所等との連携を強化するとともに、教育課程連携協議会の構成員が所属する企業・団体等とも教育目標を共有しながら、臨地実務実習施設を今後も継続的に増やしていく。その際、以下のような方針とフォローアップ体制を構築する。</u></p> <p>①<u>観光振興学科においては、臨地実務実習の</u></p>	<p><b>11-3 実習施設の確保の状況</b></p> <p style="text-align: center;">(省略)</p> <p style="text-align: center;">(新規)</p>

授業内容・方法と照合し、その改善を常に視野に入れて、随時、臨地実務実習施設の新規開拓候補のリストアップを行う。

②特に香川県以外を含めた瀬戸内地域においては、今後も道の駅等の開設計画があるため、これらを適時適切に捉えることにより、臨地実務実習施設の新規開拓に努めることとする。

③せとうち観光学研究所においては、瀬戸内地域内外の観光振興及び観光による地域創生事業の成功事例や調査・研究の成果を踏まえ、随時、観光振興学科に対して臨地実務実習施設の新規開拓のための助言を行う。

④学長が教育課程連携協議会（年2回）の意見等を聞いて、新規開拓候補を決定する。

⑤教員と職員が一体となった産学連携・地域連携センターが窓口となり、新規開拓候補の企業・団体等に対して、働きかけと説明を行い、先方の承諾を得る。

⑥先方から臨地実務実習への協力の申し出があった場合には、観光振興学科、せとうち観光学研究所、産学連携・地域連携センターがすみやかに調査・協議して、学長に対応を提案する。

**【教員組織等】**

10 <適切な教員組織体制となっているか不明確>

本学の教員体制について、実務家教員においては半数以上が完成年度時に定年規程の年齢を超える者となっている。また、これらの教員は臨地実務実習の担当教員であるとともに、担当科目・単位数も多い。このため、本学の臨地実務実習を含め、教育研究が支障なく行える教員体制となっているか疑義があるため、これらについて、妥当性を明確に説明し、必要に応じて教員体制を適切に修正すること。なお、教員負担の説明に当たっては、各教員の時間割を示すこと。

(対応)

1. <対応の概要>

本学の教員組織体制について、実務家教員においては半数以上が完成年度時に定年規程の年齢を超える者となっていることから、完成年度以降における教員採用計画や教育人材育成サイクルの構築について設置の趣旨等を記載した書類において説明しているところであるが、これをより明確化するため、表とグラフを用いて可視化する。また、専任教員の負担を、専任教員個人別時間割等を用いて確認するとともに、その妥当性について明確に説明する。

2. <完成年度以降における教員採用計画や教育人材育成サイクルの構築の可視化>

設置の趣旨等を記載した書類には、教員組織の年齢構成と定年に関する学内規程や教員組織編制の将来構想について説明しているが、それらを整理し、今後の採用計画と教員組織編制の将来構想を実現するための方策をまとめると概ね以下のとおりとなる。

- ① 完成年度以降の教員の採用計画については、全国公募により、40歳代以下の教員を積極的に採用するよう努める。
- ② 定年退職する教員の後任としては、なるべく同一研究分野の学内の若手教員を育成してこれに充て、その補充として、全国公募により若手教員を新規採用する。
- ③ 本学の教育の到達目標である「3年に1度、複数の授業科目を新規に開設する」ことに伴い、新規に開設する授業を担当する専任教員が担当していた授業科目への後任補充として、若手教員を新規採用する。
- ④ 実務家教員に40歳代以下の教員を確実に採用するため、本学を支援する観光業界の企業・団体等との連携をさらに強化して、常々、候補者の発掘に努め、教員公募の際には積極的に応募を働きかけるなどの工夫により、教員の年齢構成の均等化に努める。
- ⑤ 他大学との教育・研究交流を進め、教育人材の情報を常に把握し、教育人材の流動化に適切に対応できるよう努める。

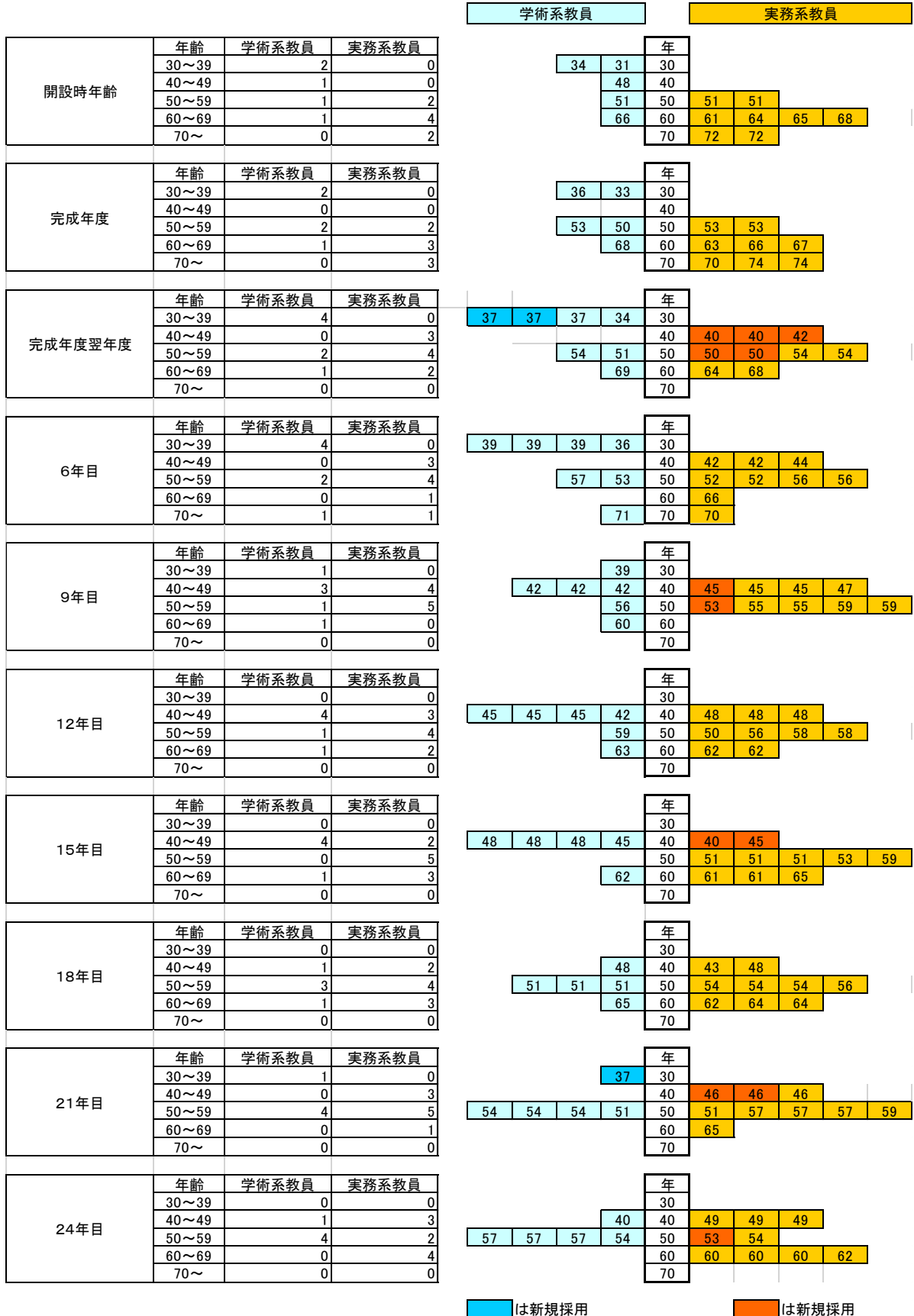
これらを踏まえて、教員採用計画シミュレーションを以下のとおり作成するとともに、それによる専任教員の年齢別分布をグラフ化する。これにより教員組織編制の将来構想を可視化する。また、これらを本書類及び設置の趣旨等を記載した書類の資料として添付する。**(資料15 教員採用計画シミュレーション)** **(資料16 専任教員年代別分布グラフ)**

## 教員採用計画シミュレーション

(年齢：歳)

専門分野等	番号	区分	職 位	氏 名	開設時年齢 (1年目)	完成年度 (3年目)	完成翌年度 (4年目)	6年目	9年目	12年目	15年目	18年目	21年目	24年目
観光学 社会学	1	専	教 授		66	68	69	71						
	3	専	准教授		48	50	51	53						
	3	専	教 授						56	59	62	65		
	4	専	助 教		34	36	37							
	4	専	講 師					39	42					
	4	専	准教授							45	48			
	4	専	教 授									51	54	57
	採用1	専	講 師	○○○○			37	39	42					
	採用1	専	准教授	○○○○						45	48	51		
採用1	専	教 授	○○○○									54	57	
採用2	専	講 師	○×●×									37	40	
地理学	2	専	准教授		51	53	54							
	2	専	教 授					57	60	63				
	4	専	助 教		31	33	34							
	4	専	講 師					36	39	42				
	4	専	准教授								45	48		
	4	専	教 授										51	54
	採用3	専	講 師	○●△▲			37	39	42					
採用3	専	准教授	○●△▲						45	48	51			
採用3	専	教 授	○●△▲									54	57	
実務・交通	6	実専	教 授		61	63	64	65						
	採用4	実専	准教授	◎◎▽▽			40	42	45	48				
	採用4	実専	教 授	◎◎▽▽							51	54	57	60
	採用5	実専	准教授	◎▽▽▽					45	48	51	54		
	採用5	実専	教 授	◎▽▽▽									57	60
実務・宿泊	7	実専	准教授		68	70								
	採用6	実専	准教授	×◎▽▽			40	42	45	48				
	採用6	実専	教 授	×◎▽▽							51	54	57	60
	8	実専	准教授		51	53	54							
	8	実専	教 授					56	59	62	65			
採用7	実専	准教授	×◎▽○							40	43	46	49	
実・研	9	実(研)	教 授		72	74								
	採用8	実(研)	教 授	◎◎○▼			50	52	55	58	61	64		
	採用9	実(研)	准教授	△◎○▼									46	49
	10	実(研)	教 授		72	74								
	採用10	実(研)	教 授	◎××▼			50	52	55	58	61	64		
	採用11	実(研)	准教授	△◎×▼									46	49
	11	実(研)	准教授		65	67	68							
11	実(研)	教 授					70							
採用12	実(研)	教 授	○●◎▲					53	56	59	62	65		
採用13	実(研)	教 授	◎●×▲										53	
実み・観光 地域創生	12	実み	教 授		64	66								
	採用14	実み	准教授	◎◎◎◎			42	44	47	50				
	採用14	実み	教 授	◎◎◎◎							53	56	59	62
	13	実み	講 師		51	53	54							
	13	実み	准教授					56	59	62				
	採用15	実み	准教授	△▽▼▲							45	48	51	
採用15	実み	教 授	△▽▼▲										54	
教員合計					13	13	16	16	15	15	15	14	14	14

## 専任教員の年代別分布一覧及びそのグラフ



### 3. <教員審査を踏まえた教員負担の確認>

審査意見を踏まえ、現状の教員の負担を確認し、教育研究を支障なく行うことができる教員体制になっていることを検証する。そのためにまず、教員審査の結果を踏まえ現状の教員の負担を確認する。

(教員審査の結果と対応)

- ◎ 准教授 吉田雄介 「観光データ整理実習」 不可、関連する業績不足、兼任補充可。
- ◎ 准教授 田保 顕 「観光学概論」 不可、関連する業績不足、兼任補充可。
- ◎ 教授 安本幸博 「交通産業論」 不可、関連する業績不足、兼任補充可。

これらについて、審査意見10を踏まえて、これ以上、専任教員の負担を増やすことなく補正すべきと考え、これら3つの授業科目については、兼任教員を補充することとした。

- ◎ 「観光データ整理実習」 大井達雄 (現職：和歌山大学 観光学部 教授)
- ◎ 「観光学概論」 山崎隆之 (現職：長野大学 環境ツーリズム学部 准教授)
- ◎ 「交通産業論」 古平 浩 (現職：長野大学 環境ツーリズム学部 准教授)

そのうえで、専任教員の個人負担を明確にするため個人別の時間表を作成して確認し、教員の負担について、以下のとおり説明するとともに、設置の趣旨等を記載した書類68ページに追記する。また、別添資料として本書類及び設置の趣旨等を記載した書類に添付する。**(資料10 専任教員個人別時間割)** さらに、完成年次における、現状の専任教員の1週間あたりの授業担当コマ数を添付のとおり一覧表を作成し、別添資料として本書類及び設置の趣旨等を記載した書類に添付する。

#### **(資料11 専任教員の担当授業コマ数一覧)**

(設置の趣旨等を記載した書類 68ページ)

### **5-9 専任教員の負担**

本学の専任教員の負担を確認するため、専任教員の個人別の時間割をクォーター及び週ごとに作成した。(資料 66 専任教員個人別時間割)

これに基づき、完成年次における各専任教員の授業担当コマ数を確認すると別添資料のとおりとなり、授業以外に想定される教授会や各委員会、研究会議やオフィスアワーに対応することや臨地実務実習に伴う巡回指導やその移動時間を確保することも可能であり、直ちに教員・研究に支障をきたすものではないと考えている。(資料 67 専任教員担当授業コマ数一覧)

臨地実務実習を担当する専任教員7名のうち、安本幸博、小島英夫、石床 渉、堀田明美、阿部有香の5名が多忙となると思われるが、この5名の平均年齢は、59.4歳であり、本学の教員の定年規程の基準を5歳下回っている。

この5名のうち、65歳以上となる者は小島英夫、堀田明美の2名である。小島英夫は、都市部の大規模ホテルでの実務経験を有し、かつ地元ホテルの経営者として、宿泊産業の現場における業務全般について精通しているだけでなく、経営的観点から総合的に業務を推進してきた経験を有しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではない。また、現在も臨地実務実習施設への協力依頼や実習内容の打合せ等に事務職員とともに出向いており、遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。また、堀田明美は、航空会社において長く客室乗務員として勤務した経験があり、

航空産業の業務全般に精通しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではなく、航空クラスの巡回指導のための遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。

### **(1) 学術系教員及び臨地実務実習を担当しない実務家教員の負担**

※1 クォーターあたりのコマ数を記述する。

- ① 安村克己は、1年間の担当授業コマ数が120コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「文化論A」「観光学概論A」2年次「観光行動論A」の3科目45コマを、第2クォーターは1年次の「観光社会文化論A」「観光振興・地域創生論B」の2科目30コマを、第3クォーターは、2年次の「観光行動論B」「国際観光論」の2科目30コマを、第4クォーターは1年次の「観光振興・地域創生論A」の1科目15コマを担当する。
- ② 吉田雄介は、1年間の担当授業コマ数が120コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「基礎演習」「地域資源論A」「地域資源論B」2年次の「異文化理解」3年次の「専門演習」の5科目61コマを、第2クォーターは1年次の「基礎演習」「地理学A」「地域観光基礎実習」3年次の「専門演習」の4科目45コマを担当し、第3クォーターは3年次の「専門演習」1科目8コマを、第4クォーターは3年次の「専門演習」の1科目6コマを担当する。
- ③ 田保 顕は、1年間の担当授業コマ数が90コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「基礎演習」3年次「専門演習」の2科目16コマを、第2クォーターは1年次「基礎演習」「文化論B」「地域観光基礎実習」の3科目45コマを、第3クォーターは、3年次の「専門演習」の1科目8コマを、第4クォーターは1年次「観光社会文化論B」3年次の「専門演習」の1科目21コマを担当する。
- ④ 平 侑子は、1年間の担当授業コマ数が120コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「基礎演習」2年次「観光文化施設論」「観光メディア論」3年次の「専門演習」「メディアコンテンツ実習B」の5科目61コマを、第2クォーターは1年次の「基礎演習」「地域観光基礎実習」3年次の「専門演習」「メディアコンテンツ実習A」の4科目45コマを担当し、第3クォーターは3年次の「専門演習」1科目8コマを、第4クォーターは3年次の「専門演習」の1科目6コマを担当する。
- ⑤ 谷崎友紀は、1年間の担当授業コマ数が120コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「基礎演習」「地理学B」2年次「信仰の歴史」3年次の「専門演習」「マップデザイン実習A」の5科目61コマを、第2クォーターは1年次の「基礎演習」「地域観光基礎実習」3年次の「専門演習」「マップデザイン実習B」の4科目45コマを担当し、第3クォーターは3年次の「専門演習」1科目8コマを、第4クォーターは3年次の「専門演習」の1科目6コマを担当する。
- ⑥ 藤野公孝は、1年間の担当授業コマ数が90コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「観光事業論A」2年次「観光政策論B」3年次「専門演習」の3科目38コマを、第2クォーターは1年次「観光事業論B」3年次「専門演習」の2科目23コマを、第3クォーターは2年次「観光政策論A」3年次「専門演習」の2科目23コマを、第4クォーターは3年次の「専門演習」の1科目6コマを担当する。

## **(2) 臨地実務実習を担当する実務家教員の負担**

臨地実務実習を担当する実務家教員の負担については、週によりばらつきがあるため、各クォーターにおける1週あたりのコマ数について記述する。なお、学内における学生の活動報告書の確認等のために週に1コマを必要とし、巡回指導については移動時間を含めて、半日で実施する場合は3コマ、日帰りの場合には5コマ、1泊2日の場合は10コマ、2泊3日の場合は15コマを必要するものとして計算しているが、最大でも週に20コマを超えないように設定している。

① 安本幸博は、1年間の担当授業コマ数が206コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.4コマとなる。

本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「観光リスクマネジメントB」、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり4科目5コマ（8週目のみ4コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」、の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても9コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

② 小島英夫は、1年間の担当授業コマ数が216コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.8コマとなる。

本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、3年次「専門演習」のみの1週あたり1科目1コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、3年次「専門演習」の3科目を担当し、前半4週は3コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても12コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。

③ 石床 渉は、1年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。

本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習B」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」「宿泊産業論」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。



- ④ 青木義英は、1年間の担当授業コマ数が102コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.2コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「ホスピタリティマネジメント論A」、2年次「キャリアデザイン論B」の1週あたり2科目4コマ（第8週目のみ2コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、1年次「観光リスクマネジメントA」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、2年次「キャリアデザイン論A」の1科目のみを担当する。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、巡回指導には赴かないため、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は1コマとなっている。
- ⑤ 堀田明美は、1年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「キャリアデザイン論B」「ビジネスコミュニケーション」、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「キャリアデザイン論B」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、1週あたり平均3.3コマを担当することになる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習A」「ホスピタリティマネジメント論B」、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「キャリアデザイン論A」、3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「キャリアデザイン論A」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、前半4週は1週あたり平均3.5コマであり、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。
- ⑥ 古川康造は、1年間の担当授業コマ数が87コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.7コマとなる。第1クォーター及び第3クォーターは担当する授業科目はない。第2クォーターは、3年次「地域創生事業論」と2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。
- ⑦ 阿部有香は、1年間の担当授業コマ数が188コマであり、1週当たりの平均担当コマ数5.9コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

4. <教員負担に関する本学の見解>

これらを整理すると教員の負担は下表のとおりとなり、本設置計画における専任教員の負担は直ちに教育研究に支障を及ぼすものではないと判断している。(資料11 専任教員の授業担当コマ数一覧)

専任教員の授業担当コマ数一覧

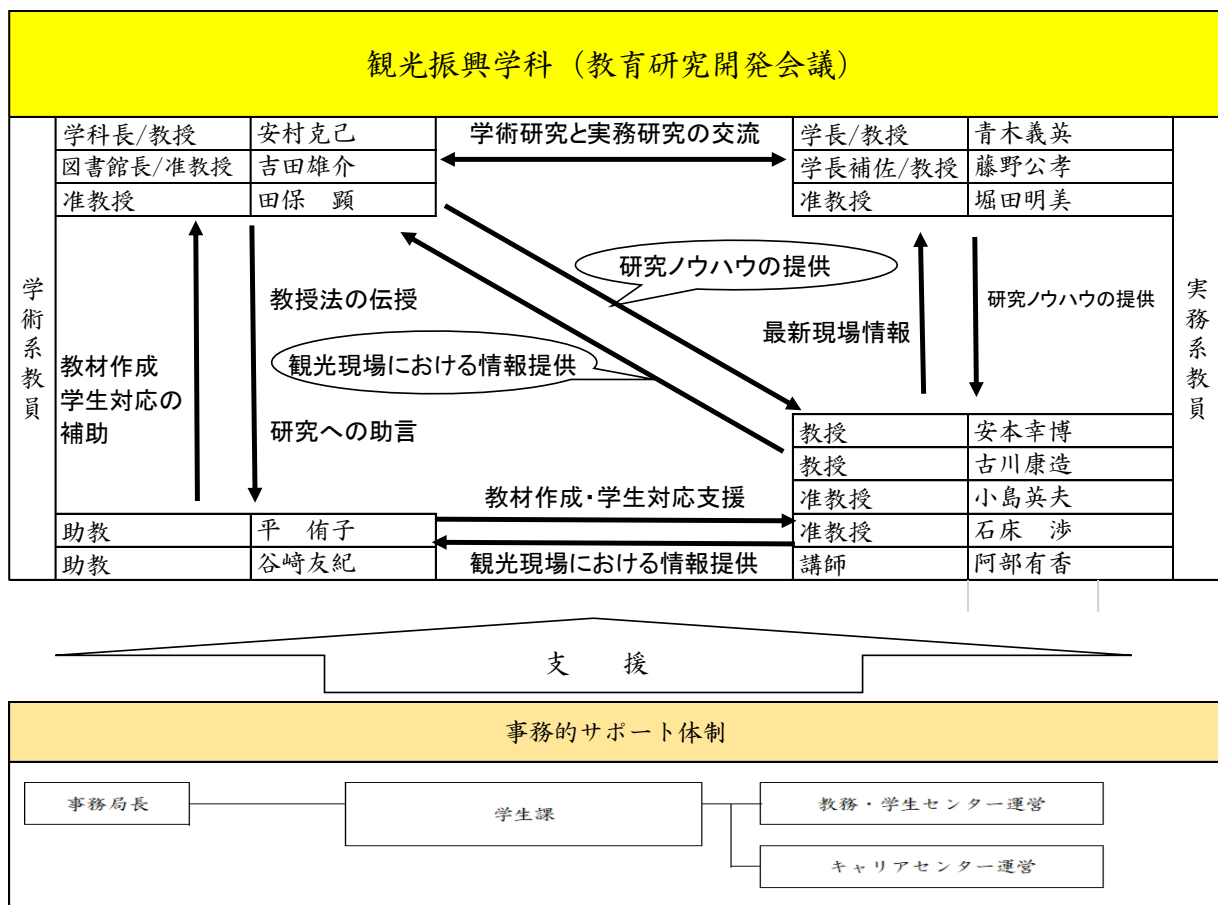
※   は臨地実務実習期間で、巡回指導(移動時間を含む)及び学内指導を、授業担当コマ数に換算している。

区分	クォーター		第1クォーター									第2クォーター									年間 総コマ数	
	週		1	2	3	4	5	6	7	8	平均	1	2	3	4	5	6	7	8	平均		
	専任教員氏名	年齢																				
学術系教員	安村克己		6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	120
	吉田雄介		8	8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
	田保 顕		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	90
	平 侑子		8	8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
	谷崎友紀		8	8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
実務系教員	安本幸博		5	5	5	5	5	5	5	4	4.9	4	15	12	2	15	12	2	1	7.9	206	
	小島英夫		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	12	17	12	12	17	12	1	10.5	216	
	石床 涉		3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	5	16	11	6	16	11	6	3	9.3	208	
	青木義英		4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	2	18	3	3	18	3	3	1	6.4	102	
	藤野公孝		5	5	5	5	5	5	5	3	4.8	3	3	3	3	3	3	3	2	2.9	90	
	堀田明美		4	3	3	4	3	3	3	3	3.3	5	16	14	9	16	14	9	3	10.8	208	
	古川康造		0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	2	13	8	3	13	8	3	1	6.4	87	
	阿部有香		3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	1	12	12	2	12	12	2	1	6.8	188	
区分	クォーター		第3クォーター									第4クォーター									平均 コマ数	
	週		1	2	3	4	5	6	7	8	平均	1	2	3	4	5	6	7	8	平均		
	専任教員氏名	年齢																				
学術系教員	安村克己		4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	2	2	2	2	2	2	2	1	1.9	3.8	
	吉田雄介		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8	
	田保 顕		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	3	3	3	3	3	3	2	1	2.6	2.8	
	平 侑子		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8	
	谷崎友紀		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8	
実務系教員	安本幸博		5	5	5	5	3	9	9	4	5.6	6	7	14	9	15	7	1	0	7.4	6.4	
	小島英夫		3	3	3	3	1	7	12	2	4.3	3	14	19	14	12	17	11	0	11.3	6.8	
	石床 涉		5	5	5	5	3	9	14	4	6.3	3	14	9	9	12	12	1	0	7.5	6.5	
	青木義英		2	2	2	2	2	2	2	1	1.9	0	1	1	1	1	1	1	0	0.8	3.2	
	藤野公孝		3	3	3	3	3	3	3	2	2.9	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	2.8	
	堀田明美		4	3	3	4	1	7	12	3	4.6	3	4	17	12	12	10	1	0	7.4	6.5	
	古川康造		0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	11	6	1	11	6	1	0	4.5	2.7	
	阿部有香		5	5	5	5	3	9	14	4	6.3	3	14	14	4	12	12	1	0	7.5	5.9	

5. <観光振興学科における教員の連携体制及び事務局のサポート体制>

本学の専任教員が担当する授業科目数、単位数が多くなっているのは、教育の質の保証の観点及び学生が「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」をバランスよく修得し、産業界等の人材ニーズに適合する観光振興のエキスパートとして養成するために、職業専門科目において必修科

目を数多く設定していることによる。特に臨地実務実習科目においては、事前学修科目、実習科目、事後学修科目をセットで実施する計画であるため、実務家教員一人当たりの授業科目数はどうしても多くなる傾向にあるが、上記のように、教育研究に直ちに支障がある教員体制とはなっていないと考えている。本学の教育上の特色は、「厳しいが、必ず身に付く教育」であり、これに向かって全教員が一丸となって対応する計画である。これまでの大学は個々の教員の力量に頼っている傾向があったが、本学は、新設校の強みを生かして従来の大学教育から脱却し、観光振興学科の教員がチームとして対応する教育を実践するとともに、事務職員を含めて、組織を上げて教員個々人をバックアップする体制を構築し、学科運営及び教育の質の保証、研究推進、地域貢献に万全を尽くしたいと考えている。（資料17 観光振興学科内の連携・協力体制）



観光振興学科における教員の連携体制については、設置の趣旨等を記載した書類68ページに以下のとおり、追記し補正する。

（設置の趣旨等を記載した書類68ページ）

### 5-10 教員組織における連携・協力体制の構築

本学観光振興学科の教員は、学術系教員5名のうち、豊富な教育経験を有する者3名と若手教員で博士号を有する助教2名（1名は内定、3月取得予定）により構成される。また、実務家教員は、研究実績を有する教員3名と実専及び実み5名により構成される。これらの四者はそれぞれに持ち得る知識、経験やノウハウがあり、相互にそれらを享受することにより、信頼関係や支援関係を構

築することが可能である。本学はこれらのメリットを最大限に活用し、観光振興学科及び教育研究開発会議における交流や協議を通じて、相互に切磋琢磨し、相互に支援しあう体制を構築する。加えて、事務局学生課がこれらの動きを常に事務的にサポートし、その恩恵を学生が享受できるよう努力する。

具体的には、学術系ベテラン教員と研究実績を有する実務家教員は、学術研究と実務研究の交流を促進する。学術系ベテラン教員は、学術系若手教員に対して、教授法の伝授と研究への助言を行うと同時に、教材作成や学生対応の補助を得る。実専及び実み教員に対しては、研究ノウハウを提供しつつ、反対に観光現場の最新情報を取得する。研究実績を有する実務家教員は、実専及び実み教員に対しては、研究ノウハウを提供しつつ、反対に観光現場の最新情報を取得する。学術系の若手教員は、実専及び実み教員に対して教材作成や学生対応の支援を行い、反対に観光現場の最新情報を取得する。このような体制を構築する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 70 ページ) (旧 67 ページ)

新	旧
<p><b>5-7 今後の採用計画と教員組織編制の将来構想</b></p> <p>完成年度以降の教員の採用計画については、全国公募により、40 歳以下の教員を積極的に採用するよう努める。また、定年退職する教員の後任としては、なるべく同一研究分野の学内の若手教員を育成してこれに充て、その補充として、全国公募により若手教員を採用することにより、教育研究の継続性を維持するための「<b>教育人材育成サイクル</b>」を構築することを理想とするが、本学の専任教員の規模からすると困難な場合もあり、その際には、全国公募による後任の採用や特任教員としての継続雇用により対応する場合もある。</p> <p>本学科開設時における専任教員及びみなし専任教員の年齢構成は、70 歳代 2 名、60 歳代 5 名、50 歳代 3 名、40 歳代 1 名、30 歳代 2 名であり、教員の年齢構成が比較的高齢に偏っている。これは、実務系教員には長年の実務実績や研究実績が必要となることも影響しており、本学においても、実務系教員はすべて 50 歳代以上である。このため、学術系教員に若手教員を配置することとした。今後は、若手教員の育成と計画的な若手教員の採用を進め、将来的にはバランスの取れた教員組織を編成する。<b>(資料 64 教員採用計画シミュレーション)</b> <b>(資料 65 専任教員年代別分布グラフ)</b></p>	<p><b>5-7 今後の採用計画と教員組織編制の将来構想</b></p> <p>完成年度以降の教員の採用計画については、全国公募により、40 歳以下の教員を積極的に採用するよう努める。また、定年退職する教員の後任としては、なるべく同一研究分野の学内の若手教員を育成してこれに充て、その補充として、全国公募により若手教員を採用することにより、教育研究の継続性を維持するための「<b>教育人材育成サイクル</b>」を構築することを理想とするが、本学の専任教員の規模からすると困難な場合もあり、その際には、全国公募による後任の採用や特任教員としての継続雇用により対応する場合もある。</p> <p>本学科開設時における専任教員及びみなし専任教員の年齢構成は、70 歳代 2 名、60 歳代 5 名、50 歳代 3 名、40 歳代 1 名、30 歳代 2 名であり、教員の年齢構成が比較的高齢に偏っている。これは、実務系教員には長年の実務実績や研究実績が必要となることも影響しており、本学においても、実務系教員はすべて 50 歳代以上である。このため、学術系教員に若手教員を配置することとした。今後は、若手教員の育成と計画的な若手教員の採用を進め、将来的にはバランスの取れた教員組織を編成する。</p>

<p>このため、教育研究開発会議を有効に機能させ、本学の建学の精神や教育理念を常に全教員に浸透させてFD活動を促進することはもちろんのこと、より経験を有する教員が若手教員に教育研究において、常に助言・指導を行う体制と風土を構築し、若手教員の育成に積極的に取り組む。また、他大学との教育・研究交流を進め、教育人材の情報を常に把握し、教育人材の流動化に適切に対応できるよう努めるとともに、教育の到達目標である「3年に1度、複数の授業科目を新規に開設する」ことに伴い、新規に開設する授業を担当する専任教員が担当していた授業科目の後任補充として、専任教員の新規採用を行う。<b><u>(資料 64 教員採用計画シミュレーション)</u></b> <b><u>(資料 65 専任教員年代別分布グラフ)</u></b></p> <p>現実には、完成年度に専任教員 13 名の内、6 名の教員が定年となる。内訳は、学術系教員 1 名と実務系教員 5 名であるが、学術系教員 1 名と実務系教員 1 名については、その実績から余人を以て代えがたく、専任教員等定年規程第 2 条第 4 項により、特任教員として定年延長する予定である。残りの実務系教員 4 名については、その後任には 40 歳代以下の教員を全国公募により採用する計画である。実務家教員に 40 歳代以下の教員を確実に採用するため、本学を支援する観光業界の企業との連携をさらに強化して、常々、候補者の発掘に努め、積極的に応募を働きかけるなどの工夫により、教員の年齢構成の均等化に努めて参りたい。<b><u>(資料 64 教員採用計画シミュレーション)</u></b> <b><u>(資料 65 専任教員年代別分布グラフ)</u></b></p>	<p>このため、教育研究開発会議を有効に機能させ、本学の建学の精神や教育理念を常に全教員に浸透させてFD活動を促進することはもちろんのこと、より経験を有する教員が若手教員に教育研究において、常に助言・指導を行う体制と風土を構築し、若手教員の育成に積極的に取り組む。また、他大学との教育・研究交流を進め、教育人材の情報を常に把握し、教育人材の流動化に適切に対応できるよう努めるとともに、教育の到達目標である「3年に1度、複数の授業科目を新規に開設する」ことに伴い、新規に開設する授業を担当する専任教員が担当していた授業科目の後任補充として、専任教員の新規採用を行う。</p> <p>現実には、完成年度に専任教員 13 名の内、6 名の教員が定年となる。内訳は、学術系教員 1 名と実務系教員 5 名であるが、学術系教員 1 名と実務系教員 1 名については、その実績から余人を以て代えがたく、専任教員等定年規程第 2 条第 4 項により、特任教員として定年延長する予定である。残りの実務系教員 4 名については、その後任には 40 歳代以下の教員を全国公募により採用する計画である。実務家教員に 40 歳代以下の教員を確実に採用するため、本学を支援する観光業界の企業との連携をさらに強化して、常々、候補者の発掘に努め、積極的に応募を働きかけるなどの工夫により、教員の年齢構成の均等化に努めて参りたい。</p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 71 ページ) (旧 68 ページ)

新	旧
<p><b>5-9 専任教員の負担</b></p> <p>本学の専任教員の負担を確認するため、専任教員の個人別の時間割をクォーター及び週ごとに作成した。<b><u>(資料 66 専任教員個人別時間割)</u></b></p>	<p>(新規)</p>

これに基づき、完成年次における各専任教員の授業担当コマ数を確認すると別添資料のとおりとなり、授業以外に想定される教授会や各委員会、研究会議やオフィスアワーに対応することや臨地実務実習に伴う巡回指導やその移動時間を確保することも可能であり、直ちに教員・研究に支障をきたすものではないと考えている。**(資料 67 専任教員担当授業コマ数一覧)**

臨地実務実習を担当する専任教員 7 名のうち、安本幸博、小島英夫、石床 渉、堀田明美、阿部有香の 5 名が多忙となると思われるが、この 5 名の平均年齢は、59.4 歳であり、本学の教員の定年規程の基準を 5 歳下回っている。

この 5 名のうち、65 歳以上となる者は小島英夫、堀田明美の 2 名である。小島英夫は、都市部の大規模ホテルでの実務経験を有し、かつ地元ホテルの経営者として、宿泊産業の現場における業務全般について精通しているだけでなく、経営的観点から総合的に業務を推進してきた経験を有しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではない。また、現在も臨地実務実習施設への協力依頼や実習内容の打合せ等に事務職員とともに出向しており、遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。また、堀田明美は、航空会社において長く客室乗務員として勤務した経験があり、航空産業の業務全般に精通しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではなく、航空クラスの巡回指導のための遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。

#### **(1) 学術系教員及び臨地実務実習を担当しない実務家教員の負担**

※1 クォーターあたりのコマ数を記述する。

① 安村克己は、1 年間の担当授業コマ数が 120 コマであり、1 週当たりの平均担当コマ数 3.8 コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第 1 クォーターは 1 年次「文化論 A」「観光学概論

A] 2年次「観光行動論 A」の3科目45コマを、第2クォーターは1年次の「観光社会文化論 A」「観光振興・地域創生論 B」の2科目30コマを、第3クォーターは、2年次の「観光行動論 B」「国際観光論」の2科目30コマを、第4クォーターは1年次の「観光振興・地域創生論 A」の1科目15コマを担当する。

② 吉田雄介は、1年間の担当授業コマ数が120コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「基礎演習」「地域資源論 A」「地域資源論 B」2年次の「異文化理解」3年次の「専門演習」の5科目61コマを、第2クォーターは1年次の「基礎演習」「地理学 A」「地域観光基礎実習」3年次の「専門演習」の4科目45コマを担当し、第3クォーターは3年次の「専門演習」1科目8コマを、第4クォーターは3年次の「専門演習」の1科目6コマを担当する。

③ 田保 顕は、1年間の担当授業コマ数が90コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「基礎演習」3年次「専門演習」の2科目16コマを、第2クォーターは1年次「基礎演習」「文化論 B」「地域観光基礎実習」の3科目45コマを、第3クォーターは、3年次の「専門演習」の1科目8コマを、第4クォーターは1年次「観光社会文化論 B」3年次の「専門演習」の1科目21コマを担当する。

④ 平 侑子は、1年間の担当授業コマ数が120コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「基礎演習」2年次「観光文化施設論」「観光メディア論」3年次の「専門演習」「メディアコンテンツ実習 B」の5科目61コマを、第2クォーターは1年次の「基礎演習」「地域観光基礎実習」3年次の「専門演習」「メディアコンテンツ実習 A」の4科目45コマを担当し、第3クォーターは3年次の「専門演習」1科目8

コマを、第4クォーターは3年次の「専門演習」の1科目6コマを担当する。

⑤ 谷崎友紀は、1年間の担当授業コマ数が120コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「基礎演習」「地理学B」2年次「信仰の歴史」3年次の「専門演習」「マップデザイン実習A」の5科目61コマを、第2クォーターは1年次の「基礎演習」「地域観光基礎実習」3年次の「専門演習」「マップデザイン実習B」の4科目45コマを担当し、第3クォーターは3年次の「専門演習」1科目8コマを、第4クォーターは3年次の「専門演習」の1科目6コマを担当する。

⑥ 藤野公孝は、1年間の担当授業コマ数が90コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは1年次「観光事業論A」2年次「観光政策論B」3年次「専門演習」の3科目38コマを、第2クォーターは1年次「観光事業論B」3年次「専門演習」の2科目23コマを、第3クォーターは2年次「観光政策論A」3年次「専門演習」の2科目23コマを、第4クォーターは3年次の「専門演習」の1科目6コマを担当する。

## **(2) 臨地実務実習を担当する実務家教員の負担**

臨地実務実習を担当する実務家教員の負担については、週によりばらつきがあるため、各クォーターにおける1週あたりのコマ数について記述する。なお、学内における学生の活動報告書の確認等のために週に1コマを必要とし、巡回指導については移動時間を含めて、半日で実施する場合は3コマ、日帰りの場合には5コマ、1泊2日の場合は10コマ、2泊3日の場合は15コマを必要とするものとして計算しているが、最大でも週に20コマを超えないように設定している。

① 安本幸博は、1年間の担当授業コマ数が206コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.4コマ



となる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「観光リスクマネジメントB」、2年次「観光実務基礎論」(後半4週)、3年次「観光実務マネジメント論」(前半4週)「専門演習」の1週あたり4科目5コマ(8週目のみ4コマ)を担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」(6週)3年次「専門演習」、の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」(前半4週)「臨地実務実習Ⅰ」(3週)、2年次「観光実務発展論」(前半4週)「観光実務応用論」(後半4週)、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても9コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」(前半4週)、2年次「臨地実務実習Ⅲ」(6週)、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

② 小島英夫は、1年間の担当授業コマ数が216コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.8コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、3年次「専門演習」のみの1週あたり1科目1コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」(6週)3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」(前半4週)「臨地実務実習Ⅰ」(3週)、3年次「専門演習」の3科目を担当し、前半4週は3コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても12コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」(前半4週)、2年次「臨地実務実習Ⅲ」(6週)、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。

③ 石床 渉は、1年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習B」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」「宿泊産業論」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

④ 青木義英は、1年間の担当授業コマ数が102コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.2コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「ホスピタリティマネジメント論A」、2年次「キャリアデザイン論B」の1週あたり2科目4コマ（第8週目のみ2コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、1年次「観光リスクマネジメントA」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、2年次「キャリアデザイン論A」の1科目のみを担当する。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、巡回指導には赴かないため、「臨地実務実習Ⅲ」に

係るコマ数は1コマとなっている。

⑤ 堀田明美は、1年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「キャリアデザイン論B」「ビジネスコミュニケーション」、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「キャリアデザイン論B」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、1週あたり平均3.3コマを担当することになる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習A」「ホスピタリティマネジメント論B」、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「キャリアデザイン論A」、3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「キャリアデザイン論A」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、前半4週は1週あたり平均3.5コマであり、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

⑥ 古川康造は、1年間の担当授業コマ数が87コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.7コマとなる。第1クォーター及び第3クォーターは担当する授業科目はない。第2クォーターは、3年次「地域創生事業論」と2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

⑦ 阿部有香は、1年間の担当授業コマ数が188コマであり、1週当たりの平均担当コマ数5.9コマとなる。本学はクォーター制を採用しているが、第1クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」(後半4週)、3年次「観光実務マネジメント論」(前半4週)「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」(6週)3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」(前半4週)「臨地実務実習Ⅰ」(3週)、2年次「観光実務発展論」(前半4週)「観光実務応用論」(後半4週)、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」(前半4週)、2年次「臨地実務実習Ⅲ」(6週)、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。(資料66 専任教員個人別時間割)(資料67 専任教員担当授業コマ数一覧)

(新規)

#### 5-10 教員組織における連携・協力体制の構築

本学観光振興学科の教員は、学術系教員5名のうち、豊富な教育経験を有する者3名と若手教員で博士号を有する助教2名(1名は内定、3月取得予定)により構成される。また、実務家教員は、研究実績を有する教員3名と実専及び実み5名により構成される。これらの四者はそれぞれに持ち得る知識、経験やノウハウがあり、相互にそれらを楽しむことにより、信頼関係や支援関係を構築することが可能である。本学はこれらのメリットを最大限に活用し、観光振興学科及び教育研究開発会議における交流や協議を通じて、相互に切磋琢磨し、相互に支援しあう体制を構築する。加えて、事務局学生課がこれらの動きを常に事務的

にサポートし、その恩恵を学生が享受できるように努力する。

具体的には、学術系ベテラン教員と研究実績を有する実務家教員は、学術研究と実務研究の交流を促進する。学術系ベテラン教員は、学術系若手教員に対して、教授法の伝授と研究への助言を行うと同時に、教材作成や学生対応の補助を得る。実専及び実み教員に対しては、研究ノウハウを提供しつつ、反対に観光現場の最新情報を取得する。研究実績を有する実務家教員は、実専及び実み教員に対しては、研究ノウハウを提供しつつ、反対に観光現場の最新情報を取得する。学術系の若手教員は、実専及び実み教員に対して教材作成や学生対応の支援を行い、反対に観光現場の最新情報を取得する。このような体制を構築する。**(資料**

**68 観光振興学科内の連携・協力体制)**

【名称、その他】

11 <教員研究室等が適切に配置されているか不明確>

教員研究室等について、レイアウトや機能等の詳細が示されておらず、教員や学生が教育研究活動を行うために必要な十分なスペースや機能が備えられているかが不明確なため、明確に説明し、必要に応じて適切に修正すること。

(対応)

1. <対応の概要>

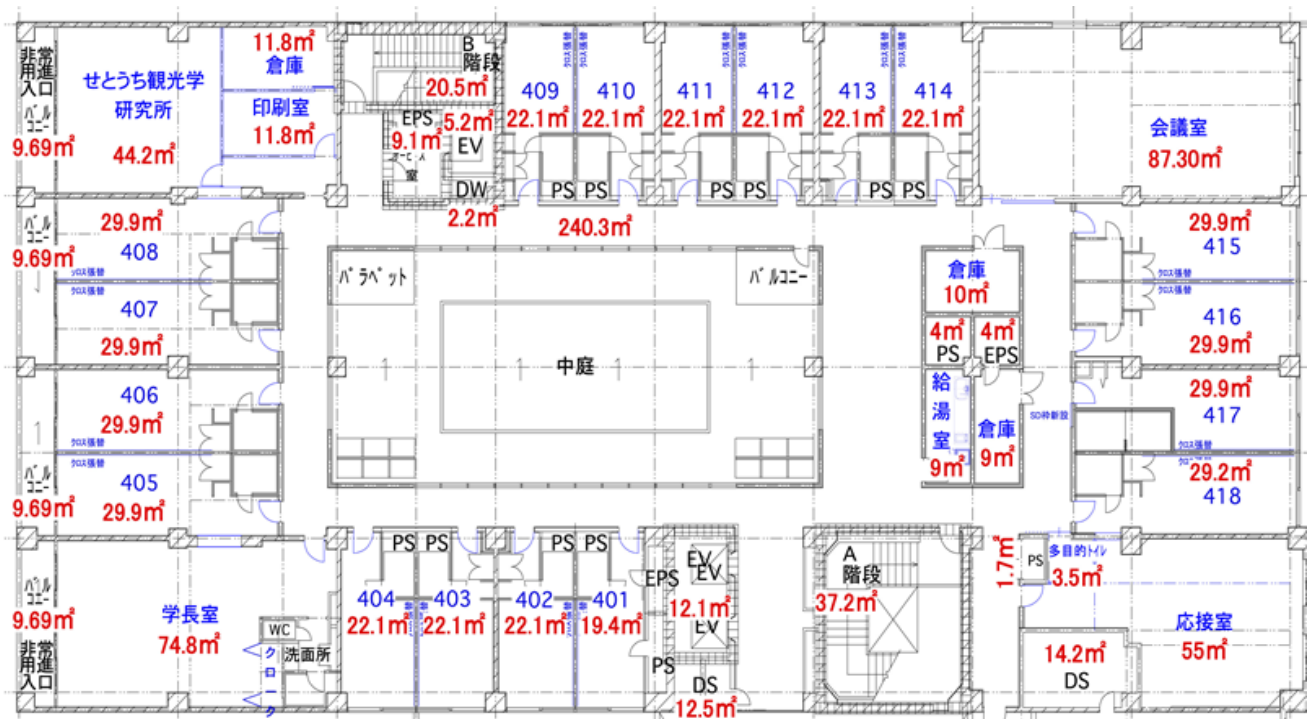
教員研究室等について、レイアウトや機能等を説明し、教員や学生が教育研究活動を行うために必要な十分なスペースや機能が備わっていることを説明する。また、これに関連して、設置の趣旨とは直接関係がない不要な表現（「社会科学におけるフランクフルト学派(Frankfurter Schule) に比するような」）を削除する。

2. <教員研究室のコンセプト及び機能>

本学の教員研究室は、13名の専任教員に対して、学科長等の役職を持つ教員用の29.9㎡を3室と一般教員用の22.1㎡（1室のみパイプスペースの関係で19.4㎡）の10室の合計13室を整備している。外から内部の状況が分かるように扉はガラス製としているが、各室に鍵を設置しているためセキュリティは確保されている。鍵は各教員が管理するため、教員が不在の時に清掃等で部外者が立ち入ることはなく、事務局には万一の時のためにマスターキーがあるが厳重に管理されている。

研究室内には、教員の机、書棚、打ち合わせテーブルと椅子（一部の学科長等の役職を持つ教員室は応接セット）を設置する。学生は、教育上の指導やオフィスアワー等で気軽に教員研究室を訪ねることができるとともに、演習や研究の打ち合わせに使用することができる。また、今後専任教員が増える場合には、演習室を教員研究室に振り替えることにより対応することが可能である。

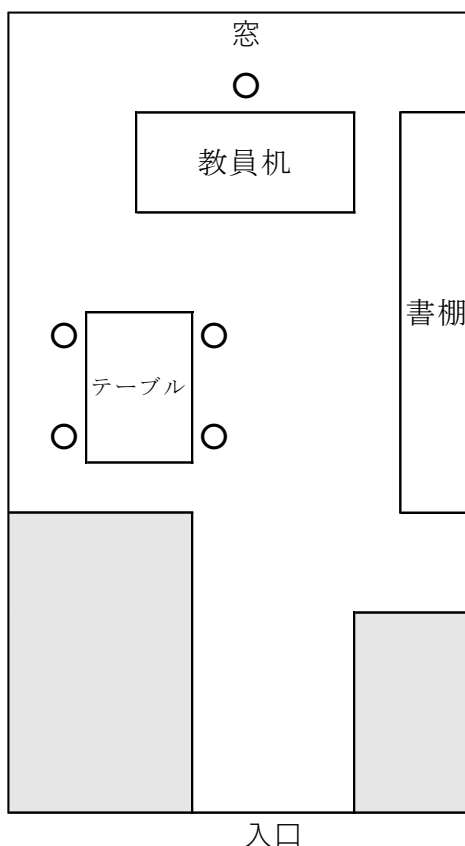
全体の配置図面は以下のとおりである。



401	吉田研究室	405	藤野研究室	409	谷崎研究室	413	阿部研究室
402	古川研究室	406	安村研究室	410	平研究室	414	小島研究室
403	堀田研究室	407	安本研究室	411	石床研究室	415・416	演習室
404	青木研究室	408	演習室	412	田保研究室	417・418	演習室

### 3. <教員研究室の基本レイアウト>

教員研究室内の基本的なレイアウトは以下のとおりであるが、部屋の向きや教員の個性により若干異なる場合がある。



### 4. <設置の趣旨等を記載した書類の補正>

これらについては、申請書の「6 校地校舎等の図面」には明記していたが、設置の趣旨等を記載した書類の72ページの「8-2 校舎等施設の整備計画」及び16ページの「1-7 研究及び地域貢献の観点から考察する本学の設置の必要性」には記載していなかった。このため、以下のとおり補正し、明確に説明するとともに、図面を資料として添付する。（資料18 校舎4階及び教員研究室内部レイアウト図）

また、本審査意見とは直接関係はないが、「1-7 研究及び地域貢献の観点から考察する本学の設置の必要性」の中に、設置の趣旨とは直接的な関係性が薄く、不要な表現が含まれていたため、「社会科学におけるフランクフルト学派 (Frankfurter Schule) に比するような」を削除する。

(設置の趣旨等を記載した書類 72 ページ)

## 8-2 校舎等施設の整備計画

本学の校舎は、高松市屋島西町 2366 番地 1 の高松市が所有する旧高松テルサの建物 10896.32 m<sup>2</sup>を借り受けて、専門職短期大学用に改修して整備する。

校舎 1 階には、事務室、図書室、学生相談室、保健室、キャリア支援室、学生控室、学生自習室、講堂 (511 人収容)、トレーニングルームを設置する。図書室、学生相談室、保健室、キャリアセンター、学生控室、学生自習室は、事務室を囲むように配置し、各種手続きや事務的相談に立ち寄りやすい場所に確保した。また、学生控室は、吹き抜け構造となっており、学生が自由に食事や歓談などの休息に使える開放的な空間にしている。学生自習室は、隣接する川の眺めに憩える空間であり、そこへ学生が自由に使える机・椅子を配置し、レポート作成などに利用できる部屋とする。キャリアセンターは、就職支援の相談・指導、資料保管の部屋とする。

2 階には、教室、情報処理室、宿泊・料飲・受付をロールプレイング形式で学修することができる実習室、そして、文化教養室 (66 畳の和室)、エクササイズルームを配置する。また、情報処理室には、42 台のパソコンを整備し、授業時間以外の空いた時間には学生に開放し、学生がレポート作成等の自習に活用できるようにする。エクササイズルームは、1 階のトレーニングルームと共に、学生の健康維持促進のための施設とする。

次に 3 階には、教室、大講義室 (100 名収容)、視聴覚室、会議室を配置する。講義や演習などの学修の主要なフロアとなる。2 階の教室 6 部屋と、3 階の教室 7 部屋と大講義室を合わせて 14 部屋の教室があり、本学の収容定員 240 名 (40 名 6 クラス) の学生が、授業を受けるのに十分な教室数を確保している。大講義室は、マイク設備やモニターを設置することで、後ろに座る学生にも配慮した教室とする。視聴覚室は、プロジェクターや音響システムを設置し視聴覚教材などの資料を見ることができる教室とする。

そして 4 階には、学長室、研究室、演習室、会議室、せとうち観光学研究所を配置する。せとうち観光学研究所は、本学の専任教員及び客員研究員等が、観光学の理論に基づき、瀬戸内地域の観光事業と観光産業について研究するための部屋 (44.2 m<sup>2</sup>) となり、図書及び資料を設置・公開するための書棚や研究会開催のための机、椅子、プロジェクター、データベース作成のためのパソコン等を設置する。さらに、1 階から 4 階まで、無線 LAN 環境を整備し、学生はもとより、教職員も常時、どの教室でもインターネットへ繋げる環境にする。

### (1) 教員研究室の概要

教員研究室は、13名の専任教員に対して、学科長等の役職を持つ教員用の29.9m<sup>2</sup>を3室と一般教員用の22.1m<sup>2</sup> (1室のみパイプスペースの関係で19.4m<sup>2</sup>) の10室の合計13室を整備している。外から内部の状況が分かるように扉はガラス製としているが、各室に鍵を設置しているためセキュリティーは確保されている。鍵は各教員が管理するため、教員が不在の時に清掃等で部外者が立ち入ることはなく、事務局には万一の時のためにマスターキーがあるが厳重に管理されている。

研究室には、教員の机、書棚、打ち合わせテーブルと椅子 (一部の学科長等の役職を持つ教員室は応接セット) を設置する。学生は、教育上の指導やオフィスアワー等で気軽に教員研究室を訪ねることができるとともに、演習や研究の打ち合わせに使用することができる。また、今後専任教員が増える場合には、演習室を教員研究室に振り替えることにより対応することが可能である。



(設置の趣旨等を記載した書類16ページ)

### 1-7 研究及び地域貢献の観点から考察する本学の設置の必要性

そして最後に、本学が観光学の理論と実践を通して、地域社会に貢献することが、本学の設置を必要とする理由として挙げられる。我が国と瀬戸内における観光と観光産業の振興は、前述のとおりすでに進展しているが、今後はこのような、産学官が組織的・体系的に連携して実践する観光振興の実態を把握し、それらを整理・分析して人材の養成に活用・反映させるとともに、これらを基に瀬戸内をはじめ地域社会に対して必要な提案や提言を行っていく必要がある。

そこで、本学は「せとうち観光学研究所 (Setouchi Research Center for Tourism Studies)」を学内に設置する。同研究所は、瀬戸内を中心として、国際的視野から観光と観光産業の研究を推進し、その研究成果から観光振興や地域創生の様々な課題について、提案や提言を行う。

「せとうち観光学研究所」の専従スタッフには、本学の専任教員の全員が着任する。本学には、観光学を専攻してその研究に専心する学術系専任教員5名と、観光の実務に従事してその実績に高い社会的評価を受けた実務系専任教員8名が就任予定である。実務系専任教員には、観光事業で国際的に活動し、高い実績を残した教員3名の他に、長年、運輸省(現国土交通省)に勤務し、観光政策や航空政策に携わり、国際観光振興会のニューヨーク事務所長やパリ事務所長も務め国際的にも活動し、現在、大学で教鞭をとっている者1名、また、高松丸亀町商店街再開発と小豆島観光開発をそれぞれに主導して、全国的に高い社会的評価を受けている2名の教員がいる。さらに、同研究所の客員研究員として、瀬戸内と四国地方の観光関係者の招聘を予定している。

それらのスタッフによって、「せとうち観光学研究所」は、瀬戸内地域の豊かな歴史、文化、自然を背景に、観光学の理論に基づき、観光と観光産業の持続可能な発展の実践に取り組む。このように、同研究所は、観光振興と地域振興に尽力する瀬戸内及び地域社会の期待に応えることができる。また、同研究所は、シンポジウム、市民向けの講演会や関連講座を企画し開催する。それらの講演会や講座によって、市民に観光振興や地域振興についての知識や理解を普及させたい。

さらに、「せとうち観光学研究所」は、理論的研究と実践的活動を通して、「実践の学としての観光学」を構築し、(削除)観光学「せとうち学派」の創設を目指したい。

「せとうち観光学研究所」は本学校舎4階の各教員の研究室と同じフロアに設置し、44.2㎡の面積を有する。パソコン、プロジェクター、図書・資料等必要な機器を整備し、データベースの作成作業や小規模な研究会・集会等の開催が可能な場とする。

このように、本学の設置によって観光学の研究と教育及び実践における地と知の拠点となり、瀬戸内に様々な貢献をもたらすと期待される。この点からも、本学を設置して、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成することが必要である。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 80 ページ) (旧 72 ページ)

新	旧
<b>8-2 校舎等施設の整備計画</b>  (省略) そして4階には、学長室、研究室、演習室、会	<b>8-2 校舎等施設の整備計画</b>  (省略) そして4階には、学長室、研究室、演習室、会

<p>議室、せとうち観光学研究所を配置する。せとうち観光学研究所は、本学の専任教員及び客員研究員等が、観光学の理論に基づき、瀬戸内地域の観光事業と観光産業について研究するための部屋(44.2 m<sup>2</sup>)となり、図書及び資料を設置・公開するための書棚や研究会開催のための机、椅子、プロジェクター、データベース作成のためのパソコン等を設置する。さらに、1階から4階まで、無線LAN環境を整備し、学生はもとより、教職員も常時、どの教室でもインターネットへ繋げる環境にする。</p> <p><b>(1)教員研究室の概要</b></p> <p>教員研究室は、13名の専任教員に対して、学科長等の役職を持つ教員用の29.9m<sup>2</sup>を3室と一般教員用の22.1m<sup>2</sup>（1室のみパイプスペースの関係で19.4m<sup>2</sup>）の10室の合計13室を整備している。外から内部の状況が分かるように扉はガラス製としているが、各室に鍵を設置しているためセキュリティは確保されている。鍵は各教員が管理するため、教員が不在の時に清掃等で部外者が立ち入ることはなく、事務局には万一の時のためにマスターキーがあるが厳重に管理されている。</p> <p>研究室には、教員の机、書棚、打ち合わせテーブルと椅子（一部の学科長等の役職を持つ教員室は応接セット）を設置する。学生は、教育上の指導やオフィスアワー等で気軽に教員研究室を訪ねることができるとともに、演習や研究の打ち合わせに使用することができる。また、今後専任教員が増える場合には、演習室を教員研究室に振り替えることにより対応することが可能である。<b>(資料69 校舎4階及び教員研究室内部レイアウト図)</b></p>	<p>議室、せとうち観光学研究所を配置する。せとうち観光学研究所は、本学の専任教員及び客員研究員等が、観光学の理論に基づき、瀬戸内地域の観光事業と観光産業について研究するための部屋となり、図書及び資料を設置・公開するための書棚や研究会開催のための机、椅子、プロジェクター、データベース作成のためのパソコン等を設置する。さらに、1階から4階まで、無線LAN環境を整備し、学生はもとより、教職員も常時、どの教室でもインターネットへ繋げる環境にする。</p> <p>(新規)</p>
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 16 ページ) (旧 16 ページ)

新	旧
1-7 研究及び地域貢献の観点から考察する本学の設置の必要性	1-7 研究及び地域貢献の観点から考察する本学の設置の必要性

(省略)	(省略)
<p>さらに、「せとうち観光学研究所」は、理論的研究と実践的活動とを通して、「実践の学としての観光学」を構築し、観光学「せとうち学派」の創設を目指したい。</p>	<p>さらに、「せとうち観光学研究所」は、理論的研究と実践的活動とを通して、「実践の学としての観光学」を構築し、<u>社会科学におけるフランクフルト学派 (Frankfurter Schule) に比するような、(削除)</u>観光学「せとうち学派」の創設を目指したい。</p>
(新規)	
<p><u>「せとうち観光学研究所」は本学校舎4階の各教員の研究室と同じフロアに設置し、44.2㎡の面積を有する。パソコン、プロジェクター、図書・資料等必要な機器を整備し、データベースの作成作業や小規模な研究会・集会等の開催が可能な場とする。</u></p> <p>このように、本学の設置によって観光学の研究と教育及び実践における地と知の拠点となり、瀬戸内に様々な貢献をもたらすと期待される。この点からも、本学を設置して、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成することが必要である。</p>	<p>このように、本学の設置によって観光学の研究と教育及び実践における地と知の拠点となり、瀬戸内に様々な貢献をもたらすと期待される。この点からも、本学を設置して、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成することが必要である。</p>

【名称、その他】

12 <大学名称の更なる適正化>

「せとうち」以外にも含めた広く地域の観光振興に資する人材を養成することが明確となるよう、より適切な大学名称とすることが望ましい。

(対応)

1. <対応の概要>

本学の名称の根拠について再度説明し、専門職大学における前例も考慮しつつ、本学の大学名称に関する考え方を説明するとともに、設置の趣旨等を記載した書類を追記して、補正する。

2. <本学の名称の根拠>

本学の名称「せとうち観光専門職短期大学 / Setouchi Vocational College of Tourism」の「せとうち」は、本学が立地する瀬戸内地域を研究、教育、地域貢献の拠点として、観光を系統的かつ複合的に深く教授研究することを教育研究上の目的としていることから、学校教育法第108条及び専門職短期大学設置基準第51条第1項、第2項に基づき、名付けたものである。

地方に位置する大学の多くは、地域に根差して教育・研究・地域貢献を三位一体で推進し、地域を支え、地域に支えられ、地域から愛される存在としてレゾナートルを確立することを目指しているが、そのような環境で育った学生が、地域で活躍することはもちろん、広く日本の各地で活躍することも期待している。本学もこれらと同様であり、瀬戸内地域に根差した教育を受け、研究を進め、地域貢献に参画した学生が、広く各地の地域社会の観光振興に資する人材となり、活躍することを期待している。

3. <本学の名称の妥当性>

このように、大学名称に「せとうち」を付した場合でも、養成する人材の進路を瀬戸内地域内に限っているものではなく、学生がもし瀬戸内地域内の出身であれば進路も瀬戸内地域内で見つける場合が多いと思われるものの、瀬戸内地域外からの学生は自らの地元や都市部を含めて進路を探すことが自然であると考えられる。現在の本学のオープンキャンパスにおいても、香川県以外からの四国各地、岡山、姫路等からの参加者があり、本学の成熟度に応じて、学生募集活動の範囲も拡大する予定であるとともに、広く地域社会の観光振興に資する人材を養成することが明確となるよう鋭意努力する方針である。また、臨地実務実習施設についても、瀬戸内地域はもちろんのこと地域外においても、新規開拓し、臨地実務実習施設を増やしていきたいと考えている。

4. <「せとうち」を付さない場合のデメリット>

反対に「せとうち」を付さないことを考慮した場合、県立大学等でもなく、有名校や大規模校でもない本学の場合は、どこに所在するのかが不明確となり、高校生等や保護者に混乱や悪影響を及ぼしかねないと考えている。

## 5. <専門職大学における前例>

大学名に、地域名称を冠した前例としては、以下のものがある。

「びわこリハビリテーション専門職大学」の教育目的（ホームページより抜粋）

教育基本法及び学校教育法の定めるところに従うとともに教育理念に則り、リハビリテーションに関する実践的かつ応用的な能力を展開するための教育研究により、高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付けた有能な人材を養成することで、地域共生社会の実現に貢献することを目的とする。

「びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部」のアドミッション・ポリシー（ホームページより抜粋）

リハビリテーション学部では、「①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。

この前例の、ホームページの冒頭の学長の挨拶文に、滋賀県には理学療法士や作業療法士が不足していて、就職先が豊富であるとは述べられているが、人材像や教育目的には「地域」としか示されておらず、設置者である学校法人藍野大学が大阪に所在することや、滋賀県であれば近畿一円から学生が集まることが可能であるため、びわこ周辺や滋賀県以外にも進路や臨地実務実習施設があるのではないかと推測する。

## 6. <設置の趣旨等を記載した書類の補正>

以上のようなことから、大学の名称を「せとうち観光専門職短期大学」のままとしたく、ご理解を賜りたいと考えているが、審査意見を踏まえ、設置の趣旨等を記載した書類の32ページを以下のとおり補正し、大学の名称の趣旨を明確にする。

（設置の趣旨等を記載した書類 32ページ）

### (1) 本学の名称 **せとうち観光専門職短期大学 / Setouchi Vocational College of Tourism**

本学は、本学の建学の精神である「観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する」の具現化に向けて、本学が立地する瀬戸内（せとうち）地域を研究、教育、地域貢献の拠点として、瀬戸内（せとうち）地域を支え、支えられ、また、愛される存在としてレゾンデートルを確立していきたい。また、瀬戸内（せとうち）地域に根差した教育を受け、研究を進め、地域貢献に参画した学生が、瀬戸内（せとうち）地域をはじめとして広く各地の地域社会の観光振興に資する人材となり、活躍することを期待する。

そのため、観光を系統的かつ複合的に深く教授研究することを目的として、「観光の知識と理論」及び

「観光実務の知識と技能」を系統的に学修できるよう授業科目を、「観光理論」「ホスピタリティ」「地域」「マネジメント」「情報・統計」「英語」の6つの観点を踏まえて配置する。このように観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材に必要な観光の理論に基づいた実践的かつ応用的な能力を育成することを教育研究上の目的としていることから、学校教育法第108条及び専門職短期大学設置基準第51条第1項、第2項に基づき、本学の名称を「せとうち観光専門職短期大学」とする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 33 ページ) (旧 32 ページ)

新	旧
<p>(1)本学の名称 <b>せとうち観光専門職短期大学</b> / <b>Setouchi Vocational College of Tourism</b></p> <p>本学は、本学の建学の精神である「観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する」の具現化に向けて、本学が立地する瀬戸内(せとうち) <u>地域を研究、教育、地域貢献の拠点として、瀬戸内(せとうち)地域を支え、支えられ、また、愛される存在としてレゾナントルを確立していきたい。また、瀬戸内(せとうち)地域に根差した教育を受け、研究を進め、地域貢献に参画した学生が、瀬戸内(せとうち)地域をはじめとして広く各地の地域社会の観光振興に資する人材となり、活躍することを期待する。</u></p> <p><u>そのため、観光を系統的かつ複合的に深く教授研究することを目的として、「観光の知識と理論」及び「観光実務の知識と技能」を系統的に学修できるよう授業科目を、「観光理論」「ホスピタリティ」「地域」「マネジメント」「情報・統計」「英語」の6つの観点を踏まえて配置する。このように観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材に必要な観光の理論に基づいた実践的かつ応用的な能力を育成することを教育研究上の目的としていることから、学校教育法第108条及び専門職短期大学設置基準第51条第1項、第2項に基づき、本学の名称を「せとうち観光専門職短期大学」とする。</u></p>	<p>(1)本学の名称 <b>せとうち観光専門職短期大学</b> / <b>Setouchi Vocational College of Tourism</b></p> <p>本学は、本学の建学の精神である「観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する」の具現化に向けて、本学が立地する瀬戸内(せとうち)を研究、教育、地域貢献の拠点として、観光を系統的かつ複合的に深く教授研究するため、「観光の知識と理論」及び「観光実務の知識と技能」を系統的に学修できるよう授業科目を、「観光理論」「ホスピタリティ」「地域」「マネジメント」「情報・統計」「英語」の6つの観点を踏まえて配置する。このように観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材に必要な観光の理論に基づいた実践的かつ応用的な能力を育成することを教育研究上の目的としていることから、学校教育法第108条及び専門職短期大学設置基準第51条第1項、第2項に基づき、本学の名称を「せとうち観光専門職短期大学」とする。</p>

## 【資料目次】

- 資料1 産業界ニーズを踏まえた観光人材に関する観光庁作成資料
- 資料2 観光教育の現状ニーズ調査～専門学校編～（抄）
- 資料3 観光系学部の志願者・入学者動向
- 資料4 香川県人口移動（令和元年度分）の概要（抄）
- 資料5 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程の対比表
- 資料6 キャリア形成必読書100冊
- 資料7 臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）】
- 資料8 臨地実務実習施設指導者の実務経験年数一覧
- 資料9 臨地実務実習に関する業務担当表
- 資料10 専任教員個人別時間割
- 資料11 専任教員の担当授業コマ数一覧
- 資料12 臨地実務実習等に関する組織体制図
- 資料13 事例：和歌山大学地域インターンシップ
- 資料14 道の駅なると（仮称）基本計画（抄）
- 資料15 教員採用計画シミュレーション
- 資料16 専任教員年代別分布グラフ
- 資料17 観光振興学科内の連携・協力体制
- 資料18 校舎4階及び教員研究室内部レイアウト図

1. 審査意見への対応を記載した書類（3月）

資料1 産業界ニーズを踏まえた観光人材に関する観光庁作成資料

2. 出典

文部科学省 ① 産業界ニーズを踏まえた観光経営人材の育成・強化

国土交通省 観光庁 ② 産学連携による実務人材育成ワーキンググループ 報告概要

3. ① <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai44/siryou4.pdf>

② <https://www.mlit.go.jp/common/001224528.pdf>



1. 審査意見への対応を記載した書類（3月）

資料2 観光教育の現状ニーズ調査～専門学校編～（抄）

2. 出典

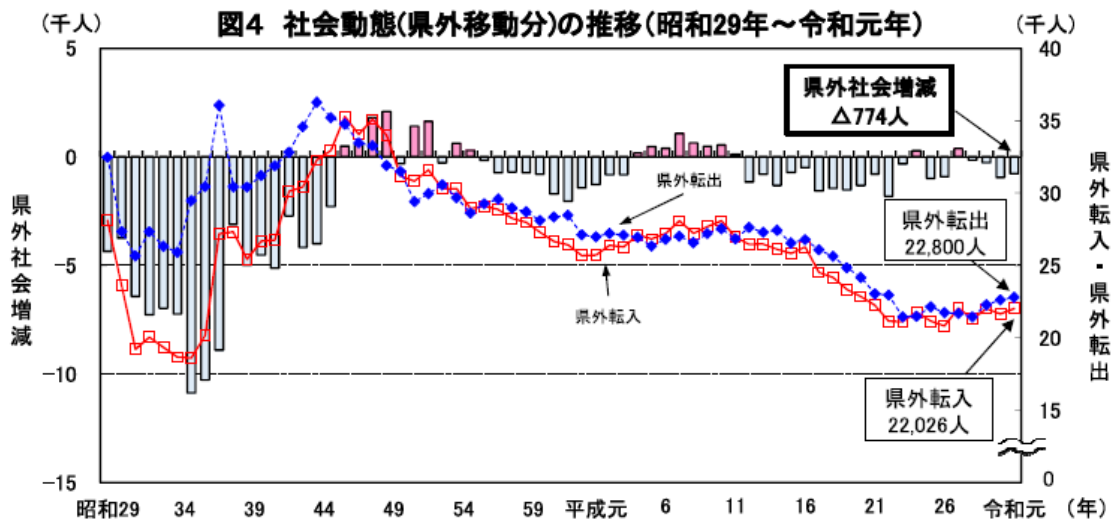
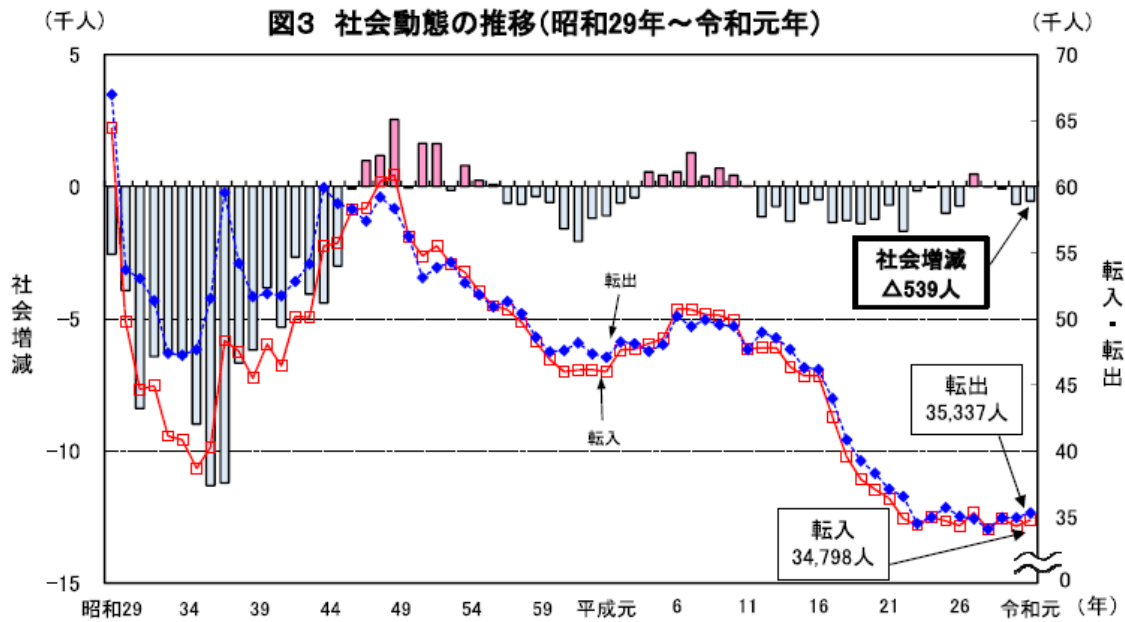
国土交通省 観光庁 V 観光教育の現状とニーズ調査～専門学校編～

3. <https://www.mlit.go.jp/common/001184162.pdf>

P1, 3

1. 審査意見への対応を記載した書類（3月）  
資料3 観光系学部の志願者・入学者動向
  
2. 出典  
日本私立学校振興財団・共済事業団  
平成31（2019）年度 私立大学短期大学等 入学志願動向
  
3. <https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouH31.pdf>  
p25-26

資料4 香川県人口移動（令和元年度分）の概要（抄）



資料4 香川県人口移動（令和元年度分）の概要（抄）

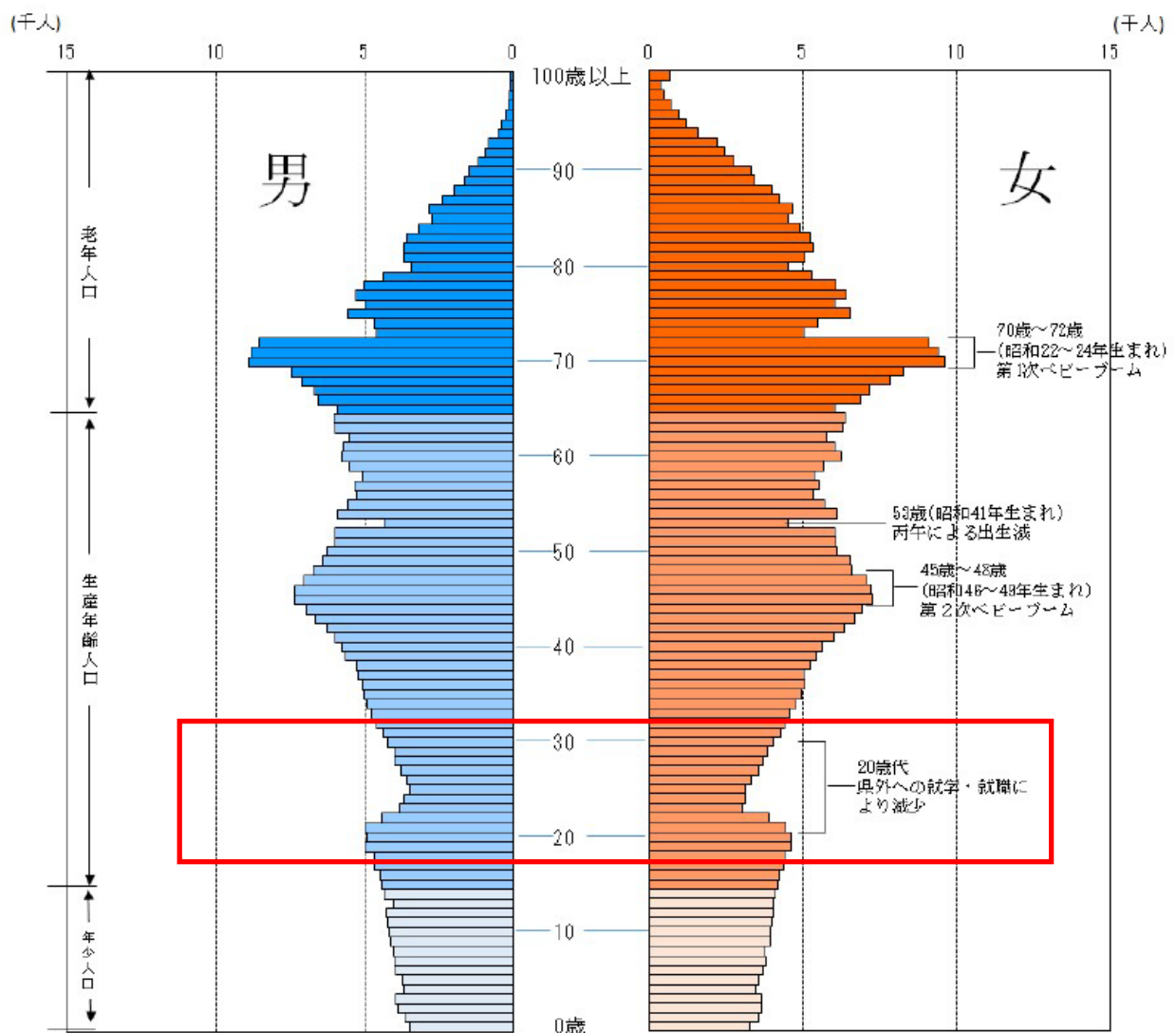
(3) 県の年齢別人口構成

**人口ピラミッド 40歳代半ばと60歳代後半から72歳が膨らむ「ひょうたん型」**

年齢別人口構成をみると、男女とも第1次ベビーブーム世代(70～72歳あたり)が最も多く、次いで第2次ベビーブーム世代(45～48歳あたり)が多くなっている。香川県の人口ピラミッドはこの二つの階級を中心とした膨らみをもつ「ひょうたん型」の形態となっている。なお、県外への就学・就職が多い20歳代は少なくなっている。

(図7)

図7 男女、年齢(各歳)別人口構成（令和元年10月1日現在）



資料5 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程の対比表

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教育課程																					
		授業科目	履修区分	履修単位数	1年次クォーター				2年次クォーター				3年次クォーター										
					①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④							
DP 1 (自学自修の態度形成) 「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎技能を身に付け、生涯に渡り充実した日常生活と有意義なキャリア開発を実現することができる。	CP 1 基礎科目群 (自学自修) 「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎知識や技能を修得するための授業科目として、「基礎科目群 (自学自修)」に「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」を配置し、講義及び演習形式で授業を行う。	基礎演習	必修	2	4	4																	
DP 2 (思考法の修得) 基礎科目における学術科目によって「思考力」を養い、基礎的な思考法を身に付けて、現実を的確に捉えることができる。	CP 2 基礎科目群 (思考法) 「思考力」を養い、基礎的な思考法を修得するための授業科目として、「基礎科目群 (思考法)」に「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「ビジネスコミュニケーション」「信託の歴史」「異文化理解」「災害と防災の科学」「介助実務実習」を配置し、講義及び実習形式により、授業を行う。	文化論	必修	2	A	B																	
DP 3 (観光の理論と知識の理解) 観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事業の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群 (学術)」に観光の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。	CP 3 職業専門科目群 (学術) 観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事業の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群 (学術)」に観光の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。	観光学概論	必修	2	A/B																		
DP 4 (観光実務の知識と技能の修得) 観光産業や観光による地域創生事業の実務に関する理論・知識を学んだうえで、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を身に付けることによって、観光振興専門職として職場の状況や問題を分析でき、チームワークで問題を解決できる。	CP 4 職業専門科目群 (実務) 観光産業や観光による地域創生事業の実務に関する理論及び知識を修得するとともに、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を修得するための授業科目として、「職業専門科目群 (実務)」に観光実務の理論と知識を学ぶ実務科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。	観光実務概論	必修	2	A	B																	
DP 5 (観光英語力の修得) 観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。	CP 5 職業専門科目群 (観光英語) インバウンド観光の多様な状況に対応するための観光英語力を修得するための授業科目として、初級から応用へと段階的に「観光基礎英語Ⅰ～Ⅱ」「観光英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、演習形式により授業を行う。	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	A/B																		
DP 6 (他分野の応用的な能力の修得) 観光関係以外の異分野から、次のような「応用的な能力」を身に付けて、観光振興専門職として実践的かつ創造的な職務に積極的に取り組むことができる。	CP 6 展開科目群 観光関係以外の異分野から、「①企業やNPO法人、地域社会等における組織及び事業運営能力 (マネジメント力)」及び「②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力 (情報力・創造力)」に関する応用的な能力を修得するための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニケーションデザイン論」「マーケティング論」「起業論」「ICTとIoT」「人工知能概論」を配置し、講義形式により授業を行うとともに、「③事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力 (情報力・創造力)」を身に付けるための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニケーションデザイン論」「マーケティング論」「起業論」「ICTとIoT」「人工知能概論」を配置し、実習形式により授業を行う。	経営学	必修	2					A	B													
DP 7 (観光振興専門職としての総合力の育成) 3年間で学修した全教科の成果を統括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を修得するための「専門演習」を毎年で配置し、演習形式により授業を行う。	CP 7 総合科目 3年間で学修した全教科の成果を統括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を修得するための「専門演習」を毎年で配置し、演習形式により授業を行う。	専門演習	必修	4																			

実習科目 1年次3Q、2年次2Q、4Qは臨地実務実習

資料6 キャリア形成必読書100冊

日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							1年次	2年次	3年次
0総記（情報学、図書館、図書、百科事典、一般論文集、逐次刊行物、団体、ジャーナリズム、叢書）	002知識、学問、学術	1	梅棹忠夫	知的生産の技術	岩波書店		●		●	
	049雑著	2	西堀 栄三郎	石橋を叩けば渡れない	生産性出版			●		
	069博物館	3	松宮秀治	ミュージアムの思想	白水社					●
1 哲学（哲学、心理学、倫理学、宗教学）	116論理学、弁証法、方法論	4	内田樹	寝ながら学べる構造主義	文藝春秋			●		
	121日本思想	5	和辻哲郎	『風土—人間学的考察』	岩波文庫	●		●		
	140心理学	6	ロビン・ダンバー	友達の数は何人？ ダンバー数とつながりの進化心理学	インターシフト		●		●	
	141普通心理学、心理各論	7	外山滋比古	思考の整理学	筑摩書房	●		●		
	141普通心理学、心理各論	8	苅谷 剛彦	知的複眼思考法	講談社+α				●	
	145異常心理学	9	ちきりん	自分のアタマで考えよう	ダイヤモンド社				●	
	146臨床心理学、精神分析学	10	岸見一郎、古賀史健	嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え	ダイヤモンド社	●				●
	159人生訓、教訓	11	キャロル・S・ドゥエック	マインドセット「やればできる」の研究	草思社			●		
	159人生訓、教訓	12	クランボルツ	その幸運は偶然ではないんです	ダイヤモンド社			●	●	●
	159人生訓、教訓	13	瀧本哲史	僕は君たちに武器を配りたい	講談社文庫	●		●		
	159人生訓、教訓	14	吉野源三郎	君たちはどう生きるか	岩波文庫	●		●		
	164神話、神話学	15	阿刀田高	ギリシア神話を知っていますか	新潮社	●		●		
	167イスラム教	16	菊地達也	『図説イスラム教の歴史』	河出書房新社	●		●		
	193聖書	17	阿刀田高	旧約聖書を知っていますか	新潮文庫	●		●		
	198各教派、教会史	18	渡辺和子	置かれた場所で咲きなさい	幻冬舎			●		

日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							1年次	2年次	3年次
2 歴史（歴史、伝記、地理）	204論文集、評論集、講演集	19	梅棹忠夫	文明の生態史観	中公文庫		●			●
	204論文集、評論集、講演集	20	ジャレッド・ダイヤモンド	銃・病原菌・鉄（上・下）	草思社文庫		●			●
	209世界史、文化史	21	ウィリアム・H. マクニール&ジョン・R. マクニール（福岡洋一訳）	『世界史 1・2 人類の結びつきと相互作用の歴史』	楽工社		●		●	●
	209世界史、文化史	22	ユヴァイル・ノア・ハラリ	サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福（上・下）	河出書房新社		●		●	
	210日本史	23	大野晋・宮本常一他	『東日本と西日本 列島社会の多様な歴史世界』	洋泉社	●		●	●	
	210日本史	24	渡辺京二	逝きし世の面影	平凡社				●	
	210日本史	25	渡辺京二	江戸という幻景	平凡社				●	
	217日本史、中国地方	26	山内譲	中世 瀬戸内海の旅人たち	吉川弘文館		●		●	
	220アジア史、東洋史	27	エドワード・W. サイド	オリエンタリズム<上・下>（平凡社ライブラリー）	平凡社		●			●
	221アジア史、朝鮮	28	八幡和朗	韓国と日本がわかる最強の韓国史	扶桑BOOKS 新書		●			●
	230ヨーロッパ史、西洋史	29	塩野七生	十字軍物語 1	新潮社	●		●		
	289個人伝記	30	ネルソン・マンデラ（著）長田雅子（訳）	ネルソン・マンデラ 未来を変える言葉	明石書店	●		●		
	290地理、地誌、紀行	31	森島清ほか	マッシュューズ&ハーバード 地理学のすすめ	丸善出版			●		
	291日本	32	西田正憲	瀬戸内海の発見—意味の風景から視覚の風景へ—	中公新書					●
291日本	33	宮本常一	『私の日本地図12 瀬戸内海4』	未来社		●		●		
3 社会科学（政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗慣習、国防）	302政治、経済、社会、文化事情	34	阿部謹也	「世間」とは何か（講談社現代新書）	講談社	●		●		
	302政治、経済、社会、文化事情	35	ダニエル・J. ブーアスティン	幻影の時代 マスコミが製造する事実	東京創元社		●		●	
	302政治、経済、社会、文化事情（361社会学）	36	マイケル・ビルズベリー	CHINA 2049	日経BP社		●		●	
	304論文集、評論集、講演集	37	ジャック・アタリ	2030年ジャック・アタリの未来予測	プレジデント社		●			●
	311政治史、政治思想	38	ベネディクト・アンダーソン	定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行	書籍工房早川		●			●
	311政治史、政治思想	39	マックス・ウェーバー	職業としての政治／職業としての学問	日経BPクラシックス				●	

日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							1年次	2年次	3年次
3 社会科学（政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗慣習、国防）	318地方自治、地方行政	40	高松平蔵	ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか—質を高めるメカニズム	学芸出版社		●		●	
	319外交、国際問題	41	河野雅治	和平工作	岩波書店	●			●	
	323憲法	42	佐藤功	日本国憲法概説	学陽書房	●			●	
	335企業・経営	43	澤田秀雄	思う、動く、叶う！	サンマーク出版		●		●	
	336経営管理	44	楠木建	ストーリーとしての競争戦略—優れた戦略の条件	東洋経済新報社		●		●	
	336経営管理	45	三島健二郎	企業危機管理：狼少年でなにが悪い	ダイヤモンド社		●		●	
	361社会学	46	エリック・ホブズボウム、テレンス・レンジャー	創られた伝統（文化人類学叢書）	紀伊国屋書店		●			●
	361社会学	47	山崎正和	社交する人間—ホモ・ソシアビリス（中公文庫）	中央公論新社		●		●	
	361社会学	48	山本七平	「空気」の研究	文藝春秋				●	
	361社会学	49	好井裕明	違和感から始まる社会学—日常性のフィールドワークへの招待（光文社新書）	光文社新書	●			●	
	361社会学	50	谷岡 一郎	「社会調査」のウソ	文春新書					●
	361社会学	51	平田オリザ	わかりあえないことから	講談社現代新書		●			●
	365生活・消費者問題	52	アラン・コルバン	レジャーの誕生（上・下）	藤原書店					●
	367家族問題、男性・女性問題、老人問題	53	上間陽子	『裸足で逃げる 沖縄の夜の街の少女たち』	太田出版		●		●	●
	383衣食住の習俗	54	石毛直道	日本の食文化史—旧石器時代から現代まで	岩波書店		●		●	
	383衣食住の習俗	55	上野千鶴子	スカートの下劇場	河出文庫	●			●	
	384社会・家庭生活の習俗	56	神崎宣武	江戸の旅文化	岩波書店					●
	389民族学、文化人類学	57	小川さやか	「その日暮らし」の人類学—もう一つの資本主義経済	光文社新書		●		●	
	389民族学、文化人類学	58	菅原和孝	フィールドワークへの挑戦—“実践”人類学入門	世界思想社	●			●	
	4 自然科学（数学、理学、医学）	448地球、天文地理学	59	伊藤智章	地図化すると世の中が見えてくる	ベレ出版				●
450地球科学、地学		60	水野一晴	『世界がわかる地理学入門—気候・地形・動植物と人間生活』	ちくま新書		●		●	●



日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							1年次	2年次	3年次
4 自然科学（数学、理学、医学）	450地球科学、地学	61	富田啓介	はじめて地理学	ベレ出版			●		
	460生物科学、一般生物学	62	荒俣宏	想像力の地球紀行	角川書店			●		
	460生物科学、一般生物学	63	今西錦司	自然学の提唱	講談社学術文庫		●		●	
	481一般動物学	64	フランス・ドゥ・ヴァール	動物の賢さがわかるほど人間は賢いのか	紀伊国屋書店					●
5 技術（工学、工業、家政学）	519環境工学、公害（709芸術政策文化財）	65	江良 直紀	社会科から楽しめる世界遺産	幻冬舎		●	●		
	521日本の建築	66	藤森照信、藤塚光政	日本木造遺産 千年の建築を旅する	世界文化社		●		●	
	537自動車工学	67	相本 賢二	サービスの底力	PHP研究所			●	●	
6 産業（農林水産業、商業、運輸、通信）	601産業政策・行政、総合開発	68	金丸弘美	田舎力 ヒト・夢・カネが集まる5つの法則	NHK出版	●		●		
	606団体	69	吉見俊哉	博覧会の政治学 まなざしの近代	中公新書	●				●
	629造園	70	中村良夫	風景学入門	中央公論社					●
	673商業経営、商店	71	新雅史	商店街はなぜ滅びるのか—社会・政治・経済紙から探る再生の道	光文社新書	●	●			
	673商業経営、商店	72	ベッツィ・サンダース	サービスが伝説になる時	ダイヤモンド社			●	●	
	673商業経営、商店	73	宮崎辰	世界一のおもてなし	中経出版		●		●	
	687航空運輸	74	ヤン・カルソン	真実の瞬間	ダイヤモンド社			●	●	
	689観光事業	75	阿部佳	わたしはコンシェルジュ	講談社文庫		●		●	
	689観光事業	76	ジョン・アーリー	観光のまなざし	法政大学出版局		●			●
	689観光事業	77	鈴木俊博	稼げる観光：地方が生き残り潤うための知恵	ポプラ新書	●		●		
	689観光事業	78	高月璋介	基礎からわかるホテルマンの仕事	柴田書店	●		●		
689観光事業	79	安田 亘宏	インバウンド実務論—インバウンドを1から学ぶ14章	全日本情報学習振興協会		●		●		
689観光事業	80	澤田秀雄	運をつかむ技術 18年間赤字のハウステンボスを1年で黒字化した秘密	小学館		●		●		

日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							1年次	2年次	3年次
7 芸術（美術、音楽、演劇、スポーツ、諸芸、娯楽）	702芸術史、美術史	81	岡田温司	グランドツアー 18世紀イタリアへの旅	岩波書店					●
	702芸術史、美術史	82	立入正之	美術史への旅—文化と芸術の再考	インターパブリカ	●				●
	709芸術政策、文化財	83	北川フラム	ひらく美術—地域と人間のつながりを取り戻す	ちくま新書	●		●		
	718仏像	84	望月信成, 佐和隆研, 梅原猛	仏像—心とかたち	NHKブックス	●				●
	780スポーツ、体育	85	武田建	武田建のコーチングの心理学	創元社		●			●
	791茶道	86	岡倉天心	茶の本	講談社インターナショナル株式会社				●	
	791茶道	87	千宗屋	もしも利休があなたを招いたら 茶の湯に学ぶ”逆説”のもてなし	角川書店				●	
8 言語	801言語学	88	長井鞠子	伝える極意	集英社新書	●		●		
9 文学	911詩歌	89	大原富枝（著）岩崎ちひろ（イラスト）	万葉のうた（若い人の絵本）	童心社	●		●		
	913日本文学小説、物語	90	恩田陸	蜜蜂と遠雷	幻冬舎		●		●	
	913日本文学小説、物語	91	司馬遼太郎	空海の風景 上・下	中公文庫		●		●	
	913日本文学小説、物語	92	水野敬也	夢をかなえるゾウ 文庫版 1	飛鳥新社	●		●		
	913日本文学小説、物語	93	吉村昭	大黒屋光太夫（上・下）	新潮文庫		●			●
	914評論、エッセイ、随筆	94	アレックス・カー	美しき日本の残像	朝日文庫	●		●		
	914評論、エッセイ、随筆	95	坂村真民	念ずれば花ひらく 随筆集	サンマーク出版	●		●		
	914評論、エッセイ、随筆	96	平野甲賀	きょうかたるきのうのこと	晶文社	●		●		
	914評論、エッセイ、随筆	97	谷崎潤一郎	『陰翳礼讃』	中公文庫		●		●	
	916記録、手記、ルポルタージュ	98	佐藤愛子	淑女失格 私の履歴書	集英社文庫	●		●		
	933英米文学小説、物語	99	ゴールズ・ワージー	林檎の樹	新潮文庫	●		●		
	933英米文学小説、物語	100	デイルドーテン	仕事は楽しいかね	きこ書房					●

## 臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅲ(鉄道クラス)】

せとうち観光専門職短期大学

実習事業所名

学籍番号

実習生氏名

実習期間：平成 年 月 日( )～ 年 月 日( )

実習日数： 日 欠席：病欠 日 事故 日 その他 日 / 遅刻 回 早退 日

評価基準：【4】:十分できている【3】:おおむねできている【2】:支援があればできる【1】:不十分である【0】:該当しない

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員 評価
				十分でき ている	概ねでき ている	支援があ ればでき る	不十分で ある	該当 しない	
A.実践力	1.実務知識技能	接客技能	1) 各顧客特性に応じて業務を的確に実践できる。	4	3	2	1	0	
			2) 安全性とホスピタリティを両立させて業務を実践できる。	4	3	2	1	0	
		実務専門知識	3) 各実務に必要な基本的知識を修得し活用できる。	4	3	2	1	0	
			4) より専門性のある知識・ノウハウ、新たな技術情報などを修得し、問題解決に活用できる。	4	3	2	1	0	
		実務専門技能	5) 各実務の初歩的技能を修得し、これに基づいた適切なサービス提供をできる。	4	3	2	1	0	
			6) 各実務の基本的技能から専門的技能までを修得し、問題解決に活用できる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	自らの安全確保	7) 労働安全動作を遵守し、自分自身とスタッフ相互の安全確認を実践できる。	4	3	2	1	0	
			8) 職場環境の潜在的リスクの洗い出しとその除去によって、安全に関わる問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		顧客の安全確保	9) 顧客自身の安全意識を啓発し促進できる。	4	3	2	1	0	
			10) 顧客の動線や特性にひそむ潜在的リスクを除去することによって、顧客の安全問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	配慮が必要な顧客の安全確保	11) 特別な配慮が必要な顧客特性の理解し、安全確保策を実践できる。	4	3	2	1	0	
			12) 日本語を解さない顧客特性を理解し、安全確保策等を実践できる。	4	3	2	1	0	

資料7 臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅲ(鉄道クラス)】

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員 評価
				十分でき ている	概ねでき ている	支援があれ ばできる	不十分で ある	該当 しない	
A.実践力	3.ホスピタリティ	自己統制力・即応力	13) 自己の感情を適切にコントロールし、どのような状況でも顧客の対応ができる。	4	3	2	1	0	
			14) 様々な場面・状況における顧客からの期待・要求などに対して、柔軟に臨機応変な対応ができる。	4	3	2	1	0	
		信頼感	15) 誰とでも信頼関係を築くことができる。	4	3	2	1	0	
			16) 顧客への適切な価値提供や双方向の信頼感を築いて、適正なサービスを提供できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客への ホスピタリティ	17) 高齢者や妊婦、傷病や障がい等を持つ顧客の特性や心情を理解し、接遇できる。	4	3	2	1	0	
			18) 顧客の多様な特性や心情を理解し、その理解に基づくきめ細やかな対応を実践できる。	4	3	2	1	0	
B.協働力	1. チームワーク	コミュニケーション 能力	19) チームの目標達成に必要な十分な報告、連絡、相談を適切な方法でタイムリーに実践できる。	4	3	2	1	0	
			20) 相手の多様な属性に応じて、柔軟で的確なコミュニケーションと相互理解を実践できる。	4	3	2	1	0	
		協調性	21) 自己の欲求やストレスをコントロールし、自己の利益よりチームの利益を優先して行動できる。	4	3	2	1	0	
			22) 協調性に関わる問題について、自ら考案した解決案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		トップマネジメントと 現場スタッフを繋ぐ力	23) トップマネジメントの定めた方針を理解し、その理解に基づいた自己の役割りを着実に実践できる。	4	3	2	1	0	
			24) 現場スタッフの視点と経営層の方針をともに理解した上で、自身の職務上の問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
	2. リーダーシップ	目標・優先順位の 明示とタスク定義力	25) 目指す理念やビジョンなどを、自らの言葉でわかりやすくチームに説明できる。	4	3	2	1	0	
			26) 具体的な数値目標・目標の優先順位を、チーム全員に明示・浸透できる。	4	3	2	1	0	
		率先垂範と判断力	27) 困難な状況であっても、周囲を鼓舞し、先頭に立ち、目標達成に向けて業務にあたることができる。	4	3	2	1	0	
			28) 広い視野から、適切な判断で問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		統率力と育成力	29) チーム内での一体感醸成や適切な役割分担について留意し、チームを統率できる。	4	3	2	1	0	
			30) チーム全体のアウトプット最大化に向けて取り組み、その取組にチームメンバーを動員できる。	4	3	2	1	0	
	3. 他者への共感・受容・気配り	異文化・多様性 への理解と配慮	31) 外国人の心情や特性を積極的に理解し、共感をもって接することができる。	4	3	2	1	0	
			32) 広範で多様な文化・宗教・習慣・価値観を理解し、積極的に受け入れられる。	4	3	2	1	0	
		受容・傾聴	33) 実習担当者や同僚の指導や意見を素直に受け入れ、積極的に業務改善に活かすことができる。	4	3	2	1	0	
			34) 顧客からのクレームに耳を傾け、貴重な業務改善提案として対応できる。	4	3	2	1	0	

資料7 臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅲ(鉄道クラス)】

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員 評価	
				十分に でき ている	概ねでき ている	支援があれ ばできる	不十分で ある	該当 しない		
B.協働力	3. 他者への共感・受容・気配り	気付きと気配り	35) 周囲の状況や他者の心理に関心を持ち、気付きの感度・感性を高められる。	4	3	2	1	0		
			36) 様々な状況・環境において、他者が必要とするモノやコトなどに気づくことができる。	4	3	2	1	0		
C.思考力	1. 変革・挑戦と新しい価値創造	チャレンジ	37) 学修した技能や理論に基づき、新たな課題解決への挑戦を積極的に思考することができる。	4	3	2	1	0		
			38) 新しく柔軟な発想で、自ら考案したチャレンジ案を提示できる。	4	3	2	1	0		
		改革	39) 実習先職場の課題や問題点について、自分なりの改善・改革策を思考できる。	4	3	2	1	0		
			40) 実習先の検討会や意見交換会などの場で、自ら考案した改革案を提示することができる。	4	3	2	1	0		
		新たな価値創造	41) 他部門/他職種との協働において、多様で自由なアイデアを積極的に思考することができる。	4	3	2	1	0		
			42) 実習先の職場において、自ら考案した新たな価値創造案を提案できる。	4	3	2	1	0		
	2. 職業倫理	顧客期待と 提供価値の最適化	43) 現行のサービス内容・水準が顧客のニーズに合致しているかを、過去の事例に捉われず思考できる。	4	3	2	1	0		
			44) 事前科目で学修した理論を実際の業務に照らして、自ら考案した解決案を提示することができる。	4	3	2	1	0		
		環境への配慮	45) 事業内容が環境に与える多様な影響について、ESG経営の視点などから、多角的に思考ができる。	4	3	2	1	0		
			46) ESG経営の視点などから、持続可能な事業遂行について、関心をもち意見を主張できる。	4	3	2	1	0		
		地域社会との共生	47) 現行のサービスや事業内容が、地域社会に与える多様な影響について思考し、説明できる。	4	3	2	1	0		
			48) 地域の持続可能な観光や地域創生について、自身の考え方をもち、その考え方を説明できる。	4	3	2	1	0		
		3. 経営の視点	理念の実現	49) 実習先の経営の理念や目標をマネジメントのモデルとして理解し説明できる。	4	3	2	1	0	
				50) 経営者が、どのような考え方や仕組みで自部門のアウトプットを最大化しようとするのかを説明できる。	4	3	2	1	0	
労務マネジメント	51) 仕事への動機づけ維持向上させる労務管理のマネジメントのモデルを理解できる。		4	3	2	1	0			
	52) 経営者の講話やヒアリングなどから労務管理のマネジメントのモデル学び説明できる。		4	3	2	1	0			
コスト感覚	53) 事前学修で学んだベニューマネジメント理論を、実務実習を通して体験し説明できる。		4	3	2	1	0			
	54) 実習先のレベニューマネジメントなどの活用をマネジメントのモデルとして学び、説明できる。		4	3	2	1	0			

資料7 臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅲ(鉄道クラス)】

鉄道クラス 到達目標達成度

評価項目	実習指導者評価				担当教員 評価
	十分でき ている	概ねでき ている	支援があれ ばできる	不十分で ある	
1. 鉄道駅における旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、駅業務におけるインバウンド対応を含めた基本動作については単独で遂行するとともに問題解決方法について自身の考え方を説明することができる。	4	3	2	1	
2. 現場における基本動作の実践を通じ、鉄道事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、鉄道事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解し、自ら行動することができる。	4	3	2	1	
3. 他のいかなる観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、広域の地域観光振興の視点から、鉄道事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。	4	3	2	1	
4. 駅における実務体験を通して、鉄道事業全体における駅の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解し、自分の言葉で説明することができる。	4	3	2	1	
5. 国内交通産業において最も主要な役割を担う鉄道業において、安全・安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、多国籍/多宗教のインバウンド乗客への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、他の交通機関においても実践できる。	4	3	2	1	
6. 鉄道事業の新規需要/マーケット開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、IT等を活用したイノベーション等について、自己のアイデアを発表することができる。	4	3	2	1	

実習先指導者適性評価

A:最適である B:十分適性がある C:適性がある D:さらなる努力が必要である

実習先指導者所見
実習先指導担当者氏名 : 役職 <span style="float: right;">氏名</span>

資料8 臨地実務実習施設指導者の実務経験年数一覧

施設名	実務経験年数			
	指導者1	指導者2	指導者3	指導者4
石丸製麺株式会社	26年			
かがわ物産館 栗林庵	6年	6年	6年	4年
クアパーク津田	28年	27年	7年	
スカイファーム	6年	14年	23年	
セカンドステージ	11年	11年	8年	
瀬戸内こえびネットワーク	8年	6年	5年	
高松空港株式会社	20年	30年	20年	18年
高松市美術館	24年			
高松丸亀町商店街振興組合	20年			
史跡高松城跡 玉藻公園	13年	13年		
日本ドルフィンセンター	16年	11年	10年	
道の駅源平の里むれ	13年	13年	4年	
道の駅香南楽湯	15年	13年		
道の駅しおのえ	18年	15年	7年	
栗林公園観光事務所	33年	29年	36年	
琴参閣	40年	21年	10年	
Kotori	8年	4年		
讃岐まんのう公園	5年			
敷島館	5年	8年	4年	
中野屋	13年	36年	6年	
にしきや	23年			
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	6年			
丸亀市観光協会	11年	10年		
株式会社レオマユニティー	9年			
父母ヶ浜海水浴場施設(父母ヶ浜ポート)	24年	24年	15年	
株式会社D r a w o r t h	5年	15年	20年	
三豊市観光交流局	11年	9年		
三豊鶴	5年	5年	5年	
井上誠耕園	10年			
寒霞溪ロープウェイ	9年	15年		
小豆島オリーブ園	31年	28年	25年	
小豆島観光協会	5年			
土庄港観光センター	21年			
二十四の瞳映画村	16年	13年	13年	
道の駅小豆島オリーブ公園	13年			
M e i P A M	6年			
直島町観光協会	8年	26年		
ANA沖縄空港株式会社	8年	5年		
ANA福岡空港株式会社	20年	25年	23年	
株式会社エスエーエス福岡空港事務所	12年	9年		
株式会社エスエーエス小牧空港事務所	13年	9年		
株式会社エスエーエス富士山静岡空港事務所	10年	9年		
株式会社Kスカイ	21年			
空港ターミナルサービス株式会社	21年	19年		
JALスカイエアポート沖縄株式会社	15年			
ジェットスター・ジャパン株式会社成田空港支店	21年	8年		
四国航空株式会社	7年	14年		
高松琴平電気鉄道株式会社(高松築港駅)	30年	27年		
高松琴平電気鉄道株式会社(瓦町駅)	30年	27年		
高松琴平電気鉄道株式会社(運転営業所)	30年	27年		
高松琴平電気鉄道株式会社(栗林本社)	25年	13年		
高松琴平電気鉄道株式会社(コトデン瓦町ビル)	10年	6年		
ことでんバス株式会社(高松空港バス乗降場)	39年			
ことでんバス株式会社(高松駅バスターミナル)	39年			
四国旅客鉄道株式会社(高松駅)	42年	42年	18年	38年
四国旅客鉄道株式会社(研修センター)	23年	38年		
四国旅客鉄道株式会社(本社)	38年			
四国キヨスク株式会社 丸亀駅店	13年			
四国キヨスク株式会社 坂出駅店	5年	11年		
四国キヨスク株式会社 宇多津駅店	7年			
加賀屋姉妹館 あえの風	12年			
アオアヲナルリゾート	19年			
淡路夢泉景	13年			
ウェスティンホテル淡路	37年	28年	19年	
ウェスティンホテル大阪	19年	13年	9年	
海のホテル島花	10年			
加賀屋	19年			
喜代美山荘花樹海	30年	10年	10年	
琴平花壇	9年	4年		
琴平グランドホテル 桜の抄	12年	14年		
こんびら温泉湯元八千代	20年	13年		
J Rホテルクレメント高松	18年	18年		
小豆島国際ホテル	11年			

○経験年数分布

実務経験年数	人数
4年	5名
5年～9年	41名
10年～14年	45名
15年～19年	21名
20年～24年	26名
25年～29年	16名
30年以上	19名

施設名	実務経験年数			
	指導者1	指導者2	指導者3	指導者4
シェラトン都ホテル大阪	21年			
高松国際ホテル	22年			
チサングランド高松	29年			
ハイアットリージェンシー大阪	10年			
ハイアットリージェンシー京都	23年	19年		
ベイリゾートホテル小豆島	15年			
ホテルニューアワジ	12年			
ホテルニューオータニ大阪	24年			
湯元こんびら温泉 華の湯 紅梅亭	24年	10年		
リーガホテルゼスト高松	25年			
リゾートホテルオリビアン小豆島	21年	11年		
ロイヤルパークホテル高松	21年			
穴吹トラベル	13年	11年		
イーストとくしま観光推進機構	5年			
そらの郷	10年	15年	10年	
金沢市経済局営業戦略部観光政策課 (金沢市観光協会)	28年	23年		
琴平バス株式会社高松営業所	7年	6年		
せとうち観光推進機構	36年			



資料 9 臨地実務実習に関する業務担当表

項目 番号	役割・業務	実習運営委員会																	臨地実務実習施設	
		学科長		実習担当教員（実務系専任教員）												事務職員			責任者	指導者
		安村	委員長	青木	安本	堀田	石床	小島	阿部	古川	平	谷崎		A	B	諸手統	S	K		
				運営、指導、成績評価																
①	実習運営委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②	実習調整会議（事前協議）																			
③	事前学修科目																			
	ホスピタリティ実務実習A ホスピタリティ実務実習B 観光支援ビジネス実務基礎論 観光実務基礎論 観光実務応用論	1年2Q	1年2Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q
④	実習指導（実習施設）																			
⑤	臨地実務実習 活動報告	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q
	臨地実務実習 II	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q
	臨地実務実習 III	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q
⑥	臨地実務実習 巡回指導	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q	2年2Q
	臨地実務実習 II	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q	2年4Q
	臨地実務実習 III	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q	1年3Q
⑦	成績評価（実習施設）																			
⑧	成績評価（本学）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑨	実習中の連絡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑩	事後学修科目																			
	観光支援ビジネス実務発展論	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q	1年4Q
	観光実務発展論 観光実務マネジメント論	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q	2年3Q
⑪	実習調整会議（事後協議）																			
	開設時の年齢	66	72	61	65	51	68	51	64	34	31									

◎は本人が参加しなければならない会議・役割、○は分担して参加する会議・役割

※この他、事務局学生課（教務学生センター、キャリアセンター）が業務全般のサポート業務を行う。

# 学 術 系 教 員

資料10 専任教員個人別時間割 (1 教授 安村克己)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次		文化論A①			
	2年次					
	3年次					
火	1年次		視光学概論A①			
	2年次			観光行動論A①		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次		文化論A②			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		視光学概論A②			
	2年次			観光行動論A②		
	3年次					

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次		文化論A③			
	2年次					
	3年次					
火	1年次		視光学概論A③			
	2年次			観光行動論A③		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次		文化論A④			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		視光学概論A④			
	2年次			観光行動論A④		
	3年次					

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次		文化論A⑤			
	2年次					
	3年次					
火	1年次		視光学概論A⑤			
	2年次			観光行動論A⑤		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次		文化論A⑥			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		視光学概論A⑥			
	2年次			観光行動論A⑥		
	3年次					

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次		文化論A⑦			
	2年次					
	3年次					
火	1年次		視光学概論A⑦			
	2年次			観光行動論A⑦		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次		文化論A⑧			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		視光学概論A⑧			
	2年次			観光行動論A⑧		
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論A⑨			
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光学概論A⑨			
	2年次			観光行動論A⑨		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次		文化論A⑩			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光学概論A⑩			
	2年次			観光行動論A⑩		
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論A⑪			
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光学概論A⑪			
	2年次			観光行動論A⑪		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次		文化論A⑫			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光学概論A⑫			
	2年次			観光行動論A⑫		
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論A⑬			
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光学概論A⑬			
	2年次			観光行動論A⑬		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次		文化論A⑭			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光学概論A⑭			
	2年次			観光行動論A⑭		
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論A⑮			
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光学概論A⑮			
	2年次			観光行動論A⑮		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (1 教授 安村克己)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光社会文化論A①	観光振興・地域創生論B①
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光社会文化論A②	観光振興・地域創生論B②
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光社会文化論A③	観光振興・地域創生論B③
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光社会文化論A④	観光振興・地域創生論B④
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光社会文化論A⑤	観光振興・地域創生論B⑤
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光社会文化論A⑥	観光振興・地域創生論B⑥
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光社会文化論A⑦	観光振興・地域創生論B⑦
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光社会文化論A⑧	観光振興・地域創生論B⑧
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光社会文化論A⑨	観光振興・地域創生論B⑨
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光社会文化論A⑩	観光振興・地域創生論B⑩
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光社会文化論A⑪	観光振興・地域創生論B⑪
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光社会文化論A⑫	観光振興・地域創生論B⑫
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光社会文化論A⑬	観光振興・地域創生論B⑬
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光社会文化論A⑭	観光振興・地域創生論B⑭
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光社会文化論A⑮	観光振興・地域創生論B⑮
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (1 教授 安村克己)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			観光行動論B①	国際観光論①	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次			観光行動論B②	国際観光論②	
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			観光行動論B③	国際観光論③	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次			観光行動論B④	国際観光論④	
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			観光行動論B⑤	国際観光論⑤	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次			観光行動論B⑥	国際観光論⑥	
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			観光行動論B⑦	国際観光論⑦	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次			観光行動論B⑧	国際観光論⑧	
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			観光行動論B⑨	国際観光論⑨	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次			観光行動論B⑩	国際観光論⑩	
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			観光行動論B⑪	国際観光論⑪	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次			観光行動論B⑫	国際観光論⑫	
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			観光行動論B⑬	国際観光論⑬	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次			観光行動論B⑭	国際観光論⑭	
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			観光行動論B⑮	国際観光論⑮	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



資料10 専任教員個人別時間割 (1 教授 安村克己)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光振興・地域創生論A①
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光振興・地域創生論A②
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光振興・地域創生論A③
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光振興・地域創生論A④
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光振興・地域創生論A⑤
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光振興・地域創生論A⑥
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光振興・地域創生論A⑦
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光振興・地域創生論A⑧
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光振興・地域創生論A⑨
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光振興・地域創生論A⑩
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光振興・地域創生論A⑪
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光振興・地域創生論A⑫
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光振興・地域創生論A⑬
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光振興・地域創生論A⑭
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光振興・地域創生論A⑮
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (2 准教授 吉田雄介)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習①		地域資源論A①		地域資源論B①
	2年次				異文化理解①	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(1)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			地域資源論A②		地域資源論B②
	2年次				異文化理解②	
	3年次					

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習②		地域資源論A③		地域資源論B③
	2年次				異文化理解③	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(2)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			地域資源論A④		地域資源論B④
	2年次				異文化理解④	
	3年次					

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習③		地域資源論A⑤		地域資源論B⑤
	2年次				異文化理解⑤	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(3)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			地域資源論A⑥		地域資源論B⑥
	2年次				異文化理解⑥	
	3年次					

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習④		地域資源論A⑦		地域資源論B⑦
	2年次				異文化理解⑦	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(4)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			地域資源論A⑧		地域資源論B⑧
	2年次				異文化理解⑧	
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑤		地域資源論A⑨		地域資源論B⑨
	2年次				異文化理解⑨	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(5)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			地域資源論A⑩		地域資源論B⑩
	2年次				異文化理解⑩	
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑩		地域資源論A⑪		地域資源論B⑪
	2年次				異文化理解⑪	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(6)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			地域資源論A⑫		地域資源論B⑫
	2年次				異文化理解⑫	
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑪		地域資源論A⑬		地域資源論B⑬
	2年次				異文化理解⑬	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(7)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			地域資源論A⑭		地域資源論B⑭
	2年次				異文化理解⑭	
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑫		地域資源論A⑮		地域資源論B⑮
	2年次				異文化理解⑮	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(8)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (2 准教授 吉田雄介)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学A①		
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑨	地域観光基礎実習①			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次			地理学A②		
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習②			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学A③		
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑩	地域観光基礎実習③			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次			地理学A④		
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習④			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学A⑤		
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑪	地域観光基礎実習⑤			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次			地理学A⑥		
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑥			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学A⑦		
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑫	地域観光基礎実習⑦			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次			地理学A⑧		
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑧			
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学A⑨		
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑩	地域観光基礎実習⑩			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(13)			
木	1年次			地理学A⑩		
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑩			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学A⑪		
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑪	地域観光基礎実習⑪			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(14)			
木	1年次			地理学A⑫		
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑫			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学A⑬		
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑬	地域観光基礎実習⑬			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(15)			
木	1年次			地理学A⑭		
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑭			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学A⑮		
	2年次					
	3年次					
火	1年次		地域観光基礎実習⑮			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(16)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (2 准教授 吉田雄介)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(17)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(18)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(19)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(20)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(21)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(22)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(23)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(24)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



資料10 専任教員個人別時間割 (2 准教授 吉田雄介)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(25)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(26)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(27)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(28)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(29)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(30)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (3 准教授 田保顕)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習①				
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(1)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習②				
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(2)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習③				
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(3)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習④				
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(4)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑤				
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(5)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑥				
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(6)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑦				
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(7)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑧				
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(8)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (3 准教授 田保顕)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論B①			
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑨	地域観光基礎実習①			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次		文化論B②			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習②			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論B③			
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑩	地域観光基礎実習③			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次		文化論B④			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習④			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論B⑤			
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑪	地域観光基礎実習⑤			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次		文化論B⑥			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑥			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論B⑦			
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑫	地域観光基礎実習⑦			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次		文化論B⑧			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑧			
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論B⑨			
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑩	地域観光基礎実習⑩			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(13)			
木	1年次		文化論B⑩			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑩			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論B⑪			
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑪	地域観光基礎実習⑪			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(14)			
木	1年次		文化論B⑫			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑫			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論B⑬			
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑬	地域観光基礎実習⑬			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(15)			
木	1年次		文化論B⑭			
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑭			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次		文化論B⑮			
	2年次					
	3年次					
火	1年次		地域観光基礎実習⑮			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(16)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (3 准教授 田保頭)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(17)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(18)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(19)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(20)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(21)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(22)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(23)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(24)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



資料10 専任教員個人別時間割 (3 准教授 田保頭)

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					観光社会文化論B①
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(25)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					観光社会文化論B②
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					観光社会文化論B③
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(26)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					観光社会文化論B④
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					観光社会文化論B⑤
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(27)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					観光社会文化論B⑥
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					観光社会文化論B⑦
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(28)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					観光社会文化論B⑧
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					観光社会文化論B⑨
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(29)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					観光社会文化論B⑩
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					観光社会文化論B⑪
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(30)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					観光社会文化論B⑫
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					観光社会文化論B⑬
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					観光社会文化論B⑭
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					観光社会文化論B⑮
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (4 助教 平侑子)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	観光文化施設論①		観光メディア論①		
	3年次					
火	1年次	基礎演習①				
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B①
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(1)			
木	1年次					
	2年次	観光文化施設論②		観光メディア論②		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B②

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	観光文化施設論③		観光メディア論③		
	3年次					
火	1年次	基礎演習②				
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B③
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(2)			
木	1年次					
	2年次	観光文化施設論④		観光メディア論④		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B④

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑤		観光メディア論⑤		
	3年次					
火	1年次	基礎演習③				
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑤
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(3)			
木	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑥		観光メディア論⑥		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑥

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑦		観光メディア論⑦		
	3年次					
火	1年次	基礎演習④				
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑦
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(4)			
木	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑧		観光メディア論⑧		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑧

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑨		観光メディア論⑨		
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑤				
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑨
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(5)			
木	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑩		観光メディア論⑩		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑩

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑪		観光メディア論⑪		
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑥				
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑪
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(6)			
木	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑫		観光メディア論⑫		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑫

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑬		観光メディア論⑬		
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑦				
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑬
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(7)			
木	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑭		観光メディア論⑭		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑭

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	観光文化施設論⑮		観光メディア論⑮		
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑧				
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習B⑮
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(8)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (4 助教 平侑子)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑨	地域観光基礎実習①			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A①
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習②			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A②

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑩	地域観光基礎実習③			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A③
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習④			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A④

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑪	地域観光基礎実習⑤			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑤
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑥			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑥

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑫	地域観光基礎実習⑦			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑦
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑧			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑧

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑬	地域観光基礎実習⑨			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑩
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(13)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑩			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑩

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑭	地域観光基礎実習⑪			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑪
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(14)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑫			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑫

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑮	地域観光基礎実習⑬			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑬
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(15)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		地域観光基礎実習⑭			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑭

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次		地域観光基礎実習⑮			
	2年次					
	3年次					メディアコンテンツ実習A⑮
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(16)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (4 助教 平侑子)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(17)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(18)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(19)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(20)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(21)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(22)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(23)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(24)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



資料10 専任教員個人別時間割 (4 助教 平侑子)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(25)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(26)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(27)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(28)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(29)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(30)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (5 助教 谷崎友紀)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学B①	信仰の歴史①	
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習①				
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A①	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(1)			
木	1年次			地理学B②	信仰の歴史②	
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A②	

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学B③	信仰の歴史③	
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習②				
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A③	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(2)			
木	1年次			地理学B④	信仰の歴史④	
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A④	

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学B⑤	信仰の歴史⑤	
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習③				
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑤	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(3)			
木	1年次			地理学B⑥	信仰の歴史⑥	
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑥	

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学B⑦	信仰の歴史⑦	
	2年次					
	3年次					
火	1年次	基礎演習④				
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑦	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(4)			
木	1年次			地理学B⑧	信仰の歴史⑧	
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑧	

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学B⑩		
	2年次				信仰の歴史⑩	
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑤				
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑩	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(5)			
木	1年次			地理学B⑩		
	2年次				信仰の歴史⑩	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑩	

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学B⑪		
	2年次				信仰の歴史⑪	
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑥				
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑪	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(6)			
木	1年次			地理学B⑫		
	2年次				信仰の歴史⑫	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑫	

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学B⑬		
	2年次				信仰の歴史⑬	
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑦				
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑬	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(7)			
木	1年次			地理学B⑭		
	2年次				信仰の歴史⑭	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑭	

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			地理学B⑮		
	2年次				信仰の歴史⑮	
	3年次					
火	1年次	基礎演習⑧				
	2年次					
	3年次				マップデザイン実習A⑮	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(8)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (5 助教 谷崎友紀)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B①			
火	1年次	基礎演習⑨	地域観光基礎実習①			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B②			
金	1年次		地域観光基礎実習②			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B③			
火	1年次	基礎演習⑩	地域観光基礎実習③			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B④			
金	1年次		地域観光基礎実習④			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑤			
火	1年次	基礎演習⑪	地域観光基礎実習⑤			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑥			
金	1年次		地域観光基礎実習⑥			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑦			
火	1年次	基礎演習⑫	地域観光基礎実習⑦			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑧			
金	1年次		地域観光基礎実習⑧			
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑨			
火	1年次	基礎演習⑬	地域観光基礎実習⑨			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(13)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑩			
金	1年次		地域観光基礎実習⑩			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑪			
火	1年次	基礎演習⑭	地域観光基礎実習⑪			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(14)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑫			
金	1年次		地域観光基礎実習⑫			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑬			
火	1年次	基礎演習⑮	地域観光基礎実習⑬			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(15)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑭			
金	1年次		地域観光基礎実習⑭			
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次		マップデザイン実習B⑮			
火	1年次		地域観光基礎実習⑮			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(16)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (5 助教 谷崎友紀)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(17)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(18)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(19)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(20)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(21)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(22)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(23)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(24)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



資料10 専任教員個人別時間割 (5 助教 谷崎友紀)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(25)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(26)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(27)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(28)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(29)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(30)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

# 実務系教員

資料10 専任教員個人別時間割 (6 教授 安本幸博)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントB①
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論①				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(1)			
木	1年次					観光リスクマネジメントB②
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論②				

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントB③
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論③				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(2)			
木	1年次					観光リスクマネジメントB④
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論④				

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントB⑤
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑤				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(3)			
木	1年次					観光リスクマネジメントB⑥
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑥				

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントB⑦
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑦				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(4)			
木	1年次					観光リスクマネジメントB⑧
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑧				

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントB⑨
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論①
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(5)			
木	1年次					観光リスクマネジメントB⑩
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論②
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントB⑪
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論③
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(6)			
木	1年次					観光リスクマネジメントB⑫
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論④
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントB⑬
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑤
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(7)			
木	1年次					観光リスクマネジメントB⑭
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑥
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントB⑮
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑦
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(8)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑧
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (6 教授 安本幸博)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次				臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)	
	3年次				臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ①		
	3年次					
火	1年次					
	2年次				臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)	
	3年次				臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)		
	3年次			臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)		
土	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)		
	3年次			臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)		

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ②		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)		
	3年次			臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)		
土	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)		
	3年次			臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)		

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ③		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)④		
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(13)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次					
土	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次					

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)⑤		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(14)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次					
土	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次					

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)⑥		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(15)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(16)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (6 教授 安本幸博)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論①				
	2年次				観光実務発展論①	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論②				
	2年次					
	3年次		専門演習(17)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論②	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論③				
	2年次				観光実務発展論③	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論④				
	2年次					
	3年次		専門演習(18)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論④	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑤				
	2年次				観光実務発展論⑤	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑥				
	2年次					
	3年次		専門演習(19)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論⑥	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑦				
	2年次				観光実務発展論⑦	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑧				
	2年次					
	3年次		専門演習(20)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論⑧	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習



第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次		観光実務応用論①			
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(21)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論②			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)①		
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次		観光実務応用論③			
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(22)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論④			
	3年次					
金	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導日)				
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導日)				
	2年次					
	3年次					
火	1年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)②		
	2年次		観光実務応用論⑤			
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(23)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論⑥			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)③		
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次		観光実務応用論⑦			
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(24)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論⑧			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (6 教授 安本幸博)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論①			
	2年次				臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(25)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論②			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ①		
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論③			
	2年次				臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)	
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(26)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論④			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
日	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)		
	3年次					
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)		
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑤			
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ②		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(27)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑥			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑦			
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ③		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(28)			
木	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)		
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑧			
	2年次					
	3年次					

は必修科目

は選択科目

は臨地実務実習

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
日	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)		
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ④		
	3年次		専門演習 (29)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑤		
	3年次		専門演習 (30)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑥		
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (7 准教授 小島英夫)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(1)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(2)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(3)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(4)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(5)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(6)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(7)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(8)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (7 准教授 小島英夫)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ①		
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ②		
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
土	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ③		
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ④		
	3年次		専門演習(13)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
日	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ⑤		
	3年次		専門演習(14)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ⑥		
	3年次		専門演習(15)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(16)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (7 准教授 小島英夫)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論①				
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論②				
	2年次					
	3年次		専門演習(17)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論③				
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論④				
	2年次					
	3年次		専門演習(18)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑤				
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑥				
	2年次					
	3年次		専門演習(19)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑦				
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑧				
	2年次					
	3年次		専門演習(20)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(21)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)①		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(22)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導日)				
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導日)				
	2年次					
	3年次					
火	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導日)				
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)②		
	3年次		専門演習(23)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)③		
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(24)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (7 准教授 小島英夫)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論①			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(25)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論②			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論③			
	2年次					
	3年次					
水	1年次				臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ①	
	2年次					
	3年次		専門演習(26)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論④			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
日	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑤			
	2年次					
	3年次					
水	1年次				臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ②	
	2年次					
	3年次		専門演習(27)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑥			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑦			
	2年次					
	3年次					
水	1年次				臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ③	
	2年次					
	3年次		専門演習(28)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑧			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ④		
	3年次		専門演習(29)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑤		
	3年次		専門演習(30)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑥		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (8 准教授 石床渉)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論①				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(1)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論②				

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論③				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(2)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論④				

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑤				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(3)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑥				

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑦				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(4)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑧				

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論①
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(5)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論②
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論③
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(6)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論④
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑤
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(7)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑥
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑦
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(8)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑧
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (8 准教授 石床渉)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習B①				
	2年次					
	3年次					宿泊産業論①
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習B②				
	2年次					
	3年次					宿泊産業論②
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習B③				
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)①		
	3年次					宿泊産業論③
火	1年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習B④				
	2年次					
	3年次					宿泊産業論④
金	1年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑤				
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)②		
	3年次					宿泊産業論⑤
火	1年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑥				
	2年次					
	3年次					宿泊産業論⑥
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑦				
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)③		
	3年次					宿泊産業論⑦
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑧				
	2年次					
	3年次					宿泊産業論⑧
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑨				
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)④		
	3年次					宿泊産業論⑨
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(13)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑩				
	2年次					
	3年次					宿泊産業論⑩
金	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次					

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑪				
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)⑤		
	3年次					宿泊産業論⑪
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(14)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑫				
	2年次					
	3年次					宿泊産業論⑫
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑬				
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)⑥		
	3年次					宿泊産業論⑬
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(15)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑭				
	2年次					
	3年次					宿泊産業論⑭
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習B⑮				
	2年次					
	3年次					宿泊産業論⑮
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(16)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (8 准教授 石床渉)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論①				
	2年次				観光実務発展論①	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論②				
	2年次					
	3年次		専門演習(17)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論②	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論③				
	2年次				観光実務発展論③	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論④				
	2年次					
	3年次		専門演習(18)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論④	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑤				
	2年次				観光実務発展論⑤	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑥				
	2年次					
	3年次		専門演習(19)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論⑥	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑦				
	2年次				観光実務発展論⑦	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑧				
	2年次					
	3年次		専門演習(20)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論⑧	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次		観光実務応用論①			
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(21)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論②			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)①		
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次		観光実務応用論③			
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(22)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論④			
	3年次					
金	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導)				
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導)				
	2年次					
	3年次					
火	1年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)②		
	2年次		観光実務応用論⑤			
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(23)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論⑥			
	3年次					
金	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導)				
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)③		
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次		観光実務応用論⑦			
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(24)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論⑧			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (8 准教授 石床渉)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論①			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(25)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論②			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論③			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ①		
	3年次		専門演習(26)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論④			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑤			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ②		
	3年次		専門演習(27)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑥			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑦			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ③		
	3年次		専門演習(28)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑧			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ④		
	3年次		専門演習 (29)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑤		
	3年次		専門演習 (30)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑥		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (9 教授 青木義英)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次				ホスピタリティマネジメント論A①	
	2年次		キャリアデザイン論B①			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次				ホスピタリティマネジメント論A②	
	2年次		キャリアデザイン論B②			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次				ホスピタリティマネジメント論A③	
	2年次		キャリアデザイン論B③			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次				ホスピタリティマネジメント論A④	
	2年次		キャリアデザイン論B④			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑤	
	2年次		キャリアデザイン論B⑤			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑥	
	2年次		キャリアデザイン論B⑥			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑦	
	2年次		キャリアデザイン論B⑦			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑧	
	2年次		キャリアデザイン論B⑧			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑨	
	2年次		キャリアデザイン論B⑨			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑩	
	2年次		キャリアデザイン論B⑩			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑪	
	2年次		キャリアデザイン論B⑪			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑫	
	2年次		キャリアデザイン論B⑫			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑬	
	2年次		キャリアデザイン論B⑬			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑭	
	2年次		キャリアデザイン論B⑭			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次				ホスピタリティマネジメント論A⑮	
	2年次		キャリアデザイン論B⑮			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (9 教授 青木義英)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントA①
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光リスクマネジメントA②
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントA③
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ①		
	3年次					
火	1年次		臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光リスクマネジメントA④
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
土	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントA⑤
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ②		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光リスクマネジメントA⑥
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントA⑦
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ③		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光リスクマネジメントA⑧
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントA⑨
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)④		
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光リスクマネジメントA⑩
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次					
土	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次					

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントA⑪
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)⑤		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光リスクマネジメントA⑫
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントA⑬
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)⑥		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					観光リスクマネジメントA⑭
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					観光リスクマネジメントA⑮
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (9 教授 青木義英)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A①		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A②		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A③		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A④		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑤		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑥		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑦		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑧		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑨		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑩		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑪		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑫		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑬		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑭		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A⑮		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (9 教授 青木義英)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導)①		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導)②		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導)③		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ④		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑤		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑥		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (10 教授 藤野公孝)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光事業論A①	
	2年次	観光政策論B①				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(1)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光事業論A②	
	2年次	観光政策論B②				
	3年次					

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光事業論A③	
	2年次	観光政策論B③				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(2)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光事業論A④	
	2年次	観光政策論B④				
	3年次					

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光事業論A⑤	
	2年次	観光政策論B⑤				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(3)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光事業論A⑥	
	2年次	観光政策論B⑥				
	3年次					

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光事業論A⑦	
	2年次	観光政策論B⑦				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(4)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光事業論A⑧	
	2年次	観光政策論B⑧				
	3年次					

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光事業論A⑨	
	2年次	観光政策論B⑨				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(5)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光事業論A⑩	
	2年次	観光政策論B⑩				
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光事業論A⑪	
	2年次	観光政策論B⑪				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(6)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光事業論A⑫	
	2年次	観光政策論B⑫				
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光事業論A⑬	
	2年次	観光政策論B⑬				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(7)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次				観光事業論A⑭	
	2年次	観光政策論B⑭				
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次				観光事業論A⑮	
	2年次	観光政策論B⑮				
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(8)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (10 教授 藤野公孝)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次			観光事業論B①		
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			観光事業論B②		
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次			観光事業論B③		
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			観光事業論B④		
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次			観光事業論B⑤		
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			観光事業論B⑥		
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次			観光事業論B⑦		
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			観光事業論B⑧		
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次			観光事業論B⑨		
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(13)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			観光事業論B⑩		
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次			観光事業論B⑪		
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(14)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			観光事業論B⑫		
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次			観光事業論B⑬		
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(15)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次			観光事業論B⑭		
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次			観光事業論B⑮		
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(16)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (10 教授 藤野公孝)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次		観光政策論A①			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(17)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次		観光政策論A②			
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次		観光政策論A③			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(18)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次		観光政策論A④			
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次		観光政策論A⑤			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(19)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次		観光政策論A⑥			
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次		観光政策論A⑦			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(20)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次		観光政策論A⑧			
	3年次					



第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次		観光政策論A⑨			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(21)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次		観光政策論A⑩			
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次		観光政策論A⑪			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(22)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次		観光政策論A⑫			
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次		観光政策論A⑬			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(23)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次		観光政策論A⑭			
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次		観光政策論A⑮			
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(24)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (10 教授 藤野公孝)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(25)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(26)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(27)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(28)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(29)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(30)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (11 准教授 堀田明美)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					ビジネスコミュニケーション①
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(1)			
木	1年次					
	2年次		キャリアデザイン論B②			ビジネスコミュニケーション②
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション③
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(2)			
木	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション④
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション⑤
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(3)			
木	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション⑥
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション⑦
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(4)			
木	1年次					
	2年次		キャリアデザイン論B⑧			ビジネスコミュニケーション⑧
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション⑩
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(5)			
木	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション⑩
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション⑪
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(6)			
木	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション⑫
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション⑬
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(7)			
木	1年次					
	2年次					ビジネスコミュニケーション⑭
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次		キャリアデザイン論B⑮			ビジネスコミュニケーション⑮
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(8)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (11 准教授 堀田明美)

第2クォーター(第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習A①			ホスピタリティマネジメント論B①	
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習A②			ホスピタリティマネジメント論B②	
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター(第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習A③			ホスピタリティマネジメント論B③	
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)①		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習A④			ホスピタリティマネジメント論B④	
	2年次					
	3年次					
金	1年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
土	1年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				

第2クォーター(第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習A⑤			ホスピタリティマネジメント論B⑤	
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)②		
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習A⑥			ホスピタリティマネジメント論B⑥	
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				

第2クォーター(第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習A⑦			ホスピタリティマネジメント論B⑦	
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)③		
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習A⑧			ホスピタリティマネジメント論B⑧	
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター(第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習A㊸			ホスピタリティマネジメント論B㊹	
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)㊺		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(13)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習A㊸			ホスピタリティマネジメント論B㊹	
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
土	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				

第2クォーター(第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習A㊸			ホスピタリティマネジメント論B㊹	
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)㊺		
	3年次					
火	1年次					
	2年次				臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)	
	3年次				臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(14)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習A㊸			ホスピタリティマネジメント論B㊹	
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)				

第2クォーター(第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習A㊸			ホスピタリティマネジメント論B㊹	
	2年次			臨地実務実習Ⅱ(学内指導)㊺		
	3年次					
火	1年次					
	2年次				臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)	
	3年次				臨地実務実習Ⅱ(巡回指導日)	
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(15)			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習A㊸			ホスピタリティマネジメント論B㊹	
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター(第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	ホスピタリティ実務実習A㊸			ホスピタリティマネジメント論B㊹	
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(16)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (11 准教授 堀田明美)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論①				
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論②				
	2年次					
	3年次		専門演習(17)			
木	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A②		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論③				
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論④				
	2年次					
	3年次		専門演習(18)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑤				
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑥				
	2年次					
	3年次		専門演習(19)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑦				
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑧				
	2年次					
	3年次		専門演習(20)			
木	1年次					
	2年次			キャリアデザイン論A③		
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(21)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					
土	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次				臨地実務実習Ⅰ(学内指導)①	
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(22)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導日)				
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次				臨地実務実習Ⅰ(学内指導)②	
	2年次					
	3年次					
火	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導日)				
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(23)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導日)				
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限 9:00~10:30	2限 10:40~12:10	3限 13:00~14:30	4限 14:40~16:10	5限 16:20~17:50
月	1年次				臨地実務実習Ⅰ(学内指導)③	
	2年次			キャリアデザイン論A⑤		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(24)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (11 准教授 堀田明美)

第4クォーター(第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論①			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(25)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論②			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター(第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ(学内指導)①		
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論③			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(26)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論④			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター(第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
日	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ(巡回指導日)				
	3年次					
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ(巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑤			
	2年次				臨地実務実習Ⅲ(巡回指導日)	
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ(学内指導)②		
	3年次		専門演習(27)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑥			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター(第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑦			
	2年次			臨地実務実習Ⅲ(巡回指導日)		
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ(学内指導)③		
	3年次		専門演習(28)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ(巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑧			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
日	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ④		
	3年次	専門演習 (29)				
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑤		
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)		
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次	専門演習 (30)				
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑥		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (12 教授 古川康造)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (12 教授 古川康造)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次				地域創生事業論①	
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				地域創生事業論②	

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ①		
	3年次				地域創生事業論③	
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				地域創生事業論④	

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ②		
	3年次				地域創生事業論⑤	
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				地域創生事業論⑥	

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ③		
	3年次				地域創生事業論⑦	
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				地域創生事業論⑧	

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導日) ④		
	3年次				地域創生事業論⑨	
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				地域創生事業論⑩	

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ⑤		
	3年次				地域創生事業論⑪	
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				地域創生事業論⑫	

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ⑥		
	3年次				地域創生事業論⑬	
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次				地域創生事業論⑭	

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次				地域創生事業論⑮	
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (12 教授 古川康造)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (12 教授 古川康造)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ①		
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ②		
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ③		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ④		
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑤		
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑥		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (13 講師 阿部有香)

第1クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論①				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(1)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論②				

第1クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論③				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(2)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論④				

第1クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑤				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(3)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑥				

第1クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑦				
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(4)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次	観光実務マネジメント論⑧				

第1クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論①
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(5)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論②
	3年次					

第1クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論③
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(6)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論④
	3年次					

第1クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑤
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(7)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑥
	3年次					

第1クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑦
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(8)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					観光実務基礎論⑧
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (13 講師 阿部有香)

第2クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導)①		
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導)②		
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導)③		
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ④		
	3年次		専門演習(13)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ⑤		
	3年次		専門演習(14)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ (学内指導) ⑥		
	3年次		専門演習(15)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第2クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(16)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (13 講師 阿部有香)

第3クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論①				
	2年次				観光実務発展論①	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論②				
	2年次					
	3年次		専門演習(17)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論②	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論③				
	2年次				観光実務発展論③	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論④				
	2年次					
	3年次		専門演習(18)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論④	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑤				
	2年次				観光実務発展論⑤	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑥				
	2年次					
	3年次		専門演習(19)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論⑥	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑦				
	2年次				観光実務発展論⑦	
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑧				
	2年次					
	3年次		専門演習(20)			
木	1年次					
	2年次				観光実務発展論⑧	
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					



第3クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次		観光実務応用論①			
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(21)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論②			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次		観光実務応用論③			
	3年次					
水	1年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)①		
	2年次					
	3年次		専門演習(22)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論④			
	3年次					
金	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導)				
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導)				
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次		観光実務応用論⑤			
	3年次					
水	1年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)②		
	2年次					
	3年次		専門演習(23)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論⑥			
	3年次					
金	1年次	臨地実務実習Ⅰ(巡回指導)				
	2年次					
	3年次					

第3クォーター (第8週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次		観光実務応用論⑦			
	3年次					
水	1年次			臨地実務実習Ⅰ(学内指導)③		
	2年次					
	3年次		専門演習(24)			
木	1年次					
	2年次		観光実務応用論⑧			
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

資料10 専任教員個人別時間割 (13 講師 阿部有香)

第4クォーター (第1週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論①			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(25)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論②			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第2週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論③			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ①		
	3年次		専門演習(26)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論④			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第3週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
日	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑤			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ②		
	3年次		専門演習(27)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑥			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第4週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑦			
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ③		
	3年次		専門演習(28)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論⑧			
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第5週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ④		
	3年次		専門演習 (29)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第6週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅲ (巡回指導日)				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑤		
	3年次		専門演習 (30)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第7週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅲ (学内指導) ⑥		
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第4クォーター (第8週)

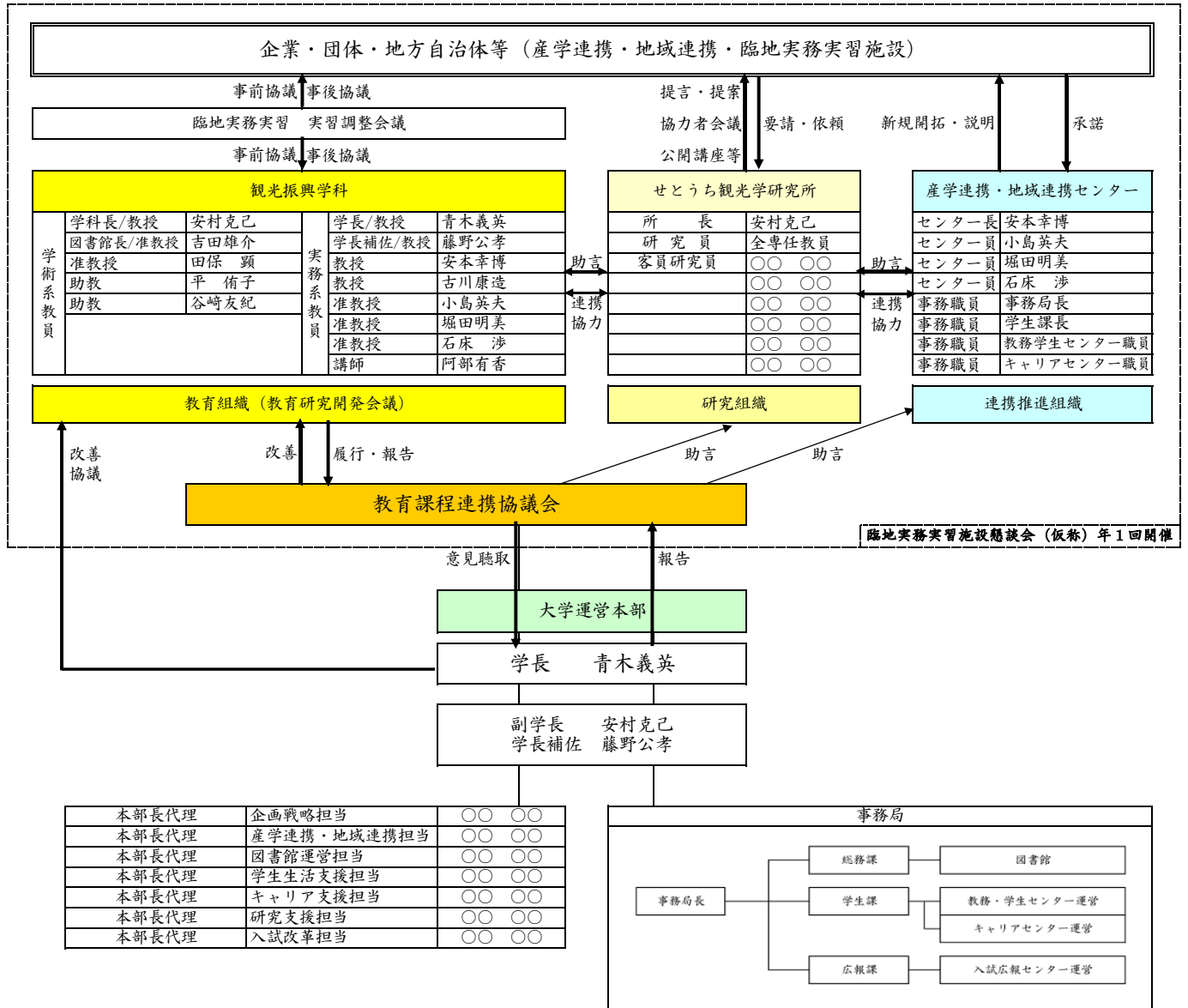
曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次					
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

専任教員の授業担当コマ数一覧

※   は臨地実務実習期間で、巡回指導(移動時間を含む)及び学内指導を、授業担当コマ数に換算している。

区分	クォーター		第1クォーター									第2クォーター									年間
	週		1	2	3	4	5	6	7	8	平均	1	2	3	4	5	6	7	8	平均	総コマ数
	専任教員氏名	年齢																			
学術系教員	安村克己		6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	120
	吉田雄介		8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
	田保 顕		2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	90
	平 侑子		8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
	谷崎友紀		8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
実務系教員	安本幸博		5	5	5	5	5	5	5	4	4.9	4	15	12	2	15	12	2	1	7.9	206
	小島英夫		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	12	17	12	12	17	12	1	10.5	216
	石床 渉		3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	5	16	11	6	16	11	6	3	9.3	208
	青木義英		4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	2	18	3	3	18	3	3	1	6.4	102
	藤野公孝		5	5	5	5	5	5	5	3	4.8	3	3	3	3	3	3	3	2	2.9	90
	堀田明美		4	3	3	4	3	3	3	3	3.3	5	16	14	9	16	14	9	3	10.8	208
	古川康造		0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	2	13	8	3	13	8	3	1	6.4	87
	阿部有香		3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	1	12	12	2	12	12	2	1	6.8	188
区分	クォーター		第3クォーター									第4クォーター									平均コマ数
	週		1	2	3	4	5	6	7	8	平均	1	2	3	4	5	6	7	8	平均	平均コマ数
	専任教員氏名	年齢																			
学術系教員	安村克己		4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	2	2	2	2	2	2	2	1	1.9	3.8
	吉田雄介		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8
	田保 顕		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	3	3	3	3	3	3	2	1	2.6	2.8
	平 侑子		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8
	谷崎友紀		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8
実務系教員	安本幸博		5	5	5	5	3	9	9	4	5.6	6	7	14	9	15	7	1	0	7.4	6.4
	小島英夫		3	3	3	3	1	7	12	2	4.3	3	14	19	14	12	17	11	0	11.3	6.8
	石床 渉		5	5	5	5	3	9	14	4	6.3	3	14	9	9	12	12	1	0	7.5	6.5
	青木義英		2	2	2	2	2	2	2	1	1.9	0	1	1	1	1	1	1	0	0.8	3.2
	藤野公孝		3	3	3	3	3	3	3	2	2.9	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	2.8
	堀田明美		4	3	3	4	1	7	12	3	4.6	3	4	17	12	12	10	1	0	7.4	6.5
	古川康造		0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	11	6	1	11	6	1	0	4.5	2.7
	阿部有香		5	5	5	5	3	9	14	4	6.3	3	14	14	4	12	12	1	0	7.5	5.9

資料12 臨地実務実習等に関する組織体制図



1. 審査意見への対応を記載した書類（3月）

資料13 事例：和歌山大学地域インターンシップ

2. 出典

和歌山大学観光学部 2018年度LIP 実施プログラム一覧

- ① 笑顔が広がる美しい里づくり 活動報告書（抜粋）
- ② 地方創生にかかる地場産物商品に関する調査・研究、デザイン考案等 活動報告書（抜粋）
- ③ 紀の川スイーツの開発 活動報告書（抜粋）

3. ① [https://www.wakayama-u.ac.jp/\\_files/00188685/2018\\_lip-report\\_kamitonda.pdf](https://www.wakayama-u.ac.jp/_files/00188685/2018_lip-report_kamitonda.pdf)

② [https://www.wakayama-u.ac.jp/\\_files/00188654/2018\\_lip-report\\_hannan.pdf](https://www.wakayama-u.ac.jp/_files/00188654/2018_lip-report_hannan.pdf)

③ [https://www.wakayama-u.ac.jp/\\_files/00188715/2018\\_lip-report\\_kinokawa.pdf](https://www.wakayama-u.ac.jp/_files/00188715/2018_lip-report_kinokawa.pdf)

1. 審査意見への対応を記載した書類（3月）

資料14 道の駅なると（仮称）基本計画（抄）

2. 出典

鳴門市 「道の駅なると（仮称）」基本計画

3. [https://www.city.naruto.tokushima.jp/\\_files/00227131/michinoeki\\_kihonkeikaku.pdf](https://www.city.naruto.tokushima.jp/_files/00227131/michinoeki_kihonkeikaku.pdf)

P29, 31, 59

## 教員採用計画シミュレーション

(年齢：歳)

専門分野等	番号	区分	職 位	氏 名	開設時年齢 (1年目)	完成年度 (3年目)	完成翌年度 (4年目)	6年目	9年目	12年目	15年目	18年目	21年目	24年目
観光学 社会学	1	専	教 授		66	68	69	71						
	3	専	准教授		48	50	51	53						
	3	専	教 授						56	59	62	65		
	4	専	助 教		34	36	37							
	4	専	講 師					39	42					
	4	専	准教授							45	48			
	4	専	教 授									51	54	57
	採用1	専	講 師	○○○○			37	39	42					
	採用1	専	准教授	○○○○						45	48	51		
採用1	専	教 授	○○○○									54	57	
採用2	専	講 師	○×●×									37	40	
地理学	2	専	准教授		51	53	54							
	2	専	教 授					57	60	63				
	4	専	助 教		31	33	34							
	4	専	講 師					36	39	42				
	4	専	准教授								45	48		
	4	専	教 授										51	54
	採用3	専	講 師	○●△▲			37	39	42					
採用3	専	准教授	○●△▲						45	48	51			
採用3	専	教 授	○●△▲									54	57	
実務・交通	6	実専	教 授		61	63	64	65						
	採用4	実専	准教授	◎◎▽▽			40	42	45	48				
	採用4	実専	教 授	◎◎▽▽							51	54	57	60
	採用5	実専	准教授	◎▼▽▽					45	48	51	54		
	採用5	実専	教 授	◎▼▽▽									57	60
実務・宿泊	7	実専	准教授		68	70								
	採用6	実専	准教授	×◎▽▽			40	42	45	48				
	採用6	実専	教 授	×◎▽▽							51	54	57	60
	8	実専	准教授		51	53	54							
	採用7	実専	准教授	×◎▽○				56	59	62	65	40	43	46
実・研	9	実(研)	教 授		72	74								
	採用8	実(研)	教 授	◎◎○▼			50	52	55	58	61	64		
	採用9	実(研)	准教授	△◎○▼									46	49
	10	実(研)	教 授		72	74								
	採用10	実(研)	教 授	◎××▼			50	52	55	58	61	64		
	採用11	実(研)	准教授	△◎×▼									46	49
	11	実(研)	教 授		65	67	68							
	採用12	実(研)	教 授	○●◎▲				70		53	56	59	62	65
採用13	実(研)	教 授	◎●×▲										53	
実み・観光 地域創生	12	実み	教 授		64	66								
	採用14	実み	准教授	◎◎◎◎			42	44	47	50				
	採用14	実み	教 授	◎◎◎◎							53	56	59	62
	13	実み	講 師		51	53	54							
	13	実み	准教授					56	59	63				
	採用15	実み	准教授	△▽▼▲							45	48	51	
採用15	実み	教 授	△▽▼▲										54	
教員合計					13	13	16	16	15	15	15	14	14	14



### 専任教員の年代別分布グラフ

開設時年齢	年齢	学術系教員	実務系教員
	30～39	2	0
	40～49	1	0
	50～59	1	2
	60～69	1	4
70～	0	2	

完成年度	年齢	学術系教員	実務系教員
	30～39	2	0
	40～49	0	0
	50～59	2	2
	60～69	1	3
70～	0	3	

完成年度翌年度	年齢	学術系教員	実務系教員
	30～39	4	0
	40～49	0	3
	50～59	2	4
	60～69	1	2
70～	0	0	

6年目	年齢	学術系教員	実務系教員
	30～39	4	0
	40～49	0	3
	50～59	2	4
	60～69	0	1
70～	1	1	

9年目	年齢	学術系教員	実務系教員
	30～39	1	0
	40～49	3	4
	50～59	1	5
	60～69	1	0
70～	0	0	

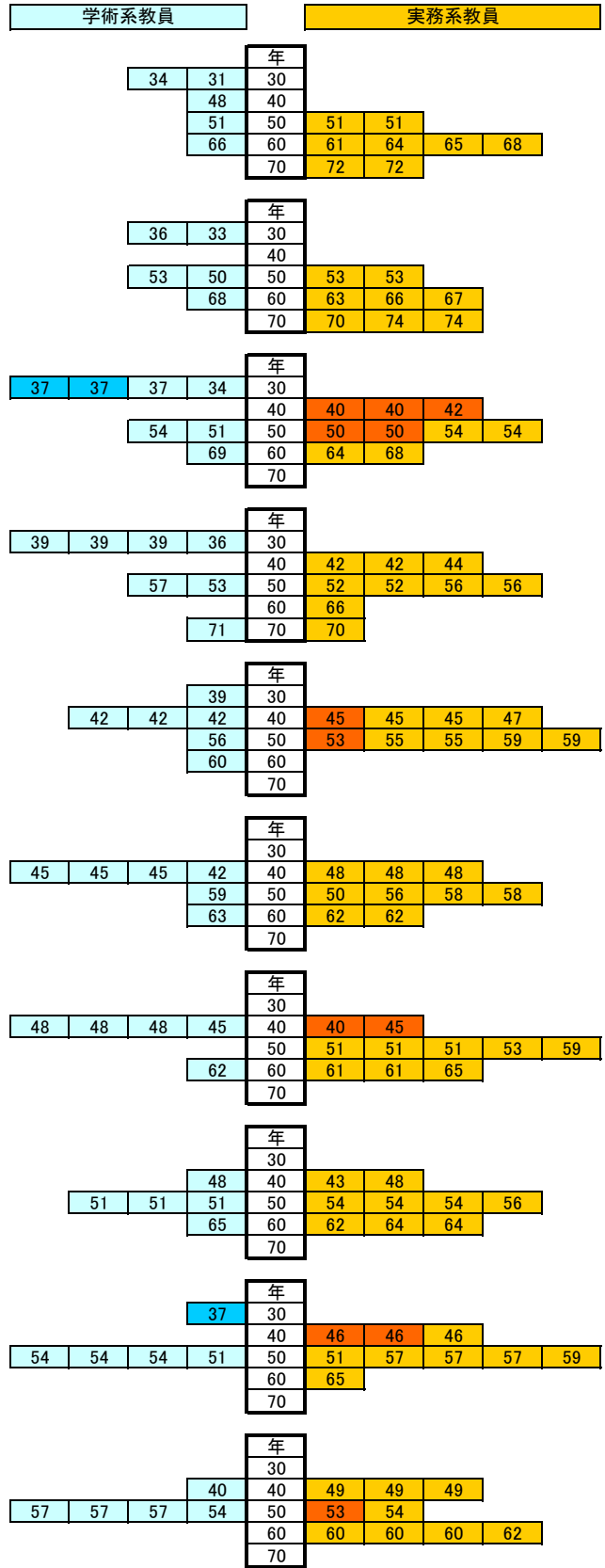
12年目	年齢	学術系教員	実務系教員
	30～39	0	0
	40～49	4	3
	50～59	1	4
	60～69	1	2
70～	0	0	

15年目	年齢	学術系教員	実務系教員
	30～39	0	0
	40～49	4	2
	50～59	0	5
	60～69	1	3
70～	0	0	

18年目	年齢	学術系教員	実務系教員
	30～39	0	0
	40～49	1	2
	50～59	3	4
	60～69	1	3
70～	0	0	

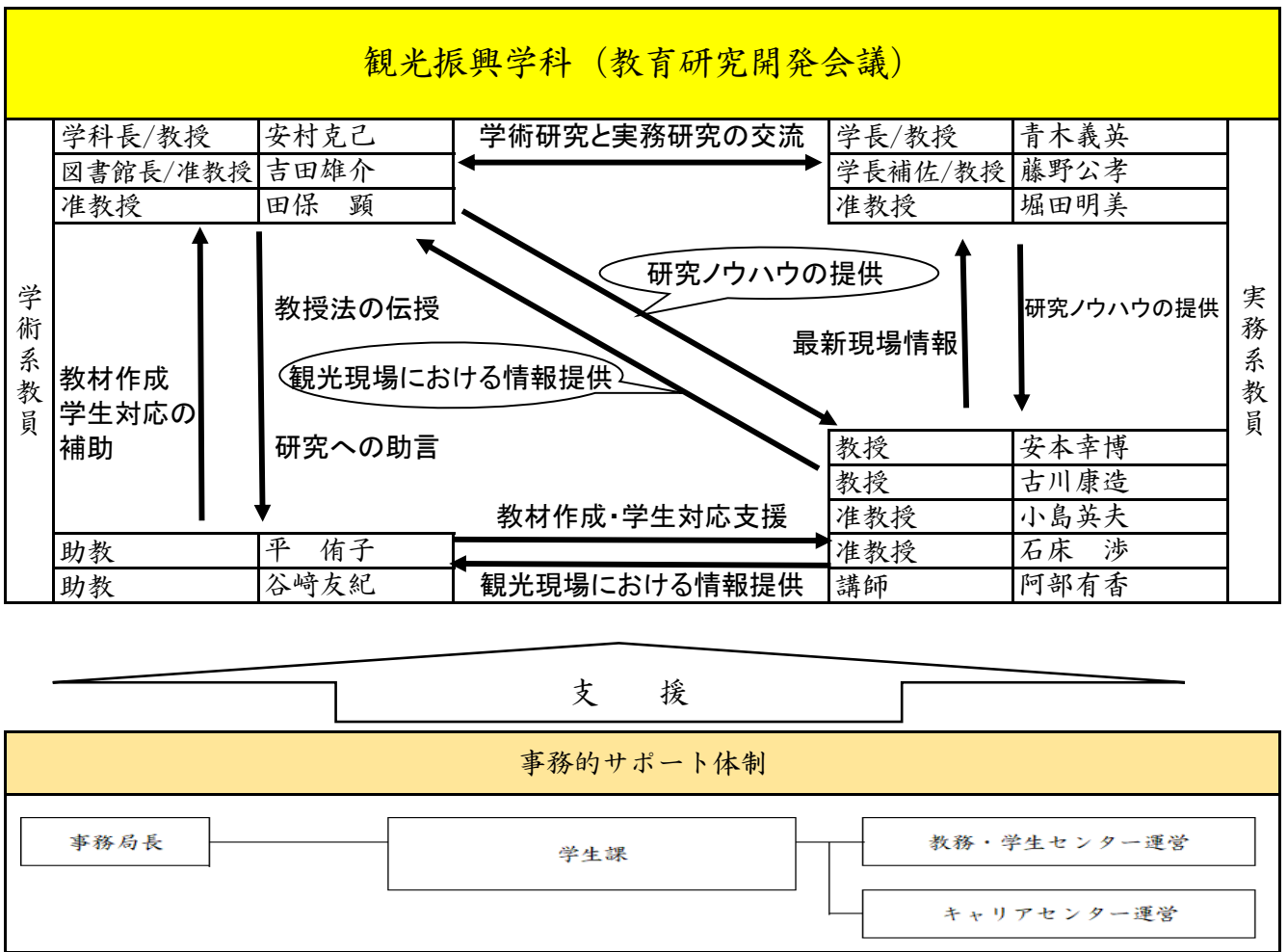
21年目	年齢	学術系教員	実務系教員
	30～39	1	0
	40～49	0	3
	50～59	4	5
	60～69	0	1
70～	0	0	

24年目	年齢	学術系教員	実務系教員
	30～39	0	0
	40～49	1	3
	50～59	4	2
	60～69	0	4
70～	0	0	

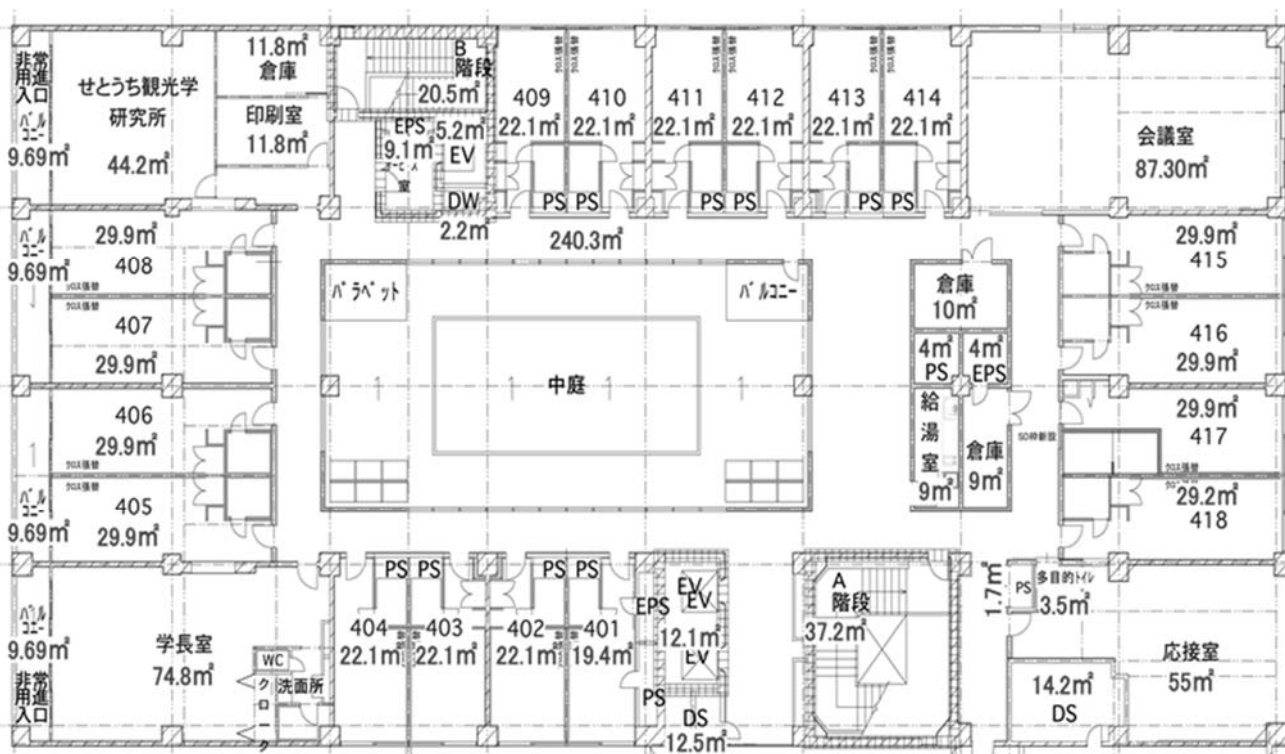


■は新規採用 ■は新規採用

資料17観光振興学科内の連携・協力体制



資料 18 校舎 4 階及び教員研究室内部レイアウト図



401	吉田研究室	405	藤野研究室	409	谷崎研究室	413	阿部研究室
402	古川研究室	406	安村研究室	410	平研究室	414	小島研究室
403	堀田研究室	407	安本研究室	411	石床研究室	415・416	演習室
404	青木研究室	408	演習室	412	田保研究室	417・418	演習室

(教員研究室内部レイアウト)

